Iwate University 岩手大学

2016年度

岩手大学三陸復興・地域創生推進機構

生涯学習部門
成果報告書

２０１６年度

三陸復興・地域創生推進機構

生涯学習部門

成 果 報 告 書

国立大学法人岩手大学

三陸復興・地域創生推進機構　生涯学習部門

はじめに

岩手大学の生涯学習部門は、生涯学習・生涯教育の強化を目的に設立された「生涯学習教育研究センター」（2000 年 4 月）を前身として、地域住民を対象に生涯教育・学習事業に取り組んでまいりました。その後、組織の改編が進み、地域連携推進センター（2004 年 4 月）、地域連携推進機構（2014 年 4 月）を経て、2016 年 4 月に「三陸復興・地域創生推進機構」として新たに発足されました。当機構は、実践領域と教育研究領域を設けており、生涯学習部門は実践領域に位置付けられ、地域住民の学習の場としての役割を果たしています。

また、文部科学省の委託事業である社会教育主事養成事業も積極的に行っています。東日本大震災があった 2011 年には、被災地への支援活動を行いながら北東北（岩手県、秋田県、青森県）を対象に社会教育主事講習会を行っており、地域住民の生涯学習支援に欠かせない専門職員の養成に励んでまいりました。

岩手大学では、大学の理念と目標の 1 つの柱として社会貢献を掲げており、第 3 期中期目標・中期計画においても「地域の中核的学術拠点として、地域創生に向けて、自治体等地域社会との連携及び大学の知的資源を活用した社会貢献」を目標とした「地域と連携した社会人の学び直しプログラムの充実化」が掲げられています。こうした大学の使命や役割を担うために、生涯学習部門においても、地域住民のニーズを反映した学びの場の拡大とともに生涯学習プログラムの「量」から「質」への転換を目指した取り組みを行っています。

2016 年度の事業の特徴としては、新機構の発足とともに、学内・外との連携による生涯学習プログラムの開発に重点を置きながら地域住民のニーズを反映した社会人学び直しプログラムづくりのための基盤づくりを中心に行いました。特に今年度は、社会における女性の活躍を促すための基盤づくりを行い、“女性の視点” に重点を置いたセミナーの開催やパイロットプログラムの実施（ガンちゃんの学び）を 6 回実施しました。プログラムの終了後は、受講生との懇談会の開催やネットワークづくりを行いました。今後も、受講生の声やご要望を聞く場を増やすことによって充実した生涯に渡る学びの場を企画していく所存でおります。

生涯学習部門の今後の事業展開の一層の充実を図るために、今年度 1 年間実施した事業について各部局の先生方や地域連携･COC 推進課のご協力を頂きながら報告書として取りまとめ発刊いたしました。生涯学習部門としては初めての試みであり、今後のより一層充実した生涯学習活動に向けて、みなさま方の忌憚のないご意見・ご要望をお寄せいただけましたら幸いです。

2017 年 3 月

三陸復興・地域創生推進機構　生涯学習部門長　朴　賢淑

目　　次

はじめに

部門長挨拶

1 生涯学習部門概要

1-1 事業の目的 …… 1

1-2 組織体制・年度計画 …… 3

2 社会教育主事養成

2-1 社会教育主事養成概要 …… 5

3 生涯学習講座

3-1 公開講座 …… 7

3-2 シニアカレッジ …… 34

3-3 板橋区・岩手大学連携講座 …… 36

3-4 釜石市・岩手大学生涯学習講座 …… 39

4 社会人学び直しプログラム

4-1 いわてアグリフロンティアスクールにおける取組 …… 44

4-2 がんちゃんの学び …… 60

4-3 国内・外調査 …… 67

5 学内連携事業

5-1 アートフォーラム …… 87

5-2 科学技術理解増進活動 …… 107

5-3 宮澤賢治センター …… 110

6 広報

6-1 ニューズレター …… 117

6-2 リーフレット・パンフレット …… 130

6-3 ホームページ …… 133

7 資料編

7-1 公開講座アンケート報告 …… 135

総　括

1-1　事業の目的

日本では大人の学びの場として公民館が大きな役割を果たしてきた。特に、戦後、地域の住民たちが公民館に集まって、身近な生活課題をはじめ社会的課題を議論し合いながら実践し、日本社会を変えていた。このような学びの場には、専門的職員として社会教育主事が行政と住民の橋渡し役割を果たしながら地域住民の学習を支えてきたと言える。

しかし、日本政府は小泉内閣発足後に「公設民営化」が急速に進行し、2003 年に指定管理者制度を導入した。当制度を導入する理由の一つとして多様化する住民のニーズに、「効果的」「効率的」に対応するためには、民間の事業者のノウハウを広く活用することが有効であることが挙げられた。

したがって、近年、社会教育施設も余儀なく民間委託が進められ、社会教育主事の配置も縮小されつつある。その結果、社会的弱者（高齢者、若者、女性、外国人など）は、ますます学ぶ機会が閉ざされ、学習者においても格差が広がっている。

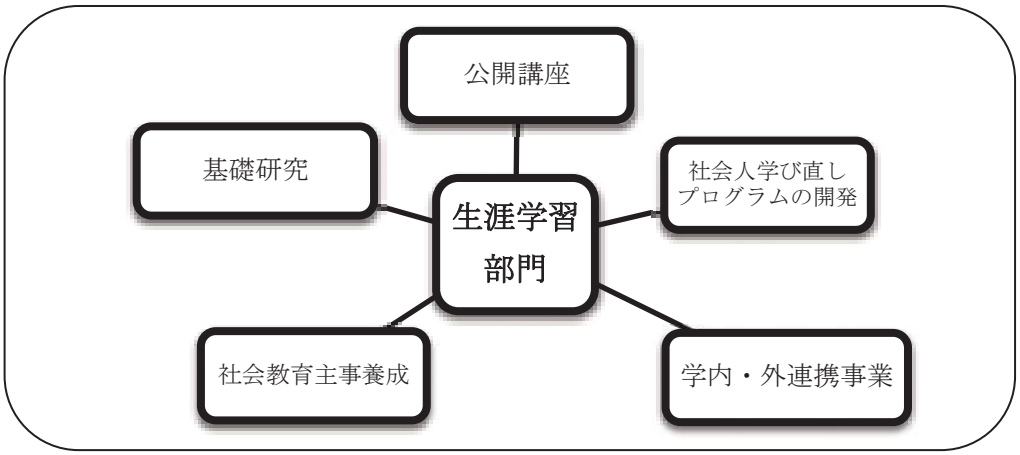
一方、グローバル化や知識基盤社会に対応できる人材が求められているなか、大学教育が既存の若い学習者中心から成人学習者への拡大が期待されているなかで、大学が“リカレント教育の場”としての転換が求められている。

そこで高等教育機関がリカレント教育の場として機能を果たすためには、まず、地域住民のニーズの把握は欠かせない。また、地域課題に対応できる人材を育てるためには何に重点を置くべきなのか、真剣に向き合わなければならない。

よって生涯学習部門では、上記の課題の可視化を図るとともに、地域人材づくりのために学社連携の視点から生涯学習事業に取り組んでいく。

なお、生涯学習部門では、研究成果を生かした地域還元を目指しながら、①基礎研究（地域調査など）、②社会教育主事養成、③社会人学び直しプログラムの開発、④公開講座、⑤学内・外連携事業などをとおして、誰でも、いつでも参加できるような地域住民の生涯学習場づくりを目指している。

＜生涯学習部門事業＞



1. 生涯学習関連基礎研究

日本国内・外における生涯学習・教育の動向を把握しつつ、成人学習者のニーズに応じた学びの場づくりや、地域の課題に応じた生涯学習プログラムの開発のためのニーズ把握・分析をとおした基礎データを構築する。

２．社会教育主事養成

文部科学省の委託を受けて本校が実施する講習会である。社会教育主事とは、専門的職員として社会教育を行う者に対する助言や指導に当たる役割を担うことになる。なお、当養成講座では、社会教育主事としての専門的知識・機能習得を目指している。

３．社会人学び直しプログラムの開発

地域住民（若者、高齢者、女性、外国人など）や社会人のニーズの多様化・高度化に対応した環境整備とともに地域の課題に対応できる人材育成プログラムの開発を行っている。特に、女性の社会参加・仕事への復帰が注目されているなか、ライフステージに応じた学び機会の充実化を図りながら生涯学習プログラムの質保証を目指したアカデミックプログラムの開発に取り組んでいる。

また、地域のコミュニティセンターと差別化された生涯学習プログラムの充実化をとおして大学が地域住民や企業に身近な学びの場としての機能を強化し、地域の生涯学習関連関係者への助言を行う。

４．公開講座

大学構内の専用教室での講義や、フィールドワークなどを通して学び直せるという楽しみを提供し、一般の方々に生涯にわたった学習機会の提供を推進している。

５．学内・外連携事業

生涯学習事業の充実化を図るため、「スポーツユニオン」・「アートフォーラム」・「宮澤賢治センター」といった学内組織や自治体と連携し、事業を展開している。

１－２　組織体制・年度計画

生涯学習部門の事業を進めるにあたって、専任教員（1 名）、特任研究員（1 名、9 月採用）、兼務教員（25 名）、客員教員（4 名）の体制で行っている。なお、H28 年度の事業計画については下記のとおりである。

（部門名）	生涯学習部門		
（部門長）	朴　賢淑　（三陸復興・地域創生推進機構　准教授　）		
（班員）			
氏名	所属･役職	氏名	所属･役職
高木浩一	理工学部・教授	鎌田安久	教育学部・教授
小山猛	理工学部・助教	上濱龍也	教育学部・教授
藁谷収	教育学部・教授	清水茂幸	教育学部・教授
金澤文緒	教育学部・准教授	澤村省逸	教育学部・准教授
煤孫康二	教育学部・准教授	清水将	教育学部・准教授
阿部裕之	人文社会科学部・教授	立身政信	保健管理センター・教授
木村直弘	人文社会科学部・教授	山本昭彦	人文社会科学部・教授
田中隆充	人文社会科学部・教授	池田成一	人文社会科学部・教授
本村健太	人文社会科学部・教授	小島聡子	人文社会科学部・准教授
浅沼道成	人文社会科学部・教授	大野眞男	教育学部・教授
栗林徹	人文社会科学部・教授	溝口昭彦	教育学部・准教授
平田光彦	人文社会科学部・准教授	長谷川弓子	人文社会科学部・准教授
玉澤友基	人文社会科学部・教授		

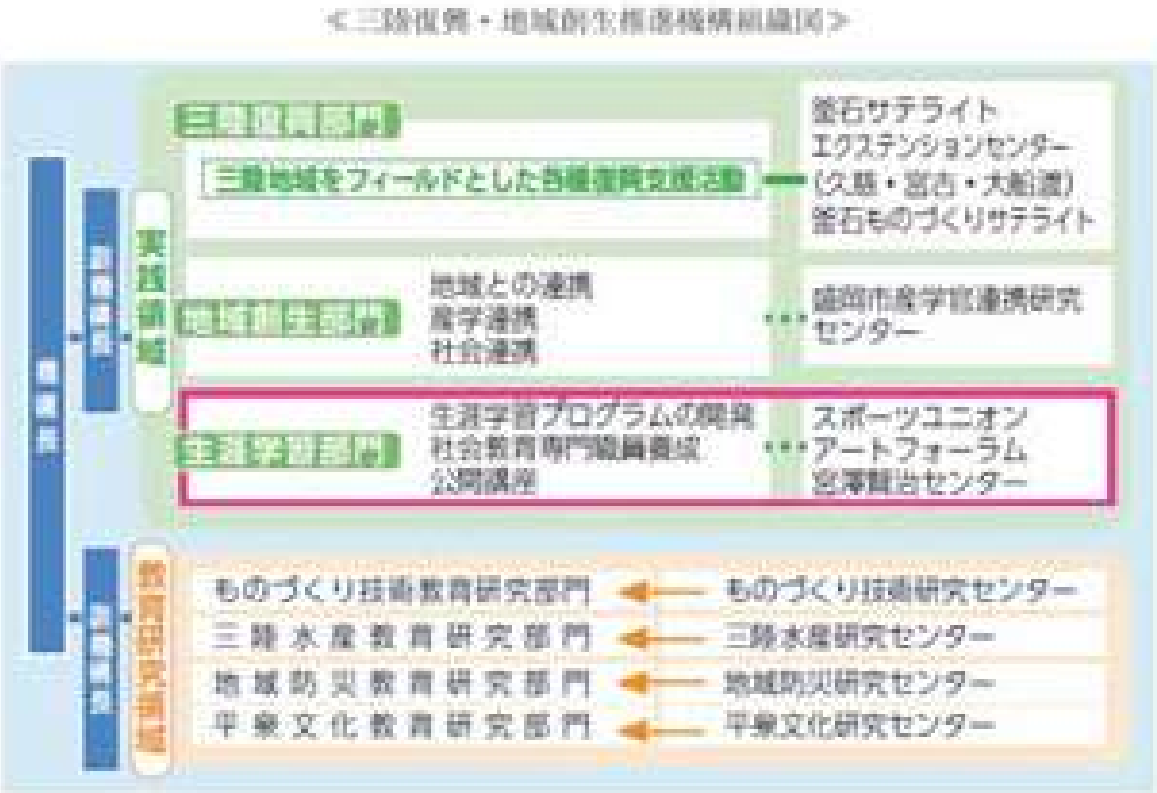
（部門の事業テーマ）

１．生涯学習基盤づくり
２．社会人学び直しプログラムの開発
３．社会教育主事養成
４．地域の生涯学習リーダー育成
５．地域住民の生涯学習ニーズ調査
６．社会教育行政および地域の生涯学習関係者（NPO/企業など）とのネットワークづくり
７．公開講座に参加した成人学習者を対象にニーズ調査（社会人の基礎データ構築）
　※社会人の学習特徴を分析し、正規課程への社会人入学を促す。

（活動概要）

1.各学部および機構・センターとの連携による生涯学習支援体制づくりをとおした生涯学習支援窓口の一本化を試みる。
2 多様な学習者の学習ニーズに答えられる生涯学習プログラムづくりをとおして地域課題に対応できる人材育成を目指す。
3.社会教育主事養成をとおして地域課題へ対応かつ自立した専門的職員の量的育成を目指す。

4. 地域の学習者が大学の公開講座および社会人学び直しプログラムで学んだものを地域で実践できる人材育成を目指す。
5. 定期的な地域住民の意識調査をとおして地域住民のニーズを反映した生涯学習プログラムおよび生涯学習場づくりへ繋げていく。
6. 地域の生涯学習担当者とのネットワークづくりをとおして、地域住民の生涯学習支援における質的向上を図る。
7. 岩手大学の生涯学習プログラムに参加する成人学習者を対象に定期的なニーズ調査を行うとともに、調査結果を生かして社会人学生の正規課程への進学を促す。



２－１　社会教育主事養成概要

岩手大学では地域の社会教育（生涯学習・生涯教育）の担い手である専門的職員（社会教育主事）の養成を行っている。当事業は、文部科学省委託事業であり、北東北 3 県が持ち回りで実施するものである。主催は、岩手大学、弘前大学、秋田大学である。

社会教育主事とは、専門的職員として社会教育を行う者に対する助言や指導に当たる役割を担っている。H27 年～H28 は秋田大学で実施しており、H29 年～H30 年は岩手大学三陸復興・地域創生推進機構の生涯学習部門が担当し、連携大学および学内・外の教員の協力のもとで実施予定である。

なお、当講習は、社会教育法(昭和２４年法律第２０７号)第９条の５の規定並びに社会教育主事講習等規程(昭和２６年文部省令第１２号。以下「規程」という。)に基づき実施するものであり、社会教育主事の職務を遂行するに必要な専門的知識、技能を習得させ、社会教育主事となりうる資格を付与することを目的としている。

（１）社会教育主事講習実施要領

◆実施科目：

①生涯学習概論（2 単位）/30 時間）

②社会教育計画（2 単位）/30 時間）

③社会教育演習（2 単位）/60 時間）

④社会教育特講（3 単位）/45 時間）

◆実施機関：　岩手大学,弘前大学,秋田大学　（※2 年持ち回り）

◆参加県：　岩手県,青森県,秋田県

◆講習期間：約１カ月

【社会教育主事講習等規程第２条】

第２条　講習を受けることができる者は、次の各号のいずれかに該当するものとする。

一　大学に２年以上在学して６２単位以上を修得した者、高等専門学校を卒業した者又は社会教育法の一部を改正する法律(昭和２６年法律第１７号。以下「改正法」という。)附則第２項の規定に該当する者

二　教育職員の普通免許状を有する者

三　２年以上法第９条の４第１号イ及びロに規定する職にあった者又は同号ハに規定する業務に従事した者

四　４年以上第９条の４第２号に規定する職にあった者

五　その他文部科学大臣が前各号に掲げる者と同等以上の資格を有すると認めた者

【社会教育主事講習等規程第７】

第７条　単位修得の認定は、講習を行う大学その他の教育機関が試験、論文、報告書その他による成績審査に合格した受講者に対して行う。

２　講習を行う大学その他の教育機関は、受講者がすでに大学において第３条の規定により受講者が修得すべき科目に相当する科目の単位を修得している場合には、その単位修得をもって同条の規定により受講者が修得すべき科目の単位を修得したものと認定することができる。

３　講習を行う大学その他の教育機関は、受講者が、文部科学大臣が別に定める学修で、第３条に規定する科目の履修に相当するものを行っている場合には、当該学修を当該科目の履修とみなし、当該科目の単位の認定をすることができる。

（２）実施状況

＜平成 17 年度・平成 18 年度　報告書＞

＜平成 23 年度・平成 24 年度　報告書＞

3－1 公開講座

岩手大学では地域に密着した社会活動を目指し、大学の研究成果を広く社会に還元するため、幅広い範囲の方々を対象とする「公開講座」を実施している。今年度は、「語学・文学」、「スポーツ」、「芸術」、「農学」、「工学」等幅広い分野の講座を提供した。

表 3－1　平成 28 年度公開講座一覧

No.	講座名	担当
1	教養と実用の英語講座	三浦　勲夫 岩手大学名誉教授
2	アクティブラーニングと国語科授業	藤井　知弘 教授 教育学系
3	国語科学習における「深い学び」の「具現化」	
4	インドネシアの音楽と舞踊：ガムラン体験＆レクチャー・デモンストレーション	川口　明子　教授 教育学系
5	フィールドセミナー ~春の植物観察会~	澤口　勇雄　教授 生物環境科学地域環境管理学
6	フィールドセミナー ~秋の植物観察会~	
7	フィールドセミナー ~ウォッチングビンゴをしながら親子で楽しむ秋の森~	
8	フィールドセミナー ~春をむかえる森をみる~	
9	親から子へ、動物にもある遺伝する病気	山﨑　真大　教授 農学部共同獣医学科
10	第１３回　高校生のための欧米の文学	秋田　淳子 人文科学系・講師
11	地域政策入門 ~まちづくりを考える~	内田　浩　教授 人文社会科学部・社会科学系
12	農学部 5 学科(植物生命科学・応用生物化学・森林科学・食料生産環境学・動物科学)の実験講座	木村　賢一　教授 生物資源利用学
13	地域を支える防災技術・環境技術	齊藤　貢　准教授 環境科学系
14	哲学者 内山節氏を迎えての第 11 回「哲学の森」	

15	かんじきをはいて冬の森を歩こう	山本　信次　准教授 環境科学系
16	牧場体験　「分娩牛の観察とトラクタ運転体験 ～子牛は誕生するかな？～」	千田　広幸 農学系技術部・技術室長
17	牧場ではたらくくるま体験	
18	かんじき体験「御明神の山を歩こう」	
19	少年少女のための陸上競技	上濱　龍也　教授 学校教育教員養成課程
20	少年少女のためのバスケットボール	栗林　徹　教授 人文社会科学部・人間文化課程
21	がんちゃん中１サッカーリーグ	鎌田　安久　教授 学校教育教員養成課程
22	コーチのためのサッカーC 級コース	
23	コーチのためのサッカーD 級コース	

3-2 シニアカレッジ

1	2016 年度　岩手大学シニアカレッジ	早川　浩之 地域連携 COC 推進課長

3－3　板橋区・岩手大学連携講座

1	板橋区・岩手大学連携講座	早川　浩之 地域連携 COC 推進課長

3－4　釜石市・岩手大学生涯学習講座

1	釜石市・岩手大学生涯学習講座	及川　幸史 地域連携 COC 推進課・主査

3－1　成果報告書
記録者氏名：藤井　知弘
事業名：アクティブ・ラーニングと国語科授業
目 的 ことばに踊らされず、本質をじっくりと考えることが本県では必要である。国語の授業においてどのような考えのもと、単元をどう構成していくのか、学習者の見取りや評価はどうあるのかなど様々な観点から考究していく必要がある。そのことが授業改善へと直結することとなる。次期学習指導要領におけるキーワード「アクティブ・ラーニング」をどのように具体化していくかは実践上の課題となってきている。一つの方法だけを示すものではないという趣旨からその目指すところを、理論的にも正しく理解し、どのように具体化していくかについて講義・協議を重ねながら共通理解を創ることを本講座の目的とした。また、国語科においてどのようにその実現を図っていくかを理論的，実践的に理解することを目指した。 （例えばアメリカやイギリスにおける学習なども参考にしつつ総合的な言語能力の育成を図る単元としての学習を構想できるように協議を通して希求していくこととした。）
活動実績 アクティブ・ラーニングについては，教育課程部会の中間まとめにおいて，次の重要な教育方法の一つとして掲げられている。がしかし，どのような学習がそうなるのか，またそのためには，どんな考えの基，どのように単元を構成すればいいのかなど多くの課題がある。特に国語科では，理科や社会，算数・数学とは違って，問題解決的な学習過程を設定すること自体が難しいといえる。 ◆申し込み者数　８３（募集50名） ◆活動日程と内容 第1回　５／１４　アクティブ・ラーニングの理論１ 次期学習指導要領の目指す方向 中教審教育課程特別部会の審議の途中経緯より 第2回　６／１１　アクティブ・ラーニングの理論２ 学習理論からみたアクティブ・ラーニング 松下佳代の提唱する「ディープアクティブラーニング」についての理論的考察 第3回　７／９　実践例からの考察　アメリカ，イギリスのテーマ単元学習から ホールランゲージの実践が日本の総合的な学習の時間や「単元学習」との類似性を有していることを通して、問題解決的な学習のあり方について考察した。 第4回　９／２４　日本における先行実践の検討 大村はまの単元学習の実践 第５回　１０／８　ワークショップによる単元創り クリティカルリーディングはどのように具体化されるか『アリの行列』 演習として問題解決的な学習プロセスの単元をイメージしてみる

今後の課題

〇案内文書の学校内回覧が十分に回っていない（届いていない）市町村がある

〇県内の参加者の意識の上で，距離的な障壁が大きい。来たくても来られない沿岸や県北において実施可能性はないか検討する必要がある。

〇参加者意識は，教育においてキーワードとなっているテーマにはすぐに飛びつく傾向がある。

〇登録だけして参加ができない申し込み者が多数いること。

3－1　成果報告書
記録者氏名：藤井　知弘
事業名：国語科学習における「深い学び」の具現化
目 的 　次期学習指導要領において「主体的、対話的な深い学び」の実現が志向されることになった。 前期後期の講座では、「アクティブ・ラーニング」の理論的、そして単元学習による具体について主に方法論を中心に考えてきた。しかし、「アクティブ・ラーニング」の目指す「深い学び」とはどのようなものなのか、どうやって実践化されるかについては、理解や解釈が十分考究されたとはいえない。後期では、学習者の姿から「深い学び」の具体像に迫ることを目的とした。「深い学び」とは学習者の学びの生成・変容過程において、学習者の姿として見取ることができる。そこで、学習者研究の実際を紹介しながら、どのように学習者を見取るのか、その学習プロセスに沿って思考過程の実際について考察した。「見通し」と「振り返り」の重要性は文科省をはじめ、県の学習の重点にもなっているが、思考のプロセスにおいてこれらがどのように機能することとなるかについても考えることとした。単元の学習プロセスにおいて「深い学び」の具体化をどう図っていくか、参加者自身の作成した単元を基に設計を見直すこともしたい。
活動実績 ◆申し込み者数　４３（募集４０名） ◆活動日程と内容 ・第1回　１１／２６　「深い学び」の理路的基盤についての講義 「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」中教審教育課程部会　H28.8.26を元にしての「深い学び」の捉えについて ・第2回　１２／１０　「深い学び」をもとるための学習者研究のあり方 昭和29年文部省「単元学習の理解のために」平成7年文部省「国語科指導資料」における学習者中心の考え方の変遷と上越教育大学「実践場面分析演習」に見る学習者研究の方法について ・第3回　１／２１　岩手大学教育学部附属中2年生を対象としての授業実施（授業者　フジイ） 深い学びを見取るために中学生３名に対して大学生２名を配置して5名による読書会を実施参加者は，特定のグループに張り付き，読みの変容がどのように起こるかについて観察し、見取ることを体験的に行った。 ・第4回　２／４　宮城教育大学教授　児玉忠氏講義 文学的文章の読みにおける「深い学び」の実際　児童詩を例として ・第５回　３／11　「深い学び」を具現化するための単元構想の設計 （これから実施予定）「新学習指導要領（素案）をもとにしての単元学習計画の考え方とその実際について

今後の課題

〇後期は冬期間となるため，参加者が前期に比べて少なくなること

〇毎回の講座でリピーターが多くなる傾向が高く，若い教員の参加が少ないこと

〇参加費を500円安くするために実施時間の短縮を余儀なくされたこと（3500円では高いという意識が働いている）

3－1　成果報告書
記録者氏名：川口明子
事業名：公開講座　インドネシアの音楽と舞踊－ガムラン体験＆レクチャー・デモンストレーション
目 的 　インドネシアの音楽と舞踊を体験も交えて紹介し、大人から子供まで広く一般市民に親しんで頂く。 特に小中学校の先生方の参加も歓迎し、音楽科教育はもちろん、国際理解教育や総合学習にも役立て頂き、岩手の教育にも地域貢献する。
活動実績 ・実施日：2016 年 6 月 5 日（日） ・第 1 部 13:00～14:30　ガムラン・ドゥグンやアンクルンの体験（歌と楽器） インドネシア・スンダ（西ジャワ）の打楽器合奏ガムラン・ドゥグンの楽器（ゴング類や鉄琴のような鍵盤打楽器、竹笛、太鼓など）や竹楽器のアンクルンを体験し、インドネシアの歌や文化にも親しんでいただいた。 ・第 2 部 15:00～16:30 インドネシアの音楽と舞踊レクチャー・デモンストレーション 西ジャワのガムラン・ドゥグン、竹の楽器アンクルン、古典歌曲のトゥンバン・スンダの 3 種の伝統音楽とインドネシアの舞踊を生で鑑賞し、簡単な舞踊の体験も楽しんでいただいた。 ・講師 川口明子（岩手大学教育学部音楽教育科教授） 村上圭子（ガムラン演奏家　NPO 法人日本ガムラン音楽振興会代表） アユ・イスカンダル・阿部（インドネシア舞踊家　サンガル・アユ主宰） 　＊この他に学生/院生の助演・補助指導も有り ・参加者　15 名 　実施後のアンケートからも、「体験も含めてインドネシアの多様な音楽文化を味わえた」と大変好評であった。

今後の課題

平成 27 年度までは無料で実施しており、地域の様々な世代に方の参加が有り、リピーターも多かった。しかし、平成 28 年度より有料の講座となったため、親子での参加や、年金世代の高齢者の参加者が減少した。それでも、H28 年度は 15 名の参加者があったが、ほぼ全員が初めての参加者で、それまで毎年参加されていた方のリピーター参加は残念ながらあまりなかった。有料化による費用の問題と思われる。

今後、参加者の確保が継続的にできるかは未知数で有り、課題である。参加料を、１回２時間程度の場合はもう少し安くして 1000 円位であれば、一般市民の方も参加しやすいと思うので、検討をお願いしたい。

※アンケート報告は７．資料編資料６を参照

3－1　成果報告書
記録者氏名：澤口勇雄（農学部寒冷フィールドサイエンス教育センター）
事業名：フィールドセミナー
目 的 農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター（滝沢演習林）の森林フィールドにおいて， 一般市民，児童・生徒などを対象に森林環境教育活動を展開することにより，森林・自然に対する理解を深めるとともに，健全な身体の涵養など幼児から高齢者までの生涯教育に資することを目的とする。
活動実績 （1）公開講座　フィールドセミナー　－春の植物観察会－ ・対　象：一般市民 ・期　日：平成 28 年 6 月 5 日（日） ・場　所：滝沢演習林 ・参加数：20 名 ・概　要：滝沢演習林で不伐の森等を散策し，開葉期を迎えた春の樹木の観察と森林管理についての講話を行い，森林・自然・林業に対する理解を深めた。 （2）公開講座　フィールドセミナー　－秋の植物観察会－ ・対　象：一般市民 ・期　日：平成 28 年 10 月 2 日（日） ・場　所：滝沢演習林 ・参加数：7 名 ・概　要：滝沢演習林で，樹木観察や不伐の森等の散策を通じて秋の森の様子を観察し，森林・自然に対する理解を深めた。 （3）公開講座　フィールドセミナー　－ウォッチングビンゴをしながら親子で楽しむ秋の森－ ・対　象：一般市民・児童生徒 ・期　日：平成 28 年 11 月 13 日（日） ・場　所：滝沢演習林 ・参加数：13 名 ・概　要：滝沢演習林でウォッチングビンゴをしながら森の樹木，草木，虫，鳥などを観察するセミナーを開催し，秋の森の様子，生き物の姿について理解を深めた。

（４）公開講座　フィールドセミナー　－春をむかえる森をみる－

・対　象：一般市民・児童生徒

・期　日：平成 29 年 3 月 26 日（日）

・場　所：滝沢演習林

・定　員：15 名

・概　要：滝沢演習林で冬越しをすませた森の生きものを観察し，春を迎える森の様子，生きものの姿について理解を深めてもらう。

（フィールドセミナー　－春の植物観察会－）

フィールドセミナー　－秋の植物観察会－

（フィールドセミナー　－ウォッチングビンゴをしながら親子で楽しむ秋の森－）

今後の課題

本セミナー（演習林）は，20 年近い歴史がある，公開講座として開催されたもの以外も含んで今年度で通算 150 回近くに及んでいる。参加者はリピーターや初参加などいろいろであるが，定員を確保するには一定の工夫が必要である。児童の参加が多いことなどもあり，募集定員を少数（15～20 名）程度に絞っている。当日の天候などにより，欠席が多くでるなど天候の影響は大きい。野外でのイベントなので，主催者負担で傷害保険に加入しているが費用負担の問題がある。

3－1　成果報告書

記録者氏名：山﨑　真大

事業名：平成 28 年度岩手大学公開講座　「親から子へ、動物にもある遺伝する病気」

目 的

岩手大学では地域に密着した社会活動を目指し、農学部附属動物病院において犬、猫などの家庭動物の診療活動を行っている。公開講座を通してそれらの活動内容、成果を動物のオーナーだけでなく広く社会に還元することを目的とし、今年度は「遺伝病」をキーワードとして、市民の皆様に犬や猫の家庭動物にも起こりうる、親から子へと伝わる遺伝病について講座を企画した。

活動実績

平成 28 年 6 月 18 日に岩手大学農学部ぽらんホールにおいて、平成 28 年度岩手大学公開講座として「親から子へ、動物にもある遺伝する病気」という講座を一般市民向けに、岩手県教育委員会ならびに岩手県獣医師会の講演の下、開催した。講座は 13 時開始で、高畑義人農学部長にご挨拶いただいた後、共同獣医学科・古市達哉教授（実験動物学）、佐藤れえ子教授（小動物病態内科学）、小林紗織助教（小動物病態内科学）、山﨑真大（小動物病態診断学）の各講師による講演を 45 分ずつ実施し、16 時 5 分に閉会となった。各講師からは、難しい分野であるにもかかわらず、非常にわかりやすい内容のご講演をいただいた。

古市達哉教授からは、「遺伝病を正しく理解しよう」というタイトルで、遺伝子の仕組みや、なぜ遺伝病が起こるのか、どのように遺伝病が子供に伝わっていくのか、について、わかりやすく解説していただいた。

佐藤れえ子教授からは、動物の遺伝病の例として、猫の多発性嚢胞腎について病気の詳細と、現在の研究動向についてわかりやすく説明していただいた。猫の多発性嚢胞腎は腎臓に穴が空き、中に液体がたまっていく致死性の病気であり、その原因の解明と治療法の開発が必要であることが述べられた。

小林紗織助教からは、別の遺伝性疾患として犬の好中球機能不全病について病気の詳細と、実際の症例についてわかりやすい紹介があった。好中球は体を感染症から防御している大切な細胞であるが、この症例犬では好中球の機能がおかしく、感染症を防御できないため重篤な感染症に陥り、死亡する可能性もあることが紹介された。

山﨑真大からは、近年福島県で発見され、さまざまな検査を行うことで診断を行った、犬のメトヘモグロビン血症が紹介された。この症例を通じて遺伝病をどのように診断していくか、どのように遺伝子の検査を行っていくかが概説され、また、同じ遺伝病であっても命に関わる重篤なものから、異常は認められるもののその症状は軽微であるものまでさまざまなものが存在することが紹介された。

本講座の参加者は、中学生、高校生、大学生ならびに一般の方を併せて 39 名であり、

参加人数は少なめであった。これは同日が中学校および高校の行事と重なってしまったことが一因ではないかと思われた。しかしながら、参加者からは活発な質問もあり、また実施したアンケートでは、受講の動機が「今回の講座内容に興味があった」（19名）や「幅広い知識を身につけたいと思ったから」（10名）が多く、内容に興味を持っていただいた方が多く受講してくださったものと思われる。さらに、講義の長さは「ちょうど良かった」（25名）とのご意見が最も多く、また「参加したい」（16名）参加者も多く、今回の公開講座に「大変満足」（18名）、「まあまあ満足」（6名）であったことから、参加者には満足していただき、岩手大学の公開講座に興味を持ってもらえたのではないかと思う。ただし、公開講座の内容については、「少し難しかった」（11名）というご意見も多く認められたことから、やはり遺伝病と言うテーマは若干難しいという印象を与えるものであったかもしれない。

以上より、この公開講座を通じて動物の遺伝病と言うものに対する知識を提供するとともに、岩手大学農学部附属動物病院の活動、ならびに岩手大学農学部の活動について、社会に紹介できたものと思われる。

今後の課題

今回の公開講座に関しては、やはり参加人数が少ないことが残念であった。この要因として１つは、中学生や高校生の学校の行事と重なってしまったことが挙げられる。6月は中学生、高校生にとっても中間テストやスポーツ大会の時期であり、多忙であると考えられる。本講座を通じて、岩手大学の活動や農学、獣医学に興味をもってもらいたいという思いもあることから、開催時期についてはよく検討する必要があると思われる。

また、今回取り上げたテーマが「遺伝病」であり、「難しそうだ」という印象を与えてしまったことも一因として考えられる。このテーマは、興味を持つ方が限られ、このため参加人数が少なくなったかもしれない。実際の講座では、各講師の先生が非常にわかりやすくお話をしていただいたことから、参加者の方々には満足していただけたのではないかと思う。これらのことから、テーマ選びも市民の皆様が興味を抱きやすいものを考慮する必要もあると思われるが、あまりに受けの良いものを選択しようとした場合に岩手大学の特色がぼやけてしまう事があっては意味がないので悩ましいところである。また、今回のように難しいテーマであっても講師の先生方のご努力によりわかりやすく解説していただければ、参加者からの評価は高いものと思われるため、岩手大学で実施していることを積極的にオープンにしていく姿勢の方が大切であるかもしれない。

※アンケート報告は７．資料編資料３を参照

3－1　成果報告書
記録者氏名：秋田淳子
事業名：第 13 回　高校生のための欧米の文学
目 的 　岩手大学人文社会科学部人間文化課程で、イギリス文学、アメリカ文学、ドイツ文学、フランス文学を教えている教員が、高校生の生徒さんを対象に、欧米の文学を読むことの楽しさや意義を伝えるために開講している。
活動実績 第一回 2016 年 7 月 2 日（土） 「**アメリカ文学**：アメリカ文学の魅力について考えてみよう～多様な声を聞くこと」（秋田淳子講師） 「**ドイツ文学**：越境する人間狼と狩人」（川村和宏准教授） 第二回 2016 年 7 月 9 日（土） 「**イギリス文学**：オスカー･ワイルドの「幸福な王子」の幸福の姿」（斉藤博次教授） 「**フランス文学**：星の王子さまはなぜ<死>を選んだのでしょう？～『星の王子さま』（サン=テクジュペリ）の謎」（菊地良夫名誉教授） （於：　岩手大学学生センター　GB32 講義室） 2 日にわたる講座（各 60 分）は、50 名以上の参加者があり、保護者のご参加もあった。講義時間が 1 時間と限られているため、今年度も 1 週間前に事前資料を送付し、読める生徒さんには目を通してきてもらった。 第二回目のあとに複数の講師が参加して行われた懇話会（40 分）では、講義内容だけではなく、読書一般にたいする質問もあった。 2 回の講座終了後に記載してもらうアンケートも毎年好評な回答が多く、各国の欧米の文学に関心を持ってもらう動機づくりには貢献していると講師一同自負している。 また、ここ数年、この講座の受講生が岩手大学人文社会科学部を受験することが多くなった。実際、この講座で抱いた関心を、入学後に研究する学生もいる。 受講生の連絡やとりまとめ、事前資料の準備や発送、当日の会場設定など、岩手大学三陸復興地域創生推進機構　地域連携･COC 推進課のご協力を頂かなければ実施が不可能なため、ご支援に深く感謝している。

今後の課題

・第 14 回目となる次年度には、今年度お休みをしたロシア文学も加え、さらに広がりをもった視座を提供するようにする。

・一方通行とならないように、懇話会を設けているが、自発的な発言を促す難しさを毎年感じている。

・7 月の第一、第二週の開講として定着をはかってきたが、この時期は高校野球の予選と重なることもあり開催時期は再考の予知があろう。しかし、土曜日に実施される模試など、高校の活動が多いことから、最適な時期を選ぶことが難しい。

※アンケート報告は７．資料編資料２を参照

3－1　成果報告書
記録者氏名：内田　浩
事業名：地域政策入門――まちづくりを考える――

目 的

本学人文社会科学部では，平成２８年度に法・経済・環境の視点から持続可能な社会づくりのための課題に取り組み，地域社会に貢献できる人材の育成を目的とする地域政策課程を設置した。その趣旨は，これまでの法学・経済課程と環境科学課程の教育を統合し，「地域マネジメント」，「地域創生」をキーワードとする教育・研究を行うことにある。本公開講座は，高校生・一般市民を対象に，以上の趣旨に基づき新設された地域政策課程での教育内容の一端を紹介し，広く本課程が周知されることを目的として開催されたものである。

活動実績

以上の目的を実現するべく，本年度は，平成 28 年 7 月 30 日（土）13 時から 16 時までの 3 時間にわたり，岩手大学図書館 生涯学習・多目的学習室において，「まちづくりを考える」というテーマのもと，法学・経済学・環境学の３分野から話題を提供した。

Ⅰ　講義のテーマと内容

１　まず，法学分野からは，丸山 仁（政治学・副学長）が「政策って何？―地域の活性化を考える最初の一歩」という題目で 30 分の講義を行った。

「地方消滅」,「地方創生」,「地域活性化」・・・等々，しばしば見聞きするこうした言葉に接し，自分の住んでいる町（自治体）の将来が心配！という人もいるはずである。ではどうすればいいのか？地域政策の出番！ということになりそうであるが，そもそも「政策」とは何か。 分かっているようで，実はよく分からない。改めて説明しなさいと言われると困ってしまう。こうした疑問にわかりやすく答えると同時に,「地域活性化のキーマン」は誰なのかという点に関して,「わかもの」,「よそもの」,「ばかもの」という３つのキーワードを使って，これからのまちづくりの主役となる者への期待も語る。

講義の内容は以上のようなものである。

２　引き続き，経済学分野から，横山英信（農業経済論・教授）が「まちづくりを考える際の基本的視点」と題するテーマで 30 分の講義を行った。

各地で起こっている「まちづくり」を進めようという動きには，さまざまな工夫や趣向を凝らした取組みが数多くみられる。しかし，そもそも「誰のため，何のため」にそれらの取り組みを行うのかという「基本的視点」を踏まえない取り組みは，どんなに斬新で人目を惹くものであっても，その効果は一時的であり，場合によってはマイナスの結果を招くことにもなりかねない。こうした観点から,「まちづくり」「地域経済活性化」にはどのような視点が必要なのか。

多くの具体例をあげながら，この点を説く講義である。

３　最後に，環境学分野から，中島清隆（環境政策論・准教授）による「東日本大震災の復興から持続可能な地域社会形成の新生に向けて」と題する講義が行われた。

ここでは，東日本大震災・福島原子力発電所以降，日本で注目されるようになった「地方（自治体）消滅論」と「里山資本主義」「エネルギーシフト・ヴェンデ（転換)」「田園回帰 1%戦略」などの考えを概説しつつ，被災地におけるエネルギーシフト・ヴェンデによる持続可能な地域社会の形成に向けた取組の事例として，岩手県野田村の高齢被災者＆岩手県内外の NPO による市民共同太陽光パネル発電所の設立・運営と，（岩手県）中小企業家同友会によるエネルギーシフト・ヴェンデ運動を概観し，エネルギーシフト・ヴェンデによる持続可能な地域社会の形成について論じられた。

Ⅱ　その他

以上の各講義（13：05～15：20）の後，10 分間の休憩をはさみ，約 30 分間「総合討論」が行われた。その形式は，あらかじめ配布してある各講義担当者への質問状に対して，各講義担当者が，ときには分野横断的に，回答するというものである。

なお，本公開講座の受講対象者は，「高校生（主対象）・一般市民　50 名」であるところ，53 名の参加者を得た。その内訳は，高校１年生２名，同 2 年生 18 名，同 3 年生 28 名，高校教諭 2 名，一般 2 名である（参加者 53 名中１名はアンケートに無回答のため，合計の人数が 52 名となっている)。本公開講座の後集計したアンケートによると，たとえば，「講義内容の満足度」については，「非常に満足」「まあまあ満足」を合わせ 45（それぞれ 27；18)，「大学の授業の雰囲気を体験できたか」については，「できた」「すこしできた」を合わせ 50（それぞれ 34；16)，「将来の進路を決定するのに役立ったか」については，「役立った」「すこし役に立った」を合わせ 49（それぞれ 34；15)，「今後，地域政策に関する講座があれば受講したいか」については，「受講したい」「すこし受講したい」を合わせ 50（それぞれ 35；15）など，本公開講座の目的は十分に果たせたのではないかと考えている。とくに，法学・経済学・環境学とそれぞれの専門分野は異なるものの，「まちづくり」「地域の活性化」という，それぞれに通底するテーマが多角的に論じられたことは，今後の地域政策を考えるうえで，きわめて有益であったように思われる。

今後の課題

まず，受講対象者の人数について，50 名という数が適当であるかどうかは再考の余地があるだろう。開催場所の確保にもよるが，もう少し人数を増やすことも一考に値しよう。

各講義時間についてみると，アンケートによれば「ちょうど良かった」が 49 名（52 名中）で，各 30 分という時間配分は適当といいうる一方で，自由回答欄では，「先生方と直接お話しする時間がほしい。」「もう少し，聞き手が参加できるような要素を取り入れた方がよいのでは，と思いました。」という意見も見られた。講義の中においても，双方向的な質疑・応答形式のものを一部取り入れたり，講義時間を各５分程度短縮する一方で，「総合討論」をより充実させるなど，教員と学生，教員同士の直接対話的な要素をより以上に加味した講座を実現することは，今後の課題として，模索していかなければならないように思われる。

※アンケート報告は７．資料編資料４を参照

3－1　成果報告書

記録者氏名：木村　賢一

事業名：農学部 5 学科の実験講座

目 的

本講座は、主に高校生たちに大学の実験の面白さを経験してもらい、将来の進路と自らの成長に役立てて欲しいという願いから始まり、今回で 21 回目を迎えた。この間、第 15 回が終了した時点で文部科学大臣賞を受賞し、広く内外で高い評価を受けている（第 15 回目までの資料参照（事務と木村が保管））。

活動実績

農学部 5 学科（植物生命科学・応用生物化学・森林科学・食料生産環境学・動物科学）の実践講座

日時：平成 28 年 7 月 2 日（土）13 時 00 分～17 時 00 分、場所：岩手大学総合教育研究棟（生命系）1 階 7 番講義室、主催：国立大学法人岩手大学（農学部）、後援：岩手県教育委員会、参加者：53 名

第 21 回のテーマ名と講師について下記にまとめた。また、受講した高校生にはアンケート記載をお願いし、機構の方でまとめて頂いているが、文章においてはもちろん、終了した生徒に直接話を聞いても非常に満足している結果である。また、ホームページを見て、県外からの参加も時々ある。アンケートの高校名を見て頂ければわかるが、岩手大学を第一の進学候補と考えている場合と、自らの興味と意思で参加している場合とに別れるが、いずれも高い意欲を持った生徒たちである（アンケート結果参照）。今年度からは、学科長持ち回りで進めているが、今後も益々重要となる公開講座の一つである。

コース	テーマ	講　　師	実施場所
コース①	「昆虫のペプチドの生理活性を見よう」	（植物生命科学科）安　嬰　講師	2 号館 1 階 122 室
コース②	「蛍光で植物細胞を観る」	（植物生命科学科）河村 幸男 准教授	7 号館 3 階 307 室
コース③	「ポリフェノールって何だろう－ポリフェノールの健康機能性－」	（応用生物化学科）長澤　孝志　教授 伊藤　芳明　准教授	4 号館 2 階 学生実験室
コース④	「ＰＣＲでＤＮＡをふやしてみよう」	（応用生物化学科）西山　賢一　教授	7 号館 1 階 105 室

コース⑤	「樹木の幹の成長特性を調べよう」	森林科学科 國崎 貴嗣 准教授	農学部2号会議室（2号館1階）
コース⑥	「竹チップを混ぜた土の強さを測定してみよう－エコ技術－」	食料生産環境学科 金山 素平 准教授	1号館1階106室
コース⑦	「虹を使って葉緑素を測ろう－分光分析の基礎－」	食料生産環境学科 松嶋 卯月 准教授	1号館4階401室及び情報処理演習室（北講義棟2階）
コース⑧	「生体のバリア機能って何？」	動物科学科 西向めぐみ 准教授	6号館3階301室

今後の課題

なるべく高校行事と重ならないようにと、7月第一週の土曜日に日程を決めていたが、高校での模試の回数が増え、最近では進学校を中心に重なる例が増えてきた。基本的に各学科から2名程度計8コースの異なる専門の先生方にお願いし、実験コースで希望者を募り、第1希望と第2希望により各コース10名程度で行っている。

※アンケート報告は７．資料編資料５を参照

3－1　成果報告書
記録者氏名：齊藤　貢
事業名：地域を支える防災技術・環境技術
目 的 東日本大震災から 5 年が経ち、東北地方太平洋沿岸地域のインフラも少しずつ整備され、新しい道路や防潮堤、生活基盤となるまちが形成されてきた。まちは新しくなっても震災が教えてくれたことを忘れてはならない。また、震災以降、地球温暖化が原因ともささやかれている異常気象により多くの自然災害が各地で起こっている。震災から 5 年の節目に当たり、自然災害に対する防災意識や自然環境問題への意識を再確認し、これから起こりうる自然災害に対してどのように対応するかについて、震災以降私たちが行ってきた防災及び自然環境保全への取り組みを紹介し、地域を支える防災技術と環境技術についてわかりやすく説明する。
活動実績 平成 28 年 8 月 6 日（土）釜石市教育センター5 階岩手大学釜石教室にて、『平成 28 年度 釜石市・岩手大学生涯学習講座　第 1 回講座』として以下の 2 つの内容で講義を行った。 講義 1：東日本大震災からの復興状況と今後の課題について 講師：理工学部教授　南　正昭 内容：東日本大震災から 5 年を経て、岩手三陸沿岸地域では住宅・市街地整備や海岸保全施設整備など、都市基盤施設の復興が進むとともに、応急仮設住宅からの移行に伴う新たなコミュニティづくりが始まっている。本講義では、これまでの復興の経緯や、これから生じてくる課題について再考した。前半は、行政により策定された復興計画の立案過程とその実施状況について講述した。後半は、復興に向けた住民、商工業者、漁業従事者等の主体的な取り組みについて事例に基づいて講述した。講演後、質疑の時間を設け、参加者から復興まちづくりの課題について質問が出されるとともに、議論を行った。 講義 2：地球温暖化防止に向けた取り組み 講師：理工学部教授　大塚尚寛 内容：21 世紀における人類最大の課題の 1 つといわれる地球温暖化問題について、次の項目について講義を行った。 １．地球温暖化問題の基礎知識 ①温室効果の概念と温室効果ガスについて ②大気中の CO_2 濃度の変化 ③世界人口と CO_2 濃度の推移 ２．地球温暖化による様々な影響 ①気候の変化

気温の上昇、異常気象（集中豪雨、干ばつ等）

②自然環境への影響

動植物の分布など生態系に大きな影響

③社会環境への影響

食糧問題、海面上昇、感染症の危険度増加、公害との複合影響、水資源の枯渇

３．地球温暖化防止に向けた取組

①世界のエネルギー消費、電力使用、GDP、CO_2排出量等について

②CO_2排出削減対策の推進

省エネルギーの促進、再生可能エネルギーの導入

③革新的な環境・エネルギー技術の開発状況

④国際協力の推進

気候変動に関する国際連合枠組み条約、パリ協定（COP21）等について

今後の課題

講師２名から以下のコメントをいただいた。

・市民が多数参加され、熱心にご聴講いただくとともに、復興まちづくりの進捗状況や課題に関するご質問をいただいた。市民の方々が高い関心をもち、知識を得て議論する機会を求められていることが窺われた。今後、このような講演会等の機会をさらに設けることが、まちづくりを進める上で望ましいと思われた。

・受講者の多くが年配の方であり、高校生が１名のみ参加していた。もっと若い世代に受講してもらえるような広報活動が必要であると感じた。

3－1　成果報告書
記録者氏名：山本信次
事業名：哲学者　内山　節氏を迎えての第１１回「哲学の森」
目 的 哲学者 内山 節 氏をお迎えし、森の中でこれからの社会や地域づくりのあり方などについて講演頂くとともに、森林散策・意見交換の機会を設け、これからの社会のあり方や自然と人間の関係等について様々に考える場を提供する。
活動実績 講座の参加者は当時の飛び込みも含めて 40 人にも及びいつもながら好評を博した。内山氏からの講演は、近代の普遍主義がもたらしたもの、近代化にともなう共同体の変化とその現代的再構成の意義、これからの自然と森林と人間の関係のあり方に大別され、それぞれお話を題材に参加者と熱心な議論が交わされた。 また講義室を飛び出して、実際の森林内を歩きつつ、さらに議論を深め、また森林と人間を結ぶ技術や文化についても学ぶ機会を設け、講座の内容を更に高めることができた。 今後の課題 単なる講演会でなく、森林内での散策や議論なども組み込んでいることが特徴であるが、その点もあり参加者数を増やすことは容易でない点などについて検討したい。

3－1　成果報告書

記録者氏名：山本信次

事業名：かんじきをはいて冬の森を歩こう

目 的

本センターでは、毎年冬の演習林散策と自然の観察「かんじきをはいて冬の森を歩こう」を開催している。今回も、かんじきを履いて冬季の滝沢演習林を散策し、自然観察・アニマルトラッキングなどを行った。冬の森林と親しむことを通して、森林保全に関わる理解の深化を図ることを目的とする。

活動実績

参加者 21 人を迎え、冬の森の散策を行った。

野生動物の痕跡（ホンドリス・トウホクノウサギ・ニホンジカ・ホンドタヌキ）や冬の植物観察などとともに林業・森林管理に関する解説を行い、好評を博した。

今後の課題

参加者の年齢層や参加目的にばらつきがあるので、より参加者の満足度を高めるためにきめの細かいグループ編成などに努めたい。

3－1　成果報告書
記録者氏名：上濱龍也
事業名：少年少女の陸上競技
目 的 陸上競技を愛し、学びたい少年・少女に対して、基本技能の習得と冬季トレーニングなどについて，レベル・目的に応じたプログラムとエリアとヒトを提供し、資質の向上を目指し開講するものである。 なお、講座の対象者には、学校やクラブ団体の組織の枠をこえ県内全域から広く参加を募る。また、岩手県小学校体育研究会の陸上指導者の講習会を兼ねて実施する。
活動実績 下記日程・内容にて実施した。 １月２８日（土）：陸上運動に親しむための体ほぐしの運動、短距離走の基本的な動きづくり、跳運動と走り幅跳びの基本的な動きづくり ２月　４日（土）：陸上運動に親しむための体ほぐしの運動、障害走の基本的な動きづくり、走力を高めるための体づくり運動 ２月１２日（日）：陸上運動に親しむための体ほぐしの運動、投動作の基本的な動きづくり、用具を使った走動作のための動きづくり 特に、投運動では２８年度の全国小学生陸上競技交流大会から変更になった投種目「ジャベリックボール投げ」についての指導のポイント等について紹介した。 参加した小学生は、申し込み人数は 100 名を超え、参加した実数は毎回 90 名を超える小学生が県内全域から参加した。 指導者は岩手県小学校体育研究会の中止となる現職の教員で、３回でのべ１０名ほどの指導者講習会参加の先生方も加わり、充実した講座となった。 今後の課題 冬季は、交通事情が天候に左右されることから、今後は、開催時期を含め、また、小学生を対象とした指導者の研修の機会の拡充という観点から実施体制や内容も再検討が必要である。

3－1　成果報告書
記録者氏名：栗林　徹
事業名：　少年少女のための岩大スポーツ体験塾２０１４（少年少女のためのバスケットボール）
目 的 現代生活の中におけるスポーツは、心身の健康や生きがいのため、あるいは余暇活動や観戦の楽しみなど様々な面で重要な位置を占めている。とりわけ、生涯スポーツの観点からその意義はさらに高くなってきている。しかしながら現実には、スポーツの専門の指導者に手軽に指導を受けたり、スポーツの指導方法を学んだりする機会は、極めて少ないのが現状である。そのため本講座では、バスケットボールを愛し、学びたい少年少女に対して、レベル・目的に応じたプログラムとエリアとヒトを提供し、資質の向上を目指し開講するものである。なお、講座の対象者には、学校やクラブ団体の組織の枠をこえ広く参加を歓迎する。
活動実績 １．会場　岩手大学第二体育館 ２．対象　小学校　３７名 ３．日程　７月２７日（火）１７：００～１８：００ ７月２８日（水）１６：００～１８：００ ７月２９日（木）１６：００～１８：００ ４．指導者　栗林徹 岩手大学バスケットボール部員

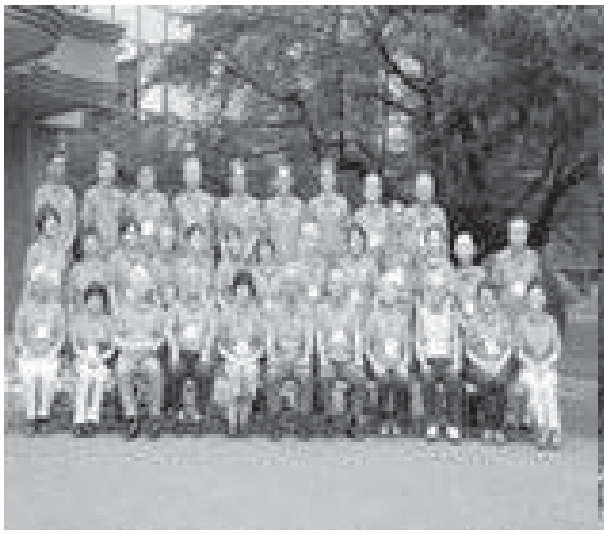
3－2　成果報告書
記録者氏名：地域連携・ＣＯＣ推進課長　　早川浩之
事業名：２０１６年度 岩手大学シニアカレッジ
目 的 岩手大学シニアカレッジは、２００７年に開催して以来今年度で１０回目の開催となった。この事業を実施することとなった背景には、団塊の世代を中心としたシニア層の学習への意欲が高まっていることに加えて、大学等の高等教育機関に対する生涯学習機会の提供要請の高まりがある。本学では、それらの要請に応えるとともに、生涯学習と地域学習とを融合させた滞在型生涯学習事業「岩手大学シニアカレッジ」を実施してきた。この事業の目的としては、全国のシニア層に新たな学習スタイルを提供するとともに、多様な地域から(特に県外)の参加者同士の交流を促し、岩手県内の地域活性化の一助になることに加え、岩手大学の目標の一つである、大学の知的資産を活用した地域振興を図ることを目的としている。
活動実績 岩手大学シニアカレッジのテーマは、本学の研究成果と岩手県の地域性との接点を軸に設定してきた。２０１６年は、宮澤賢治の生誕１２０年であり、県内の各地域においても賢治生誕１２０年を記念したイベントも計画されていることから「イーハトーヴの学舎－宮澤賢治生誕１２０年」をテーマとしてカリキュラムを設定し、花巻市をフィールドとした１泊２日行程の実習を設けた。 期間中の講義は１４コマとし、そのうちの２コマについては、花巻市が進める宮沢賢治生誕１２０年事業に協賛する形で設定した。 全国に募集した結果、２８名(定員３０名)の参加があり、うち、岩手県外からの参加は２６名であった。 期　間　　２０１６年９月７日(水)～１３日(火)　６泊７日 主　催　　岩手大学 共　催　　盛岡市、花巻市 協　力　　早池峰賢治の会、賢治街道を歩く会 後　援　　岩手県、(公財)岩手県観光協会、(公財)盛岡観光コンベンション協会、(一社)花巻観光協会 講義テーマ、講師 講義１　　「岩手大学が目指すもの」　　岩渕　明 学長 講義２　　「宮澤賢治と盛岡高等農林学校」農学部 武田純一 教授 講義３，４　「祖父・清六に聞いた兄・賢治」(株)林風舎 代表取締役　宮澤和樹 氏 「対談　盛岡高等農林学校時代の賢治」 (株)林風舎 代表取締役　宮澤和樹 氏・人文社会科学部　山本昭彦 教授

講義５　　「機械をつくる機械の話」　理工学部　水野雅裕 教授
講義６　　「啄木の女性問題 ～その愛と苦悩～」啄木ソムリエ　　山本玲子 氏
講義７，８　　「ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸⅠ 賢治さんと大迫・早池峰「風の又三郎」の原風景」
早池峰と賢治の展示館 館長　浅沼利一郎 氏
講義９，１０　「ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸⅡ 賢治さんとハームキヤ」
花巻市総合文化財センター 所長　中村良幸 氏
賢治街道を歩く会 会長　佐藤　勝 氏
事務局長　佐伯研二 氏

講義１１　「高齢者が元気であれば地域も元気！」
三陸復興・地域創生推進機構　朴　賢淑 准教授
講義１２　「東北民俗学の開拓者 佐々木喜善」　人文社会科学部　橋本　学 准教授
講義１３　「平泉文化と古代中国」　平泉文化研究センター　劉　海宇 教授
講義１４　「岩手県における養鶏産業とニワトリ研究」　副学長 喜多一美 教授

フィールドワークについては、実際に宮澤賢治が歩いた道筋に沿って歩くことに加えて、受講者に県外者が多いことから、どちらかと言うと知名度が高くない場所を巡ることを基本としました。

初　日　　猫底集落、川原の坊、飛内峠口、火の又分教場跡(花巻市大迫町)
二日目　　三熊野神社・毘沙門天、五輪峠(花巻市東和町)、人首集落(奥州市江刺区)、円万寺(花巻市)


入学式

フィールドワーク　五輪峠

※アンケート報告は７．資料編資料１を参照

3－3　成果報告書
記録者氏名：地域連携・ＣＯＣ推進課長　　早川浩之
事業名：板橋区・岩手大学連携講座

目 的

この事業の背景として、平成１９年度と平成２０年度の２年間に実施した「ものづくり夜間大学」がある。これは、東京都北区及び板橋区にある製造業の技術者を対象として、金型技術の大学院レベルの教育を行ったものである。板橋区には岩手県を始めとした東北地域の出身者が多いこともあり、産業系以外にも区民を対象とした岩手県の文化や歴史をテーマとしたセミナーを開催するということで双方が合意した。

活動実績

板橋区民の方々からは、岩手県の歴史や文化に関する講義が聴きたいとの強い要望があったことから、今年度は下記のとおりテーマを設定し、３名の教員を講師として派遣し実施した。

第１回講座

日　時　　平成２８年９月１４日(水)　１４：００～１６：００
場　所　　板橋区立文化会館 大会議室
テーマ　　「東北民俗学の開拓者　佐々木喜善」
講　師　　人文社会科学部 准教授　　橋本　学
受講者　　１３０名
内　容　　佐々木喜善は、遠野郷で生まれ育ち、子どもの頃から遠野に伝わる昔話に強い興味を持ち文学を志したことから、後に「日本のグリム」と称される実績を残し、東北民俗学の黎明期を築いた。喜善の文化人との交流を中心に遠野物語の話者としての足跡を講義した。

第２回講座

日　時　　平成２８年１０月１３日(木)　１４：００～１６：００
場　所　　板橋区立文化会館 大会議室
テーマ　　「豊臣秀吉と九戸政実　―関東制圧から全国統一へ―」
講　師　　教育学部 教授　　菅野文夫
受講者　　１３７名
内　容　　豊臣秀吉による全国政権の完成に繋がり、日本の戦国時代の終焉ともなった九戸合戦(九戸政実の乱)について、その時代背景とともに秀吉の全国統一に結びついた点を中心に講義を行った。

第３回講座

日　時　　平成２８年１１月２９日(火)　１４：００～１６：００

場　所　　板橋区立文化会館 大会議室

テーマ　　「平泉文化と古代中国」

講　師　　平泉文化研究センター 教授　　劉　海宇

受講者　　１３４名

内　容　　世界遺産「平泉」と古代中国との文化的な繋がりについて、平泉の命名や中尊寺教、平泉から出土する陶磁器や平泉庭園と古代中国文化との背景や関わりについて講義を行った。

第１回講座：「東北民俗学の開拓者　佐々木喜善」

第２回講座：「豊臣秀吉と九戸政実　関東制圧から全国統一へ」

第３回講座：「平泉文化と古代中国」

今後の課題

次年度で、板橋区が当初計画していた３ヶ年事業が終了予定となる。今後については、板橋区と協議を行うこととしている。

3－4　成果報告書

記録者氏名：地域連携・COC 推進課　及川幸史

事業名：釜石市・岩手大学生涯学習講座

目 的

平成 13 年 3 月 5 日締結した相互友好協定に基づき、生涯学習の推進によるまちづくり･人づくりを目指し、釜石市民が生涯学習に関心を持ち、実践するきっかけをつくるための市民大学として、釜石市と岩手大学の共催で実施。

これまで 123 講座を開催し、延べ 1,584 名の釜石市市民が受講している。

活動実績

平成２８年度は以下の 3 回の講座を実施。

【第 1 回】

日　時　平成２８年 ８月６日（土）１３：００～１６：００

会　場　釜石市教育センター５階岩手大学釜石教室

受講者　２５名

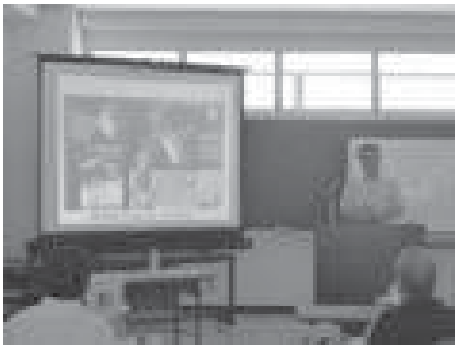
○「東日本大震災からの復興状況と今後の課題について」

講師：理工学部 教授　南　正昭

（地域防災研究センター長）

（講義概要）

東日本大震災から５年を経て、岩手三陸沿岸地域では住宅･市街地整備や海岸保線施設整備など都市基盤施設の復興が進むとともに、応急仮設住宅からの移行に伴う新たなコミュニティづくりが始まっている。このようなこれまでの復興の経緯を踏まえ、これから生じてくる課題について再考した。



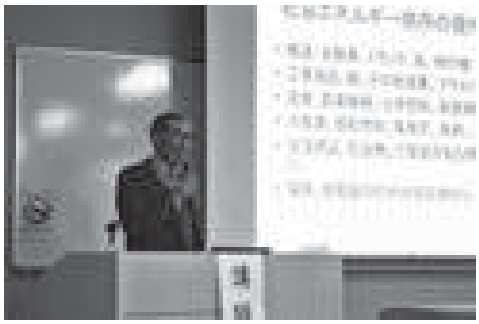
○「地球温暖化防止に向けた取組み」

講師：理工学部　教授　大塚　尚寛

（講義概要）

21 世紀における人類最大課題の１つといわれる地球温暖化問題について、①地球温暖化問題の基礎知識、②地球温暖化による様々な影響、③地球温暖化防止に向けた取り組みといった観点から説明した。

【第２回】
日　時　平成 28 年 10 月 29 日（土）　13：30～15：00
会　場　岩手大学釜石サテライト
受講者　１６名



○「持続的水産海洋開発と海洋エネルギー」
講師：三陸水産研究センター長 教授 田中　教幸
（講義概要）
持続的な岩手の水産業の発展と海洋エネルギー開発にはどのようなことをするべきかについて講義。また、新しく岩手大学に設置された三陸水産研究センターの役割について紹介した。

【第３回】
日 時　平成 28 年 11 月 12 日（土）
8：00～18：00
会 場　岩手大学図書館生涯学習・多目的学習室
農学部附属農業教育資料館ほか
受講者　１３名

○「まちづくり・人づくりにスポーツが果たす役割」
講師：人文社会科学部　教授　浅沼　道成
（講義概要）
『2016 希望郷いわて国体』、『2019 ラグビーワールドカップ』、『2020 東京オリンピック』と釜石市にも所縁のあるスポーツイベントが開催されます。「おもてなし」のためのまちづくり・人づくりの重要性が増加する中でまちづくり・人づくりにスポーツが果たす役割について講義します。

○農業教育資料館見学、岩手大学キャンパス散策

今後の課題

本事業の効果として釜石市から以下の点が寄せられている。
・高等教育機関のない当市にとって、高度な学習機会の創出、現代的な課題に対応した学習機会の提供に大変貢献していただいている。
・受講者は、学習テーマによって変動はあるが、毎回楽しみにして受講しているリピーターも多い。
・中学生から高齢者までの幅広い年齢層の方々が一緒に学べる場となっている。
・講師謝金、旅費を負担せずに事業を実施しているものが多い。
本事業の目的である「釜石市民が生涯学習に関心を持ち実践するきっかけ」としての役割はおおむね果たしていると考えられるが、受講者の減少、経費負担などの課題もある。本事業が開始して１５年が経過しスタート時と状況が大きく変化していることから、本事業の目的や達成目標、学習テーマの方法、経費負担などを検証し、次年度以降の実施について検討する必要がある。

4. 社会人学び直しプログラム

岩手大学ではH19年度から農学部・理工学部（旧工学部）が中心になって社会人を対象にしたプログラムを進めている。農学部では、「いわてアグリフロンティアスクール」「岩手大学農学附属動物医学食品安全教育研究センター（FAMS）研修会」などを実施しており、理工学部では、「21世紀型ものづくり岩手マイスター育成事業」（長期コース）（短期コース）、「防災リーダー育成事業」「エコリーダー育成事業」を実施している。各プログラムの内容については下記のとおりである。

（1）いわてアグリフロンティアスクール

経営感覚・企業家マインドをもって経営革新、地域農業の確立に取り組むことが出来る先進的な農業経営者（アグリプロ）の育成を目指している。

（2）岩手大学農学部附属動物医学食品安全教育研究センター（ＦＡＭＳ）研修会

「農場から食卓まで（Farm to Table)」に携わる畜産農家、畜産経営者、NOSAI獣医師及び公務員獣医師等への研修などを行っている。

（3）２１世紀型ものづくり岩手マイスター育成事業（長期コース）

総合的な能力を持つ高度技術者育成するため、金型 、鋳造 、複合デバイスの各コースの専門科目のほか 、ＭＯＴ科目と教授法に関する科目を含めた、大学院修士課程レベルのカリキュラムを実施している。

（4）２１世紀型ものづくり岩手マイスター育成事業（短期コース）

（社会人のリカレント学習として用意されたコース。短期講習コースを受講し、長期講習コースに入学した者は長期講習科目の一部を受講したものとして認定を行っている。

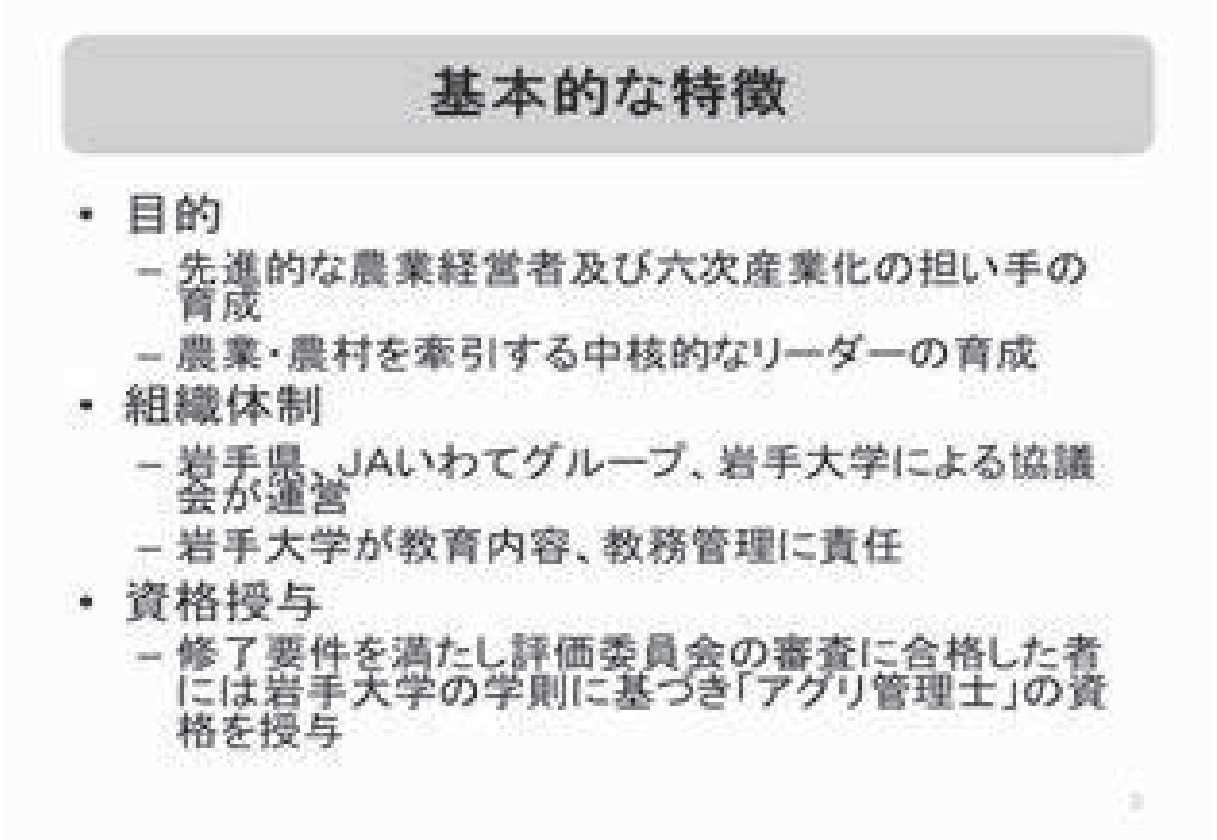
（5）「防災リーダー」育成事業

地域防災活動の重要性を地域，学校、職場などへ伝え，そこでの活動を牽引するリーダーの育成を行っている。

（6）「エコリーダー」育成事業

環境問題の重要性を地域，学校、職場などへ伝え，そこでの活動を牽引するリーダーの育成を目指している。

4-1　いわてアグリフロンティアスクールにおける取組



いわてフロンティアスクールの背景と経過

- いわて農業者トップスクール（試行期：平成15～18年）
  - 大学と県における先進的な農業経営者育成の必要性認識
  - 岩手大学と県農林水産部の共催による試行的な実施
- いわてアグリフロンティアスクール（第1期：平成19～21年）
  - 文科省「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム事業」
  - 設置要項制定、学則に基づいたアグリ管理士の認定
- いわてアグリフロンティアスクール（第2期：平成22～平成24年）
  - 文科省「社会の食ニーズ対応型社会人再教育プログラム事業」
  - 食ニーズ（安全・安心）に対応したプログラム強化
- いわてアグリフロンティアスクール(第3期：平成25～平成27年)
  - 岩手大学・岩手県・JAいわてグループによる協議会運営へ
  - 対象を県内の農業経営者、農業後継者に絞る
  - 県、JAグループの人材、資源を活用した授業実施
  - 文部科学省・職業実践力育成プログラム（BP）に認定（平成27年）
    - 厚生労働省の教育訓練給付金（専門実践教育訓練）の指定も受ける
- いわてアグリフロンティアスクール再編(第4期：平成28年～)
  - 対象を六次産業化の担い手、及び農業・農村リーダーにも拡張

教育理念

- 国際競争力のある高生産性ビジネス農業を育成するために、優れた経営感覚、企業家マインドを持って経営革新や地域農業の確立に取り組む先進的な農業経営者等(農業経営者、六次産業化の担い手、地域リーダー)を養成する。

教育目標

- グローバリゼーションに対応しうる経営能力とビジネス感覚の習得
- 最先端の農業生産技術の習得
- 消費者ニーズを敏感にキャッチできるマーケット感覚の習得
- 自らの希望や夢を経営ビジョンとして構想し、実践に移すための経営戦略計画の策定能力の習得
- 環境に柔軟に適応しうる自己変革精神の涵養

教育内容・方法の特徴

- 幅広い社会人ニーズに配慮した選択的なカリキュラム構成
- 講義、演習・実習、現場スタディなどを組み合わせた多様な教育スタイル
- 自らの経営戦略計画を策定し、その外部評価を受けるといったPBL方式

※文部科学省「職業実践力教育プログラム」に認定（平成27年12月）

教育体系

農村地域活性化（コース）

農村地域の活性化に向けた取組を支援するため、リーダーやマネージャーとして必要な知識や能力について学習する。さらに地域計画を策定するための策定方法を学習する。

農業経営管理（コース）

農業経営者の機能と役割、経営能力を理解し、農業経営管理に必要なノウハウを学習する。さらに自らの経営戦略計画を策定するための策定方法を学習する。

六次産業化（コース）

6次産業化に取り組むために必要なマーケティング、農産加工技術、鮮度保持技術等について学習する。
さらに自らの経営戦略計画を策定するための策定方法を学習する。

戦略計画の策定

学習で修得した知見、ノウハウを用いて、農業や地域を取り巻く環境の分析、経営・地域の経営診断を行った上で、自らの夢・希望を経営ビジョンとして企画し、実践するための戦略計画、地域計画を策定し、修了論文として取りまとめ発表する。

アグリ管理士

科目群の構成

経営管理と戦略計画の策定	農業経営者の機能と役割、経営者能力等を明確にし、農業経営管理に必要なノウハウを学習する。また、自らの経営の現状を分析・診断したうえで経営理念と経営目標を設定し、これを実現するための「戦略計画」を策定する。
農業生産管理	農産物の生産に必要な土壌管理、病害虫管理等の生産現場における実践と改善方策の考え方について学習する。
マーケティング	農産物をめぐるマーケット環境や流通の仕組み、農業の6次産業化に向けた考え方を学習する。さらに、マーケティング・ミックス（製品戦略、価格戦略、流通戦略、販売促進戦略）の観点から商品開発の企画と意思決定、顧客の役割について学習する。
6次産業化推進	農業経営の安定を図るための6次産業化をビジネスとして推進するために必要な鮮度保持や流通、農産加工等について学習する。
農業農村マネジメント	農業を核とする地域の活性化に向けた取組を支援するため、地域のリーダーやマネージャー役となる人材として必要な知識や能力について学習する。

カリキュラム－1

科目名			日数	時間数（単位：h）
「経営管理」科目	農業を巡る内外情勢	講義	0.5	3
	農業経営の発展と農業協同組合	講義	1	6
	人的資源・労務管理	講義	1	6
	経営成果の管理	講義	1	6
	農業経営戦略論	講義	1	6
	会計・財務管理と経営診断	講義・演習	2	12
「戦略計画」科目	農業経営戦略演習	演習	1	6
	経営改善計画演習	演習	1	6
	農業・食ビジネス戦略計画の策定	講義・演習	2	12
	地域振興戦略計画の策定	講義・演習	3	18
	戦略計画のプレゼンテーション	発表	1	6
「農業生産管理」科目	土壌管理（土壌・肥料）	講義	1	6
	病害虫管理（防除・農薬）	講義	1	6
	農場の配置管理	講義	1	6
	農業機械	講義・演習	0.5	3

カリキュラム－2

科目名			日数	科目数（単位：h）
「マーケティング」科目	食の安全管理	講義	1	6
	商品開発	講義	0.5	3
	デザインとブランド	講義	1	6
	インターネットを利用したマーケティング	講義	1	6
「6次産業化推進」科目	鮮度保持・流通技術	講義	1	6
	農産加工品のマーケティング	講義	1	6
	地域資源活用論	講義	1	6
	食産業ビジネス論	講義	1	6
「農業農村マネジメント」科目	地域担い手形成論	講義	1	6
	地域マネジメント論	講義	1	6
	地域リーダー活動演習	講義・演習	1	6
	都市農村交流論	講義	1	6
	地域活性化論	講義・演習	2	12

カリキュラム－3

科目名			日数	時間数（単位）h
現地研修等	現場スタディ	現地研修	2	12
	マーケティング収穫演習＊	演習・現地研修	2	12
	農業技術先進地研修＊	現地研修	2	12
	6次産業関連現地研修＊	現地研修	2	12
	アグリ管理士との意見交換	講義・意見交換	1	6
	インターンシップ【選択科目】	現地研修	1	6

- 履修指導指針
  - 農業経営管理（コース）、農村地域活動（コース）、六次産業化（コース）とも、総計165時間（27.5日）を履修するように指導
  - ただし、修了（履修証明書の発行）には、必修科目を全て受講し、選択科目及び現地研修等を含わせて最低120時間以上の履修が必要

修了（履修証明）と資格の授与

全ての必修科目及び選択科目を合わせて120時間以上を履修 → 修了（履修証明書の発行）

↓

評価委員会が戦略計画を審査し、アグリ管理士に相応しい能力を有していると判定 → アグリ管理士の資格授与

履修証明書

○○○○（氏名）
昭和○○年○○月○○日生

学校教育法第１０５条の規定に基づき下記の課程を修了したことを証する

記

課程名称　いわてアグリフロンティアスクール

[illegible]

平成２８年２月１０日

岩手大学長

岩　渕　明

岩手大学農学部長

高　畑　義　人

アグリ管理士認定証書

○○○○（氏名）

いわてアグリフロンティアスクールの所定の履修条件を満たし、かつ「農業ビジネス戦略計画のプレゼンテーション」において、評価委員会から合格の評価を得たので、ここにアグリ管理士の資格を授与する

平成２８年２月１０日

岩手大学長

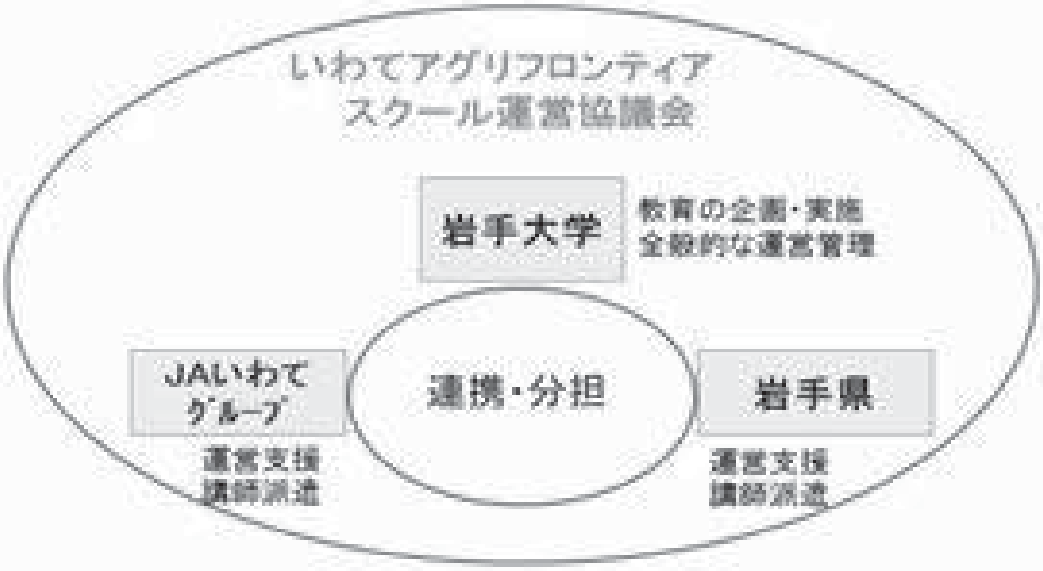
岩　渕　明

岩手大学農学部長

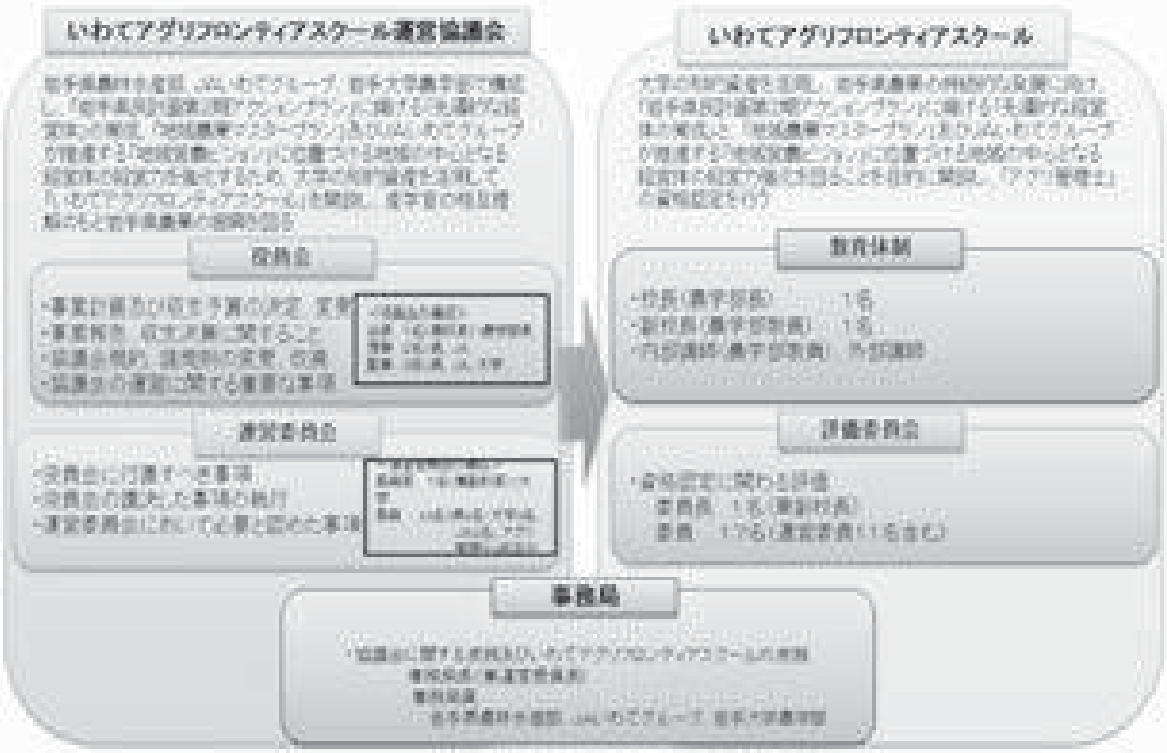
高　畑　義　人

表彰状
最優秀賞
○○殿
あなたは平成二十七年度いわてアグリフロンティアスクールにおいて他の模範となる「農業ビジネス戦略計画」を策定し農業ビジネス戦略計画のプレゼンテーションにおいて最も優秀な成績を収められましたのでこれを賞します
高畑義人

運営体制


いわてアグリフロンティア
スクール運営協議会
岩手大学
教育の企画・実施
全般的な運営管理
JAいわて
グループ
運営支援
講師派遣
連携・分担
岩手県
運営支援
講師派遣

運営体制



講師

- 岩手大学教員（11名）
  - 農学部（10名）、教育学部（1名）
- 岩手県（6名）
  - 試験研究・普及関係職員（5名）
  - 岩手県立大学教員（1名）
- JAいわてグループ（1名）
- 外部講師（52名）
  - 税理士、社会保険労務士、デザイナー、コンサルタント
  - 岩手県中小企業家同友会、中小企業経営者
  - 農水省、農研機構、他大学、シンクタンク研究員
  - アグリ管理士（修了生）、県内外篤農家

行政・産業界の関与

- 対象者の選抜、送り込み、通学への配慮、授業料の一部負担
- 教育の方向性、内容、方法に関する提案
- 現場教育の場、講師、資料などの供給
- 運営資金の負担
- ビジネス支援
  - 新規就農支援
  - 修了生ネットワークを活用した起業

社会人が受講しやすい工夫

- 勤務時期・時間に配慮した開講
  - 農繁期を避けた開講
- 必要に応じた補講の実施
  - 必修科目など
- 費用負担の軽減
  - 関係機関・団体による負担
  - 専門実践教育訓練給付金の活用など
    （厚生労働省「専門実践教育訓練講座」に指定．平成28年1月）

運営予算

年　度	予算額（円）	備　　考
平成19年度	17,588,558	文部科学省委託事業：社会人の学び直しニーズ対応教育推進事業 【地域関係者と連携した アグリプロ養成プログラム】
平成20年度	14,678,818	同上
平成21年度	16,269,070	同上 追加予算：5,500千円（モデルプログラム開発）
平成22年度	15,205,000	運営費交付金：特別経費 【社会のニーズ対応型社会人再教育プログラム】
平成23年度	8,820,000	同上
平成24年度	7,069,000	同上
平成25年度	5,787,000	協議会予算で運営（岩手県：2,487,000円、　JAいわてグループ：1,316,000円、 岩手大学：1,316,000円、　受講料：768,000円）
平成26年度	5,534,000	同上　　（岩手県：2,474,000円、　JAいわてグループ：1,316,000円、 岩手大学：1,316,000円、　受講料：548,000円）
平成27年度	5,420,000	同上　　（岩手県：2,500,000円、　JAいわてグループ：1,316,000円、 岩手大学：1,316,000円、　受講料：416,000円）
平成28年度	7,903,000	同上　　（岩手県：2,500,000円　JAいわてグループ：1,316,000円 岩手大学：1,716,000円、　受講料：903,000円）
合　計	107,269,447	

17

受講生の概要

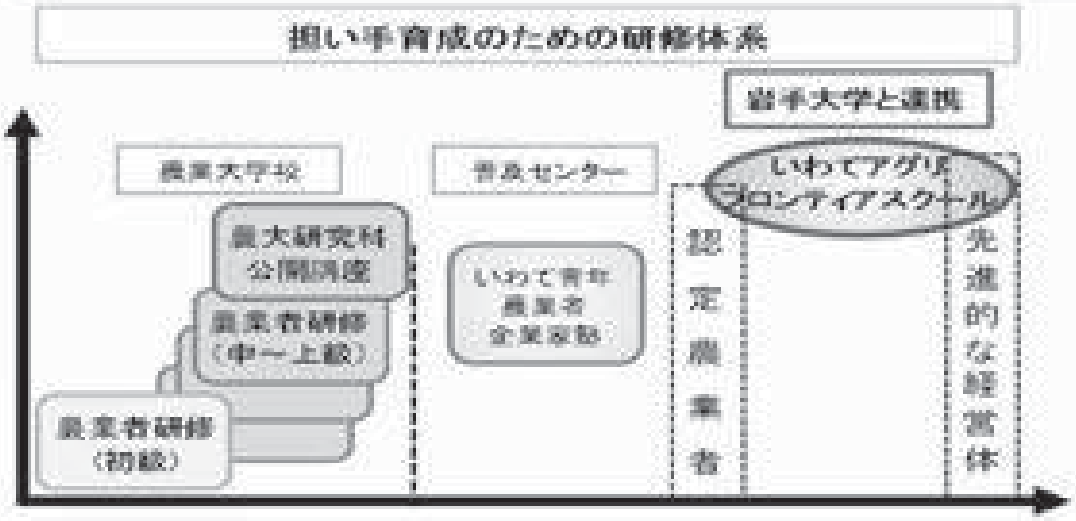
- 応募資格
  - 岩手県内に在住する下記の者
    - 農業経営者、農業後継者、農業従事者等
    - 6次産業化に取り組んでいる者、又は支援している者
    - 農村地域活動に携わる者（地域振興、土地改良、担い手育成等のリーダー又は支援者等）
  - 大学に入学できる資格を有すること
    - 学校教育法第90条で規定された「高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者・（中略）・これと同等以上の学力があると認められた者とする。」
- 募集方法
  - 県出先機関（普及センター等）、市町村、関係機関団体
  - スクールの修了生、受講者
- 定員
  - 35名
- 受講生の属性（農業経営コース、2016年）
  - 約7割が若手農業経営者・農業後継者
  - 平均年齢37．5歳
  - 男性が約8割

18

受講者及び修了生の推移

年度	募集人数	入学者（延べ人数）	うち農業者	修了者（延べ人数）	うち農業者	アグリ管理士（実人数）	うち農業者	備考
平成19年度	70	91	58	81	42	19	14	
平成20年度	70	112	70	37	35	22	22	
平成21年度	70	78	51	48	39	36	29	
平成22年度	70	59	31	35	15	21	11	
平成23年度	60	66	42	31	20	5	4	
平成24年度	0	42	28	22	13	19	10	平成22～24年度受講継続者のみ
平成25年度	30	28	28	28	28	24	24	
平成26年度	30	29	29	23	23	22	22	
平成27年度	30	21	21	15	15	15	15	
計		515	369	320	230	184	151	

岩手県の農業担い手対策における位置づけ



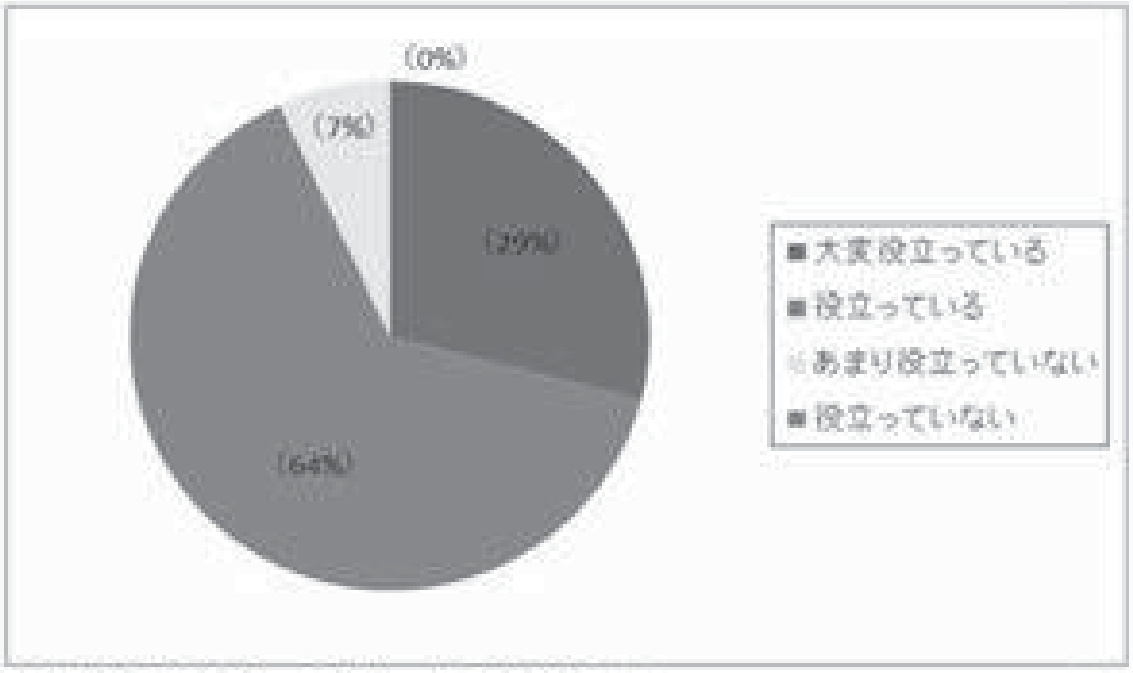
いわてアグリフロンティアスクールは、先進的な経営体（リーディング経営体）を育成する最上級の実践研修として位置づけられている。

スクールで策定する「農業ビジネス戦略計画」を作成した認定農業者等が、リーディング経営体を目指して規模拡大や多角化による経営発展を行えるよう、県単独の補助事業を実施している。

スクールに対する評価

- 講義(演習・実習を含む)に対する評価
  - 講義終了時にアンケートを実施
  - 次年度のカリキュラム編成、講師選定に反映
  - 講師にも集計結果を配布
- スクール全体に対する修了生の評価
  （平成24、26、28年度実施）
  - スクールでの受講の効果、経営計画の実践と問題点、運営などに対する要望、等について
  - 役員会、運営委員会に報告・検討
  - 中期的な教育内容、運営体制の再編に反映

修了生のスクールに対する評価



資料：修了者136名へのアンケート(有効回答40%)

4－2　がんちゃんの学び　成果報告書
記録者氏名：朴　賢淑
事業名：がんちゃんの学び　－大人が学ぶことの意義―
目 的 本講座では地域や日本社会が抱えている課題を生涯学習視点から考える。また、隣の国韓国との比較をとおして、現在地域が抱えている課題を解決していくためには、どういった学びが求められているのかを受講者と一緒に考えていく。また、本講座では岩手県で地域活動に取り組んでいる方を招き、実践例を紹介していただきながら成人教育の視点から大人が学んだものを実践に結びつけていくための条件とは何かについて検討する。
活動実績 本講座は地域住民を対象に６回にわたって実施したものである。参加者は８名で年齢は２０代～７０代が占めている。テーマについては下記のとおりである。 第１回目は、社会的課題が複雑多様化するなかで、大人が学ぶことの意義について事例を踏まえた講義が行われた。 第２回目は、子どもをめぐる課題を海外の教育現場を紹介しながら、学社連携の視点から地域の大人がどのように関わるべきなのかについて講義が行われた。 第３回目,４回目は、女性が地域でNPO活動や起業することの意義について地域づくりの視点から２回にわたって講義が行われた。 第５回目は、岩手地域における国際化が地域にどのような変化をもたらしているのか、また、異文化共生の視点からの地域住民学習の視点から検討を行った。 第６回目は、高齢化が進む中で地域、家族、ケアの視点からその支援の在り方について、参加者の皆さんの意見を聞きながら当事者の視点からの「自立」とは何かについて講義が行われた。 テーマⅠ：大人が学ぶこととは何か？ テーマⅡ：子どもの生きる力とは何か？ テーマⅢ：女性が元気であれば地域も元気！（２回） テーマⅣ：地域の国際化 テーマⅤ：高齢化とケア問題 なお、本講座の実施後、受講者との座談会を２回にわたって実施した。(7/13、7/28) 座談会をとおして学習者の視点から公開講座について意見を聞くことができた。受講者からの意見は下記を参照。 1　岩手大学との関わりについて 公開講座の参加経験あり、図書館施設の利用経験あり、参加きっかけは定年退職によ

る残りの人生を充実化させたい。
情報を得る手段としては、公民館のチラシと町内会の回覧板など

２．生涯学習プログラムについて
　歴史的なもので平日の時間帯に参加、講義の時間の長さは 2 時間程度。講義の形式については、講義内容によっては座学が望ましい。大学が開催するものであれば、地域の学びの場では聞けない講義が望ましい。講義は内容によって短期・長期に分けて開催するのは構わない。
　大学の情報公開は 3 週間～1 カ月であればよい。
参加費用については、経済的な負担にならない範囲で。老後が不安なので節約しなければならない。
定年退職をした後に学びは自分が関心を持っていた分野をさらに掘り下げて勉強をしたい。
もっと専門的なものが学びたい。

3.大学以外での生涯学習参加
　・公民館、女性センターなど。情報源はチラシ、地域の情報誌。有名人の講演会はすぐ満員になってしまう。
　・演劇活動、料理教室（一人になった場合を考えて）場所は公民館で。自主グループを作って経費は自分たちでまかなう。
　・中高年が多く占めている。

4.地域活動への参加経験
・町内会、民生委員　→ボランティアとして活動

5.その他
　大学生からは今後社会人になった場合、生涯学習の場に出ることはまず難しいだろう。もし、（会社で）給料に反映してくれるなら生涯学習場を利用したい。経済的な理由から生涯学習の場に出るのは難しいだろう。学んだものを実践に結び付けるのは難しい。

今後の課題

　地域住民のニーズを生かした学びの場づくりのために、大学が地域で果たす役割をきちんと整理したうえでプログラムの作成が必要であること、また、民間の生涯学習プログラムとは差別化されたプログラムの検討が必要である。

4－2　キャリアプランニングセミナー成果報告書
記録者氏名：三陸復興・地域創生推進機構　生涯学習部門　中島　有里
事業名：平成 28 年度　岩手大学公開講座(社会人学び直しプログラム)

目 的

高齢化を迎え、労働力の減少が予測されている中、労働の場のみならず地域活動においても女性の役割が期待されている。だからこそ、自分で自分のキャリアを考えることが大切であり、自分にとっての仕事について考えることが求められる。
「自分の強みを生かす！」キャリアプランニングセミナーにおいて、自分が積んできたキャリアの振り返りを通して、これからのキャリアの充実化を図る。今後のキャリアをどのように作っていくのかを考える機会を提供する。

活動実績

○イベント名
「自分の強みを生かす！」キャリアプランニングセミナー

○日時
平成 29 年 1 月 27 日（金）13:30-16:00

○場所
岩手大学図書館生涯学習・多目的学習室(岩手県盛岡市上田 3 丁目 18－8)

○主催
岩手大学三陸復興地域創生推進機構　生涯学習部門

○講師
仙台青葉学院短期大学　観光ビジネス学科　小形美樹教授

＜内容＞
○挨拶(岩手大学地域連携推進機構　生涯学習部門　朴賢淑 准教授)
生涯学習部門の説明とセミナー受講者への挨拶

○キャリアプランニングセミナー(講師: 小形美樹 氏)
*自己紹介
・氏名/受講の動機/自己 PR　をそれぞれ発表する。

1. オリエンテーション
・自分で自分のキャリアを考える→過去の経験から自分の価値観や「自分らしさ」を探る

・ワークシートにこれまでの自分の主な出来事の経験を書き込み、その時々の気持ち(感情)を線で結ぶ
・自分の経験とその時の感情を振り返り、自分が嬉しかった時の出来事や悲しかった時の出来事をグループの中で発表し合う。
・キャリアとは何か、ライフサイクルについて小形先生から説明

2. キャリアを考える
・キャリアを考えるときの３つの問い(できること・やりたいこと・価値を感じること)を通して現在の自分を知る。
・キャリアアンカー分析を通して自分の価値観を考える(ワークシートを使用し、キャリア指向質問票に応え、集計する)→８つのキャリアアンカーを抽出する
・各グループで自分のキャリアアンカーを発表し、話し合う

3. これからのキャリアプラン
・生涯収支の計算(それぞれの家族構成の事例から)
・キャリアプランを設計する際、まずは必要なものややりたいことを具体的に書き出す
・目標設定シートに自分の目標を書き出す

朴准教授から挨拶

小形教授によるキャリア・アンカーの説明

意見交換

今後の課題

セミナー中

・今回は受講者が少人数であったため、受講者それぞれに配慮することができた。

・少人数でのセミナーとなったが、受講者はじっくりと話し合うことができ、講師の先生との会話もスムーズに行うことができていた。

・資料を裏表で印刷し用意していたが、裏表だと作業がしづらく、受講中に講師の先生からコピーをし直してほしいとのことだったので書き込みなどを行うシートに関しては片面印刷にする。

・写真を撮られることに抵抗がある受講者も居るため、事前に撮影に関する説明をしっかりと行い、受講者の顔が映らないように配慮しながら記録を行う。
・休憩時にお菓子とお茶を用意したところ、女性の受講者が多かったためかとても喜ばれた。

受付・会場
・今回は図書館の 1 階でセミナー開始 30 分前から受付を開始した。一人の受講者を除く 8 名がセミナー開始時刻よりも前に来校した。→受付係の方に、もう一人の受講者が来るまで待機してもらっていた。次からは初めから受付を 2 階にするなどして配慮をする。
・セミナー会場となった場所の机がとても汚れていたため、掃除道具を持参する(雑巾、スプレー)

アンケート
・今回のセミナーを終えて、今後の事業をより良いものとするため、セミナーの参加者を対象にアンケート調査を行った。
・今回のアンケートは参加者のニーズや満足度、今回のセミナーの感想や次回への期待を調査するために行われた。

※アンケート報告は７．資料編資料７を参照

4－2　働く女性の学習ニーズ調査　成果報告書
記録者氏名：三陸復興・地域創生推進機構 生涯学習部門　中島　有里
事業名：働く女性の学習ニーズ調査（アンケート）
目 的 教育基本法、学校教育法の改正により、大学等の社会貢献が法律上明確化され、正規の学生に対する教育と並んで社会人等の多様な学習ニーズに応えることが大学等の責務となっている。今後大学がより充実した学習の機会を提供できるよう、働く女性をターゲットとしたアンケート調査を行い、社会人の学習ニーズを調査した。
活動実績 新たな社会人学び直しプログラムの開発に向け、今後大学がより充実した学習の機会を提供できるよう、働く女性をターゲットとしたアンケート調査を行い、社会人の学習ニーズを調査した。 ○アンケート実施日 平成 29 年 2 月 13 日(月)～17 日(金) ○アンケート対象者 1．現在働いている男女 2．現在産前産後休業制度、育児休業制度、介護休業制度利用者 ○アンケート実施場所 こどもの家エミール　保育園 ※アンケート報告は７．資料編資料８を参照

4－3　国内・外調査　成果報告書
記録者氏名: 三陸復興・地域創生推進機構 生涯学習部門　中島　有里
事業名:高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム(関西学院大学)

目 的

既存の社会人学び直しプログラム実施者との意見交換を通して、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構生涯学習部門における「社会人学び直しプログラム」の在り方を検討する。

活動実績

【2016 年 12 月 7 日（水）】

〇訪問先

関西学院大学　梅田キャンパス

〇先方対応者

専門職大学院　経営戦略研究課　大内章子准教授

〇成果

関西学院大学の大内章子准教授と面会し、関西学院大学で行っている「高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム」としてのハッピーキャリアプログラム(女性の仕事復帰コース/女性リーダー育成コース)の概要の説明を受けた。

大内准教授とは、以下の点について質疑・意見交換を行った。

１．社会人学び直し事業における課題と目的

プログラムの立ち上げ当初から８年間ほどプログラムの構築と継続に関わっている大内准教授は、プログラムを継続させる課題の一つとして「大学内の先生方をどう巻き込むか」が一番重要だと話す。文科省の委託事業での予算が限られているため、無償での講師を引き受ける先生方は多くない。そのため、外部講師を呼ぶこともできるが、それでは大学のプログラムとして事業を行う意味がなくなってしまうため、いかに内部の先生方の協力を得ることができるかが鍵となる。

２．社会人に学びやすい環境づくり

関西学院大学における主要講座は阪急梅田駅から徒歩 5 分の場所にある施設を使用しての夜間開講を行い、社会人のニーズ・子育てをしている女性に沿った環境づくりをしている。また、e-learning による学習支援も行われているが、「授業に参加すること、実践すること」が評価につながるため、受講者が授業になるべく参加しやすい時間帯・場所を考慮して実施されている。

３．女性に特化したプログラム

ハッピーキャリアプログラムと題し、女性の仕事復帰・起業コースでは女性が産休や育休を取るタイミング（個人差有）に合わせて出願期間を設定し、育休を終えるタイミングでプログラムを修了することができるようにカリキュラムが組まれ、女性リーダー育成コースにおいては企業の人事異動などの理由や、4 月から仕事をスタートさせることができるようにとの配慮がなされている。成人学習者を受け入れる環境を整えることが重要であり、ニーズに合った開講を目指している。

○その他

12 月 7 日（水）午後 18 時 30 分より、女性リーダー育成コースの選択科目である「データサイエンス」の授業を見学した。授業では excel を使用し、企業におけるデータの扱い方と分析の仕方を学んだ。

ハッピーキャリアプログラム　パンフレット

今後の課題

予算の問題が大きな課題であり、最近では無料で受けられるサポートやセミナーが増えているため、有料のプログラムに参加する受講者を集めることが非常に困難である。無料のセミナーでは得ることのできないもの、大学だからこそできる授業やサポートを見極め、受講者に「知識を体系化させる」ことが大学の目標であり、課題である。

4－3　国内・外調査　成果報告書
記録者氏名: 三陸復興・地域創生推進機構 生涯学習部門　中島　有里
事業名: 高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム (九州大学・福岡女子大学)
目 的 既存の社会人学び直しプログラム実施者との意見交換を通して、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構生涯学習部門における「社会人学び直しプログラム」の在り方を検討する。
活動実績 【2016 年 12 月 9 日（金)】 ○訪問先 九州大学　伊都キャンパス ○先方対応者 教育学部　人間環境学研究院　教育学部門　国際教育環境学　Vickers Edward 教授 ○成果 九州大学のヴィッカーズ・エドワード教授と面会し、ヴィッカーズ教授の専門である国際教育環境学の比較研究の視点から留学生を含む成人の学習者に対する学習支援をどう考えていくか、文科省からの「国際化の圧力」が年々強くなっている中で、成人学習者にはどのような学習が求められているのかについて話し合った。 【2016 年 12 月 10 日（土)】 ○訪問先 福岡女子大学 ○先方対応者 国際文理学部環境科学科教授　女性学び直し支援室長　森田健副学長 女性学び直し支援室コーディネーター　岸智子氏 ○成果 福岡女子大学の森田健副学長・女性学び直し支援室コーディネーター岸智子氏と面会し、福岡女子大学で行っている「高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム」としての女性リーダー育成プログラムの概要の説明を受けた。

森田副学長・岸氏とは、以下の点について質疑・意見交換を行った。

１．社会人学び直し事業における課題と目的

福岡女子大学で行われている公開講座や社会人学び直しプログラムの受講において、参加者の年齢層が高めである。毎年、大学に成人学習者をどう巻き込んでいくかということは常に課題としてあり、頭を悩ませるものであると森田副学長は話す。プログラムを継続させていくためには、大学内の先生方の協力が不可欠であり、いかに大学の教員が「受講者が抱えている課題」や「受講者の職場環境、仕事の実態」を知ることができるかが重要である。そのため、福岡女子大学の教員は実際に行われている授業の中に入り、受講者の実態を常に知るようにしている。プログラムの継続のためにはまず、受講者のニーズを知った上でカリキュラムを作る必要がある。

２．社会人に学びやすい環境づくり

福岡女子大学では、社会人を受け入れられるような仕組みや環境づくりを大切にしている。授業は、モジュール①～③までのプログラムに分けられ、特に③では、①と②で培ってきたものを自分自身で形にしていくことが求められる。そのため、毎週土曜日の 9 時～16 時（1 時間の休憩を含む）までの計 6 時間が授業に費やされる。土曜日に開講しているのにも関わらず、授業には福岡女子大学の教員が 8 名ほど参加し、受講者への対応やフォローが手厚く行われている。

モジュール①、②、③

３．チームで学び、チームを学ぶ

福岡女子大学での授業では、演習が中心として行われ、チーム単位でのグループワークを通じて相互に学習を深めていく。受講者は常に自分の興味ある課題と向き合い、講師の説明を聞きながらグループ内で発言し、記述し、時には他の受講者に意見しながら課題解決への理解を深めていく。最終的には成果報告書にモジュール①から③までの活動内容や、受講者の活動実績がまとめられる。

平成 27 年度　成果報告書

今後の課題

課題の一つに経費の問題がある。大学の経費には限りがあり、受講料収入だけでプログラムの全てを管理するのは困難であり、内部の先生方の協力を得るのも容易ではない。福岡女子大学において、社会人学び直しプログラムの開発の際、メンバーは誰もおらず、大学の内部のみでプログラムを立ち上げるのは到底無理な話であった。福岡女子大学は文科省の資金で体制を整え、大学側が大学の方針に沿って改善しながら事業を作ってきた。これを踏まえ、岩手大学における社会人学び直しプログラムの開発を考えたとき、岩手大学の教育理念に伴い、岩手大学だからこそできる事業を開発していくことが大切だが、ターゲットをどのように絞るか、どのように受講生を集めていくかが課題となってくるだろう。

また、「大学内部の先生たちをどう巻き込むか」ということも大きな課題である。森田副学長が話す通り、大学の内部のみでプログラムを立ち上げるのは非常に難しく、更に大学の方針に沿って講座やプログラムを開講する際には受講者のニーズを知ることが必要となり、福岡女子大学のように教員が自主的に事業に参加し、受講者と関わることで受講者の課題やニーズを知ることが必要であると思われる。

4－3　国内・外調査　成果報告書
記録者氏名：三陸復興・地域創生推進機構 生涯学習部門　中島　有里
事業名: 産官学連携フォーラム(関西学院大学)
目 的 2014 年度から 3 年度間開講されてきた関西学院大学のハッピーキャリアプログラム･女性リーダー育成コースのこれまでの歩みと今後の展開についてのフォーラムに参加し、既存の社会人学び直しプログラム実施者や女性活躍推進に積極的な企業、大学との意見交換を通して、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構生涯学習部門における「社会人学び直しプログラム」の在り方を検討する。
活動実績 【2017年3月11日（土）】 〇訪問先 関西学院大学　梅田キャンパス 〇先方対応者 専門職大学院　経営戦略研究課　大内章子准教授 〇成果 **【第一部：女性リーダー育成コース 3 年間の歩みと意義】** １．文部科学省より国が女性活躍に期待することは何かをお話いただいた。 文部科学省の牧野美穂氏は、女性はライフイベントに左右される人生であり、結婚や出産など様々なライフイベントにおいて一度中絶したキャリアをその後の人生に円滑につなぐ必要があると話す。これからの国の取組として、「働き方改革＝女性のリカレント教育」と称し、社会と社会の間に新たな学びが必要ではないかと語った。成人教育の場として、また社会人学び直しの場として「大学」との連携が大事であると話し、社会人が大学で学ぶメリットとして、多様な背景や経験を持つ社会人が同じ目的や課題意識を持って大学に集うことによって新たなネットワークや問題意識が生まれる、視野が広がり、新たな視点が追加される、知識だけではなく、様々な能力（問題解決能力、論理的思考、文章力、プレゼン力）が身につくことによって、自信も生まれるといったことが挙げられた。以上のことを踏まえ、これからの国の役割としては「学びと仕事が両立できる環境」を大学や企業と連携し、ムーブメントを作っていくことと述べられた。

２．関西学院大学ハッピーキャリアプログラム３年間の歩みと今後の展開

関西学院大学経営戦略研究課の大内章子准教授より、女性リーダー養成コース３年間の歩みと今後の展開についてお話いただいた。関西学院大学が力を入れていることとして、安倍政権の取組の１つでもある「女性の役員・管理職を増やす」ことが挙げられる。大内准教授は大学での取り組みとして、経営センスを磨き、意思決定ができる女性リーダーの育成を目的としたプログラムを作り、「頭と手と心を動かすケーススタディ」を行ってきた。授業の内容としてはマーケティングのケースを中心としたデータ分析を行うデータサイエンスや、ケースメソッド、プレゼンテーション、ロールプレイなど受講者が主体となった授業が行われてきた。受講生の多くは、このプログラムの修了後に昇進試験に挑戦していたり、別の部署の管理職になったりと活躍も多くみられる。今後も女性の職場復帰や再就職の支援をしながら、女性リーダーの育成に力を入れていきたいと話す。

【第二部：産官学で考えるこれからの女性活躍】

女性活躍推進に積極的な企業である積水ハウス株式会社、女性活躍推進プログラムを展開する福岡女子大学、明治大学をゲストスピーカーに招き、関西学院大学のプログラム修了生、受講生を交えて大内准教授が進行を務めながら「これからの女性活躍について」ディスカッションが行われた。

①文部科学省 高等教育局専門教育課課長補佐：牧野美穂氏

日本は中国やアメリカに比べて「キャリアは自分で決める！」という意識が低い。仕事をするには実践が伴うため、大学においては学問的に疑似体験をさせ、企業においては仕事を体験させてあげられるようにする、それらを国が支えていく取組が必要なのではないか。これからはどうしたら女性が働きやすく、過ごしやすい時間を作っていけるかを考え、労働力不足を男女の問題として捉え、企業・大学と連携しながら課題に取り組んでいきたい。

②株式会社積水ハウス 経営企画部ダイバーシティ推進室室長常務理事：伊藤みどり氏

企業(積水ハウス)では「取り組むことの有意義さ」を提案し、女性管理職の育成に力を入れている。女性だからという理由でこの仕事はできないということを無くしたい。会社がしっかりとサポート体制を取り、女性にも様々な仕事の場数を踏ませることが重要である。会社の将来のためにも、女性に仕事の経験をしっかりとさせることでどんな現場においても女性自ら動けるようになる。女性の活躍を見直すことによって企業の利益があがることにもつながり、企業価値を一人ひとりの実践において上げていくことをこれからも推進していく。

③福岡女子大学副学長 国際文理学部環境科学科 教授、女性学び直し支援室長：森田健氏

これまで大学として、社会人にできることとして教養講座などの単発的なことは行ってきたが、履修を目的としたカリキュラムを作ることは容易ではなかった。福岡女子大学は女性が自ら学ぶ場を求めて設立されたことから、「女子大学」としての理念を持って本学でしかで

きないようなプログラムを作ることに力を入れてきた。福岡女子大学で実践している「イノベーション総出力を持った女性リーダー養成プログラム」では、女性が課題・問題を発見する力をつけ、その力を多様な人たちと共に活かすという理念の元に演習を中心とした授業が行われている。大学が主体となり、女性たちの「学びたい」「キャリアアップしたい」という要望や学習意欲に応えながら女子大学としての特性を活かしたプログラム作りをこれからも行っていく。

④明治大学専門職大学院 グローバル・ビジネス研究科 教授：木村哲氏

明治大学では、女性のためのスマートキャリアプログラムを行っている。その受講者は再就職を望む人、育児休暇中の人、介護の問題を抱えている人がほとんどである。女性のライフイベントにおいて結婚や出産に次いで介護の問題もキャリアを中絶する大きな理由の一つである。残念ながらフレキシブルな社会体制がとれているとは言えない日本で、様々な問題を抱えながら仕事をしている社会人は「学ぶ」ということをどう捉えているのか。よく、能力を上げるなどと言うが、なぜ能力を上げる必要があるのか。多くは会社の能力を上げるため(個々の意識としては昇進やもっと良いポストに就くため)であろう。「学び」において、一人ひとりが自信をもって「これが学びたい！」と言えるように、やりたいことが学べるように、本当の意味で個々の能力を上げたいと思って学習ができるような環境を作っていくことが求められるのではないか。

⑤関西学院大学女性リーダー育成コース3期生：高島公美氏

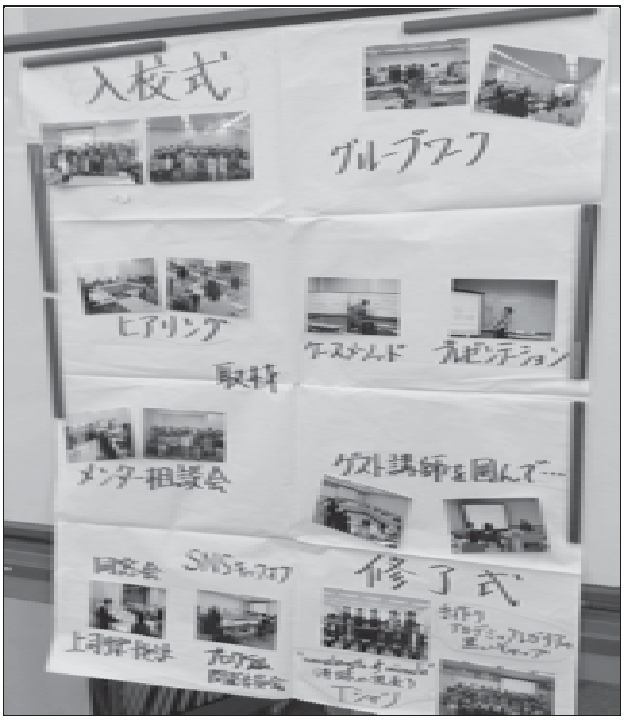
働く女性として国に望むことは「働き方改革・ワークスタイルイノベーション」と「女性の評価の仕方」を明確にすべきということ。どうしても女性は子育てをしていると男性よりも働く時間が短くなってしまい、中には時短勤務をしている女性もいる。多くの女性は30代で仕事が軌道に乗ってくるときが子育てと重なるため、管理職への希望が薄いのにはそういう背景がある。育児休暇後や時短勤務からフルタイムになった女性のロールモデルが少ないということも不安要素の1つとなり、女性は働くということに臆病になっていくのではないか。働く時間が短くても、時短勤務の人のノルマや目標があればそれを達成した時、フルタイムで働く人と同じように評価されるべきではないか。能力を持った女性、活躍したいと思っている女性はたくさんいるのだから、評価の仕方を見直し、女性が意欲的に働けるようになるといいと思う。関西学院大学の女性リーダー育成プログラムにおいて、実際に活躍している人たちの話を聞くことで自分の学習や仕事に対するモチベーションがあがってくる。社会人になってから学習をするということは、周りとの考えや意識の「違い」を楽しむことなのかもしれない。

⑥関西学院大学女性の仕事復帰・起業コース9期生：高橋裕美氏

現在2度目の育児休職中(2017年4月に復職予定)で、育休中の時間を有効に使いたいと思いプログラムの参加を決意した。プログラムに参加するうちに気が付いたことは「自分が希望するキャリアプランを持ち、発信すること」の大切さである。女性はライフイベントにおい

てどうしても仕事を休まなければいけないときが来る。しかし、それが原因で会社に貢献できないというのは違うのではないか。そこで、女性にとってフレキシブルな働き方を企業が提案してくべきではないか。そのためには、現在時短勤務中の女性や育休中の女性、復帰を考えている女性たちが仕事・会社に対してどういう思いでいるのかを知ってもらうことが大切である。

パネルディスカッションの様子



プログラムの様子

4－3　国内・外調査成果報告書
記録者氏名: 地域連携・COC 推進課　佐々木博希
事業名:韓国訪問出張報告書

目 的

第 3 期中期目標中期計画でもうたわれている社会人学び直しプログラムの策定に向け現在成人学習者受け入れに関する情報収集を行っているが、今回社会教育が盛んな韓国ソウル市恩平区（国から学習都市として認定を受けている）に立地する「生涯学習センター」及び「イノベーションパーク」を訪問調査し、データ収集することで今後の活動の一助とする。

活動実績

日　時：平成 29 年 2 月 28 日（火）～3 月 3 日（金）
訪問者：朴賢淑、及川幸史、佐々木博希
訪問先：生涯学習センター、イノベーションパーク

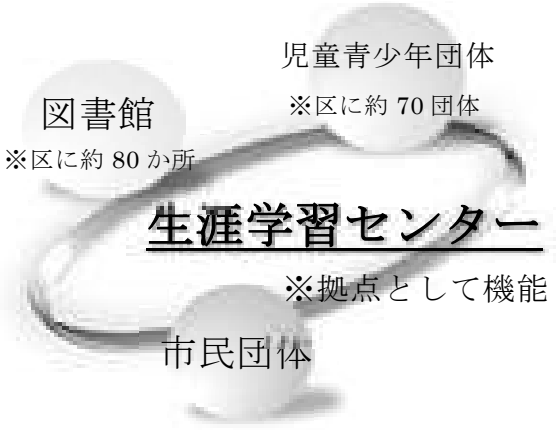
【訪問先：生涯学習センター（学習館）】
訪問日：2017 年 3 月 1 日（月）
訪問者：朴賢淑、及川幸史、佐々木博希
対応者：パクジスク氏、Chae Woogong 氏、

・基礎情報

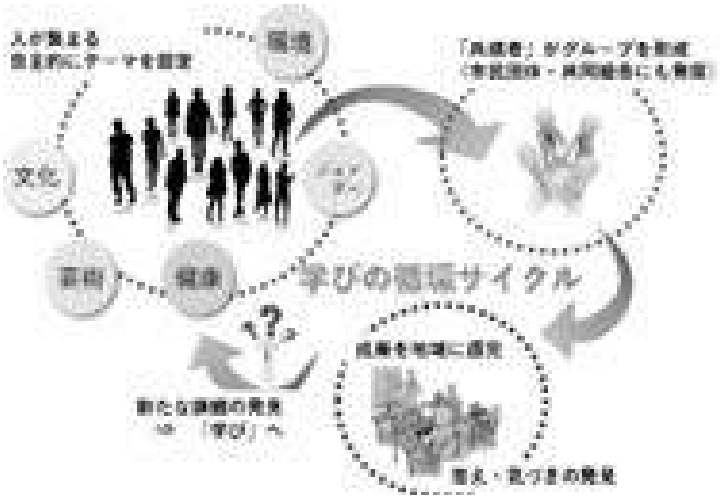
生涯学習センターはソウル市恩平区に立地している。恩平区の人口は約 50 万人（19 歳以下人口：約 7 万人）。2012 年恩平区は国の学習都市として認定を受ける。区内には８０ヵ所の図書館が設置されており、各図書館でもそれぞれ独自のプログラムが実施されている。また社会教育に力を入れている区として有名な都市である。今回訪問した生涯学習センターは区の社会教育の中心を担う施設でセンター内でも 140 の市民団体、46 のサークル（サークル内 600 名）が活動を行っている。なお、センターの運営スタッフは 11 名で、うち 8 名は博士号取得者で構成されている。

・センターの活動内容

生涯学習センターでは、センターのビジョン「幸せな学び」「価値ある成長」に基づき、地域の人が参加しやすい学習のしくみ・空間の提供、地域住民それぞれが主役となれる仕組みづくりを行っている。
あくまで市民の自主性を尊重し、市民が活動し気づきを得られるような環境づくりに努めている。具体的には、①学びの空間を



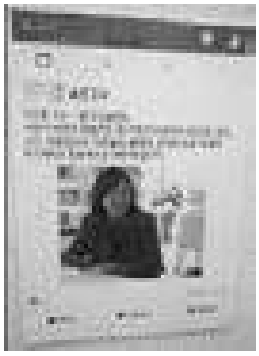
つくること（昨年度から空間（環境）が与える学習効果の検証も調査中とのこと）
②活動に対するアドバイス（スタッフ 8 名が日本でいう社会教育主事の資格を持ち、博士号も取得）③市民（市民団体）の自主性をつなぎ合わせるマネジメントの役割④多様なプログラムの提供⑤情報の収集、提供等の活動を行っている。また、センターの独自のルールとして、センター利用者に対しては、ただ学ぶだけではなく、学んだことを次にどうつなげるかが求められ、利用者は全員どのような形でもいいので学んだことを地域に還元することが義務づけられている（達成されない場合、次回利用申請にペナルティが課せられる）。「学んで楽しい」で終わらない学びの循環サイクルがここに構築されている。



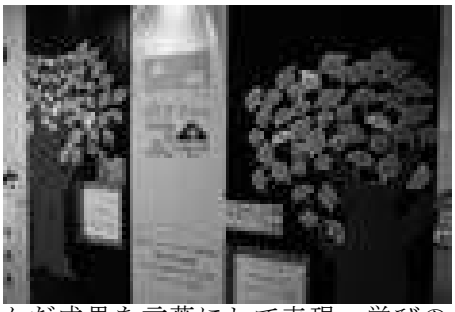
・センターで行われている具体的取組例：

・月 1 回市民の方々が自主的に集い地域の問題点について話し合う場がある。
テーマはフリー。今自分自身が感じていることをその場で自由に議論。
⇒その場で共感できる仲間を見つけ新しいコミュニティが形成される⇒活動の具現化
・「地域の講師」制度の導入
自分自身の特技を地域に還元する仕組み。自分の得意分野を講師として登録（下図写真）。地域から要望があれば講師として派遣される。
・市民が学校現場で地域の魅力を伝える取組
センター内で知り合った主婦層が市民団体を結成。協同組合まで発展し、現在では地元の学校で地域の魅力を伝える授業を行っている。

廊下には「地域講師」一覧が展示



市民自らが作り上げた展示



学んだ成果を言葉にして表現、学びの共有

・ネットワークを活用し持続可能な活動を

センターでは「空間」つくりの他に「ネットワーク」つくりにも力を入れている。ネットワークの構築は、互いの情報の共有・共感に役立ち、協力し合うことでよりよい活動ができる。ここまではよく聞く話であるが、ネットワークの構築が活動資金の獲得にも大きな役割を果たしているという話を聞き驚いた。活動資金の情報となると互いに競争関係となり情報を隠したくなるところだが、ここでは団体同士が自主的にネットワークを活用し資金獲得情報を共有しているという。互いが「競争」するのではなく、あらゆる面で互いに「協同」することで自分たちの地域をいかによいものとして創り上げていくか、そのような文化がここに構築されている。今後も、ネットワークの構築を手助けすることが市民活動の可能性を広げ持続可能な活動を支える。その中枢機関として生涯学習センターの役割は大きいという。

今後の課題

センターの利用者は 40～60 代の女性が中心とのこと。近年市民団体の高齢化が進み若い世代をいかに巻き込むかという課題が韓国でも問題になっているという。この点に関しては日本と類似している。いかに若い世代の自主性を育み社会に点在する様々な課題に対して問題意識を持ち活動させるか。そのためにセンターとしてどのようなことを行っていくか今後の課題である。

・生涯学習センターを訪問して

韓国の生涯学習センターを訪問して一番驚かされたことは市民の問題意識が高いことと、自主性が育まれていることである。このような学びのサイクルを支える人・空間・環境が韓国に整っていることは一つの要因であると考える。日本ではこのような空間（生涯学習センター）は公民館がその機能に当たると考えるが、公民館はひとも含めて縮小傾向にあり、このような空間は失われつつある。もう一度公民館的機能を見直すことがいま求められている。

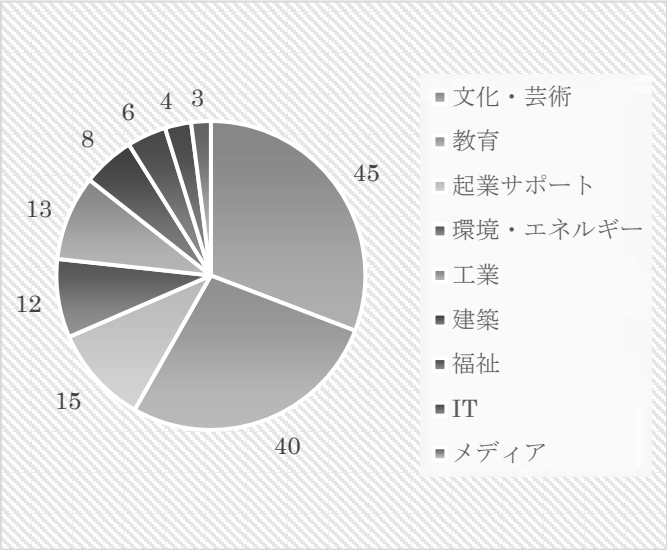
【訪問先：イノベーションパーク】

訪問日：2017 年 3 月 2 日（火）
訪問者：朴賢淑、及川幸史、佐々木博希
対応者：ｶﾝ氏、ｼﾞｮﾝ・ﾋｮﾝｷｮﾝ氏

・基礎情報

ソウルイノベーションパークはソウルの 5 年後の未来を創造することをコンセプトに多様な価値観をつなぎ合わせるハブ的機能をもった施設として 2015 年 4 月に設立。ソウル市恩平区に立地。Future Field と呼ばれるワーキングスペースを中心に 8 つの異なる分野の施設（映画施設、美術展示施設、木工施設、ものづくり（３D プリター）施設、リサイクル施設、食施設、芸術施設）が併設され、入居者はいつでも利用が可能となる（来年度には敷地内に畑も作られ農業にも対応できるようなる）。中心となるワーキングスペースにはオフィススペースが設けられ、企業・NGO・さまざまな組織が 146 団体、約 650 名が入居し活動している。入居条件は営利、非営利問わない。入居期限は 3 年（1 年毎に評価。更新の可能性あり）。青年（韓国の青年の定義は日本と同じ 19 歳～39 歳）であれば審査を受け入居することが可能である。なお、空室がでれば公募の上入居可能であるが、競争倍率は６倍から７倍と高い。また、ものづくり施設等は市民にも広く開放し、簡単なワークショップを受講すれば使用することが可能である。

・違う分野の融合からイノベーションを創出



前段でもふれたとおり、営利・非営利を問わない多種多様な団体（組織）（左図参照）がこのワーキングスペースを利用している。建物(6 階建て)て）の１、2 階は共有スペースが設けけられ、図書館、育児スペース、コワーキングスペース、カフェテリア、リフレッシュスペース（卓球台）、打合せスペース等さまざまな空間が設けられている。入居者は 5:00～24:00 の時間帯であれば、いつでもこの共有スペースを使用することができる。共有スペースは広くオープンなスペースとなっており、互いの活動が見え、いつでもだれでも気軽に話し合える雰囲気があり、そこではさまざまな議論が繰り広げられ、多種多様な価値観が触れ合う空間が自然と出来上がっている。なお、3～6 階には個別ブース（個別のオフィススペース）設けられている。イノベーションパークの職員はこの施設の役割を「より多くの価値観が触れ合う空間を作り上げること。１つの分野に特化することなく、営利・非営利、それぞれの目的

も違う人たちが自然と集まり互いにコミュニケーションをとることで自然とイノベーションが生まれる。そのためにどのような環境を提供できるかが私たちの役割である」と話していた。実際各所にその工夫がなされていた。遊び心も忘れない空間つくり等は大変参考になった。

打ち合わせスペース

各フロアに設けられているカフェショップ

育児スペース

コワーキングスペース(講義室にもなる)

入居団体紹介：非電化工房ソウル

「わくわく・どきどき」する空間づくりをコンセプトに「希望を失いかけた若者がそこに行けば希望を取り戻せる」そういう場所を目指して活動している団体。
以下に活動の一部を紹介
①「地方で仕事を作る塾」開講
「少なく働いて幸せになる」というライフサイクル、コミュニティカフェやマルシェを開いて地域に仕事とコミュニティを育てている人、自らの自給自足ををワークショップ形式にしてスモールビジネスにしている人などが卒業生として活躍（これまで卒業生３００名）
②ダーチャ村つくり
食べ物も電気も水道もトイレも自前で賄うそんな生活の提案を行うフィールドつくり。※ダーチャ…都市部に住む家族が週末に野菜・穀物つくりをするための簡素な別荘
③電化製品の開発　等々

イノベーションパークを訪問して

　生涯学習センターと共通しているがいかに多くの価値観が触れ合う空間や環境を提供できるかに注力していた。自分たちは価値を直接生み出すプレイヤーには成り得ないことから、間接的にイノベーションを生み出すために何ができるか。どのような環境を整えるか。その一端を見ることができた。

4-3　国内・外調査成果報告書

記録者氏名：地域連携・COC 推進課　及川幸史

事業名：韓国訪問出張報告書

目 的

韓国における生涯学習センターの運営状況と成人学習者の受け入れに関するデータ収集を行うため、２つの生涯学習関係施設を訪問し、調査を行った。

１ EUNPYEONG LIFELONG LEARNING CENTER

http://edu.eunpyeong.go.kr/?p=98

２ Seoul Innovation Park

http://innovationpark.kr/english/

活動実績

訪問した２施設ともにソウル特別市内の恩平区（ウンピョング）内に設置されている。恩平区は人口５０万人弱の都市で、生涯学習センターの運営、常時親学校の運営など教育都市としての発展を志向し、さらには一部地域を文化・芸術・癒しの文化芸術創作のまちにするなど、教育と文化がバランス良く息づく生涯学習都市を目指している。

以下、それぞれの施設について報告する。

１ EUNPYEONG LIFELONG LEARNING CENTER（恩平区生涯学習センター）

（１）センターの概要

「市民主導」「実践学習」「地域連携（ネットワーク）」を運営方針としている。地域住民が参加しやすい環境づくりを行い、自ら学んだことを互いに教えあったり、自分ができることを互いに提供しあうことで、個人が学んで楽しいだけでなく地域住民の”市民力”を育てる取り組みを行っている。その取り組みは市民団体や協同組合などの設立につながり、それらの団体がネットワークを形成することで市民の主体的で持続可能な活動を可能としている。調査には３名の職員にご対応いただいた。３人とも高等教育機関で社会教育に関するカリキュラムを修めた「平成教育士」の資格を持った方々で、「暮らし」「学び」「仕事」の３つの要素の連携を意識しながら地域住民の自発性に基づいた学びの企画や助言、ネットワーク支援活動を行っている。センターの職員数は１１名でそのうち８名が平成教育士の資格を有し、勉強会などを通じて自己研鑽を続けている。

（２）事業運営に関して

①ネットワークの重要性

地域の課題発見や解決を持続的に可能にするためにプログラムの多様性や様々な団体のネットワークを重視している。多様性が新しいつながりや価値を生み出す可能性をもたらす。そのために地域住民や団体が常に話し合うことができる場と情報収集・提供ができる場が重要であり、このセンターがその役割を果たしている。この地区には若い子育て世代も多く、世代をつなぐ縦のネットワークづくりを意識したプログラムも実施されている。キーワードは「協働」と「コミュニケーション」。

②地域住民の主体性の尊重

センターの利用者は４０代から６０代の女性が中心。生涯学習活動に積極的に参加する意識を持った方の割合が住民の約半数。そのような住民に対して多様なプログラムを提供し、住民が体験し、自ら気づくことで主体性が育まれるという循環モデルを構築している。センターが準備する多様なプログラムはセンター職員が提案、マネジメントしている。住民のニーズを把握するためにセンター職員は常に住民との対話を実施。さらに、センターの利用者はここでの学びを地域に還元する義務があり、自ら学習サークルや市民団体を設立するなど自発的な活動を展開している。

（３）施設設備について

日本で生涯学習センターというとお役所的な無機質で堅い施設をイメージしがちであるが、このセンターは色使いもカラフルでセンター内には絵画や写真などが飾られ、非常にすごしやすい雰囲気がつくられている。さらに利用者が制作した作品や活動状況の掲示なども多く飾られ、利用者の活発に活動している様子が発信されている。調査日当日は休館日であったが、我々の訪問に合わせて一時的に開館されていることに気づいてセンターに入館しようとした住民の方々が何人かおり、住民にとってセンターがとても重要な場所になっていることをうかがい知ることができた。

２ Seoul Innovation Park

（１）センターの概要

Seoul Innovation Park（SIP）はソウルの次の 5 年先の未来を創造するために 2015 年に設立されたフューチャーセンターで、イノベーター、市民、社会イノベーションに関心を持つさまざまなステークホルダーが集まり、社会問題解決のためのアイデアを生み出し、実験し、世間に広めるためのソーシャルイノベーションプラットフォームとして期待されている。

韓国が近年の急成長の後に直面している出生率の低下、高齢化社会といった社会課題は、過去のものとは異なり複雑で既存の方法で問題を解決することが難しく、徐々に民間ベースにソーシャルイノベーターが現れつつあるが連携に欠けている。この状況を踏まえ、SIP はこれらのソーシャルイノベーターを集め、連携や協働を促し、課題解決のためのソーシャルイノベーションの実現に向けた取り組みを行っている。

（２）事業運営について

このセンターは 3 万坪の敷地内に合計 32 個のリノベーションされた建物や屋外スペースで構成され、民間委託方式で運営されている。複雑となった社会課題の解決のために様々な分野と組織の連携・協働から生み出されるものに期待が寄せられている。このセンターには 150 団体、約 650 名が入居している。入居の対象は 19 歳から 39 歳の若手層で、活動の内容は教育問題を扱う団体から環境やおもちゃ、ファッションを扱う団体などジャンルを問わない。それらの多様な組み合わせからイノベーションを生み出すために、運営を委託された民間会社が連携・協働のためのイベントや仕掛けを施すなどハブ的な役割を担っている。

入居期間は 3 年間。この期間内に入居団体はセンターを卒業し社会の一員として自立する準備を進めることになるが、現時点でセンターの設立から 3 年が経っておらず卒業団体がないため、コラボ MIU が抱える入居期間の延長といった問題にはまだ直面していない。担当者に入居団体から延長を求められた場合の対応について質問したところ、場合によっては延長もあり得るがどのように対応するかは未定とのことであった。

施設内は新しく会社や事業を起こすために各団体が入居するインキュベーションスペースだけでなく、年齢に関係なく誰でも使用できるスペース（日本でいうコワーキングスペース）や喫茶スペースが多く準備されていて、分野の多様性だけではなく世代の多様性も担保された学びの場になるような設計となっていた。利用時間は朝 5 時から 24 時まで、さらには無料 Wi-Fi が使用できるため、訪問当日も多くの老若男女が活発に議論していた。センター内は有名美術大学の教員によってデザインされ、機能性と芸術性が融合した過ごしやすく、訪れたくなるような環境となっていることも多くの利用者が訪れ、活発な活動が行われている要因の 1 つであると感じた。

（3）活動事例

センターの入居団体である「非電化工房」の活動について話を伺う機会を得た。「非電化」とは電化製品を否定するものではなく、「エネルギーとお金を使わないと豊かになれない」という今の価値観とは異なる新しい選択肢や豊かさを提案することを目指している団体である。

スタッフは5名。代表を務めるカンさん以外はすべて20代と見受けられる若者たちであった。希望を失いつつある韓国の若者たちに新しい選択肢を提供し、「自立力」をつけさせることを目的としているという。そのために人間は自分一人だけで生きているわけではなく社会は助け合って成り立っているという「仲間力」の育成を念頭におきながらスタッフたちはこの工房でしっかりとトレーニングを受け、3年の間に独立するということであった。

「自分が学んだことを教えることで自分が成長する」「失敗事例を楽しく話して教え合う」「コンサルのような第三者が解決法を考えるのではなく当事者が解を生み出すことがビジネスにつながる仕

組みが重要」「専門家にお金を使うより若者の育成に使う方がよい」「生活を楽しく変えるワクワク感が大事」というカン代表の言葉はとても印象深く、共感できるものであった。

今後の課題　地域創生への”人材育成”によるアプローチ

２つの施設に共通していることは、地域をつくるのも仕事をつくるのも「ひと」であり、そのために「ひと」を育てることが重要であるという認識が明確なことである。

現在わが国では、少子高齢化や人口減少、地域経済の縮小などの課題を解決するために地方創生を謳い、そのための戦略として「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を掲げている。この戦略の中で、「地方創生は、いうまでもなく”ひと”が中心である」としているが、「しごとの創生」を中心とした地方への「ひとの流れ」をつくることに主眼がおかれ、「ひと」を”量”として捉えているように思われる。人口減少に歯止めをかけることが現実的ではない現状を考えると、”量”としての「ひと」ではなく、「ひと」の”質”に作用する取組みを行い、その「ひと」が「しごと」も「まち」もつくっていくという循環モデルの構築が必要となるのではないだろうか。そのために、大学が学部・大学院という教育課程の中で社会人を含めた人材育成を行いつつ、「しごと」や「まち」づくりの当事者である地域住民の自主的で主体性のある学びの場の構築のために自治体や社会教育施設と協働していくことが重要になる。

一方で、三陸復興・地域創生推進機構は、産学連携活動の中で「しごと」づくりを行い、三陸復興活動の中で「まち」づくりを実践してきた。しかしながら、これらの活動は教育研究機関である大学の得意分野ではない。これら２つの活動を大学本来の機能である「ひと」づくり（人材育成）を加味した取組みとして再構成することで、大学の負担を軽減しながらも強みを生かす持続可能な取組みとなり、機構の使命である地域創生モデルの１つの柱に成りうると考えられる。

5－1　アートフォーラム　成果報告書

記録者氏名：溝口　昭彦

事業名：岩手大学アートスクール 2016 窯芸コース

目 的

陶芸作品制作者、学校教育機関における陶芸指導者を対象に、より高度な技術・技法の習得を目指す。今回は実演を交えながらの指導で、より実際的な制作のポイントを示すことにより創作現場で応用性を高める。また、教育現場においては、ここで得た技法や制作姿勢が児童生徒の興味・関心を高め、創造性豊かな作品制作につながるようにする。なお、制作した作品は大学内ギャラリーにおいて、作品展を開催する。

活動実績

ロクロによる制作

削り・仕上げ・化粧土による装飾等

素焼き…大学の電気窯で焼成

岩手大学アートスクール 2016　窯芸コース

1　開催日　2016 年 8 月 20 日（土）～9 月 11 日（日）にかけての土日開催
（詳細は下記参照）

2　開催場所　岩手大学教育学部芸術棟
第 1 彫刻工房

3　参加人数　5 名

4　講師 岩手大学教育学部芸術文化課程非常勤
講師：金沢　英徳　先生

5　受講料　15,000 円（原料代込み）

6　詳細日程（全 6 回）

第 1 回　8 月 20 日（土）9：00～16：00
開講式・オリエンテーション
実習･･･ロクロによる制作

第 2 回　8 月 21 日（日）9：00～16：00
実習･･･ロクロによる制作

第 3 回　8 月 27 日（土）9：00～16：00
実習･･･削り・仕上げ・化粧土による装飾等

第 4 回　8 月 28 日（日）9：00～16：00
実習･･･削り・仕上げ・化粧掛による装

本焼き…大学の電気窯で還元焼成

岩手大学アートスクール 2016 窯芸コース展

今後の課題

飾等

素焼き…大学の電気窯で焼成

第５回　９月４日（日）９：00～16：00

実習･･･施釉・窯詰

本焼き…大学の電気窯で還元焼成

第６回　　11 日（日）９：00～12：00

講評会・閉講式

7　実習内容

(1)電動ロクロによる皿の制作

大皿（約 30 ㎝）・中皿（24 ㎝～18 ㎝）を制作し、生乾きの段階でしのぎ・化粧土による装飾（象嵌・掻き落とし等）を行う

(2)電動ロクロによる花器の制作

面取り・化粧土による装飾を施した花器を数点制作する

(3)　サヤによる炭化焼成

花器をサヤ炭化で焼成する

8　岩手大学アートスクール 2016 窯芸コース展

(1)日時：2016 年 10 月 18 日［火］～10 月 25 日［火］

ただし 22 日［土］23 日［日］は閉館。

※開館時間は 12:00～13:00［大学の昼休み時間に開館］

(2)場所　岩手大学教育学部総合教育研究棟 1 階

アートフォーラムギャラリー

入場無料

(3)主催　岩手大学アートフォーラム

共催　アートフォーラム・いわて

1　募集方法の工夫

2　アートスクール実施時期の検討

5-1　アートフォーラム　成果報告書

記録者氏名：溝口 昭彦

事業名：岩手大学アートスクール 2016 版画コース

目 的

版画・絵画制作者、学校教育機関の絵画・版画指導者を対象に、より高度な技術・技法の習得を目指す。このアートスクールでは、現代に生きる作家の制作に触れながら直にその技法や考え方を学ぶことにより、受講者の制作課題の解決、さらには作品表現の幅を広げることを狙いとする。また、教育現場においては、ここで得た技法や制作姿勢が児童生徒の興味・関心を高め、創造性豊かな作品制作につながるようにする。なお、制作した作品はアートショップ彩画堂 S-SPACE において作品展を開催する。作品制作、額装、展示を体験することにより、作品が社会化していくプロセスを体験することもこのアートスクールの目的の一つである。

活動実績

プレートマーク作成・表面磨き

液体グランド塗布

ワックステーパーによる煤付け

岩手大学アートスクール 2016 版画コース

1　開催日程（全 2 回）

第 1 回　2017 年 1 月 28 日（土）

9：00～16：00

開講式・オリエンテーション・実習

第 2 回　2017 年 2 月　4 日（土）

9：00～16：00

実習　閉講式

2　開催場所

岩手大学教育学部

芸術棟・版画実習室・デッサン室

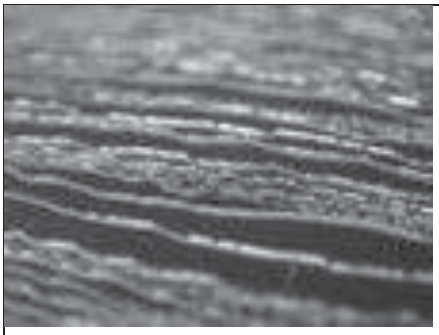
3　募集対象及び人数

(1) 募集対象

①18×12 ㎝の版画の下絵を準備できる方。

②美術に関わる創作経験のある方。（絵画、版画に限らず、制作活動をしている方。学校でのクラブ活動、カルチャースクール、個人制作等少しでも経験があれば可）

(2) 参加人数 10 名



ニードルによる描版

腐食

インク詰め

試し刷り

4　講師

紙町銅版画工房主宰　岩渕　俊彦　先生

5　受講料

10,000 円（材料代込み）

展覧会出品作品額装費別途必要。

6　主な実習内容

(1)1 月 28 日[土]

9:00～12：00 開講式・オリエンテーション
プレートマーク作成・表面磨き
液体グランド塗布＆ワックステーパーによる煤付け

13:00～16：00 下絵の転写
ニードルによる描版
☆仕上げは第 2 回までの課題

(2)2 月 4 日[土]

9:00～11:00 腐食・試し刷り

11:00～14:00 加筆・展開
エッチング・ドライポイント・アクアチント・手彩色への展開

14:00～16:00 刷り・閉校式

7　岩手大学アートスクール 2016

版画コース作品展

「銅版画で表現する…展」

(1)日時 2017 年 3 月 2 日[木]～3 月 8 日[水]
10：00-18：00

(2)ところ　アートショップ彩画堂　S-SPACE

(3)展示内容

①スクール参加者の銅版画作品 1 点と自選作品 1 点、計 20 点の作品展

②銅版画技法パネルと用具の展示

③岩手大学アートフォーラムとアートスクールの紹介パネル展示

8　展覧会の報道・取材　(1)岩手めんこいテレビ FNN スピークローカル Time 2017 年 3 月 2 日　11:45「銅版画で表現する…展」

紹介

番組 HP 掲載

http://www.fnn-news.com/localtime/iwate/detail.html?id=FNNL00047327

(2)盛岡タイムス 2017 年 3 月 5 日(日)

アートで社会につながり　岩大の講座受講生 S-SPACE で　銅版画で表現する…展

銅版画で表現する…展　会場風景

展覧会案内ハガキ

参加者募集ポスター・チラシ

今後の課題

1　募集対象者の設定

2　募集告知方法

3　実施時期の検討

4　展覧会実施の有無についての検討

5－1　アートフォーラム　成果報告書

記録者氏名：溝口　昭彦

事業名：岩手大学アートフォーラム公開座談会　[高校生と岩手大学美術]
―岩手大学アートフォーラムの高校生芸術活動支援の具体策について考える―

目 的

岩手大学アートフォーラムは、高大連携活動として、高校生に対して具体的な活動取り組みを試行してきた。 現在まで、2013 年大船渡高校美術部作品展示の企画、2014 年高文連宮古支部の「宮古下閉伊高校芸術展」の講習会実施、そして 2015 年には、岩手県内の高校・市町村に「美術教育・活動に関するアンケート調査」を実施した。　そこで今回の座談会では、沿岸部高等学校の美術教諭と県高教研美工部会事務局長を招聘し、沿岸部の高校生の美術活動をモデルケースとして、岩手大学アートフォーラムが具体的にどのような方法とタイミングで関わっていくことが良いか、生徒・美術教育・文化活動に直接関わる教員としての要望を座談会形式で協議し、次年度のアートフォーラム活動計画に反映させる。

活動実績

1　開催日時　2017 年 1 月 28 日（土）16：45 受付　座談会　17:00～18:30

2　会場　岩手大学　芸術棟 3 階　321 デッサン室
　　〒020-8550 岩手県盛岡市上田 3-18-34

3　座談会参加者
　岩手県立宮古高等学校　　教諭（美術）　佐々木 愛先生
　岩手県立大船渡高等学校　教諭（美術）　佐々木 悦也先生
　岩手県高等学校教育研究会美術工芸部会事務局長　土澤 典雄先生
　岩手大学アートフォーラム　藁谷　収
　岩手大学アートフォーラム　溝口　昭彦
　岩手大学地域連携推進部地域連携・COC 推進課　及川幸史
　聴講者 2 名

4 討議内容(要約)
　(1)　宮古高校の美術部活動状況と参加に対する課題
　(2)　大船渡地区の美術に関わる活動とこれからの方向性
　(3)　大学と高校生の美術活動を繋ぐ二つの団体「高教研」と「高文連」
　(4)　大学の地域連携機能と、高校生の芸術活動の接点
　(5)　岩手の高校生にとって必要な美術イベントとは
　(6)　高校生や高校美術部顧問、美術教員が大学のイベントに参加しやすい条件
　(7)　美術教員のいない高校に対しての、美術部や美術受験生へサポートの有効性について

今後の課題

1　高校生に対する事業の具体化
　(1)技法・表現を中心としたワークショップ　(2)高校生美術会議等の支援

2　事業に関わる岩手県教育委員会との連携の可能性
3　岩手県内高校美術教員を対象とした事業の立案

座談会詳細内容

司会［溝口］：それではまず初めに岩手大学アートフォーラム代表藁谷から現在までの活動をまとめて紹介いたします。

藁谷：アートフォーラムを大学に立ち上げて震災を挟み８年になります。大学自体が教育と研究の２本柱に加えて、地域貢献を掲げて、体育関係がスポーツユニオン、美術関係がアートフォーラムを立ち上げて、先ほど紹介のあった及川さんの所属する地域連携のセクションに生涯教育部門として所属しています。そういうわけで任意団体というよりは、大学が承認した団体としてあり、大学の運営と合わせ６年間の単位で活動が組み込まれ、チェックや評価も受けています。地域の中で、芸術で何ができるかと言う問いかけの中、一つは地域への芸術活動の支援、例えば展覧会をやりたいとか、表現のサポートをするなどを、「学び直し」等の高齢者を含めた一般や中等教育の生徒を含めた範囲を対象として考えています。色々な取り組みがありますが（図１）、例えば「美巡」という取り組みは、芸術関係の工房や文化遺産をめぐるツアーを企画し、水沢の南部鉄器の工房や岩谷堂箪笥の工房を巡ったり、秋田の盆踊りを見学したりしました。このほかにも様々な事業をやりましたが、2015年資料の「岩手の芸術教育の問題を探る」が一番お伝えしやすい資料でしょうか。芸術文化課程が大きく様変わりするときにどのようなニーズや進むべき方向を考えるフォーラムで、アンケートで問いかけをして高校の先生方の考え方をお伺いしたものです。３年前になるので少し古いデータになりますが、このような活動を元に、アートフォーラムでは今何ができるかの検討を始めたという段階です。今回の座談会では、高校現場で抱えている課題の話と、大学の方向性との合致点を見出せればということと、大学が気づいていない部分をご提示いただき話し合うことができれば幸いです。そして震災のことについても、またこちらの冊子資料［新たな地域アイデンティティと活力創出に向けて］は、大学の芸術スポーツ学系で震災後に支援を実施、（この支援という言葉も考えなければなりませんが）その後調査をかけたものですが、この１ページの最後の段落３行のところ、「応援してくれる気持ちに感謝しつつも、実は大変迷惑に思うことも多くあるのが本音だ。」というところが心に残るところで、確かにそう思うところです。取り組み自体

図１

が一方的でコミュニケーションが取れていないところがあるのかと思うところもあって、「支援」ということが、現場の先生方にどのように捉えられているかをお話いただければ…と思います。それから、今日参加された方もいらっしゃると思いますが、アートフォーラム主催で、「アートスクール」を一昨年から立ち上げ現在試行しているところであります。大学の施設、講師等を有効活用し、美術の指導者や社会人に向けて「学び直し」できる環境を、一昨年染織、昨年夏に窯芸、そして本日から版画コースが始まったところです。特に特別支援の先生方は職場に、機や窯、プレス機があってもそれがうまく使えない。そのようなことに対して何か解決策を提示できないか。また１８歳人口が減少の中、一般の方に対しても大学で対応できるような方向性も考えています。そのような取り組みについてもご意見を伺えればと思います。今日はよろしくお願いします。

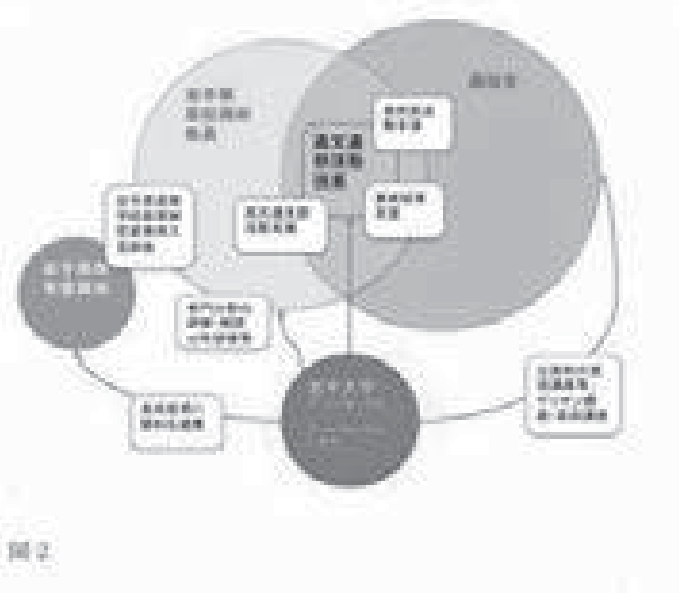


図２

司会［溝口］：それでは、今の藁谷の説明も踏まえながら、本日のテーマ、高校生と岩手大学美術、特に前面プロジェクション（図２）の岩手大学アートフォーラムと、岩手県高校美術教員、高校生との３者の関係性を作ってくための視点から、何時、何をやれば良いのかご意見をいただければと思います。それでは、宮古高校の佐々木愛先生よろしくお願いいたします。

佐々木愛：地域には美術館がないので、実物の作品に出会う機会が少ないわけです。岩手県立美術館が年に１回バスツアーなどを企画してくれますが、それでも年に１回で、２回目は応募しないでねって言われますので、年に１回だけで、それじゃ部活単位でバスをチャーターしていくということになりますが、バスのチャーター代金も高騰していて、美術部の部員数が少ないと一人にかかる負担が大きくなります。特に沿岸部の生徒は金銭的に不安を抱える生徒が多いので、お金を集めていこうということにはなかなか厳しいと思います。それから震災関係支援についてですが、（震災直後の話として）震災後多くの団体から、支援の申し出をいただいているわけですが、学校が忙しく時間を割けない事情があって、特にうちの学校は進学校と呼ばれ進学する生徒のための課外が多く、すぐにそれに対して時間を割くことが困難になるのが現状です。そしてそういったイベントを学校でやる場合、総合の時間にやることになりますが、総合の時間も年度計画が細かく立てられて

いますので、その中に入れることも容易ではありません。総合の時間を確保するために体育祭を１日削るほどなのでそこに別の美術イベントを入れることは難しい。部活動の単位だと実現可能性は高くなりますが、土日にも土曜活用日であったり、講演会等や模試があったり、交流会などの事業が入っており急であれば調整は難しいです。また、生徒自身が疲弊しているのも感じています。そのほかに悩んでいることとしては、美術系大学への進学を希望している生徒の実技指導がすごく難しいと感じています。

美術部に所属している生徒は、部活動の時間中などに対策時間ができますが、美術部でない生徒の、美術系大学受験の実技対策指導の時間を確保することが非常に難しいです。また沿岸部では、東京の美術予備校に通うことも時間的・経済的にも厳しい状況で、美術教師との１対１の指導になり、新しい刺激を獲得することも難しいです。また生徒自身が新しいものを獲得する機会が少ないように感じます。効果的な例をあげると盛岡一高との美術部交流は有効で美術部生徒にも良い刺激となっています。

佐々木悦也：佐々木愛先生の話に関連してお話しします。生徒を見ていて感じることは、作品だけではなくその大きさも併せて感じる必要があるということです。そのような中で美術館のバスツアーに参加させていただいて実際に作品を見るというのは大変良い機会でした。高校美術展もそうですけれども、印刷物や画像では作品の大きさが伝わりません。内陸の生徒は、美術展の作品を多く見る機会がありますが、沿岸の生徒はその機会が少ない。作品は大きさも含めて感じるものだと思います。

震災後の支援については、大船渡高校でも進学に関わる行事が錯綜していて決して受け入れやすい状況ではありません。

昨年（2016 年）は二つのワークショップを実施しました。生徒の自発的な取り組みは大きな刺激と学ぶ機会になります。このワークショップは、生徒たちの活動を高文連気仙支部が支援するというかたちで立ち上げ、６月に実施しました。それをみた東京藝術大学がその活動を評価し、「一緒にやりましょう」ということになって、８月にも実施することになりました。

2017 年度も６月にワークショップを計画しています。それから、まだ時期ははっきりとしていませんが、陸前高田博物館の作品修復に関わるワークショップも立ち上げ、２回実施予定です。イベントの時期は、３年生の進路実績にしたいので夏までに実施したいと考えています。秋に新しいイベントを実施するのは、高校美術展の関係で難しいと思います。作品をつくって展示するのではなく、新しい空間で試行錯誤しながら作品作りをする、そういった生徒の主体的な活動を促す試みことをできるだけ増やしていきたいと考えてい

ます。

今は高文連気仙地区３校ですが、将来的にはどんどん増やしていきたいと思います。そのためには、輪番制や義務にしたくないと考えています。そうような形で支援していきたいと思います。

司会［溝口］：佐々木愛先生、佐々木悦也先生ありがとうございました。今、沿岸部の高校に在職されているお二人の先生方から、課題や実践例を具体的にご報告いただきましたが、岩手県高等学校教育研究会美術工芸部会事務局（以下高教研事務局）の土澤典雄先生から、岩手県全体の美術教育をご覧になっている視点から、ご意見を頂きたいと思います。よろしくお願いします。

土澤：私は、高教研事務局の立場で出席していますが、全体的なお話をうかがうと、高文連の部活動関係の課題、そちらの方が大学につながりやすいと思います。私が高校教員の立場としてお話しますが、部活動単位でイベントを考えるとか、それに大学が加わる、また大学から情報を発信する、美術部の生徒を集めるなど方法は考えられますが、高教研は、美術の授業や美術教育が中心になるので関係性を作りづらいという感想を持ちました。また、地域連携から考えると、地域の情報が伝われば良いし、広い岩手県では全県的に網羅する困難さが存在します。

司会［溝口］：それでは、本日出席されている３名の先生方からのご意見やご提案を受けて、岩手県の高校生と岩手大学が繋がる方向で論点を整理するために、地域連携推進・COC課の及川さんからコメント頂きたいと思います。

及川：お話を伺っていて、大学との関わりについて考えるにあたって「高教研」と「高文連」という２つの存在を分けて考えなければならないと感じました。また、高校生が外の関わりから新しい刺激が必要という事に関して大学として何ができるのかなあと考えると、何らかの形での交流を目指すということ。大学生を介した交流と大学教員を介した交流が考えられると思います。先ほど土日も高校生が忙しいという話がありました。私は県教委と連携した復興教育の仕事もしていて、県教委からはイベント的ではなく授業のような恒常的なやり方を求められるのですが、大学のマンパワーにも限りがあるので連携を組むことの難しさも感じています。話は変わりますが、岩手大学と立教大学が協定を結びまして、平成29年４月から陸前高田でグローバルキャンパスを立ち上げます。大学生と地域住民の交流が中心となりますが、地域住民の方から高校生との交流も進めて欲しいというご要望もいただいていますので、大学生との交流はそういった形で進められる

のではないかと思っています。大学教員との交流は大学ができることとできないことがあるので、いろいろご意見を伺って進めたいところです。

司会［溝口］：藁谷先生、今までのご意見や課題の中から、次年度の岩手大学アートフォーラムの活動として具体性を持ち得る部分についてお話しいただけますか。

藁谷：その前に、「高文連」と「高教研」の組織について少し説明をいただけますか。

土澤：「高教研」は、岩手県高等学校教育研究会美術工芸部会として、教育委員会との関係を軸にして、「高文連」は、岩手県高等学校文化連盟が主管となり、美術・工芸等の専門部と地区ごとにある支部組織があります。美術工芸の場合は、1990 年代までは、高文連組織が明確に分かれていたわけではなく、高教研と高文連の事務局は同じ担当者が兼務し、明確に区別して運営していたわけではありませんが、近年は、明確にわけられ事務局も別運営です。高文連は主に、美術展とセミナーサポート事業と呼ばれる実技講習会を企画しています。高教研は、教科、美術教育に関わる研究団体です。

藁谷：岩手県に美術と関わる組織があって、岩手大学アートフォーラムが、その組織と協力しながら活動進めるのは良い方向だと思います。今、アートフォーラム単体で動くというよりは、その方がより良い形であると思います。また、今のお話の中で、本物の美術作品を見せるという声があって、それを一緒にやりたいという話と、それから「発表の場」がもう少しあれば良いという意見もありました。それから、受験を含めて「表現の方法」が何らかの形で関わることができれば…、大きくまとめると三つのことが頭に残っています。全て大学が対応することは難しいと思いますが、その点を議論していく上で何か見えてくる気がします。 美術館のバスツアーは、財源が尽きれば実施が難しいと思います…。

司会［溝口］：美術館が教育普及事業としてバスを借りて、学校生徒を招待する事業は以前にもあったと記憶しますが、大学がバスを借りて、美術館ツアーを企画するというのは実現可能なことでしょうか。

藁谷：検討の価値はありますが、簡単ではないと思います。何かの補助金を獲得する等の予算準備は必要になりますね。

及川：大学が仮にバスを準備するにしても、大学もお金の使い方として大学生のことを考えますので、大学生が沿岸に行く、または沿岸の生徒さんを大学に呼んで大学生と交流するなどの事業にすれば、地域創生という観点から検討の可能性はあります。また先ほどお話した気仙地区のグローバルキャンパスとの関わりで考えていく可能性もありますね。

司会[溝口]：それは高田地区に限ったイベントになりますか。

及川：グローバルキャンバスは高田にできますが、来ていただく高校はどこでもよいと思います。ただ、高校所在地からグローバルキャンパスまでの交通費を負担するのは少し難しいかと。イベントの組み立ては工夫が必要ですね。

土澤：それは大船渡でもいいのかな。
佐々木悦也：噂では伺っていました。

司会[溝口]：それでは藁谷先生、「表現方法」の具体案としてお話をいただけますか。

藁谷：以前、大学の公開講座として同様の事例はあるので、そういったことをふまえて「もっと必要だ」という声があれば。

司会[溝口]：そのような講座の場合、今まで協議した「高文連」や「高教研」等の、他団体とアートフォーラムの協働ということではなく、先に示しました図２の右端の流れで、大学が高校生個々に働きかける方法になりますが良いでしょうか。

土澤：生徒個々は情報を掴みにくいので、教員が情報を仲介した方が良いですね。

司会[溝口]：もちろん、高美研 ML に情報発信しますが、イベントとして先生方と積極的に関係性が構築できないことを問題にしていますが、その点についてご意見をいただければ助かります。また、事業構築の方向性として、先ほどのお話にあった、沿岸部、被災地、県北など重点性を持って進めた方が良いか、それとも全県の高校生を対象に考えた方が良いかご意見をお聞かせください。

佐々木悦也：オール岩手という考え方で良いのではと考えます。スポーツなどではもうすでにそのような考えで進んでいます。高校生が様々な場所から一堂に集まって作り上げる力はすごいものがあると先日も岩手青少年の家でのイベント（ユネスコ大会に参加し）で感じました。美術もそのようなことができるのではないかと考えます。

藁谷：それは、公開講座等をやるときも、ピンポイントで人が集まるより色々な場所から集まって交流があった方が良いということでしょうか。

佐々木悦也：そうですね。何かのきっかけになるはずです。

藁谷：特に「被災地」といった枠組みで括らなくて良いのではということでしょうか。

土澤：特に盛岡で実施する場合はそれで良いのでは。大学が出向く場合は、ピンポイントということでも良いと思います。

佐々木悦也：盛岡で実施する場合は、特にものづくりでなくても良いのではないかと思います。部活動の情報交換などがあってもいいのではないでしょうか。

司会[溝口]：もう一度「表現活動」についてお伺いしますが、この広い意味における表現活動には、宮古高校の佐々木愛先生が問題提起された「受験に関わるデッサン」なども内包していると考えますが、その点についてご意見をお聞かせください。

佐々木悦也：おそらく岩手大学でデッサン講座を開くと、岩手大学の受験に連動していくと思います。本校の場合、美大・芸大受験生は東京の美術予備校にいっていますし、私立大学の講習等にも参加しています。

佐々木愛：宮古の場合は一度、盛岡にでてから東京にでなければなりません。久慈の場合は、八戸に出てしまえば…。

司会[溝口]：お二人のお話を合わせると、受験のデッサンというより、より表現的な内容と解釈すればよろしいでしょうか。

藁谷：デッサンとかタブローとか具体的な要望がありますか。

佐々木愛：大学生がこのようなものを作っているという具体的なもの。そのようなものが高校生の制作意欲を向上させるのではないでしょうか。

藁谷：簡単な見学ではなく、もう一歩踏み込んで見学したい。ということかな。作品を見たり、大学生と話ができたりする場があれば良いということですかね。

司会[溝口]：それはオープンキャンパスを超えたもっと濃厚な内容のものですね。

佐々木愛：ウィンターセッションの講義に美術分野も組み込めないでしょうか。全員が参加できるわけではありませんが、学校からも参加しやすいですし。

佐々木悦也：大船渡高校でも毎年３名くらいの美術系大学志望者がいますが、自分の実技レベルを知りたいという希望がありますし、情報交換が必要です。

佐々木愛：宮古高校の生徒も、わかっていない生徒がいると思います。美術部の生徒は、他の作品を見る機会があるので少し理解が進んでいますが、制作経験なしに、美術系大

学を進路選択する生徒は、各大学でどんな力を必要としているのかも知らない。

藁谷：特別のプログラムというか、今話に出たようなことを知ることができるプログラムを組むことが必要ですね。だいたい部活動でも同じようなことをやるのだから。

司会[溝口]：美術の入り口に誘うようなイベント。そしてそれに地域性や制作経験の多様性が加味され、参加者個々の差異を確認することで美術に対する動機付けができれば良いですね。言葉にはできますが実際事業に起こすのは難題ですが。

佐々木愛：実施時期も大切だと思います。運動部などの部活動が一区切りする長期休業の時期に公欠扱いになるのが理想的です。

藁谷：事業に参加するのは、その公欠扱いになるという制度が大切なのですね。

司会[溝口]：制度の内容に踏み込めば、アートスクールのような一般的な公募ではなく、大学が、高等学校長に対して、生徒や教員の派遣依頼を出すようなシステムを作る。そしてそれは教育委員会等と共催ではないといけない。などですか。

土澤：県教育委員会が主催でなければ公欠にならないのでは。

佐々木愛：長期休業中は、課外授業があって参加しづらいが、進路との関連づけをすれば参加可能性も高くなるかもしれませんね。しかし、1、2年生になりますが。

藁谷：まず一つは、大学がアプローチして県教委が承知している形を取ることができるか。後援なり共催なりが取れれば。及川さん農学部、理工学部の事例はありませんか。

及川：農学部は実験教室をやっています。すでに30回くらいの実績があるので、高校側も行事予定に入れてくれていると思います。教育委員会の後援は比較的簡単に得られます。理工学部に事例はありませんが、出前事業をたくさんやっています。

司会[溝口]：そろそろ終了時間が迫ってきましたが、今後の検討課題と大きな方向性は出てきましたね。

及川：少しお伺いしたいことがあるのですが、先ほどの「オール岩手」に関してですが、例えば盛岡に県内の高校生と先生方にお集まりいただきイベントを企画した場合、学校の先生方にもインストラクターとして一緒に参加していただくことは可能でしょうか。実は今日同じタイミングで小学生向けの陸上競技のイベントをしていまして、十数名の学校の先生が指導者として参加して、指導者としてのトレーニングも兼ねてい

ただいています。こういう形ができるのであれば先生方にも参加した生徒さんにもメリットがあるかなと思いまして。

佐々木悦也：その教師同士の情報交換や生徒の交流する機会は、年1回の高校美術展しかないのですが、高校美術展自体その組織も規模も大きくなりすぎてうまく機能していない。岩手の高校には、1校に2〜3名ほど、美術を志す生徒がいるはずです。それでも集まれば30から40人になります。生徒だけでも集まる機会を持った方が良いと思います。

土澤：指導者に対して派遣依頼を出した場合、派遣してほしいけれど経費は負担しない場合は、高校側は対応できないと思います。生徒が参加し、引率業務になれば可能性はあるのではないでしょうか。

司会［溝口］：各高校の内規によって、生徒の学外の活動許可、それに伴う予算措置も違うので、事業内容の他に、事業の主管や後援、高校教員出張、生徒派遣依頼等事業の形式自体も検討材料かもしれませんね。

及川：何れにせよ、県教育委員会と協議しないと進まないことですね。どこがご担当になるか…。

司会［溝口］：イベントについては、佐々木悦也先生が発言された「いろいろな学校が一堂に会する美術的な事業」を実施するのは、有効だというお話は実際多く伺いますし、そのような事業の中で、生徒同士、県内の美術教員、そして講師役の作家との交流は価値あるものだと考えます。

　そのようなイベントを大学で実施できれば良いのですが、そこまで仕組みづくりができていない。可能ならば、さきほどの及川さんの発言にあった、生徒、美術教員が集い共に学べる事業が大学で実施できれば有効であり、そのためには大学も学校現場でスムーズに、生徒・教員派遣ができる「仕組み」を検討する必要がある。もっと言えば予算が確保できること。その見通しがあれば大学における高校生の美術活動が組織しやすくなるということですね。

藁谷：やっぱり県教委と少し話さなければならないですね。

司会［溝口］：ちょうど時間になりました。課題も見えてきましたのでこれで座談会を終了したいと思います。それでは最後に、今日の座談会を聴講いただいた新妻さんと三田さんに感想を伺いたいと思います。

聴講新妻さん：岩手大学や教育委員会、高校の美術の先生、そして高校生がどのように関

係性が繋がっていくのか少し理解ができました。私は大高（大船渡高校）出身で、震災後色々な美術体験をさせていただいたのを覚えています。東京藝術大学の先生や、ルーブル美術館のマルティネスさんが、学校に来てくださいました。そういった事業を受け入れたり、実施することに美術の先生方も苦労しているのだと。私の学生として意見ですが、オープンキャンパスの際もシンプルな対応しかできなかったので、もう少し工夫できればと思いました。来訪者も少なく、ただの説明だけでなく、来校者とワークショップも含めて実際に高校生と触れ合えればいいなと思いました。

聴講三田さん：岩手の国立大学は岩手大学で、美術はやはりここに集まるのが良いので…高校生は高校の中だけで全ての生活が決まっているので、会う人間も決まっていて他からの刺激は、教員が用意しないとないのが現状です。よほど活発で外に目を向けている人は良いのですが、そういう場を作ってやると成長するというか。宮古高校と毎年交流をやっていますが、年々成長するのを目の当たりにするので。例えば岩手大学に各部の部長・副部長が集まるとか、高校生同士の交流がまず足りない。それから、教員でも大学生でもいい。

藁谷：今は学生（生徒）だけの美術連盟はないですか。昔はそれがあって、確か村上善男さんが声かけしたと思います。

佐々木悦也：それが成長して、現在、1000 点以上の作品が集まるような美術展なったのです。でも人数が多すぎて「はい、みんなで何かやりましょう」という感じではない。

三田：しかし、美工部会は人数が少ないので動きやすいのでは。あとは、専任の美術教員がいないことが気になる。

佐々木悦也：そうですね。盛岡以南。

司会［溝口］：そういった美術専任がいないところに、大学が直接いけば良いですか。

藁谷：出前講義みたいな形で、専任がいないところにいくような形かな。それは簡単に実施できるかもしれない。

司会［溝口］：それは部活動単位で考えれば良いでしょうか。

土澤：授業は難しいので部活動単位が良いです。

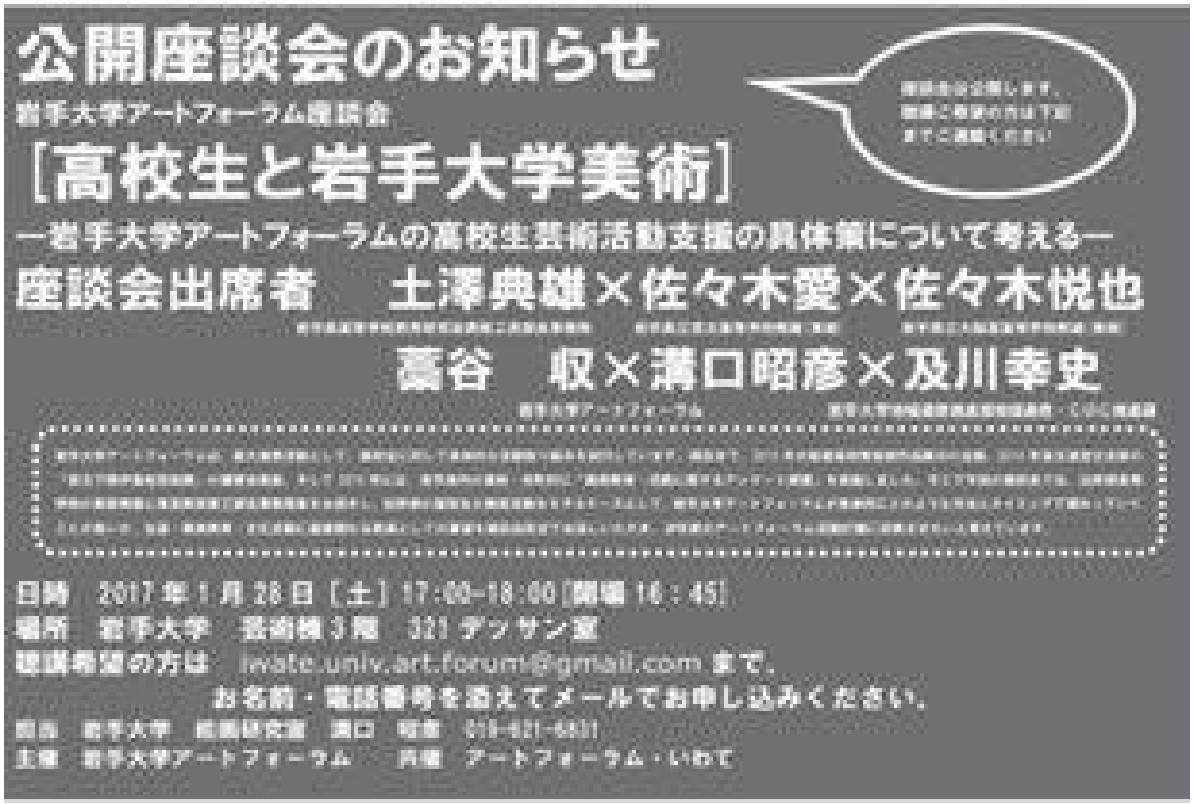
司会［溝口］：専門外の美術顧問に連絡をとり、直接伺うような。この案は、今日ご参加いただいた先生方に全員支持されていますね。

藁谷：県内に幾つの高校が該当するのでしょうか。

司会［溝口］：専任美術教員が配置されている学校の方が少ないのが現状です。

土澤：特に、釜石、黒北、水沢…

司会［溝口］：そうですね。これは具体性がありますので検討させていただきます。それでは、これで座談会を終了いたします。皆様、本日はお忙しいところご参加いただき、貴重な意見をありがとうございました。



5－1　アートフォーラム　成果報告書

記録者氏名：溝口　昭彦

事業名：いわて美術茶話 01-04

目 的

美術や文化にかかわる交流の場を大学内で創出する。具体的には、岩手大学アートフォーラム活動室または、岩手大学芸術棟［アート講義室 213 室・デッサン室 321 室］で、月に 1 回ゲストスピーカーを招き、大学教員、学生と地域の人的アートリソースのネットワークづくりを狙う。また、創出したネットワークをもとに、facebook ページを有効活用し、岩手大学アートスクールの参加者募集ツールとして、イベント運営のための支援層形成を目的とする。

活動実績

1　いわて美術茶話 01

「ガンダイデ　ミンナト　ビジュツヲ　ラクニカタル。」

(1)と　き：2016 年 6 月 17 日[金]18:00～19:00

(2)ところ：岩手大学教育学部総合研究棟
アートフォーラム活動室

(3)参加人数　12 名

(4)ゲストスピーカー　長内　努さん
（彫刻家・舞台美術家、もりおか町家物語館美術監督）

(5)内　容

長内氏の多面的な活躍を映像で紹介し、彫刻家、舞台美術家、エッセイストとしての最近の活動を紹介。その後参加者全員から『長内さんにお話ししてもらいたいこと』をカードで書き出し、それに答える形で話を進めた。話題の中心は、高校教員から美術家に転身。そして、自宅から食料、仕事に至るまでを自分で作り上げていく生き方が提示されていた。

いわて美術茶話 02 の会場風景

2　いわて美術茶話 02

「ガンダイデ　ミンナト　　センショクヲタノシクカタル。」

(1)と　き　2016 年 7 月 15 日［金］18:30-19:45

(2)ところ　岩手大学　芸術棟 3 階　321
デッサン室

(3)参加人数　15 名

(4)ゲストスピーカー　舞良 雅子さん(染織家)

(5)内容

最初に舞良氏が岩手県立美術館で 2003 年に実施した［布を織るワークショップ］の資料動画を映像で紹介。その後近年の制作と展示をスライドショーで映写しながらの解説。展示の中には、フランスのグランパレでの展示も含まれており参加者にとっても刺激的な内容であった。展示や作品紹介の後、参加者からの質問を受けた。技法や素材についての質問が続き予定時間を 15 分過ぎて終了した。

3　いわて美術茶話 03

―岩大で美術教育の入り口を茶話する―

(1)と　き　2016 年 8 月 19 日［金］18:30-19:38

(2)ところ　岩手大学総合研究棟 1 階
　　アートフォーラム活動室

(3)ゲストスピーカー（県内高等学校美術教員）
　　佐々木 愛さん＋小野寺 晶子さん

(4)参加人数　12 名

(5)内容

最初にゲストスピーカーと参加者全員の簡単な自己紹介した。その後、参加者から佐々木、小野寺両氏に質問する形で会話が進み、「美術教員になること」について具体的な道筋が示された。話題の内容は、「教員採用試験を受けるまでの経験」「美術の授業以外の教員としての仕事」「美術教員として必要な美術以外の能力」「教職受験決定のきっかけ」等であり、今回は参加者の約半数が大学生であったことからも、美術を軸にしながら教員として積極的に社会と関係性を構築している 2 名のゲストスピーカーの話は、大変有意義であった。

4　いわて美術茶話 04

るんびにい美術館

アートディレクター板垣崇志さんと茶話する。

(1)と　き　2016 年 9 月 16 日［金］18:30-20:08

(2)ところ　岩手大学総合教育研究棟

アートフォーラム活動室

(3)　ゲストスピーカー　板垣　崇志さん

（るんびにい美術館アートディレクター）

(4)　参加人数 9 名

(5)　内容

板垣氏の自己紹介として高校時代の制作活動から現在のるんびにい美術館アートディレクターになるまでの活動を中心に話題提供。その後、参加者からの質問に答える形で、るんびにい美術館の立ち上げに関わりながらアートディレクターという仕事を創出するところで閉会時間となった。 その後、参加者からの提案で時間延長し「るんびにい美術館の出前授業（講義)」と、板垣さんが片岸なお子さんと活動している「心輝く造形あそびプロジェクト『からふる』」の大槌や福島での取り組みについて説明をいただいた。

今後の課題

1　実施時期・実施回数の検討

2　参加者・学生に対するニーズ調査

3　ゲストスピーカー招聘に関わる予算確保

5－2　科学技術理解増進活動　成果報告書
記録者氏名: 三陸復興・地域創生推進機構　今井　潤
事業名: 科学技術理解増進活動

目 的

科学技術理解増進活動は、岩手大学発の産学官連携組織の岩手ネットワークシステム（INS）が平成 7 年にイーハトーブの科学と技術展を開始したものを、平成 12 年頃から、岩手大学地域共同研究センターの事業として、理科好きな子どもと、ものづくり人材育成のために、実施してきた活動である。また大学としては、研究成果の PR という側面もある。平成 16 年からは、地域連携推進センター生涯学習部門の活動として、学内の有志の教員とともに、第 2 期中期計画経費にあわせて、JST や資源エネルギー庁などの外部資金を獲得しながら、県内他大学等と連携しながら、理科離れ防止と、科学技術リテラシーの醸成のために進めてきた。

活動実績

科学技術理解増進活動は、その実施形態から 4 つに分かれる。

・他機関との連携(下表 1,8,14,16-21)　今年度より岩手県が開始した「いわてサイエンスシンポジウム」に依頼を受けて参加した。しかし、自主事業のイーハトーブの科学と技術展の実施が確定していなかったため、三好研究室のみの対応となった。

「頭と体と心の三体験フェスティバル」および「親子で楽しむ大学体験」については、岩手山青少年交流の家とともに共同開催で行った。「頭と体と心の三体験フェスティバル」では、コラボ MIU を会場に、ロボット体験ブースなど 7 つのブースを出展した。10 時から 3 時までの 5 時間の開催であったが、約 1,000 名の親子連れが来場して、大盛況であった。

「サイエンスな日曜日」については、盛岡市子ども科学館と連携して開催した。また、下表 4,6,21 の学童での科学実験教室については、NPO 環境パートナーシップ岩手と共同で開催した。

・自主（単独）事業　最近 7 年程度、イーハトーブの科学と技術展をイオンモール盛岡のイオンホールにて大学主催で開催してきたが、昨年度末に行われた改修によりイオンホールが狭隘になったことと、担当者変更による予約の連絡ミスにより、実施することが出来なかった。

・小学校等からの依頼（下表 2,3,10,11）　小学校 PTA 行事として依頼が多い。20 名から 100 名程度の参加で、個別教員が学生とともに対応した。

・自治体からの依頼（下表 9,12,13,15,22-26）岩手大学と相互友好協力協定を提携している自治体（教育委員会）より、依頼があり科学実験教室を実施する場合もある。対応可能な先生方に公民館等へ出向いて頂き、実施した。非常に好評で子どもも多く

集まり、材料費は負担いただけるが、学生のアルバイト代が負担出来ないなどの課題がある。

なお、本活動の主要メンバーである、理工学部教授高木浩一が、小中学校の授業におけるエネルギー環境教育の実施や教材開発、および科学技術理解増進活動の実績が認められ、平成 28 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰（理解増進部門）（自然の中に潜む科学に気づき学ぶエネルギー教育の普及啓発）を受賞したことを申し添える。

「頭と体と心の三体験フェスティバル
開場前

「頭と体と心の三体験フェスティバル」
ロボット製作ブース

今後の課題

科学技術理解増進活動については、地域や父母からの要望も多いため、大きなイベント以外は、要望により個別に出来るだけ対応してきた。震災以後、JST ネットワーク形成地域型（1,000 万円/年 3 年間）を獲得し、費用は大学負担で実施してきた。このため、無償の依頼または、教員への謝金のみ対応出来る依頼が多いため、大学の主体的な取り組みとして継続して行くことには、課題が多い。また費用を負担いただける場合でも、学生のアルバイト代が負担出来ない場合が多く、大学として事業を間接的に支援するのであれば、学生アルバイト代の支援は不可欠である。岩手県が、岩手サイエンスシンポジウムとして、ものづくり人材育成の一環として、事業を継続していく意向を示しているため、その活動に協力する形で継続して行きたいと考えている。

平成 28 年度　科学技術理解増進活動　活動実績一覧

	日付	イベント名	場所	主担当
1	7月1日	いわてサイエンスシンポジウム	アイーナ	三好扶
2	7月9日	科学実験教室in日詰小学校	日詰小学校	山口明
3	7月21日	科学実験教室in山岸小学校	山岸小学校	山口明
4	7月27日	科学実験教室in大船渡小学校学童	うみねこキッズ	今井潤
5	8月2日	子ども創造塾　「ものづくり探検隊」 岩手大学ものづくり探検	理工学部 コラボMIU	平塚貞人 今井潤
6	8月4日	科学実験教室in大船渡北小学校学童	ゆうゆう	今井潤
7	8月4日	ニュートン・サマースクール	宮古小学校	山口明
8	8月7日	重茂味まつり	重茂漁港	今井潤
9	8月9日	岩手大学体感ツアー	岩手大学	小山猛
10	8月26日	科学実験教室in赤石小学校	赤石小学校	山口明
11	9月8日	科学実験教室in黒沢尻北小学校	黒沢尻北小学校	山口明
12	9月18日	北上ロボットコンテスト	おでんせグローブ3階	小山猛
13	10月14日	大船渡産業まつり	大船渡市民体育館	三好扶
14	10月22日	頭と体と心の三体験フェスティバル	コラボMIU	技術部他
15	10月22日	久慈地方産業まつり	アンバーホール	高橋克幸
16	11月6日	サイエンスな日曜日	盛岡市子ども科学館	山口明
17	11月13日	サイエンスな日曜日	盛岡市子ども科学館	梶原昌五
18	11月27日	サイエンスな日曜日	盛岡市子ども科学館	高木浩一
19	12月4日	サイエンスな日曜日	盛岡市子ども科学館	天木桂子
20	12月3,4日	親子で楽しむ大学体験	岩手大学	山崎弥生他
21	1月6日	科学実験教室in盛小学校学童	さくらりっこ	今井潤
22	1月7日	ロボット製作教室（おむすび）	矢巾町公民館	小山猛
23	1月7日	ロボット製作教室（おむすび）	やはぱーく	小山猛
24	1月11日	ニュートン・ウィンタースクール	宮古小学校	山口明
25	1月13日	知力の格闘技	陸前高田市広田学童	小山猛
26	2月5日	プロロボ教室	北上市生涯学習センター	小山猛

5－3　宮澤賢治センター　成果報告書

記録者氏名：大野　眞男

事業名：宮澤賢治センター

目 的

岩手大学は、宮澤賢治が卒業した盛岡高等農林学校をその前身の一つとして戦後に開学した。賢治の母校であり、これまで長い間、学内外の人々の賢治への関心が寄せられてきたことから、平成 18 年、盛岡周辺の一般市民の方々にも加わっていただき「宮澤賢治センター」を発足させた。高等農林ゆかりの百年記念館に事務局を置き、地域連携推進部が事務を担当している。定例研究会、宮澤記念短歌会、賢治と音楽を楽しむ会、年刊機関誌『賢治学』の発行等の事業を通じて、１）宮澤賢治文学が一般市民の方々に一層親しまれるための広場として機能すること、２）岩手大学に宮澤賢治研究の国内外の拠点を形成することを目的としている。これらの事業に加えて、昨年は賢治生誕 120 周年に当たることから、いくつかの記念事業を企画・実施した。また、賢治センター役員 5 名（山本昭彦・木村直弘・小島聡子・田中成行・大野眞男）がメンバーとなって、岩手大学研究力強化支援経費により「賢治学の創造と展開―岩手大学から世界に発信する宮澤賢治研究の基盤形成―」を推進した。

活動実績

１．定例研究会

【第 90 回】

日時：2016 年 5 月 18 日（水）17：00～18：00

会場：岩手大学農学部１号館２階１号会議室

講師：牧野立雄 氏（宮澤賢治研究家）

演題：歴史の中の宮澤賢治　～法華経原理主義をめぐって～

司会：岡崎正道（宮澤賢治資料室）　参会者：35 名

【第 91 回】

日時：2016 年 7 月 29 日（金）17：00～18：00

会場：岩手大学人文社会科学部１号館２階第１会議室

講師：中村一基 氏（岩手大学名誉教授・国文学）

演題：賢治童話絵本化の試み

司会：山本 昭彦（当センター副代表）　参会者：34 名

【第 92 回】

日時：2016 年 9 月 29 日（木）17：00～18：00

会場：岩手大学農学部１号館２階１号会議室

講師：田中成行 氏（岩手大学教育学部准教授・国語科教育）

演題：童話「毒もみのすきな署長さん」と謡曲「鵜飼」

司会：大野眞男（当センター代表）　参会者：32 名

【第 93 回】

日時：2017 年 1 月 26 日（木）17：00～18：00

会場：岩手大学人文社会科学部１号館２階第１会議室
講師：長谷川恭一 氏（税理士・作曲家）
演題：オペラ『ゴーシュ』への道程・賢治と私　～定盛兼助の孫として生まれて～
司会：大野眞男（当センター代表）　参会者：25 名

２．宮沢賢治記念短歌会(学内で開催された回のみ)
4 月 30 日（土）、5 月 15 日（日）、6 月 25 日（土）、7 月 23 日（土）、8 月 20 日（土）、9 月 10 日（土）、10 月 22 日（土）、11 月 26 日（土）、12 月 17 日（土）、2 月 11 日（土）の１０回開催した。開催時刻はいずれも 10：00～、場所は百年記念館。１月のみ、新年会を兼ねて学外で開催した。

３．賢治と音楽を楽しむ会
4 月 23 日（土）、5 月 28 日（土）、6 月 25 日（土）、7 月 30 日（土）、9 月 24 日（土）、10 月 15 日（土）、11 月 26 日（土）、1 月 28 日（土）、2 月 11 日（土）の９回開催した。開催時刻はいずれも 10：00～、場所は百年記念館。

４．宮澤賢治生誕１２０年記念事業「リバイバル賢治」開催（岩手大学と共催）
【企画展】
日時：8 月 29 日（月）～9 月 20 日（火）10：00～15：00
場所：農学部附属農業教育資料館２階講堂
【講演会】
日時：9 月 8 日（木）
場所：農学部附属農業教育資料館２階講堂
参会者：80 名
プログラム：
13：00～　ウエルカム演奏会
13：30～14：30　講演「祖父、清六に聞いた兄・賢治」
講師：宮澤和樹氏（（株）林風舎 代表取締役）
14：40～16：00　対談「盛岡高等農林学校時代の賢治」
宮澤和樹氏　×　山本昭彦（宮澤賢治センター副代表）
終了後、施設見学会

５．岩手大学宮澤賢治センター編『賢治学』第 3 輯の発行
刊行年月日：2016 年 6 月 20 日
編集委員：大野眞男・木村直弘・佐藤竜一・山本昭彦
発行所：東海大学出版部
内容：
特集　越境する賢治

近藤健史（日本大学教授）「宮澤賢治の南洋諸島ポナペ島への手紙」
森三紗（詩人・宮沢賢治研究家）「森荘已池と『風大哥』」考
佐藤竜一（宮沢賢治学会イーハトーブセンター理事）「宮澤賢治の夢を育んだエスペラントと『雨にも負けず』」
木村直弘（岩手大学教授）「イーハトーヴの音は越境できるか」
木村直弘（岩手大学教授）「【解題】海外における賢治文学の現状と今後」
萩原孝雄（米国・ケース・ウエスタン・リザーヴ大学准教授）「米国での賢治文学受容の現状と今後の可能性」
黄育紅（中国・華東理工大学副教授）「中国における賢治文学受容の現状と今後の可能性」
プラット・アブラハム・ジョージ（インド・ジャワハルラル・ネルー大学教授）「インドにおける賢治文学の受容と今後の可能性について」
ヘレン・キルパトリック（オーストラリア・ウーロンゴン大学上級講師）「オーストラリアにおける賢治文学の役割と今後の可能性について」
グェン・ド・アン・ニェン（名桜大学非常勤講師）「ベトナムにおける賢治文学文学の受容と今後の可能性について」
朴鐘振（韓国・全州教育大学校非常勤講師）「韓国における賢治文学の受容」
佐々木ボグナ（日本学術振興会特別研究員ＲＰＤ）「ポーランドと賢治文学」
マリア・エレナ・ティシ（イタリヤ・ボローニャ大学特任教授）「イタリヤにおける賢治文学の受容と今後の可能性について」
アミーラ・サイード・アリィー・ユースフ（文学博士）「エジプト人から見た宮澤賢治の少年小説の可能性」
黄毓倫（お茶の水女子大学大学院博士課程）「台湾における賢治文学の受容と今後の可能性について」
コラム　それぞれの賢治
郡司直衛（盛岡農専農科昭和２３年卒）「小岩井農場物語」
大井和雄（豊橋市中央図書館宮沢賢治読書会代表）「宮澤賢治の伊勢湾・三河湾周航」
藤野正孝（石と賢治のミュージアム前館長）「東北砕石工場から『石と賢治のミュージアム』へ」
暁ミセイ（詩人）「心象スケッチ・リターン」
鈴木仁也（文化庁国語課国語調査官）「宮澤賢治作品を朗読する」
宮澤賢治センター研究例会より
城守寛（岩手県立水沢高等学校教諭）「宮澤賢治と植物」
藤井茂（一般財団法人新渡戸基金事務局長）「新渡戸稲造と宮澤賢治」
フォーラム「賢治学」
蟹沢聰史（東北大学名誉教授）「宮澤賢治のイーハトーブ作品と最近の北上山地に関する地質情報」

中村一基（岩手大学名誉教授）「賢治童話絵本化の試み」
島村輝（フェリス女学院大学教授）「『心』をとらえる『ことば』、『ことば』をつたえる『曲』」

6．平成 28 年度岩手大学研究力強化支援経費「賢治学の創造と展開　―岩手大学から世界に発信する宮澤賢治研究の基盤形成―」

【研究会】
１回目：10 月 4 日　11：00 時～12：00（人社１階ミーティングルーム）
２回目：10 月 7 日　15：00～17：30（教育学部１号館 332 室）
３回目：10 月 21 日　15：00～16：30（コラボμ２階会議室）
４回目：11 月 21 日　18：00～19：30（人社１号館３階 314 室）
５回目：1 月 26 日　15：00～16：30（人社１号館大会議室）
６回目　2 月 28 日　16：00～17：30（人社１号館 215 室）

【宮澤賢治生誕 120 周年記念事業】
１）「岩手大学地域創生フォーラム　賢治と語り合う 21 世紀の地域創生」
日時：12 月 10 日（土）10：30～12：00
場所：日比谷図書文化館・日比谷コンベンションホール（東京都千代田区）
参会者：85 名
内容：大野眞男（賢治センター）「イーハトーブからのメッセージ―賢治と岩手大学―」、岡村民夫（法政大学教授）「大地の設計者、宮澤賢治」、石井正己（東京学芸大学教授）「遠野物語と銀河鉄道の夜」、山本昭彦（賢治センター）フォーラム進行
２）「賢治と語り合う 21 世紀の地域創生　－盛岡フォーラム－」（予定）
日時：2017 年 3 月 18 日（土）14：00～16：00
場所：岩手大学（復興記念）銀河ホール
登壇者：岡村民夫（法政大学教授）・石井正己（東京学芸大学教授）・大野眞男（賢治センター）・山本昭彦（賢治センター）

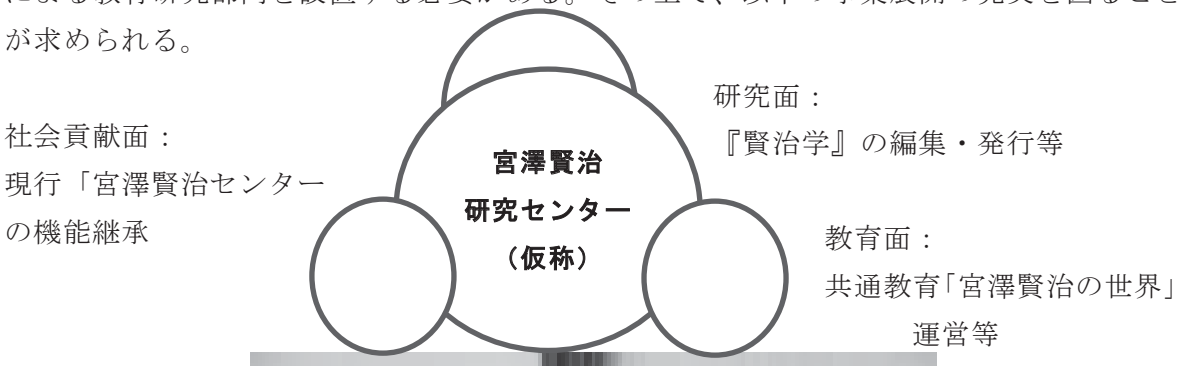
【研究成果の執筆（『賢治学』第４輯への執筆）】
山本昭彦「「きみにならびて野に立てば」考」
木村直弘「法華文学としてのイーハトヴ童話『かしはばやしの夜』―オノマトペの共振的効果に根ざした『法華文学ノ創作』をめぐって」
大野眞男・竹田晃子「宮澤賢治による方言表記の工夫と地域に根ざした国語観」
小島聡子「標準語と宮澤賢治」
田中成行「『毒もみのすきな署長さん』と能『鵜飼』と常不軽菩薩」

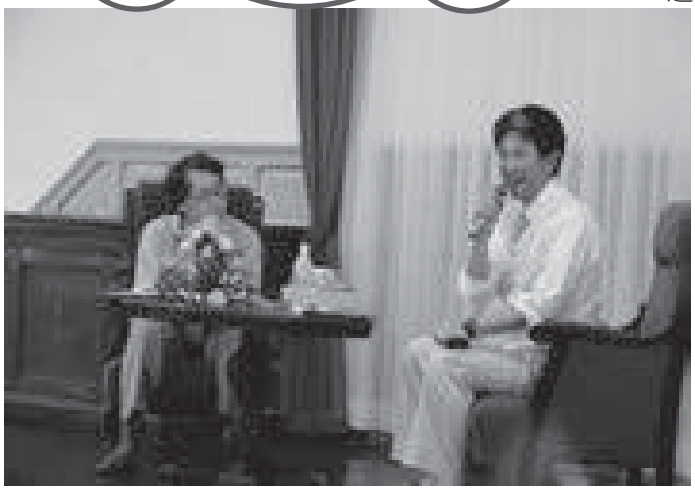
【『賢治学』第４輯の編集（上記以外の内容）】
岩手大学地域創生フォーラム（岡村民夫・石井正己・山本昭彦）「賢治と語り合う 21 世紀の地域創生」

宮澤明裕（宮澤賢治記念館学芸員）「宮澤賢治記念館のリニューアルについて」
正海澄恵（アザリア友の会会員）「私の人生の庸夫さん」
猪狩昌和（札幌市在住）「祖父『猪狩源三』と宮沢賢治」
押本昌幸（河本緑石記念館元事務局長）「河本緑石研究会の活動について」
大伊和雄（豊橋市中央図書館宮沢賢治読書会代表）「小笠原露の賢治観」
大須賀匠（東京農業大学大学院）「『グスコーブドリの伝記』を例とした賢治の理想世界―被災地の今・陸前高田より―事例報告」
アスィエ・サベル・モガッダム（翻訳家・通訳）「イランにおける賢治文学の受容と今後の可能性について」
清瀬 六朗（アトリエそねっと）「宮沢賢治と現在の日本のアニメ作品」
高橋在也（千葉大学大学院特別研究員）「宮沢賢治と高橋元吉―音楽でつなぐささやか試み―」

今後の課題

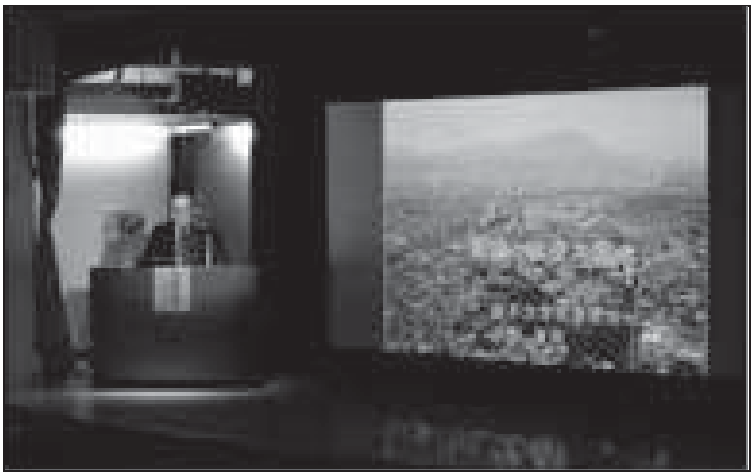
「目的」として掲げた、１）宮澤賢治文学が一般市民の方々に一層親しまれるための広場づくり、２）宮澤賢治文学に関する国内外の研究拠点形成を達成するためには、学内組織としては位置づけが不明瞭な現行「宮澤賢治センター（岩手大学内）」の在り方を改め、正式な学内組織として然るべき位置付けを与えて、学内兼任教員・非常勤教員等による教育研究部門を設置する必要がある。その上で、以下の事業展開の充実を図ることが求められる。





リバイバル賢治：対談「盛岡高等農林学校時代の賢治」（宮澤和樹氏×山本昭彦）

岩手大学宮澤賢治センター編『賢治学』第１輯（2014 年）～第３輯（2016 年）



岩手大学地域創生フォーラム・賢治と語り合う 21 世紀の地域創生「賢治と岩手大学」

岩手大学地域創生フォーラム・賢治と語り合う 21 世紀の地域創生
「フォーラムと対談」

6－1

ニューズレター報告書

記録者氏名：三陸復興地域創生推進機構　生涯学習部門　中島 有里

目 的

ニューズレターを定期的に発行し、調査報告・実施成果に関わる情報公開を行うこととする。よって、三陸復興・地域創生推進機構において行っているプログラムの進歩情報を広報し、広く批判・意見を受け入れ、プログラムの更なる充実を図る。

活動実績

平成 28 年 7 月に第 1 号、9 月に第 2 号、12 月には第 3 号が発行された。平成 29 年 3 月には第 4 号が発刊される予定である。
また、これらは HP に掲載し、PDF ファイルでの参照とダウンロードを可能にした。

平成 28 年 7 月 20 日
岩手大学三陸復興・地域創生推進機構レター
いわての大地とひとと共に　vol.1（目次）
○三陸復興・地域創生推進機構開設にあたって
○三陸復興部門の紹介

平成 28 年 9 月 30 日
岩手大学三陸復興・地域創生推進機構レター
いわての大地とひとと共に　vol.2
○学習支援班「唐丹小学校における長期休業期間中の学校開放ボランティア」
○生涯学習部門「シニアカレッジ」
○地域創生部門の紹介

平成 28 年 12 月 26 日
岩手大学三陸復興・地域創生推進機構レター
いわての大地とひとと共に　vol.3
○三陸復興・地域創生推進機構発足記念シンポジウム開催
○生涯学習部門の紹介

詳細は資料として添付した通りである。

Together with Iwate and its people

岩手大学三陸復興・地域創生推進機構レター

岩手の“大地”と“ひと”と共に

VOL. 1 NEWS LETTER

国立大学法人 岩手大学
地域連携推進部
地域創生推進課
〒020-8550
岩手県盛岡市上田 3-18-8
TEL.019-621-6629
FAX.019-621-6999
E-mail. sanriku@iwate-u.ac.jp

平成 28 年 7 月 20 日発行

http://www.iwate-u.ac.jp/koho/newsletter.shtml ◁岩手大学ホームページからもご覧いただけます。

三陸復興・地域創生推進機構の開設にあたって

三陸復興・地域創生推進機構長／
理事（復興・地域創生・男女共同参画担当）・副学長
菅原 悦子

平成28年4月1日、「三陸復興・地域創生推進機構」が新たに発足しましたので、ご挨拶申し上げます。

本学は平成16年度の大学法人化を機に、「岩手の“大地”と“ひと”と共に」を校是と定め、グローカルな視点をもち、地域を先導する大学として歩み始めました。

東日本大震災の発災直後には、「三陸復興推進機構」が設置され「『岩手の復興と再生に』オール岩大パワーを」スローガンに掲げて、震災復興支援活動に取り組んでまいりました。

一方、「地域連携推進機構」は、地（知）の拠点として本学の教育研究成果や知的資産の地域への普及・還元を図ることを目的に、平成16年から12年間に亘り、大学戦略である地域連携を推進してまいりました。

震災から5年以上が経過した現在、三陸沿岸地域はもちろんのこと、岩手県内各地の自治体や企業においても、急速な人口減少や産業衰退など、いまなお多くの解決すべき課題を抱えています。こうした現状を見据えた時に、機構別の活動は非効率で、その成果も限界があります。そこで全学を挙げてスピーディに成果を生み出すために、この度の機構統合を決定致した次第です。

新たな機構は、持続可能な地域社会づくりへの貢献を柱として、新しい地域創生モデル構築に関して県内自治体等へ提言する計画も具体化しつつあります。

本学では再建途上の三陸の復興と、岩手県の「まち・ひと・しごとの創生」、持続可能な豊かな地域社会つくりに貢献する活動を、今後とも積極的に推し進める所存です。

地域の皆様には、本機構の趣旨をご理解いただき、なにとぞご協力とご支援を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

三陸復興・地域創生推進機構とは

●三陸復興・地域創生推進機構の目的

岩手大学では、三陸復興・地域創生推進機構を核として、再建途上の三陸復興と人口減少化にある岩手県のまち・ひと・しごと創生を目的に県内自治体と連携し、岩手発の新たな地方創生モデル構築に取り組みます。

事業の成果については、新たに設置する地域創生専攻（平成 29 年度設置予定）に還元し、地域創生を先導する人材育成を目指していきます。

●三陸復興・地域創生推進機構の特徴

①復興支援活動によって得られた知見や成果のフィードバック
②地（知）の拠点としての教育研究成果や知的資産の地域への普及・還元
③岩手大学が有する知的資産を用いた地域での生涯学習振興
④地域特性を活かした各教育研究部門による専門領域の教育・研究

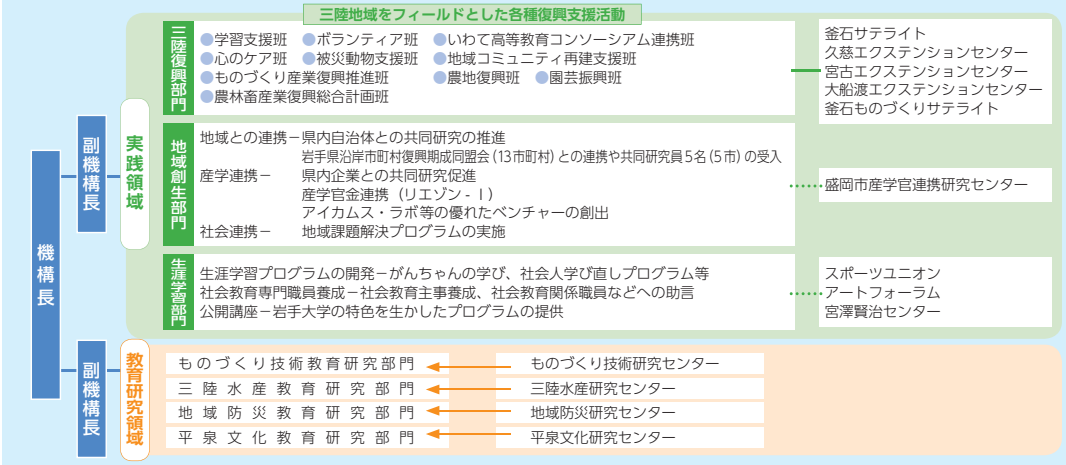
↓

教育研究領域の成果を基礎とし、実践領域での取組や課題解決で導かれた知見を地域創生専攻の教育研究に還元

↓

地域創生型人材の育成

●三陸復興・地域創生推進機構組織図



Topix スターダスト☆レビューから寄附いただきました。

岩手大学は東日本大震災発災後、三陸復興推進機構を立ち上げ、児童生徒への学習支援、地域コミュニティ再建支援、心のケアなど様々な取組を行ってきました。

本学のこのような取組に対して、「夢伝説」、「今夜だけきっと」、「木蘭の涙」などのヒット曲で知られる音楽グループ「スターダスト☆レビュー」から、10,000,000 円の義援金を「岩手大学イーハトーブ基金」にご寄付いただきました。

スターダスト☆レビューは震災直後から、チャリティーライブやファンの皆さんに義援金を呼びかけて継続的に支援活動を行っています。

今回この寄附を受けて、スターダスト☆レビューに感謝状の贈呈を打診したところ、三陸地域の皆さんに歌声を届けたいという申し出があり、6 月 6 日に「陸前高田市コミュニティホール」で「ア・カペラ＆アコースティックフリーライブ『一緒に歌いませんか』」が、開催されました。

スターダスト☆レビューとの集合写真
※岩渕学長（中央手前）

定員 360 名のホールは、陸前高田市や大船渡市など三陸地域の方々を中心に満員となり、スターダスト☆レビューの陸前高田市初となるライブへの期待の高さが表れていました。

ライブが始まるとスターダスト☆レビューの歌と演奏で会場は暖かい空気に包まれ、その紡ぎ出された音色は来場者一人一人の心にしみこんでいき、「音楽の持つ力」を感じたライブとなりました。

終了後の記者会見では、岩渕学長はスターダスト☆レビューとファンの皆さんへの謝意と音楽のパワーのすごさを感じたと述べました。

スターダスト☆レビューのメンバーに感謝状を贈呈する岩渕学長

またスターダスト☆レビューのボーカル根本要さんからは、岩手大学への期待と「防潮堤で海が見えなくなったことが残念ですが、以前よりもすてきな町になることを願っています。」とのエールを頂きました。

岩手大学では、今回の寄付金を活用し、今後も三陸地域の復興支援活動に取り組んで参ります。

感謝状贈呈後、スターダスト☆レビューを代表してボーカルの根本要さん（右端）から挨拶

Topix 地域コミュニティ再建支援の取組が全建賞を受賞しました。

三陸復興部門地域コミュニティ再建支援班の大船渡市災害公営住宅でのコミュニティ形成事業の取り組みが一般社団法人全日本建設技術協会の平成 27 年度全建賞を受賞、6 月 28 日にアルカディア市ヶ谷で表彰式がありました。

このプロジェクトは、岩手大学、大船渡市、独立行政法人都市再生機構岩手震災復興支援本部の 3 機関が連携して取り組んでいるものです。

応急仮設住宅から本設の災害公営住宅へ移転した方々からは、ようやくきれいな住宅へ住めることへの喜びの一方、自立が求められる災害公営住宅への移転に対し、不安に思う声も聞こえてきました。特に「周りの人と話す機会がほとんど無い」など、住民間のコミュニティや地域との関わりが薄いことへの不安の声が多くありました。

そこで岩手大学では、三陸復興部門地域コミュニティ再建支援班の船戸義和特任研究員が中心となり、主に入居者間のコミュニティ形成、自治組織の形成、集会所の利用促進などの取り組みを行いました。

災害公営住宅平（たいら）団地では、最初に入居者同士のコミュニティ形成に注力し、自発的な取り組みを行う中心人物を探しました。さらに中心人物の意欲と楽しみを大切にして、仲間を増やしながら自立した活動が出来るように後押しをしました。その結果、ガーデニングが趣味の入居者が中心となり、費用も自分たちで出し合って住民主体で花壇の整備を行いました。花壇整備は今年も続けられ、現在もコミュニティ形成の重要なツールとなっています。

大船渡市災害公営住宅平団地での花壇整備風景

表彰式（岩手大学 晴山地域連携推進部長、大船渡市 西山都市整備部長、（独）都市再生機構 松本住宅建設チームリーダー）

災害公営住宅入居者のコミュニティ支援に取り組む船戸特任研究員（右）

Topix

いわて銀河プラザにて岩手大学フェア2016を開催しました。

6月28日から6月30日までの3日間、東京都中央区銀座にある岩手県アンテナショップいわて銀河プラザにて「岩手大学フェア2016」を開催しました。

毎年、岩手大学教職員や学生が商品開発に協力し製品化された県内企業商品の販売及びＰＲを行うことで、岩手県及び岩手大学の産学官連携の成果を県外に発信しています。平成23年度以降は東日本大震災からの復興支援イベントと位置付け、被災地域企業の商品も併せて販売しています。

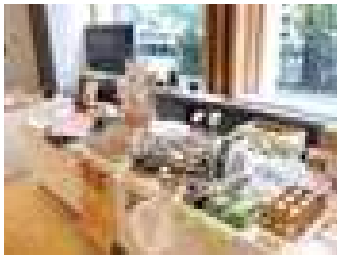
本年度は、三陸復興・地域創生推進機構に所属する県内5市（盛岡市、花巻市、八幡平市、久慈市、釜石市）の共同研究員を中心に、学生等も支えたスタッフが販売とPRを行ってきました。

生憎の雨模様ではありましたが、多くの方々が来場され、学生スタッフの熱心な商品説明に耳を傾けたり、大学が取り組んできた震災復興支援の紹介パネル展示をご覧いただきました。お客様からは「普段はアンテナショップでも購入できない商品があって楽しい」「岩手大学がたくさんの協力をしていることを初めて知った」とのお言葉を頂きました。開催2日目、3日目には、初日に購入した食品のリピータとなってご来場下さった方々もいらっしゃり、完売御礼となる商品もありました。

震災から5年が経過し、復興支援を一過性のもので終わらせないために、復興に取り組む県内企業や岩手大学の今の姿を、岩手県に関心のある方々に改めてアピールすることができました。

産学官連携で商品化された食品をお客様に説明する共同研究員

販売しながら、お客様に岩手県の復興状況を説明しました



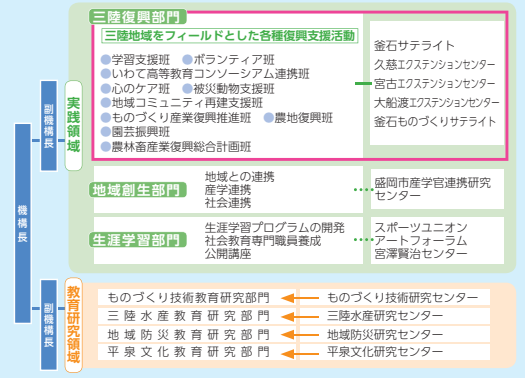
販売した商品の一部

三陸復興部門の紹介

三陸復興部門は、三陸地域をフィールドとして、再建途上にある三陸沿岸のまちづくり、ひとづくり、しごとづくりに主体的に取り組む「実践領域」の一部門です。

具体的には、❶学習支援班、❷いわて高等教育コンソーシアム連携班、❸ボランティア班、❹心のケア班、❺被災動物支援班、❻地域コミュニティ再建支援班、❼ものづくり産業復興支援班、❽農地復興班、❾園芸振興班、❿農林畜産業復興総合計画班の10班から構成されています。

●三陸復興・地域創生推進機構組織図



班名	主な取り組み内容
学習支援班	●長期休業中の児童への学校施設開放支援　●小中学生の交流事業
いわて高等教育コンソーシアム連携班	●地域リーダー育成プログラムの充実と発展
ボランティア班	●学生団体が主体的に行うボランティア活動に対する各種サポート
心のケア班	●釜石サテライトにおける心の相談ルームの運営 ●被災地における心のケアに関する市民講座の開催
被災動物支援班	●動物移動診療車による被災動物の診療 ●被災地の臨床獣医師向け「高度獣医診療セミナー」の開催
地域コミュニティ再建支援班	●地域コミュニティの実態調査及び地域コミュニティ再建への計画支援 ●拡大コミュニティ形成に向けた実態調査及び活動支援
ものづくり産業復興支援班	●3D CAD CAM 研修の実施・新製品研究会の支援
農地復興班	●陸前高田市小友町水田の土壌と用排水の栄養塩濃度の定期観測及び土壌環境のリモートセンシング
園芸振興班	●三陸ブランド野菜品目の作型・栽培技術の開発・導入と経営評価による生産支援
農林畜産業復興総合計画班	●自然資源を活用した産業振興と地域の活性化 ●自然保護を基盤とした災害リスクの削減とグリーン復興

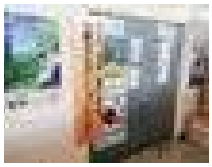
Report 久慈エクステンションセンターだより

●エクステンションセンターを引き続きよろしくお願い致します

平成 28 年度末までの三陸復興推進機構下と同じく、久慈、宮古、大船渡に拠点を置き、各担当者も変わりなく活動しています。

三陸復興推進機構では、主に担当地域における各企業や団体等の連携ニーズや課題収集とその相談対応等で地域と大学をつなぐコーディネート活動を行い、さらに機構の全 6 部門が沿岸各地で取り組んできた活動の調整や企画を業務としてきました。

今年度からは、企業や事業者と実施してきた共同研究案件の進展や新規開始に向けた相談と調整を主業務としつつ、地域連携推進機構との機構統合により、これまでの担当地域外も含めた各機関との連携・協同の活動を一層強化して参りますので、どうぞよろしくお願い致します。



各エクステンションセンター表札の機構名称を変更しました

●まだまだあります!久慈地域の魅力紹介

これまでの三陸復興レターでも久慈地域の魅力や見どころをご紹介してきましたが、今号では久慈市北隣の洋野町大野地区をご紹介します。こちらは旧大野村時代から「一人一芸の里」を掲げて人づくり作りと地場振興に取り組んでおり、それらを一箇所に集約して大野の魅力に触れられる施設「おおのキャンパス」が国道 395 号（通称・九戸街道）沿いにあります。季節毎に様々なイベントが開催される交流拠点施設でもあります。

基幹産業である酪農を紹介する模範牧場に、掘り出し物満載の産直施設、そば打ちや木工･陶芸の体験工房、さらにパークゴルフ場や飲食･入浴・宿泊施設など、実に 18 もの施設で構成されています。

国道 395 号は軽米～久慈間を結ぶ幹線道路で、八戸道軽米 IC にも接続しており、おおのキャンパスへのアクセスは比較的容易ですので、県北への行楽やヘルスツーリズム先としても最適です。

私のイチオシは、おおのキャンパスを構成する模範牧場の高台にある、ひろのまきば天文台からの眺望です。企業訪問時に通る場所なのですが、新緑の晴天時には牧草の鮮やかなグリーンと丘に吹く冷風も相まって、胸がスッと!する心地良さがあります。北方角には気軽にトレッキングできる久慈平岳（標高 706m）があり、ツツジが咲く時季には、天文台からでも大群落で赤く色付いた山の様子を見ることができます。

県北へお越しの際は、ぜひおおのキャンパスにお立ち寄りください！

まきば展望台は毎週金、土、日の 13 時～ 21 時に開館

山あいの大野地区なので予想外でしたが、一帯は三陸ジオパークのジオサイトになっています

連絡先／久慈エクステンションセンター
〒 028 － 8030　岩手県久慈市川崎町 1 番 1 号　久慈市役所（2 階）
【政策推進課内】TEL：090-2953-2519　E-mail：kujiext@iwate-u.ac.jp

Information

「少年少女のためのバスケットボール」 7/27(水)～7/29(金)

バスケットボールを愛し学びたい少年少女に、レベル・目的に応じたプログラムを用意し、バスケットボールを楽しんでもらいます。

●会場／岩手大学第二体育館 ●時間／ 17:00 ～ 18:00・2 日目以降 16:00 ～ 18:00
●対象／小学生 4 ～ 6 年（男女）●募集人数／ 30 人
●講習料／ 300 円（但し、傷害保険料を含む）

「地域政策入門 ～まちづくりを考える～」 7/30(土)

本学人文社会科学部では、平成 28 年度に法・経済・環境の視点から継続可能な社会づくりのための課題に取り組み、地域社会に貢献できる人材の育成を目的とする地域政策課程を設置しました。本課程は、これまでの法学・経済課程と環境科学課程の教育を統合し、地域マネジメント、地域創生をキーワードとする教育・研究を行っていきます。本公開講座は、高校生・一般市民を対象に、新設した地域政策課程での教育内容の一端を紹介し、広くこの課程を知っていただくことを目的として開催します。本年度は「まちづくりを考える」をテーマとして、法学（政治学）･経済学･環境学の 3 分野から話題を提供します。

●会場／岩手大学図書館 2 階　生涯学習・多目的学習室　●時間／ 13:00 ～ 16:00
●対象／高校生（主対象）・一般市民　●募集人数／ 50 人　●講習料／無料

釜石公開講座「地域を支える防災技術･環境技術」 8/6(土)

東日本大震災から 5 年が経ち、東北地方太平洋沿岸地域のインフラも少しずつ整備され、新しい道路や防潮堤、生活基盤となるまちが形成されてきています。まちは新しくなっても震災が教えてくれたことを忘れてはなりません。震災以降、地球温暖化が原因ともささやかれている異常気象により、多くの自然災害が各地で起こっています。震災から 5 年の節目に当たり、自然災害に対する防災意識や自然環境問題への意識を再確認し、これから起こりうる自然災害に対してどのように対応するかについて、震災以降私たちが行ってきた防災および自然環境保全への取組を紹介し、地域を支える防災技術と環境技術についてわかりやすく説明 します。

●会場／釜石市教育センター　●時間／ 13:00 ～ 17:00
●対象／高校生・一般市民　●募集人数／ 30 人　●講習料／無料

「哲学者内山節氏を迎えての第11回≪哲学の森≫」 8/20(土)～8/21(日)

哲学者　内山　節　氏をお迎えし、森の中でこれからの社会や地域づくりのあり方などについて学ぶ場を設けることといたしました。今回は、講演を聞くだけではなく、意見交換の機会を設け、様々に考える場を提供していきたいと思います。

●会場／農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター滝沢演習林
●時間／【土】13:30 ～ 17:00【日】8:30 ～ 12:00
●対象／一般市民（高校生以上）　●募集人数／ 30 人　●講習料／無料

「牧場体験 子牛の誕生＆トラクタに乗ろう」 9/17(土)～9/18(日)

岩手大学御明神牧場にて、牛の分娩観察、農業機械の体験を通じて、農業への理解を深めてもらいます。

●会場／農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター御明神牧場
●時間／ 9 月 17 日（土）13：00 ～ 18（日）13：30
●対象／親子（子は小学生以上）●募集人数／ 10 組又は 25 名
●講習料／ 1,100 円　（食事代 1,000 円、傷害保険料 100 円）

「フィールドセミナー ～秋の植物観察会～」 10/2(日)

滝沢演習林敷地内で、樹木観察や不伐の森等の散策を通じて秋の森の様子を観察し、理解を深めてもらいます。

●会場／農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター滝沢演習林
●時間／ 10:00 ～ 12:30 ●対象／一般市民　●募集人数／ 15 人●講習料／無料

▼全ての公開講座の問い合わせ先は下記のとおりです
地域連携・COC 推進課（土日祝日除く 9:00 ～ 17:00）
TEL:019-621-6492 ／ FAX:019-621-6493 ／ E-mail:renkei@iwate-u.ac.jp

「岩手大学シニアカレッジ 2016」 9/7(水)～9/13(火)

岩手大学シニアカレッジは、岩手大学と岩手県内の自治体や各地域の方々が連携して実施する滞在型生涯学習プログラムです。大学構内の専用教室での講義やフィールドワークなどを通じて、受講生同士の交流、地元、学生たちとの出会いの場ともなります。

今回のテーマは、『宮沢賢治生誕 120 年』です。皆様もよくご存じの賢治さんは、1896 年（明治 29 年）8 月 27 日、岩手県稗貫郡里川口村（今の花巻市豊沢町）に生まれ、その生涯の中で詩集『春と修羅』や童話『注文の多い料理店』や『銀河鉄道の夜』など、数多くの作品を世に残しました。また、賢治さんは、岩手山や早池峰山などへの登山や地質調査などで県内各地を訪れていて、その地をテーマとした作品も数多く残されていますし、県内の各地にも作品にちなんだ碑が建てられています。

シニアカレッジ 2016 では、賢治作品にゆかりの地を実際に訪れ、その原風景を感じていただくとともに改めて賢治作品を現地で味わっていただきたいと思います。

今回は、特にこれまでとは違った岩手の魅力に触れられ、皆様の向学心をきっと満足していただけるものと確信しております。「イーハトーヴの学舎　岩手大学キャンパス」で皆様をお待ちしております。

●会場／岩手大学図書館 2 階　生涯学習・多目的学習室
※ 1 泊 2 日のフィールドワークがあります（花巻市）
●対象／学習意欲をお持ちの方（年齢制限､入学試験ともありません）
●募集人数／ 30 人●講習料／ 70,000 円（1 泊 1 食込み）

詳細はこちらからご覧ください。

Together with Iwate and its people

岩手大学三陸復興・地域創生推進機構レター

いわての“大地”と“ひと”と共に

VOL. 2 NEWS LETTER

http://www.iwate-u.ac.jp/koho/newsletter.shtml ◁岩手大学ホームページからもご覧いただけます。

国立大学法人 岩手大学
地域連携推進部
地域創生推進課
〒020-8550
岩手県盛岡市上田 3-18-8
TEL.019-621-6629
FAX.019-621-6999
E-mail.sanriku@iwate-u.ac.jp

平成 28 年 9 月 30 日発行

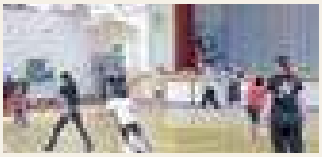
学習支援班「唐丹小学校における長期休業期間中の学校開放ボランティア」

唐丹小学校の校舎と校庭
新校舎を建設中のため重機や工事用の看板が目に入ります。

釜石市立唐丹小学校は、東日本大震災で校舎が津波の被害に遭い、現在は場所を移し、震災から5年を経過した今もプレハブの校舎で児童たちは学んでいます。新校舎を敷地内に建設中ですが、校庭の面積も少なく、体育館は隣接する中学校と共用しており、仮設住宅で生活している児童もいるため、体を動かしたり遊んだりする活動に制限がかかっています。このような状況から釜石市教育委員会の依頼を受け、岩手大学では今まで学生達が夏休みや冬休みの長期休業中に開放された体育館で児童達と遊ぶ活動等に取り組んできました。

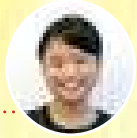
今夏も活動を行い、最終日の8月9日は、岩手大学からは6名が参加し、筑波大学から来ていた学生とともに、児童がやりたいことを優先して、一緒に遊びました。活動時間は2時間でしたが、ドッジボールやバスケットボール、バドミントン、フラフープ等さまざまな遊びを目一杯楽しみました。今回は教育学部の卒業生も参加し、小学校1年生の時から見てきて「先生になって来てね」と言葉をかけてもらった児童と再会を喜び合い、教員になったことの報告と感謝の気持ちを伝えていました。

暑い日でしたが、児童達はそれも吹き飛ばす位、元気に動いていました。子どもたちと触れ合い、「楽しかった」、「冬休みも来て」という児童からの言葉に、学生たちもパワーをもらった一日となりました。子どもたちの夏休みの楽しい思い出の1つになってくれたらと願っています。



ドッジボールが大人気

卒業生からメッセージ



及川 光代さん

教育学部OG。在学中は、唐丹小をはじめ大槌町立大槌学園等で子ども支援にあたる。現在は、岩手県内の小学校で教師として勤務。

私は大学 2 年生から活動に参加しています。私にとって小学生と接することがこの活動の最大の魅力です。子どもと接することで教員になりたいという思いがより強いものになり、試験勉強に励むエネルギーを貰いました。今、私が教員になることができたのは、この活動があったおかげであると感じています。また、被災地の学校の現状を知ることができたことも私の収穫の一つです。同じ岩手県に住んでいても、行ってみなければ知らないことが沢山ありました。この活動ではむしろ私が唐丹の子どもたちからエネルギーを貰っていますが、被災地の為に出来ることをしていきたいです。

最後に、岩大生のみなさんへ。講義を受けるだけではなく、積極的に体験をして下さい。特に教員を志す方にとって、子どもと接する機会はそうそうありません。チャンスだと思い参加して下さい。

最後は皆でピース

釜石市教育委員会からメッセージ

瀬戸　亮さん

釜石市教育委員会事務局
生涯学習文化課
　主任兼社会教育主事

まずもって、学生や OB の皆さん、三陸復興・地域創生推進機構の皆さん、此度もまた当市の子どもたちのため、楽しく有意義な時間を届けてくださり本当にありがとうございました。安心安全な環境で子どもたちが大声を出し、自由に走り回り、開放的な気持ちで遊ぶことのできる場づくりが求められていますが、皆さんのご支援があったからこそ実現したものです。また、子どもたちのあの笑顔、生き生きとした姿が見られたことが、何物にも代え難いこの活動の効用であると捉えています。

学生等の皆さん、子どもたちのあのパワフルな言動に驚かれたかもしれませんが、引き出したのは皆さんです。どうぞこの活動を契機に尚の自信と誇りを持ち、教育活動に関わらず、また、机上では紡ぐことのできない人と人とのつながりやそこから生まれる有意性を大切に、今後とも充実した生活をおくることを期待しています。
（子どもたちは皆さんのことを覚えています!また来てくださいね。）

生涯学習部門「シニアカレッジ」

９月７日から13日までの７日間「岩手大学シニアカレッジ 2016」が開催されました。今年も岩手県内外から28名のご参加をいただきました。参加者の８割以上は東京よりも西側に在住している方で遠くは福岡県からもご参加いただきました。

○そもそも岩手大学シニアカレッジとは？

岩手大学と岩手県内の自治体や各地域の方々が連携して実施する滞在型生涯学習プログラムです。
「学びたい」という動機があれば、どなたでも参加できます。もちろん年齢制限や入学試験もありません。

大学構内の専用教室での講義やフィールドワークなどを通じて、受講生同士の交流、地元、学生たちとの出会いの場ともなります。

○今回のテーマは「宮澤賢治生誕 120 年」。

2007 年の開講から 10 回目の節目を迎える今回のシニアカレッジは、岩手大学の前身である盛岡高等農林学校の卒業生である「宮澤賢治」をテーマとしました。くしくも今年は宮澤賢治生誕 120 年目にあたる年でもあります。

今年のカレッジは岩渕学長の「岩手大学が目指すもの」と題した講義から始まり、宮澤賢治を題材とした講義はもちろんのこと、人文社会科学部、教育学部、理工学部、農学部、平泉文化研究センター、三陸復興地域創生推進機構の教員がそれぞれの専門分野に関する講義を行い、７日間で計 14 の講義が行われました。講義では、遠野物語の生みの親である佐々木喜善や世界遺産「平泉」、全国有数の産出額を誇るニワトリに由来する課題研究といった岩手にゆかりの深い講義だけでなく、ものづくり産業を支える工作機械（マザーマシン）の最新研究や超高齢化社会を目前に控えて顕在化してきた高齢者の貧困や社会的孤立といった課題に対しての生涯学習的視点からの講義など、最先端の研究成果に触れる機会となりました。また、宮澤賢治の弟である清六さんのお孫さんにあたる宮澤和樹さんをお招きして「祖父、清六に聞いた兄・賢治」と題した講演もしていただき、普段では知ることができない宮澤賢治の別の一面を垣間見ることができました。

「岩手大学が目指すもの」と題した講義（岩渕学長）

フィールドワークでは、童話「銀河鉄道の夜」の始発駅のモデルとなった東和町にある「土沢駅」や賢治が歩いた峠道「五輪峠」、賢治が実際宿泊したという人首町にある「菊慶旅館」など「宮澤賢治作品ゆかりの地」を訪れました。宮澤賢治が生み出した数々の作品、その起源となる風景を見て歩くことで、賢治の世界に酔いしれることができました。

フィールドワークで訪れた五輪峠にある「五輪塔」

１週間のシニアカレッジを終え、参加者からは「中身の濃い講義で満足の７日間でした」、「今回の宮澤賢治さんの見ていた風景を追体験できたことは新鮮でした」、「この目で岩手大学と岩手県内の自然をみることができ大変良い機会だったと喜んでいます」などの声をいただきました。

シニアカレッジ 10 周年記念ポロシャツを着て集合写真撮影

台風10号被災地へのボランティア活動

8月30日から31日にかけて岩手県を直撃した台風10号により、河川決壊や土砂災害など三陸沿岸の各地域では甚大な被害が発生しました。

岩手大学は、久慈、宮古、大船渡市の各エクステンションセンターと釜石サテライトのコーディネーターが各自治体の支援ニーズを確認し、東日本大震災発災時に取り組んだボランティアのノウハウを基に、各被災地で9月3日（土）からボランティア活動に取り組んでいます。

通行止めだった国道、県道が開通するにつれ、市外・県外からボランティアが集まっていますが、山間部での高齢者世帯からのボランティアニーズは多く、長期的なボランティアが望まれています。

岩手大学では、「『岩手の復興と再生に』オール岩大パワーを」をスローガンに、これからも継続してボランティア活動に取り組んでまいります。

浄土ヶ浜の流木撤去作業（宮古市）

ボランティア状況（平成28年9月21日時点）

自治体名	活動日	主な内容	延べ参加者数
久慈市	9月3日(土)、4日(日)、10日(土)、11日(日)、15日(木)、16日(金)	住宅及び周辺の泥上げ、家屋の清掃、家財の搬出	288名
宮古市	9月3日(土)、4日(日)、10日(土)、11日(日)		
岩泉町	9月20日(火)、21日(水)		

※このボランティア活動は、音楽グループ「スターダスト☆レビュー」からの寄附をうけて取り組んでいます。

浄土ヶ浜レストハウスの流木撤去作業（宮古市）

庭先の泥上げ作業①（久慈市）

庭先の泥上げ作業②（久慈市）

地域創生部門の紹介

地域創生部門は、技術相談、共同研究の申込みなど、地域の様々な課題の解決を支援する大学の窓口を担っている一部門です。

地域創生部門では、専任教員１名とともに、県内 11 市との相互友好協定を基に、県内５市（久慈市、八幡平市、盛岡市、花巻市、釜石市）の市役所の職員が常駐して、地域の企業や行政の課題を岩手大学とつなぐ活動を進めています。いつでも気軽にご相談いただければと思います。

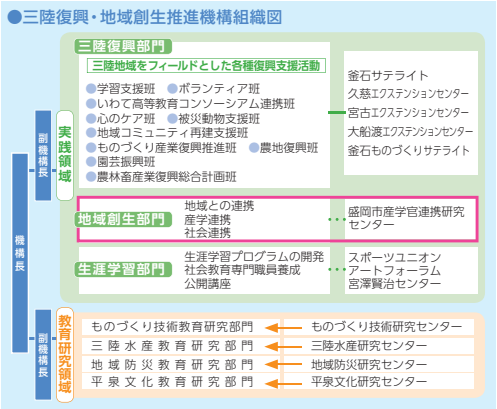
また、岩手銀行、北日本銀行等の金融機関、および岩手県立大学、岩手医科大学、一関高専、東北農業研究センター、岩手県工業技術センター、岩手生物工学研究センターなどと連携し、岩手産学連携推進協議会（リエゾン-I）を運営しています。リエゾン-I では、毎年研究シーズと企業ニーズのマッチングを行うマッチングフェアを開催し、地域企業と岩手大学の共同研究の推進を図っています。

より本格的な共同研究や、事業化のための研究を行う場所が、理工学部の西端にある盛岡市産学官連携研究センター（コラボミウ）です。コラボミウは盛岡市が岩手大学の敷地内に建設した大学発ベンチャー企業等を育成するための施設です。当部門ではこの施設の管理運営も行っています。現在大学発ベンチャー企業４社、県内企業４社、県外企業８社が入居しています。

大学や企業の研究のわかりやすい話を聞く MIU Caf'e というイベントも 1、2ヶ月に 1 回程度開催していますので、是非ご参加ください。

MIU Caf'e の様子

●三陸復興・地域創生推進機構組織図



共同研究員だより 釜石市

釜石市産業振興部企業立地課
井上 諭宜

岩手大学と釜石市

岩手大学と釜石市は、平成13年に相互友好協力協定を結びました。釜石市は、県内自治体として、最初の相互友好協力協定締結自治体であることから、共同研究員だよりの初回を担当させていただくことになりました。

共同研究員とは

釜石地域に関わる産学官連携活動や、東日本大震災からの復興に係る各種協同のコーディネートを行っています。市内の地域・企業・団体・公的機関を巡り、抱えている諸課題について把握します。そして、岩手大学の先生や各機関専門家とのマッチングを行い、解決や共同研究へと結びつける活動を行っています。地域が持つ多面的な特性がそのまま共同研究員のフィールドとなるため、関わる分野は農林水産、ものづくり、食品、教育、観光、スポーツ等と多岐に及びます。

これからについて

先日、水産加工会社と柿生産者の共同開発によるお弁当「釜石柿の葉すし」が販売開始されました。また、岩手大学から助言・指導を頂いたことを契機に、船体等に使われるFRP（繊維強化プラスチック）素材を用いた劣化しにくい津波避難階段の設計・試作の取り組みも始まります。今後も、釜石市と岩手大学の取り組みに是非ご注目ください。

釜石市内の現在の金属製の避難路の様子

柿の葉すし（さば・さんま）の見本

一枚の写真から

写真は、東京都にある岩手県アンテナショップいわて銀河プラザにて6月に開催した「岩手大学フェア2016」出品商品の一部です。「甲子柿ドレッシング」や「柿酢サイダー」については、これから旬を迎える釜石甲子地域特産品である甲子柿の栄養機能成分分析とその加工方法について岩手大学と連携しています。中央には岩手大学との共同研究で風味を保ったまま賞味期限をのばした生蕎麦製品「いわて南部地粉そば」があり、釜石湾漁協白浜浦支所女性部の新商品「わかめの芯ちゃん」は釜石サテライトから販売促進などの支援を受けて開発されました。このように釜石には大学と所縁のある商品が誕生しています。

「岩手大学フェア 2016」
釜石市関連商品の一部

Information

「フィールドセミナー －ウォッチングビンゴをしながら親子で楽しむ秋の森－」

11/13(日)

滝沢演習林でウオッチングビンゴをしながら森の樹木、草木、虫、鳥などを観察するセミナーを開催し、秋の森の様子、生き物の姿について理解を深めてもらいます。

- 会場／農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター 滝沢演習林
- 時間／9:30 ～ 12:30
- 対象／市民一般・親子
- 募集人数／20 人
- 講習料／無料

「牧場機械体験」

11/23(水・祝日)

農業機械の運転体験等を通じ、農業への理解を深めてもらいます。

- 会場／農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター 御明神総合施設
- 時間／8:30 ～ 13:30
- 対象／親子（子は小学生以上）
- 募集人数／10 組または 25 名
- 講習料／500 円（傷害保険料 100 円・昼食代 400 円）

▼上記の公開講座の問い合わせ先は下記のとおりです
地域連携・COC 推進課（土日祝日除く 9:00 ～ 17:00）
TEL:019-621-6492 ／ FAX:019-621-6493
E-mail: renkei@iwate-u.ac.jp

「岩手大学三陸復興・地域創生推進機構発足記念シンポジウム」

11/25(金)

岩手大学は東日本大震災以降、被災県にある国立大学として地域の復興推進・支援の役割を果たすことを使命としてきました。
第三期中期目標期間においても、復興支援活動の継続などにより「地域を先導する」大学を目指し、三陸復興事業及び地域連携事業を長期的に継承する体制として、平成28年4月に「三陸復興・地域創生推進機構」を設置しました。
この機構は、再建途上の三陸の復興と人口減少化にある岩手県のまち・ひと・しごとの創生を目指し、人口減少と産業衰退が予想される岩手県における地域創生モデルの構築、自治体等への提言などに向けた連携を進めることにより、地域の持続的発展に貢献することを目的としています。
「三陸復興・地域創生推進機構」発足に際し、下記のとおり記念シンポジウムを開催します。

- 日時／平成 28 年 11 月 25 日（金）　14 時 30 分～ 17 時（受付：14 時）
- 会場／岩手大学復興祈念銀河ホール
- 次第：挨拶　岩手大学長　岩渕明
  三陸復興・地域創生推進機構の説明
  岩手大学理事・副学長　菅原悦子
  特別講演Ⅰ　文部科学省科学技術・学術政策局
  産業連携・地域支援課長　坂本修一氏
  特別講演Ⅱ　遠野市長　本田敏秋氏
  記念祝賀会（会費制）
- 対象／一般市民

▼問い合わせ先
地域創生推進課（土日祝日除く 9:00 ～ 17:00）
TEL: 019-621-6629/　FAX: 019-621-6999

Together with Iwate and its people

岩手大学三陸復興・地域創生推進機構レター

いわての“大地”と“ひと”と共に

VOL. 3 NEWS LETTER

http://www.iwate-u.ac.jp/koho/newsletter.shtml ◁岩手大学ホームページからもご覧いただけます。

国立大学法人 岩手大学
地域連携推進部
地域創生推進課
〒020-8550
岩手県盛岡市上田 3-18-8
TEL.019-621-6629
FAX.019-621-6999
E-mail. sanriku@iwate-u.ac.jp

平成 28 年 12 月 26 日発行

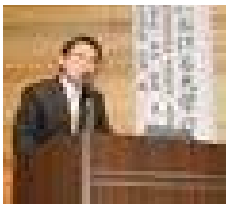
三陸復興・地域創生推進機構発足記念シンポジウム開催

岩手大学では、11月25日に復興祈念銀河ホールを会場に三陸復興・地域創生推進機構発足記念シンポジウムを開催しました。

シンポジウムでは岩渕明学長による主催者挨拶の後、三陸復興・地域創生推進機構長を兼ねる菅原悦子復興・地域創生担当理事から、岩手大学の機能強化における震災復興・地域創生の位置づけ、更に新たに設置した機構の役割や特徴などの概要説明がありました。

三陸復興・地域創生推進機構の概要説明を行う菅原理事

次いで、文部科学省科学技術・学術政策局 坂本修一産業連携・地域支援課長から「文部科学省のイノベーション政策展開の方向性」と題した特別講演があり、オープンイノベーションに求められる大学の役割やオープンイノベーション加速に向けた産学共創モデルの考え方などが紹介されました。



文部科学省科学技術・学術政策局
坂本産業連携・地域支援課長の講演

また官の立場から、本田敏秋遠野市長が「『遠野スタイル』によるまちづくり2016」と題して、人口減少のなか、国や県などに頼らず基礎自治体として出来ることに挑戦し続ける「遠野スタイル」の基本理念や個別の事例紹介、さらに岩手大学への期待が述べられました。

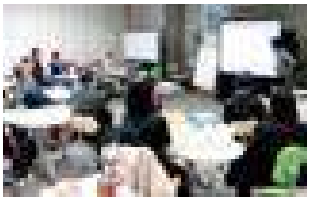
本田遠野市長の講演

坂本産業連携・地域支援課長、本田遠野市長、岩渕学長の3名による「地域創生における大学の役割」をテーマとした鼎談では、地域を先導する人材やリーダーシップの重要性、地域の社会システムを変えるイノベーションの必要性、地域を変革するための大学の役割について忌憚のない意見が交わされ、地域創生における大学の重要性が再認識されました。

岩渕学長（右）、坂本産業連携・地域支援課長（中央）、
本田遠野市長（左）による鼎談

がんぷくカフェを開催しています

岩手大学三陸復興・地域創生推進機構では、復興について考える「岩大×ふっこうカフェ（通称:がんぷくカフェ）」を10月から定期開催しています。

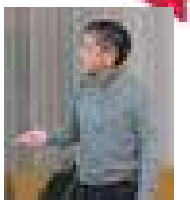


がんぷくカフェ風景

11月1日に開催した第2回目のがんぷくカフェでは、地域コミュニティ再建支援班の一員として震災直後から、陸前高田市を拠点に活動している人文社会科学部の五味壮平教授を話題提供者に迎え、「災害後、大学&大学生にできることってなんだろう」をテーマに参加者と一緒に復興について考えました。

五味教授は話題提供で、これまでの取り組みを紹介すると共に、この活動は、ボランティアや支援というよりも陸前高田市を訪れる度に、色々な魅力に触れることが出来る「伴奏的主体の取組」であると話されました。

陸前高田市出身の参加者からは、五味教授が震災から今まで継続して取り組んできた活動に対して謝辞が述べられると共に、「五味教授が発行したフリーペーパーが地元の方々の安否確認を出来る貴重な情報源となった。また地元の人々は、外部の人だから話しやすいこともある」、「これだけずっと見守ってくれて心強い。故郷を亡くしたという喪失感があったが、今回参加し、気持ちが軽くなった」などの感想が聞かれました。



話題提供者の五味教授

また学生からは、「東北以外の出身であるが、授業などで折に触れて、先生方が被災地で取り組んでいる活動が話される。またこのような機会があるのは被災地にある大学ならでは。今後も復興について考えていきたい」などの意見も出ました。

第4回目のがんぷくカフェは、震災復興の語りや根浜海岸の再生等に尽力されている釜石市の旅館「宝来館」の女将である岩崎昭子氏を話題提供者としてお招きする予定です。ご興味ある方は是非ご参加下さい。

次回告知

がんぷくカフェvol.4

日　時／平成29年1月10日(火)18:00～19:00(受付17:30)
場　所／盛岡市産学官連携研究センター(コラボMIU)1階
参加費／100円(お茶代)学生は無料
申込先／岩手大学地域創生推進課
TEL:019-621-6629／MAIL:sanriku@iwate-u.ac.jp

台風10号緊急報告会を開催しました

8月31日に発生した台風10号は、気象庁が統計を開始して以来、初めて東北地方太平洋側に上陸し、県や市町村が管理する道路や河川などの土木施設が約2,800カ所で損壊しました。住宅の被害では全壊が379棟、半壊が2,094棟、一部損壊や床上、床下浸水を含めると4,000棟以上が被害に遭いました。

経済面でも被害総額が約1,394億円に達し、東日本大震災をのぞくと、岩手県の災害による被害額としては過去最大のものです。

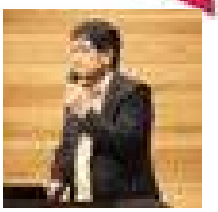
岩手大学では、台風10号直後の9月3日（土）から毎週末、被害の大きかった久慈市、宮古市、岩泉町にボランティアバスを17回運行させ、学生中心に延べ411名のボランティアがドロ上げや被災家財の運搬などの活動を行いました。

また、地域防災研究センターでは、久慈市、宮古市、岩泉町に入り、河川の水害調査、流木被害、土石流及び土砂災害の実態調査に取り組んでいます。

台風10号から一ヶ月半を経過した10月15日にそれまでの調査結果を基に、一般市民を始め防災関係者、行政関係者、教育関係者を対象とした台風10号災害緊急調査報告会を開催しました。

岩渕学長の挨拶

報告会では、岩渕学長の挨拶後に、南地域防災研究センター長から東日本大震災を踏まえて取り組んできた地域防災の各種活動を紹介すると共に、地域防災研究センターの各教員から「台風10号による岩手県の被害概要及び岩泉町小本川の水害調査報告」、「台風10号による久慈川水系を中心とした流木被害」、「台風10号による土石流の調査」、「台風10号により岩泉町及び宮古市における土砂災害の実態調査」、「台風10号による岩泉町の被害状況と今後の課題」と題した報告を行いました。


南地域防災研究センター長から各種取組の報告

地域防災研究センター兼務教員である井良沢農学部教授からの報告

参加者からは、流木被害や土石流被害の発生メカニズムに関して熱心な質問が出されると共に、地域全体で防災を考える必要や地域における防災リーダーの育成の必要性などについて意見交換がなされました。

本学では東日本大震災の支援活動で得た経験を踏まえて、地域防災研究センターを核とする岩泉支援チームを設置し、台風10号の被害の大きかった岩泉町の防災教育やコミュニティ支援に取り組んでいきます。

もみ殻培地セミナーを開催しました

三陸復興部門園芸振興班では、東日本大震災後、三陸沿岸の夏の涼しさを生かした園芸産地づくりを目指し、経験の浅い者でも取り組める園芸作物の導入や栽培技術の提供を行うと共に、ブランド化と収益性が期待される野菜品目としてクッキングトマトや夏秋どりイチゴ、ミニカリフラワーに着目し、現地での栽培普及活動を展開しています。

特に初心者でも夏秋どりイチゴの栽培に取り組めるように、生もみ殻と土を混合し、これに肥効調節型の肥料と炭を加えたもみ殻培地と不織布を使った高設栽培装置を開発。この培地や栽培装置が、県内の農家で冬春どりイチゴやトマト、葉菜類の栽培にも使われるようになり、今後もみ殻培地の導入を考えている農業関係者や既に取り組んでいる農家を対象に、11月9日にもみ殻培地セミナーを開催しました。

セミナーでは、最初に「もみ殻培地」開発者の明治大学農学部の小沢特任教授から、もみ殻培地の「安価、軽量、簡単」であるという特性、もみ殻培地で生育された水田トマト、キュウリの事例などが紹介されました。

園芸振興班長である農学部・松嶋准教授から、もみ殻培地での灌水や施肥のタイミングなどについて説明が行われました。

最後に「もみ殻培地の長所・短所」をテーマに、県内で、もみ殻培地を使って夏秋どりイチゴやクッキングトマトに取り組んでいる4名の農業者から、事例報告があり、もみ殻培地の適切な利用方法について意見交換がなされました。

もみ殻培地でトマトを育成している営農者の報告

また、セミナー前には学内の圃場で、もみ殻培地高設栽培装置の見学を行い、参加者からは、もみ殻培地の利用可能期間や肥料の種類などについて熱心に質問が出されました。もみ殻培地は、他の培地に比較し、5分の1程度の比重なので、農作業の軽減化につながると期待されています。

三陸復興・地域創生推進機構では、今後もこのようなセミナーを開催し、もみ殻培地や高設栽培技術の普及に努めていきます。

もみ殻培地高設栽培装置を説明する岡田客員教授

ものづくり技術研究センター看板除幕式・特別講演会を開催

ものづくり技術教育研究部門を担うものづくり技術研究センターは、12 月 1 日に看板除幕式と特別講演会を開催しました。

看板除幕式では、冒頭、岩渕学長が今年 4 月に工学部附属研究施設から全学センター化した経緯や今後に対する期待などについて述べるとともに、平塚ものづくり技術研究センター長と一緒に看板除幕を行いました。

新たな看板は、ものづくり技術研究センター内の鋳造技術研究センターと連携している水沢鋳物工業協同組合が製作したもので、まさにものづくり技術研究センターに相応しい看板となりました。

除幕式後の特別講演会では、工学部の卒業生である室蘭工業大学の桃野正名誉教授から「鉄の記念日−岩手の鉄文化とたたら製鉄−」と題した基調講演が行われ、たたら製鉄の歴史や岩手出身で近代製鉄の父といわれた大島高任について講話いただきました。

さらに特別講演では、株式会社水沢鋳工所の田村直人氏から、「“南部鉄器　極め羽釜”の製造秘話」と題して、象印マホービン株式会社の依頼で製作した高級圧力 IH 炊飯ジャー「南部鉄器 極め羽釜」の羽釜（内釜）の完成までの秘話をお話しいただきました。試行錯誤の末、完成した「南部鉄器 極め羽釜」は、お米が大粒でふっくら炊きあがるということで平成 25 年度ものづくり日本大賞特別賞を受賞しています。

最後に、ものづくり技術研究センターの 3 センター（金型技術研究センター、鋳造技術研究センター、生産技術研究センター）と釜石ものづくりサテライトの取り組みと今後の展望について、それぞれのセンター長と班長が報告しました。

看板除幕式と特別講演会の開催日である 12 月 1 日は安政 4 年(1857)、釜石市に日本で最初の洋式高炉が造られ、初めて火が入れられた日であり、これを記念して「鉄の記念日」に制定されています。ものづくり技術研究センターは、地域にとって、ものづくり分野における灯火となるようなセンターを目指していきます。

看板除幕式（岩渕学長（左）と
平塚ものづくり技術研究センター長（右））

桃野室蘭工業大学名誉教授の基調講演

（株）水沢鋳工所の田村直人氏の特別講演

三陸復興・地域創生推進機構首都圏向け報告会を開催

岩手大学の取組を紹介する岩渕学長

12 月 11 日に水産分野で連携している東京海洋大学の品川キャンパスを会場に「岩手大学の新たな挑戦−岩手の“大地”と“ひと”と共に−」と題した首都圏向け報告会を開催しました。

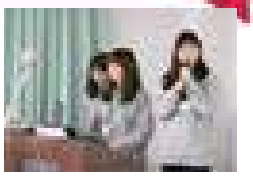
東日本大震災から 5 年 9 ヶ月が経過し、震災の記憶が風化する首都圏において、三陸復興・地域創生推進機構として復興状況や現在の課題を幅広く紹介する初めての報告会です。

当日は、同窓生や三陸地域出身の首都圏在住者、被災地で復興支援活動に携わった方など多数ご来場頂きました。

岩渕学長が震災復興・地域創生に向けた取組や次世代を担う人材の育成の取組などを紹介し、三陸復興・地域創生推進機構長である菅原復興・地域創生担当理事は機構の概略と三陸地域における今年度の具体的な復興推進活動などを説明しました。

また学生の取組事例として、「住民のこころに寄り添う」を理念に掲げ、子どもの遊び場づくりや仮設住宅でのコミュニティ支援に取り組んでいる「三陸復興サポート学生委員会」と、陸前高田市や大槌町のお祭りを支援する「地域の祭りを盛り上げ隊」の 2 団体からそれぞれの活動を発表しました。来場者からは、「参加するお祭りの起源などを調べれば、より深く地域と関われるのではないか」など、今後活動する上で有益なアドバイス頂き、学生にとっても良い刺激となりました。

最後に地域コミュニティ再建支援班長を務めている広田教授が高台移転等に伴う地域の再編問題や災害公営住宅でのコミュニティ形成、さらに大槌町における総合的コミュニティ形成支援について具体的な事例を踏まえた講演を行いました。



三陸復興サポート学生委員会による
取組事例紹介

同班の船戸特任研究員からは、陸前高田市の災害公営住宅で行っている自治会設立支援への取り組みについて実際現地で撮影した動画を活用して説明を行いました。

報告会と同時開催したパネル展

意見交換の時間では、来場者から、現地の公共交通機関の復旧状況、台風 10 号被災地域における岩手大学の今後の具体的な活動内容などの質問や自然豊かな三陸地域の観光資源を活用した観光分野の提案など多様な御意見を頂き、岩手大学への期待の高さがうかがわれました。

会場では学外の方々の意見を今後の活動に広く取り入れるため、岩手大学三陸復興・地機創生推進機構サポーターの募集も行いました。今後も学外への情報発信を通じて被災地の状況を紹介すると共に、多様な意見を参考にしながら復興推進動に取り組んでいきます。

宮古エクステンションセンターだより　宮古市

宮古エクステンションセンター
特任専門職員　浜田　修

今回は、宮古市観光港湾課にご協力いただき、冬のグルメイベントをご紹介いたします。夏はもちろんですが、冬も様々なイベントが開催されます。また、冬期間(11月1日～3月31日)は、浄土ヶ浜への一般車両乗り入れも可能となっておりますので、是非、冬の宮古へいらしてください。

宮古市は人口約55,000人で本州最東端に位置しています。浄土ヶ浜や三王岩などのジオポイントにも指定されている景勝地があり、夏季には大勢の観光客が訪れます。

しかし、あまり知られていないのが宮古市のグルメ。秋にはサンマまつり、冬には鮭・あわびまつりが開催されます。さらに毎年2月下旬には「毛ガニ祭り」が行われます。宮古の毛ガニは小ぶりですが身がしまりミソが濃厚で、一番おいしく食べられるこの時期に開催されています。魚市場で開かれるこのお祭りは、毛ガニや海産物が安価で販売される他、毛ガニ汁のお振舞や毛ガニの一本釣り、お楽しみ抽選がありお客様には毎年喜んでいただいています。

毛ガニの一本釣り

茹でた宮古産毛がに

また、餅まきやダンスショー、歌謡ショーも行われ、厳寒の2月開催ではありますが大変賑わいのあるお祭りです。

さらに、魚市場の向いには「道の駅・みなとオアシス　みやこ」こと「シートピアなあど」があります。野菜や海産物の産直、宮古の塩を使ったここでしか販売されていないお菓子もあります。駐車場にあるファーストフードでは、宮古沖の海洋深層水を使用した「海のソフトクリーム」が販売されています。ほんのり塩味のする淡い水色をしたご当地ソフトクリームです。宮古市にお越しの際は堪能してみてはいかがでしょうか。

また、宮古市は真鱈の水揚げ量日本一を誇ります。真鱈は12月～2月にかけて旬を迎え、市内の飲食店ではさまざまな工夫を凝らした料理が提供されています。また、真鱈の白子は「キグ」と呼ばれ1月～2月に一番おいしくなります。どうぞ、旬のおいしいものを食べに、宮古におでんせ～。

海洋深層水を使用した
海の恵みソフトクリーム
(ポスター)

生涯学習部門の紹介

日本では大人の学びの場として公民館が大きな役割を果たしてきました。特に、戦後、地域の住民たちが公民館に集まって、身近な生活課題をはじめ社会的課題を議論し合いながら実践し、日本社会を変えていたのです。このような学びの場には、専門的職員として社会教育主事が行政と住民の橋渡しの役割を担いながら地域住民の学習を支えてきました。

しかし、日本政府は小泉内閣発足後に「公設民営化」が急速に進行し、2003年に指定管理者制度を導入しました。当制度を導入する理由の一つとして挙げられたのが、“住民のニーズの多様化に「効果的」「効率的」に対応するためには、民間の事業者のノウハウを広く活用することが有効であること”でした。

したがって、近年では社会教育施設も余儀なく民間委託が進められ、社会教育主事の配置も縮小されつつあります。その結果、社会的弱者(高齢者、若者、女性、外国人など)は、ますます学ぶ機会が閉ざされ、学習者においても格差が広がっています。

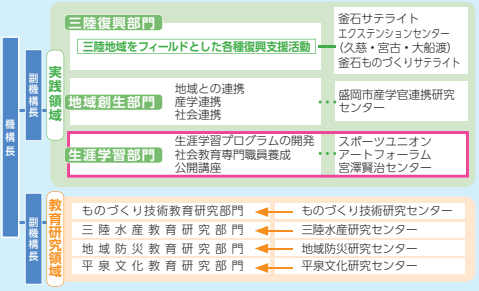
一方、グローバル化や知識基盤社会に対応できる人材が求められている中、大学教育が既存の若い学習者を中心とした教育から成人学習者への拡大が期待されている中で、“大学はリカレント教育の場”としての転換が求められています。

そこで高等教育機関がリカレント教育の場として機能を果たすためには、まず、地域住民のニーズの把握が欠かせません。また、地域課題に対応できる人材を育てるためには何に重点を置くべきなのか、真剣に向き合わなければなりません。

よって生涯学習部門では、上記の課題の可視化を図るとともに、地域人材づくりのために学社連携の視点から生涯学習事業に取り組んでいきたいと思います。

なお、生涯学習部門では、研究成果を生かした地域還元を目指しながら、①基礎研究(地域調査など)、②社会人学び直しプログラムの開発、③社会教育主事養成、④公開講座、⑤学内・外連携事業などを通して、誰でも、いつでも参加できるような地域住民の生涯学習場づくりを目指します。

●三陸復興・地域創生推進機構組織図



Information

公開講座

「かんじきをはいて冬の森を歩こう」　2/19(日)

滝沢演習林では、毎年冬の演習林散策と自然の観察「かんじきをはいて冬の森を歩こう」を開催しています。今回も、かんじきを履いて冬季の滝沢演習林を散策し、自然観察・アニマルトラッキングなどを行います。 冬の森林と親しむことを通して、森林保全に関わる理解の深化を図ります。

●会場／農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター滝沢演習林
●時間／13：00～15：30　●対象／市民一般
●募集人数／20名　●講習料／無料

かんじき体験 御明神の山を歩こう！　3/12(日)

3月の御明神を、かんじきを履き、散策・観察をして、かんじきの体験と自然観察を行う。

●会場／農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター御明神総合施設
●時間／9：00～13：30
●対象／一般親子（子は小学生以上）
●募集人数／10組または25名
●講習料／無料（別途保険料100円、昼食代400円）

フィールドセミナー ―春を迎える森をみる―　3/26(日)

滝沢演習林で冬越しをすませた森の生き物を観察し、春を迎える森の様子、生きものの姿について理解を深めてもらう。

●会場／農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター滝沢演習林
●時間／9:30～12:00
●対象／市民一般、親子
●募集人数／20名
●講習料／無料

▼上記の公開講座の問い合わせ先は下記のとおりです
地域連携・COC推進課（土日祝日除く9:00～17:00）　TEL:019-621-6492／FAX:019-621-6493　E-mail: renkei@iwate-u.ac.jp

フォーラム

第6回全国水産系研究者フォーラム　2/15(水)

多くの自然災害を経験してきた岩手県に全国の水産研究者等が集まり、本フォーラムを通じて、次世代水産業創生に向けて研究者は何をすべきかを考え、実践するためのネットワーク形成について議論する。

●時間／13:30～17:30
●会場／ホテルメトロポリタンニューウイング盛岡・4階・メトロホール西の間
●対象／研究者、水産関係者、市民一般　●募集人数／150名　●参加費／無料

▼問い合わせ先
岩手大学 三陸復興支援課　（釜石サテライト）
TEL:0193-55-5691／FAX:0193-36-1610／E-mail:kamaishi@iwate-u.ac.jo

6－2

リーフレット報告書

記録者氏名：三陸復興地域創生推進機構　生涯学習部門　中島 有里

目 的

岩手大学三陸復興・地域創生推進機構生涯学習部門の活動の見える化を図ることで、生涯学習部門における事業のテーマや実施している活動を明確化し、生涯学習部門を地域住民や他大学に広報することを目的とする。

活動実績

・平成 28 年 12 月にリーフレットのデザインを考察し、生涯学習部門の取組や活動を明確化した文章を印刷会社に提出する。

・印刷会社との打ち合わせを通してデザイン、文章、フォーマット、イラスト、写真などを選出し、提出する。

・印刷会社からの初校を編集し、再提出。

・A4 サイズ、3 つ折りタイプのリーフレットが完成。

●リーフレットに記載したもの
○生涯学習部門の事業テーマ
○生涯学習部門の紹介
・基礎研究
・社会教育主事養成
・公開講座
・学内、外連携事業
・社会人学び直しプログラムの開発

詳細は資料として添付した通りである。

生涯学習部門の事業テーマ

○ 生涯学習基盤づくり
○ 社会人学び直しプログラムの開発
○ 社会教育主事養成
○ 地域の生涯学習リーダー育成
○ 地域住民の生涯学習ニーズ調査
○ 社会教育行政及び地域の生涯学習関係者（NPO ／企業など）とのネットワークづくり
○ 公開講座に参加した成人学習者を対象にニーズ調査（社会人の基礎データ構築）

岩手大学三陸復興・地域創生推進機構
生涯学習部門

〒020-8551
岩手県盛岡市上田４丁目３－５
TEL：019-621-6492
FAX：019-621-6493
Mail: renkei@iwate-u.ac.jp

Iwate University 岩手大学

岩手大学
三陸復興・地域創生推進機構
生涯学習部門

生涯学習部門

生涯学習部門では、多様な成人学習者の特徴を生かした生涯学習プログラムの充実化を目指しています。また、成人学習者が「学びをほどき、編みなおす力」・「地域で生かす力」・「学び続ける力」などを身に付け、地域活動や職業生活で役立てることによって、地域の生涯学習の振興を目指しています。

生涯学習部門

公開講座

大学構内の専用教室での講義や、フィールドワークなどを通して学び直せるという楽しみを提供し、一般の方々に生涯にわたった学習機会の提供を推進しています。

学内・外連携事業

生涯学習事業の充実化を図るため、「スポーツユニオン」・「アートフォーラム」・「宮澤賢治センター」といった学内組織や自治体と連携し、事業を展開しています。

社会人学び直しプログラムの開発

地域住民（若者、高齢者、女性、外国人など）や社会人のニーズの多様化・高度化に対応した環境整備とともに地域の課題に対応できる人材育成プログラムの開発を行っています。また、地域のコミュニティセンターと差別化された生涯学習プログラムの充実化をとおして大学が地域住民や企業に身近な学びの場としての機能を強化します。

社会教育主事養成

文部科学省の委託を受けて本学が実施する講習会です。当養成講座では、社会教育主事としての専門的知識・機能習得を目指しています。

基礎研究

日本国内・外における生涯学習・教育の動向を把握しつつ、成人学習者のニーズに応じた学びの場づくりや、地域の課題に応じた生涯学習プログラムの開発のためのニーズ把握・分析をとおした基礎データを構築します。

6－3

「ホームページ」報告書

実施報告者：三陸復興・地域創生推進機構生涯学習部門　中島　有里

目 的

岩手大学三陸復興・地域創生推進機構に関連する各種イベントの情報を世界に発信するとともに、各プロジェクトの進歩を常に更新し、報告する。

活動実績

サイトのフレームづくりとコーディングを各部門と相談し、案を作成した。

●三陸復興・地域創生推進機構について
○三陸復興部門
○地域創生部門
○生涯学習部門
・ものづくり技術教育研究部門
・三陸水産教育研究部門
・地域防災教育研究部門
・平泉文化教育研究部門
・釜石サテライト
・久慈エクステンションセンター
・宮古エクステンションセンター
・大船渡エクステンションセンター

●活動実施内容
・活動報告
・お知らせやイベント
・公開講座情報

●ニュースレター

●Facebook ページ

資料１

2018年度　シニアカレッジ　アンケート　報告
実施日：2018年9月7日～9月13日
参加人数：28人（内アンケート協力者26人）

性別

男性	13
女性	13

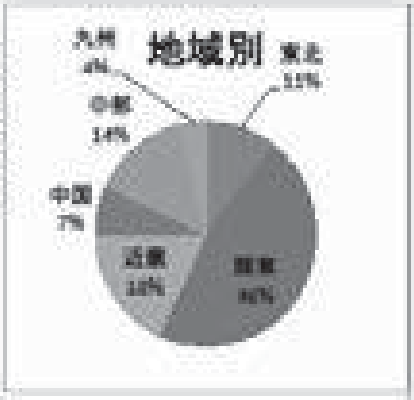
年齢

60代	8
70代	17
80代	2

（最少年齢54歳、最高年齢79歳）

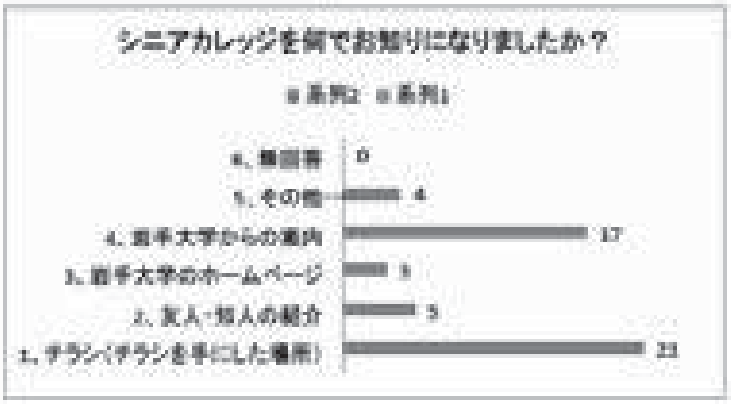
地域別

東北	3
関東	13
北陸	3
中部	2
中部	4
九州	1



県別

東北	岩手県	2
東北	秋田県	1
関東	東京都	8
関東	神奈川県	3
関東	埼玉県	2
関東	群馬県	1
関東	千葉県	2
関東	栃木県	1
中部	愛知県	2
中部	長野県	2
中部	福井県	2
九州	福岡県	1



問1・岩手大学シニアカレッジを何でお知りになりましたか？（いくつでも）

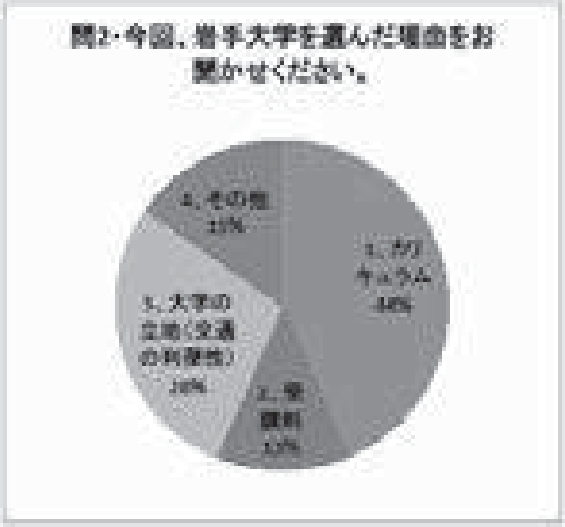
1、チラシ（チラシを手にした場所）	23
2、友人・知人の紹介	3
3、岩手大学のホームページ	3
4、岩手大学からの案内	17
5、その他	4
6、無回答	0

問1・(5)その他

以前から知っていた。（岩手県　男性）
東京銀座プラザいわて（東京都　女性）
和歌山大学シニアカレッジの案内に入っていた（前妻さんからの案内）（和歌山県　女性）
シニアと大学と地域ネットワークからの案内（兵庫県　女性）
シニアと大学と地域ネットワーク（前妻氏のブログ）和歌山大人大学の紹介と共にチラシが郵送された（東京都　女性）

初めて知ったのは石川啄木記念館のポスターです。（秋田県　女性）

問2・今回、岩手大学を選んだ理由をお聞かせください。（いくつでも）	
1. カリキュラム	28
2. 受講料	8
3. 大学の立地（交通の利便性）	11
4. その他	7
5. 無回答	

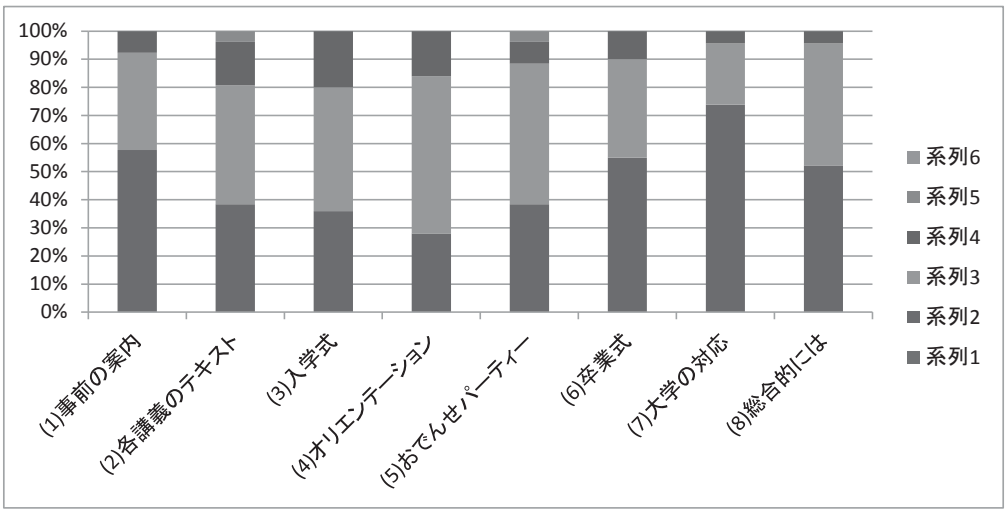


問2(4)その他

内容。講義内容が関心のあるものが多い（東京都　女性）
二回目の受講だから何となく（長野県　男性）
過去の参加での楽しさ。一回不参加による一年間の喪失感。（兵庫県　男性）
何度か盛岡旅行をして、一度旅行以外の滞在をしてみたいと思っていたので、ちょうどよい機会だと思いました。（神奈川県　女性）
賢治生誕120周年はやはり来てみたかった（テーマの設定）ホテルから歩いて通える範囲なので4つの科があって色々の種類の講義が聞ける）（鳥取県　女性）
震災を機にボランティアで岩手県や宮城県を訪問すること度々ありました。特に岩手県の陸前高田、大船渡の方々とは親しくお付き合いをさせていただき、今や第二の故郷のような気持ちです。そして また宮沢賢治の会にも入っていて、生誕120年の今年のこのタイミングにぜひ出席したいと思いました。岩手大好きな人間なのです。（東京都　女性）
宮澤賢治生誕120年がテーマの中心になっているため（滋賀県　男性）
盛岡という街が持っているもの（神奈川県　男性）
何となく参加したくなった。（愛知県　男性）
年中行事として毎年の計画に入れている。（鳥取県　女性）
宮澤賢治生誕120年の文字に！惹かれた。（兵庫県　女性）
宮澤賢治に興味があるから。毎年、都合がつかず、今年ようやく日程が合い友人の誘いもあり参加できました。（東京都　女性）
東北エリアを代表する国立大学であるため、宮澤賢治を生んだ自然と学問的基礎をこの目で見て確かめるため。（愛知県　女性）
リピーターとなりシニアカレッジの同窓生としての楽しみが出来た。一年来の再開は互いに生涯学習、また、全国ネットで学友が出来ることは、このシニアカレッジの魅力の一つです。（東京都　女性）
岩手、盛岡という交通の利便性と涼しいかなと思ったこともあります。賢治について、詳しく知ることが出来ることです。（和歌山県　女性）
新幹線。一本で来れるのが強いです。（長野県　男性）
車で移動できる距離であり、期間中、何らかのアクシデントがあっても、一時帰宅できるであろうことが、初期の最大の理由でしたが、それ以上に講義の魅力にはまっております。私にとりまして、日常生活に灯りをつけて頂いています。（秋田県　女性）

問3：聴講大学シニアカレッジを受講した印象をお聞かせください。

	5	4	3	2	1
(1)事前の案内	8	4	3	2	1
(2)各講義のテキスト	15	9	2	0	0
(3)各講義のテキスト	10	11	4	1	0
(4)入学式	9	11	5	0	0
(5)オリエンテーション	7	14	4	0	0
(6)おでんせパーティー	10	13	2	1	0
(7)卒業式	11	7	2	0	0
(8)大学の対応	17	5	1	0	0
(9)総合的には	12	10	1	0	0

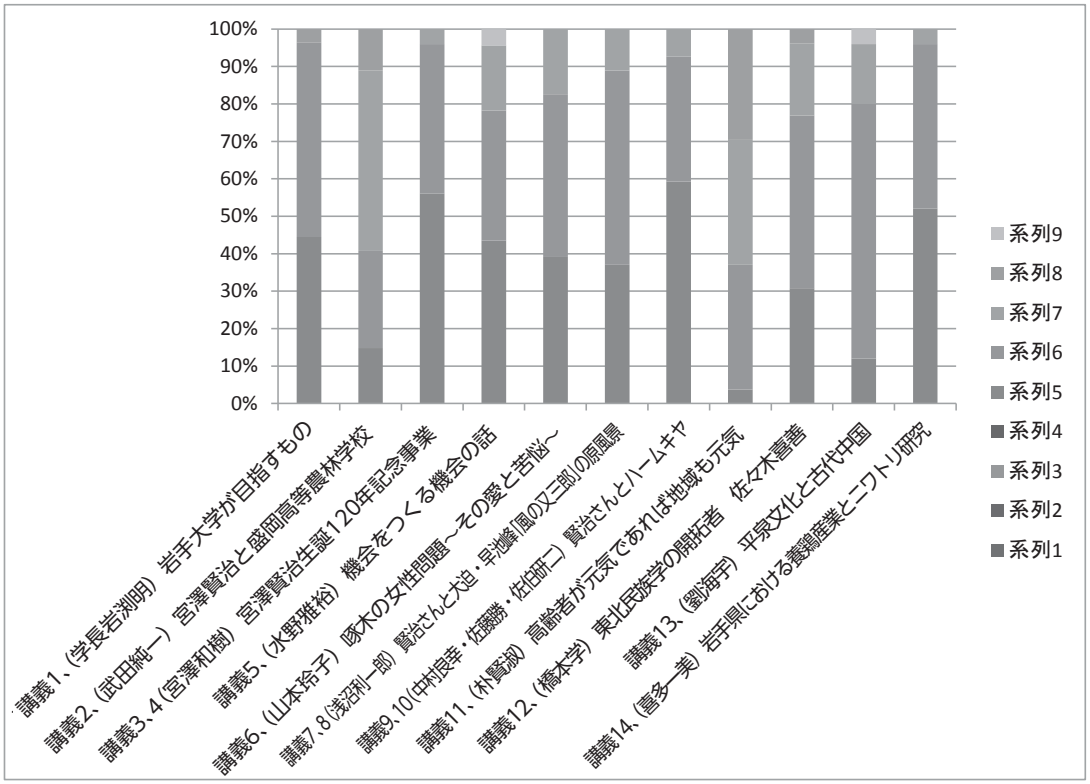


問3：その他ご意見

講義テキストはもっと簡単なもので良いのではや講義は注意を前方へ視線を向けるような内容であって欲しい。パーティーは立食にしたらどうか。挙手率にすると話をする対象が固定してしまうので（埼玉県　男性）
どれも準備が大変であったろうと強く思いました。親切丁寧で細かいところまで気を配って下さりありがたく思いました。今後とも継続していただけますようよろしくお願いします。（鳥取県　女性）
大変行き届いていて、対応も親切にしていただき、大変楽しく有意義な1週間を過ごさせていただきありがとうございました。学生さんたちの演奏も素晴らしく聴きました。ただ会場の皆さんと一緒に歌うことがあれば参加という実感があったことと思います。例えば永六輔さんの「見上げてごらん夜の星」、宮沢賢治さんの「星巡りの歌」など。（東京都　女性）
名札の名前を大きい字体にしてほしい。（滋賀県　男性）
リピーターの方が多く、親しみやすい雰囲気が出来上がっていて、緊張せずに過ごせたのがよかった。（東京都　女性）
終了何か月後に送っていただく、講義録やアルバム、又次回の募集案内など、フォローが完璧で早川さんをはじめとするスタッフの皆さんの熱心さ、心配りのありがたさに本当に感謝しております。リピーターが多く、長続きの要因はここにあること間違いなしです。ぜひ今後も長く続くことを願います。また要望として記念写真にスタッフの皆さんも加わってほしいと思います。（東京都　男性）
温かく迎えて下さいまして、ありがとうございました。学問的要素の多いカリキュラムでした。文化、芸術そして文学も含めていただければ良かったと思います。（愛知県　女性）
スタッフの大変さに感謝します。（長野県　男性）
おでんせパーティーの料理ですが、全体の量は良いが品数を増やしてほしい。コストの問題であれば料金アップもOKです。（兵庫県　男性）

問4・各講座の感想・印象をお聞かせください。(5段階評価)コメントがあればお願いします。

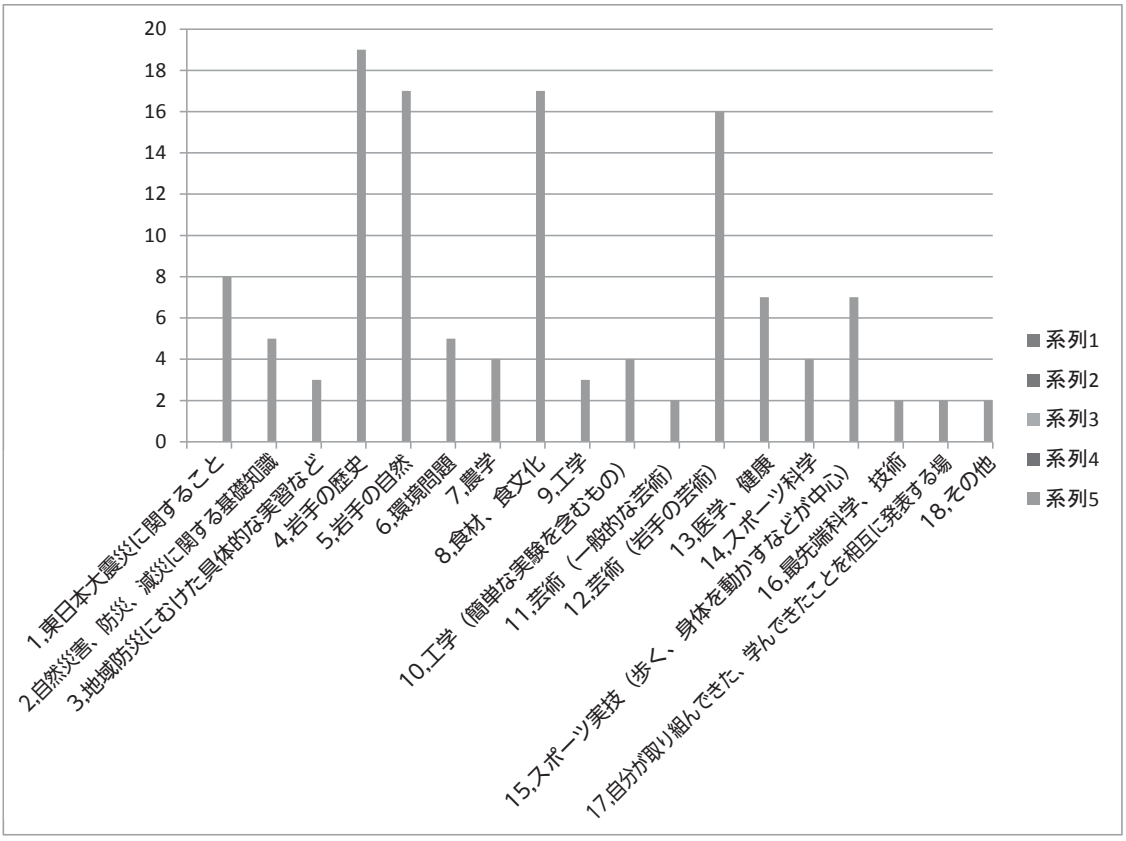
5段階評価	5	4	3	2	1
講義1、(学長岩渕明)岩手大学が目指すもの	12	14	0	1	0
講義2、(武田純一)宮澤賢治と盛岡高等農林学校	4	7	13	3	0
講義3、4(宮澤和樹)宮澤賢治生誕120年記念事業	14	10	1	0	0
講義5、(水野雅裕)機会をつくる機会の話	10	8	4	0	1
講義6、(山本玲子)啄木の女性問題～その愛と苦悩～	9	10	4	0	0
講義7、8(浅沼利一郎)賢治さんと大迫・早池峰「風の又三郎」の原風景	10	14	3	0	0
講義9.10(中村良幸・佐藤勝・佐伯研二)賢治さんとハームキヤ	16	9	2	0	0
講義11、(朴賢淑)高齢者が元気であれば地域も元気	1	9	9	8	0
講義12、(橋本学)東北民族学の開拓者　佐々木喜善	8	12	5	1	0
講義13(劉海宇)平泉文化と古代中国	3	17	4	0	1
講義14、(喜多一美)岩手県における養鶏産業とニワトリ研究	13	11	1	0	0



問5・今後、どのような分野の講義を希望されますか？(いくつでも)

1.東日本大震災に関すること	8
2.自然科学、技術、医学に関する講義	8
3.[illegible]	8
4.[illegible]	10
5.[illegible]	17
6.[illegible]	8
7.農学	4
8.[illegible]	13
9.工学	8
10.[illegible]	4
11.[illegible]	2
12.[illegible]	16
13.[illegible]	7
14.スポーツ科学	4
15.スポーツ実技(歌く、身体を動かすなどが中心)	3

16.最先端科学、技術	2
17.自分が取り組んでいた、学んできたことを相互に発表する場	2
18.その他	2

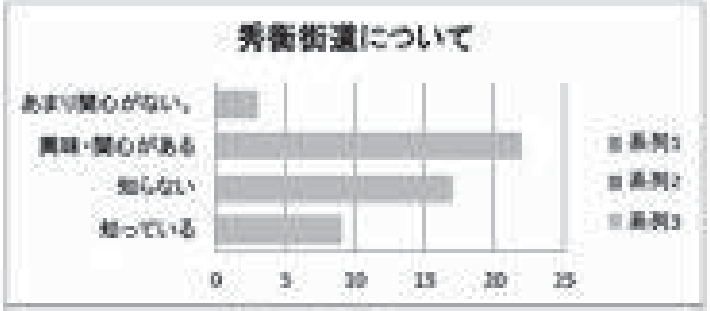


問7・その他ご意見

●朴先生の話、一回きりでなく次回、次々回もやって下さい。一回では終わらない問題ですので！！●佐々木喜善の講義は大変興味深く聞きました。（東京都　女性）
●岩手の祭り、芸能、農業に係わっている農家の人の話。●牧畜、果物農家、園の見学、牧場の見学、●緑土料理の料理人の話と会食（兵庫県　男性）
●神楽や獅子踊り、鬼剣舞など拝見し、由来などの説明を聞きたいです。（東京都　女性）
●講義内容によっては、グループワークがあってもよいかも・・●シニアカレッジ参加者の方々とお会いでき、お話しできることがうれしいです。●盛岡が好き。健康で過ごし、来年も参加したいです。（神奈川県　女性）
体験学習を通してモノづくりが出来るものがあるとよいです。（例えばみそづくり、足袋造づくりなど）（鳥取県　女性）
●地方言葉の解説と発育　●レポートとスライドのみの教授方法でない講義。（愛知県　女性）
●遠方からの参加者はあまり岩手県のことを知らないので、テーマとしては"賢治""遠野""平泉""復興"などのひと目につきやすいものを、表にして出していただければと思います。その中で深くテーマを絞り込んでいただければと思います。（福岡県　男性）
●岩手の伝統産業について、実習もあればもっと良い！！（和歌山県　女性）
●東北を含めた岩手の歴史　●地球温暖化や海洋など　●脳神経系と現代病など（秋田県　女性）
●世界遺産申請の北海道、北東北の縄文文化の岩手県記録の紹介など。（兵庫県　男性）

問8-歴史遺産に関するもので、知っている、興味・関心があるものについて

8-1-秀衡街道について	
知っている	9
知らない	17
興味・関心がある	22
あまり関心がない。	3



8-2-遺跡の発掘について	
機会があれば発掘をやってみたい	12
あまり関心がない。	12

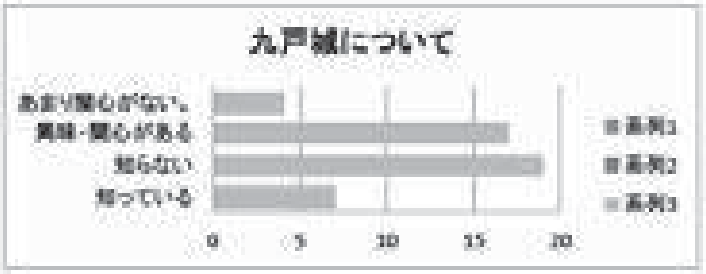
備8-2-その他 ご意見

やってみたいが、発掘には行けない。

8-3-丸戸城跡について	
知っている	7
知らない	18
興味・関心がある	13
あまり関心がない。	2

備8-3-その他 ご意見

8-4-丸戸城について	
知っている	7
知らない	18
興味・関心がある	17
あまり関心がない。	4

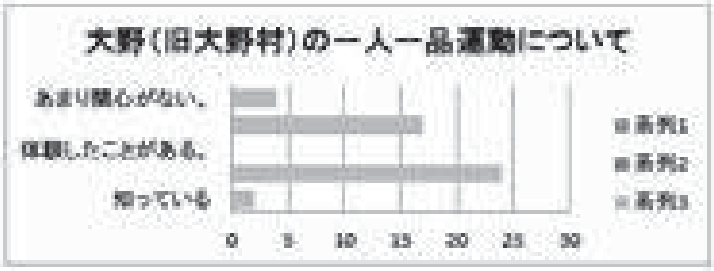


8-5-一関市の東山にかがみ和紙について	
知っている	7
知らない	19
興味・関心がある	18
あまり関心がない。	4
和紙漉き体験をしてみたい。	3

5-4-1 秀衡塗り、浄法寺塗りなどの漆器について	
知っている	15
知らない	11
漆塗りを体験してみたい。	12
あまり関心がない。	10

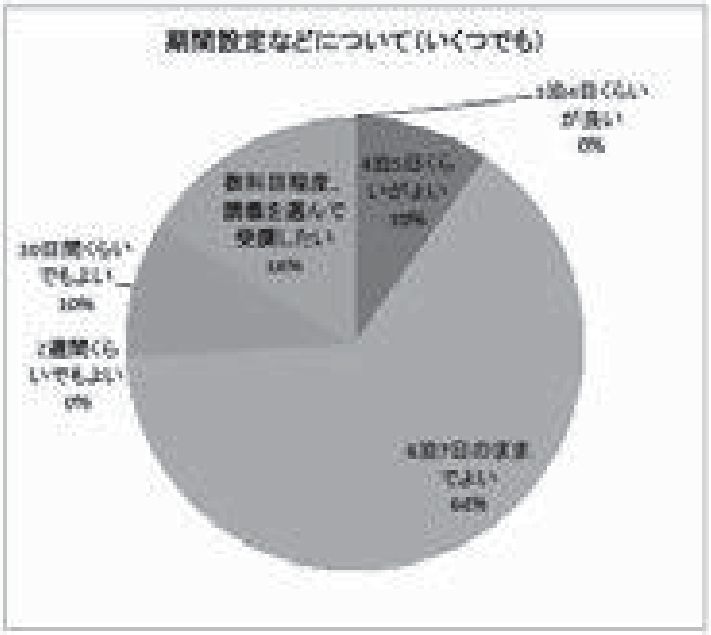
5-4-その他 ご意見

5-5 大野(旧大野村)の1人一品運動について	
知っている	2
知らない	34
体験したことがある。	0
機会があれば体験してみたい。	17
あまり関心がない。	4



5-6 沿岸被災地について	
何かしらのボランティア活動をやってみたい	7
組み立て作業などの具体的な作業のお手伝	0
現状を知りたい。	14
被災地の方々と何かしらの交流をしてみたい	9
その他	

問7-期間設定などについて（いくつでも）	
3週4日くらいが良い	0
4週5日くらいが良い	3
6週7日の実施でよい	20
2週間くらいでもよい	0
1週間くらいでもよい	3
教科目毎に、調査を選んで受講したい	4



問7-その他、ご意見

日程が、[illegible]（男性）
参加人数（[illegible]）[illegible]が知りたい。（男性、男性）
体験受講したいです。（男性、女性）
[illegible]（[illegible]）
[illegible]（男性、男性）

以下、各講義シート、その他意見シートをご覧下さい。

講義1、（学長説明）岩手大学が目指すもの

ユーモアありの話で気が楽になった。（埼玉県　男性）
地方国立大のご苦労がよく分かった。と同時に、地方大学ならではの良さもよく分かった。もう一度大学行くなら地方大学がいいなあ。（※金沢美術工芸大学の出ですが。）（兵庫県　男性）
ユーモアを交えて、緊張をほぐしてもらえました。（神奈川県　女性）
この夜の水害の深刻さを思いが痛みます。一日も早い復興を願うばかりです。英語圏でない日本は、引っ込み思案なところがあるように思います。小、中学生の時からもっと英語教育に力を入れていくのがよいのかな？20年度からどんどん地域を先導する、新しくますます力強い大学に向かっていくのかと思いました。楽もしく楽しくお聞きしました。（鳥取県　女性）
堅苦しくなく、ユーモアを交えてお話しくださり、第1時間という緊張感から解き放たれました。「グローカル」という言葉が大変印象的でした。被災地の大学として、多方面に学生さん達が活動しておられることに感動しました。この経験は強く、たくましく、優しく実社会に出てからも、大いに役立つことと期待します。（東京都　女性）
今は、ITの進化ばかり報道されるような気がします。生きるためには、食、住、衣が必要と、歴史ある農学部が魅力的になり食を、工学部は住を、目の前の震災復興、地域創生をチャンスととらえ、学生は意識を高く、学び、岩手県に関わってほしいです。（神奈川県　女性）
特に法人化以降の大学運営の難しさが感じられた。しかし、高等教育機関としての目的は変わらないわけで、専門の教育も然ることながら、小生の拙い経験から言わせてもらうと、語学を含め、特に専門、基礎の教育、また、人格形成など、若い年代のうちに養ってほしい。現代の若い人に欠けているのではないかと感じられることがある。高級な専門事項は、興味さえあればいつでも学べることと思う。（東京都　男性）
もっと岩手の地を利用した、特徴のある学部なりを考えるべきではないかと思った。例えば水産を強化し、近大まぐろ、ウナギのようなことは不可能なのか？素晴らしい環境があるので！（東京都　男性）
学長の説明が楽しく、現実は厳しいことも岩手大学の様子、目指すもの拝聴させていただきました。シニアに合わせたテキストの文字も大きく見やすいこともよかったです。（兵庫県　女性）
「岩」をくだいて石に近い型にした、分かり易いお話でした。（愛知県　女性）
大変勉強になりました。（東京都　女性）
資料も分かり易く（大きな文字、写真、グラフ、ポイント）シニアにやさしい資料、感謝いたします。あらためて岩大のビジョンとその実践方、教育がなせる効果と思います。新たな故郷の創造は、具体的な目標を一つ一つ成すことで、本当の（地域に根ざす）希望の実現につながるものと講義の中で納得しました。（東京都　女性）
岩手大学の歴史や現状が良く理解できました。学長のお話も分かり易く、楽しく聞くことが出来ました。 （福岡県　男性）
毎年一回お目に掛かって、難しいテーマを四角四面ではなく、丸くやさしく話して下さるのが嬉しいです。（明るいご性格・・・）かなと思います。（埼玉県　女性）
留学生200名の内、中国人が60%というのはきわめてアンバランスと思いますが、どんな理由があるのか疑問に思いました。（長野県　男性）
まずは学長先生の優しさに感謝です！！ユーモアに富んだ語り口で、笑と涙の溢った私たちを驚嘆にして下さりました。また、大学の置かれている立場、日本は教育に予算をかけて、人間を育てるべきだと思いますが、年々、その反対の方向のようで、大学のご苦労も分かります。三陸復興の岩大ならではの貢献や研究は、いずれ世界の国々のリーダーとなる人材を生むものと期待しております。また「希望論」を初めて知りました。今後、学び活かしたいと考えます。（秋田県　女性）
学長のまじめな話が聞けて、少し驚きです。（兵庫県　男）

講義2.（武田純一）宮澤賢治と盛岡高等農林学校

イントロ部分が少し多かった感にがしました。（岩手県　男性）
資料ページ多い。スライドで代用した方がよいのでは？（埼玉県　男性）
90分のうち40分は高等農林創設と宮澤の話で、余り興味がありませんでした。話し方かな？（マイク・・？）、良く聞き取れないところがありました。"一考を要すと思います。（長野県　男性）
少し専門的すぎて淡々と授業が進んだように思う。もう少し無知識な私達にも分かり易く、楽しめる授業にしてほしかった。（兵庫県　男性）
レジュメとそのままの印象。大変丁寧に作られたレジメだと思いました。（神奈川県　女性）
盛岡高等農林学校が創設され、明治、大正、昭和と経てきた長い歴史をたくさんの資料を基に詳しく説明され、よくわかりました。賢治さんの研究や勉強に対する姿勢や多方面に活躍されてきた（アザリアの仲間と文学的活動など）ことも分かりました。（鳥取県　女性）
立派なレジメを頂き大切にさせていただきます。賢治さんが学ばれた地に身を置くことが出来感動しました。色々詳しくお話しくださり、より一層拝聴することができました。（東京都　女性）
マイクの関係か、言葉尻が聞き取りにくかったです。（滋賀県　男性）
盛岡高等農林学校という素晴らしい環境、教官、学友で、賢治さんはさらに賢人に成長されたのでしょうか・・・早死は惜しいことです。（神奈川県　女性）
多岐にわたり、やや散漫な感にがしないでもなかったが、膨大な資料を作っていただき、拝見するだけでも歴史的な重みを感じます。先生の大変なご努力に感謝いたします。（東京都　男性）
改めて多方面な能力を再確認できた。（東京都　男性）
声が少し小さくて聞き取り難かった。（鳥取県　女性）
まず膨大な資料に驚き感心しました。（兵庫県　女性）
言葉が聞き取りにくくて（特に語尾）マイクのせいでしょうか？理解しにくかった。内容的には興味があったのですが・・・・残念でした。（東京都　女性）
パンフレット通りではなく、生の今の講義が伺いたかったです。（愛知県　女性）
ミュージアム（小冊子）ガイドブックを事前に目を通しておけば授業がもっと楽しいものになったと思います。残念でした。（東京都　女性）
詳細な資料をありがとうございました。賢治さんの詩や物語の中に登場する表現や言葉は盛岡高等農林学校の研究の世界が盛られていたことが、理解できました。「ミュージアムガイドブック」とも連動していて、学内の教育も魅力的になりました。（東京都　女性）
盛岡高等農林学校の当時の状況は理解できましたが、建物や動物の話が多く、賢治さんのエピソードなどがあればもっと良かったと思います。（福岡県　男性）
講義3・4の前の予備知識として良かったと思います。ちょっと忙しかったです。（埼玉県　女性）
レジメと話されることが同じでした。先生の知っていらっしゃることをお聞きしたかったです。（和歌山県　女性）
全国初の高等農林学校設立時から、岩手大学に進化発展するまでの歴史を豊富な写真を添えての貴重な資料を作られた先生の熱意に感謝いたします。しかし残念ながら声が聞き取りにくい部分が多々あり（マイク・・）ました。また、メリハリがないため、ページをついていくことだけで、精一杯でした。（秋田県　女性）
講義の意図が不明確でした。もう少し賢治への掘り下げた講義をしていただきたかった。農林学校が賢治に与えた影響、性格、生き方、作品が見えてこなかった。もう少し楽に話していただければ良かったと思います。（兵庫県　男性）

講義3、4（宮澤和樹）宮沢賢治生誕120年記念事業

とても良かったです。（岩手県　男性）
マニアックな人も一般の人も再認識事項が多かったことと存じます。エピソードは大変有意義な話であり、賢治の姿を再認識させられた。（埼玉県　男性）
楽しめました。会場もお話も、対談も新太さんとても良かったです。私自身以前から疑問に思っていた「ヒドリノトキハナミダヲナガシ」の「デ」と「ド」の意味がよく分かりました。私は「ヒデリノトキハ」の方が好きです。（兵庫県　男性）
様々な面から知ることが出来ました。（神奈川県　女性）
さすが賢治さんの弟さんのお孫さんのお話をお聞きできるなどという機会はめったにあることではありません。雨ニモマケズのお話も忘れられないお話で有意義でした。賢治さんの作詩（詩）作曲の音楽演奏を聞いて感動し、一層賢治さんを尊敬してしまいます。美しい音楽がジーンと心にしみました。良い記念行事でした。ありがとうございます。（鳥取県　女性）
一般市民のたくさんのご参加もあり、盛り上がりを感じました。最初に合唱、ピアノ演奏などで、一層雰囲気を盛り上げて頂き素敵でした。宮澤和樹さんのお話も、私どもが知らなかったことなど、たいへん楽しみ深く思いました。（東京都　女性）
分かり易く解説されてよかった。（滋賀県　男性）
私の人生から考えても、賢治さんはあの時代からすでに音楽でも、バッハのG線上のアリア、ベートーベンの田園を聴いて、チェロも聞いてとすごい文化人だったこと。また、賢治さんの帽子、コート、スタイルの写真が「ベートーベンの様」が好きで・・とは驚きでした。（神奈川県　女性）
大変良い講演で、若手な宮沢賢治に親しみがわいてきました。他では聞けない貴重なお話を伺い、本当に良かったです。（東京都　男性）
あまり語られない話を聞くことが出来て良かったです。質疑の質問者がいなければ本当に良かった。（東京都　男性）
活字だけでは知ることのできない生のことが聞けて良かった。（鳥取県　女性）
演者宮沢清六氏の弟和樹氏のお話し、大変興味深く、新しい読み方を今後改めて読み直してみたいと思いました。対談も良かったですね。（兵庫県　女性）
今回のシニアカレッジに参加したことにより、今までに知らなかった賢治の一面を知ることが出来た講演会でした。対談はしっくりしない感じでした。（東京都　女性）
音楽から始まるプロローグはとても賢治らしい趣がありました。大変貴重なお話を伺えて楽しみもありましたが、第二部の対談はプリートークではなく、もうすこしインタビュー的なポイントがある方が分かり易かった。（テプタイトル等）（東京都　女性）
宮沢さんのお話と対談は雰囲気を味わうことが出来る貴重な体験でした。お話も聞きやすく楽しい時間でした。（福岡県　男性）
学長先生の賢治、啄木、光太郎のスタートが良かった。宮澤家の偉大さが改めてわかったような気がします。とても楽しい時間でした。（埼玉県　女性）
賢治さんの違う面を知り、宮澤賢治作品をまた読み直したくなりました。（和歌山県　女性）
宮澤さんの話を聞けるとは思っていなかったのでよかったと思いました。講演さを感じました。（長野県　男性）
宮澤賢治の青少年時代のエピソードの数々をうかがい、彼の作品群（童話）に共通する生き物たちの生々とした面白さ、手分に堪能したとはいえ、息子達に読み聞かせた、いっぱいの童話の中で、いつも一番リクエストの多いのが注文の多い料理店でした。ワクワク・ドキドキそしてどんでん返し、いたずら好きだった賢治さんだからこそ、子供心をとらえた作品だったんだなぁーと納得しました。「銀河鉄道の」も同じです。尚、あくまでも子供の目線、心、であり市長さ々は別とします。※また科学者の目線、視点も現代にその価値が大きくなっていることも納得です。（秋田県　女性）
宮澤和樹さんの話が良かった。身内で凝ることもなく、尊敬しながら親しみやすい面を強調して語き、非常に好感が持てました。（兵庫県　男性）

講義5.（水野雅裕）機会をつくる機会の話

世に文系、理系と二大分別された人々がいるなら私自身は文系に属し、改めて理系の方の話内容の組立方法に接したように思う。（埼玉県　男性）
専門的お話しですが講義2の時より興味深く聞きました。このタイトルに関係がある岩手大学での授業内容についても少しふれて欲しかった。（兵庫県　男性）
全く関心のない分野だったので、新鮮な印象を受けました。（神奈川県　女性）
普段の暮らしで便利なものを使っていますが、それを作る機械のあること、それがどうなっているかなどに考えが及っていませんでした。興味ある新しいお話ばかりで聞いてしまいました。微小ねじ、微小シャフト、1mmの円内に彫刻したマイクロ動画など、そんな世界があるなんてすごいです。ヘルメットが見る間に仕上がっていくのも面白かったです。（鳥取県　女性）
機械の話って難しいのでは・・と懸念していましたが、色々図柄を入れてお話しくださり、工作機械とは、母なる機械ということがよく分かりました。すべて機械化されて人間が置き去りにならないようにすることも大切と思いました。制御できなくなることが心配です。（東京都　女性）
工作機械、どんなに難しい講義かと思いましたが、あっという間の時間でした。日本の中小企業も大企業も頑張って！！です。（神奈川県　女性）
技術革新の速さ、精度の高さが如何に求められ、競争が激しいかを実感させられる。（東京都　男性）
メカに全く弱い私でも、分かり易い話で興味が持てた。（東京都　男性）
昭和40年代の旋盤を見ておりましたので、昔を懐かしく興味深く拝聴しておりました。実際に機械を使ったことはありませんが、工場に伝票を持って走り回っていました。（兵庫県　男性）
未知の分野であったが、楽しく伺いました。（東京都　女性）
新しい資料を交えてのお話は聞きどころでした。（愛知県　女性）
機械のことについて、素人の私ですが楽しい授業でした。資料もとても分かり易く見やすく作成されてました。勉強になりました。（東京都　女性）
目から鱗で理工学部は難しいという概念が吹っ飛びました。科学的なデータの正確さ、また誤差の修正は人間の職人業と同い、機械を身近に感じられる楽しい興味深い学習でした。（東京都　女性）
やっぱり少々難しいお話しでした。（埼玉県　女性）
機械音痴には難しかったが、驚きもありました。（和歌山県　女性）
とても関心のある講義のはずでしたが、基礎のない頭では、ついてゆけず残念でした。医学の進歩は戦争から始まったといっても過言ではないと、思いこら教わりましたが、機械のそれもまた、戦争とのかかわりが大きいとのこと、21世紀のそれは地球規模の災害や人類の平和共存のために働いてくれる機械づくりへと進化されていくのでしょうか。そうあってほしいと思います。（秋田県　女性）
工作機械の歴史を分かり易く説明して頂き、非常に勉強になりました。来年の「高人間コンテスト」の出場を楽しみに待ってます。（兵庫県　男性）

講義6、(山本玲子)啄木の女性問題～その愛と苦悩～

公人は後世すべてを赤裸にされてしまうのはどんなものか？(埼玉県　男性)
相変わらず啄木愛にあふれた山本先生の講義でした。深くは知らずに想像していたよりはノーマルな女性関係だと思いました。啄木がこれほど女性の顔の美しさ(外見)にとらわれる人だとは思いませんでした。※玲子先生の写真を啄木に送ったらどんな返信がくるのでしょうね。(兵庫県　男性)
個人的な思いがやや前面に出すぎていた印象を受けました。(神奈川県　女性)
啄木の女性問題、一人一人について詳しくお話しいただきよくわかりました。貴子があるとはいえ何せ若い22歳だと思います。様々な経験をしてこそ学ぶことが出来、唯にも本当の深さが加わるのではなかろうかと思います。啄木さんは純情だと思いますし、当時の男に頼るしかない女性の生き方に同情している点は優しいと思いました。120年(生誕)記念はがきありがとうございます。(鳥取県　女性)
啄木の女性問題については多少は読んだりしたことはありましたが、こんなに素直に気持ちの動くままに動いていた人とは少しびっくりしました。戦前の風潮とは申せ・・・でも人間として生きることを謳歌できたのですね。大変興味深く面白く聞かせて頂きました。(東京都　女性)
恋愛、男と女、どんな時代にも思い、錯誤があるものですね。それぞれの受け止め方があるのでしょうか・・・(神奈川県　女性)
歌読みの教養さというか、多情な面を聞かせても心い、面白かった。堅い、苦い時代にあっても男女関係は変わらない？(東京都　男性)
あんなだらしない男を擁護すべきではない。短歌は称賛しても、健全な常識の観点から論ずべきではないか。(東京都　男性)
玲子先生の啄木に対する思い入れに、ただ感心するのみです。(鳥取県　女性)
啄木の熱狂ファンは多いと思いますが、第1回から講義を聞められておられたと聞き、今回初めての私は、第1回から拝聴できなかったのが残念でなりません。(兵庫県　女性)
良い人生経験をした啄木を思いやる気持ちの講義に同感です。(愛知県　女性)
楽しい分かり易い授業でした。勉強になりました。(東京都　女性)
大作の課題に挑戦下さった玲子先生、資料もよく読み比べられるようご配慮あり、あっという間の時間でした。女性の視点、男性の視点は様々にあるでしょうが、才能の開花させるに短い生涯だった啄木に、また違う一面と歌人としての才覚と人間らしい面を見せて頂きました。(東京都　女性)
玲子先生のお話し、五回伺いましたが、今回が一番楽しかったです。(埼玉県　女性)
底多き啄木だからこそ、短歌、詩がかけたのかなあとも思いますが、その本心はよくわかりません！！　(和歌山県　女性)
お宝の手紙が良かったと思いました。啄木は基本的にはまじめだったのではと思いました。(長野県　男性)
昨年に続き啄木の負の財産ともいえる女性問題、どのような切り口でお話なされるのか、とても関心を持っていました。結論から言いますと、「山本先生啄木を傷つけずうまくやってくれたよなあ」というところでしょうか。この問題の中で、「節子さん」全く語られなかった。日記の行間に思い妻への贖罪の気持ちとか見つけることが出来たらいいなあと思いましたが残念でした。不治の病と貧困とさらに結婚の不和・・・この中で生きた26歳の啄木の儚ましさ、知れば知るほど悲しき玩具に啄木の魂の叫びを見る思いです。(秋田県　女性)
先生の精一杯の啄木批判がいじらしいです。特に女性問題なのでなおさら感じられた。次回は「ロナルドカーンと啄木」の話を期待します。(兵庫県　男性)

講義7、8（浅沼利一郎）賢治さんと大迫・早池峰「風の又三郎」の原風景

新発見のところが多く、よかったです。（岩手県　男性）
講師の賢治さんへの思いの大きさが伝わってきました。（埼玉県　男性）
あの温厚なお話としゃべり方にいやされました。ちなみに私と同学年だそうです。（兵庫県　男性）
賢治さんとの関連性は薄い印象ですが、お宅も含め、興味深かったです。地元で愛されている賢治さんを強く実感しました。　（神奈川県　女性）
今日は1日中賢治さんの足跡をたどって驚きの連続でした。浅沼さんのご案内が有難かったです。この地この場に立ってこそ感じられることばかりでした。賢治さんの不思議な物語やめずらしい言葉や情景などもこの自然の中ではそのまま有り、感じたままを表現されていて不思議というより納得できることばかりだということが分かりました。　（鳥取県　女性）
講演内容の詳しい説明や、土地に慣れ親しまれた方なればこそのお話しが大変楽しかったです。『風の又三郎』の原風景にふれて、もう一度ゆっくりと本を読み返したいと思いました。（東京都　女性）
賢治の行動をより深く知ることができました。（滋賀県　男性）
浅沼さんは賢治さんが大好きな事がよーく伝わってきました。どうぞお元気で末永くご活躍下さるよう願っております。薫たばこ産業のお話しも楽しかったです。（神奈川県　女性）
自然な話しぶりが大変良かったです。（東京都　男性）
人柄の良さのようなものが伝わってきて、原風景や岩手の良さが楽しく感じてしまいました。（東京都　男性）
個人的には行けない場所、内輪話などが聞けて、知識を深めることが出来ました。（鳥取県　女性）
宮澤賢治を敬い作品を愛され、作品に出てくる言葉、地を何回も歩かれた様子。私は賢治の作品は実際あまりよくわからなかったのですが、郷土の人達には早池峰山と共にあるのですね。（兵庫県　女性）
花巻フィールドワークは楽しい企画でした。（愛知県　女性）
賢治さん、そのままなような説明は、素晴らしいと思いました。後継者が出来ますことを願っております。（東京都　女性）
以前浅沼さんにはお逢いしたことがあり再開となりました。豊富な知識と物語（童話）のフィールドを知っている浅沼さんの説明は、とても楽しい時間と賢治の物語の中を一緒に旅しているようでした。すぐそこに山猫も風の又三郎も来ていたかもしれません。（東京都　女性）
個人では行けない所を案内していただき、感謝しています。浅沼さんのお話しは、楽しく良い経験になりました。（福岡県　男性）
浅沼氏にお目にかかるのは2回目です。中村良春氏は、"ホラ吹き利一郎"と私が命名したなどとおっしゃっていましたが、浅沼さんの一言々には頭が下がります。とても楽しい時間でした。（埼玉県　女性）
新しい発見がありました。（和歌山県　女性）
ぜひ一度は訪ねてみたいと考っていた早池峰山の麓の山や里に今回案内していただくことが出来、感激でした。賢治童話のふるさとに立ちますと、改めて数々の物語りが生き生きと見えて来るような気がいたしました。例えば「リパイパル賢治」では、宗教的視点で描かれたという「注文の多い料理店」も、ここでは金鉱で一攫千金を狙ってきた金持ちが、酒色に目がくらみ、身ぐるみはがされた話を擬人化したのだとのこと。なるほど、それも有りだなと、楽しくお聞きしました。4億5000年前という早池峰山の歴史の中で、岩手県が誇る自然や人間が生まれてきたのかもと、更に興味が生まれました。（秋田県　女性）
個性的な人柄で、お話しがとても面白かったです。（長野県　男性）
方言がわからないところもあったのですが、賢治命の思いだけは伝わってきました。（兵庫県　男性）

講義9.10（中村良幸・佐藤勝・佐伯研二）賢治さんとハームキヤ

新発見のところが多く、よかったです。（岩手県　男性）
賢治作品と講師の話が合致しない自分を感じている内に、講義内容は頭の中を素通りしてしまいました。（埼玉県　男性）
お二人ともに実名入らしく方言の混じったしゃべりロがとても良かった。中村先生、佐伯さん達の賢治さんに対する情熱には感心させられました。佐伯さん宅での昼食、場所、食事共に良かった。（兵庫県　男性）
あまり賢治さんを良く知らない私には、知識としてとても役に立ちました。いかに地元の方々に大切にされているかも、強く心に残りました。（神奈川県　女性）
賢治さんの足跡をたずね、同じ風景を見たことは2度と体験できない今回だけの貴重なものとなるでしょう。また賢治さんの詩碑などが沢山あって、さすが郷土の偉大な詩人なのだと感じました。昼食は佐伯さんの奥様で心尽くしを頂きました。心よりお礼申し上げます。地図と写真や詩など沢山の資料をゆっくり読みたいと思います。（鳥取県　女性）
個人的には滅多に行けない所を案内していただき感動しました。また学芸員をなさっているので、説明もわかりやすくそして詳しく幅広くお話し下さり、とても嬉しかったです。昆沙門堂のお像の立派なこと、そして円万寺からの眺望は陽光が黄金に輝き、美しい日本の原風景を見る様で感動しました。（東京都　女性）
非常にわかりやすく説明いただきました。現地での講義と昼食を提供いただきましてありがとうございました。（滋賀県　男性）
賢治さんは、どうしてあのようによく歩けたのか、誰かと一緒もあったのか、など考えました。佐伯宅の立派さ、おいしいランチも感動でした。できるならば、桜の咲く頃、また訪れたいと思いました。（神奈川県　女性）
佐伯さんのお宅で食事をさせて頂き、素晴らしい母家を拝見、見学させてもらえたのは、大変良かったです。また、解説も地元のアクセントがあり、両品つ丁寧にしてくださり、大変良かったです。（東京都　男性）
だいぶ動き回ったが、このような機会でないと見ることができないようなところで貴重な体験ができた。（東京都　男性）
個人ではいけない所や話に触れることが出来て、知識（内容）を深めることが出来ました。説明もわかりやすかったです。（鳥取県　女性）
なかなか温体験のできることのない現在において、平成23年9月11日は、良い1日でした。（兵庫県　女性）
豊かな自然とおおらかな人物に触れる、よい機会でした。（愛知県　女性）
今回のフィールドワークもとても良かったです。今回のカレッジに参加しなければ行く機会もなく、聞くことも見学することもなく過ぎたと思います。先生方の説明もわかりやすく、楽しいものでした。昼食も興味しかったです。（東京都　女性）
1日のフィールドワーク、充実感ありました。もっと予習しておけばよかったと、自分自身の反省が残りました。講先生の説明楽しく拝聴できました。貴重な資料の数々ありがとうございました。（東京都　女性）
講義7、8と同様、個人では行けない所を案内していただき感謝しています。人吉地区は九州人の私には全く知識がなく新鮮でした。（福岡県　男性）
中村氏も、とても熱心に語って下さって、わかりやすかったです。佐伯氏も笑顔で話してくださり楽しかったです。それにしても佐伯部の立派なことに驚いてしまいました。（埼玉県　女性）
賢治さんの時代にタイムスリップしたようでした。（和歌山県　女性）
五輪峠～人首町。賢治のたどった道をたずねる1日。秋田の田舎住まいの自分でも不思議な空間に来たような山里のたたづまいや佐伯家の風格に驚きました。地質学者としての調査旅が、詩や童話を生み出し、時代を越えて万人に愛されています。あらためて賢治文学の価値と岩手県の豊かな自然や歴史に魅力を覚えます。案内の先生方のお人柄、岩手の郷土愛に感服しました。（秋田県　女性）
旧街道などを歩くのはよい企画だと思います。（長野県　男性）
地元民の皆さんの賢治愛が改めて強く感じられました。益々高齢化社会を迎える地域での頑張りを期待します。（兵庫県　男性）

講義11、（朴賢淑）高齢者が元気であれば地域も元気

もう少しレジメに沿ったお話しが聞きたかった。（岩手県　男性）
タイトルの内容が"ナゼ？そうなのか？"を聞きたかった。（埼玉県　男性）
基本的な話で、具体例が無く、後期高齢者の受講者には、何の意思も無い。もっと実例をあげて、現在日本における後期高齢者の1ヶ月の年金額で、どんな生活ができるのか・・等々を話していただきたかった。（長野県　男性）
大変身近なテーマを取り上げていただき興味深く聞かせていただきました。できれば高齢者がもっと元気になる、先生なりのアイデアがあれば聞かせて頂きたかった。（兵庫県　男性）
一般的に既に理解されている事柄が述べられた印象でした。もう少し、遠慮なしにつっこんでとらえてもよいのでは？（神奈川県　女性）
韓国人と日本人の考え方の似たところや違うところ等が聞けて面白かったです。日本人はおとなしい傾向や消極的であるのが国際社会で生き抜くには変わらねばならぬ点だと思いました。私自身は、2世帯住宅で、今後介護を受ける立場です。自分の生き方、あり方の難しさを考えさせられました。（鳥取県　女性）
少子高齢化、そして私たちにとって身近になってきた介護問題、年金問題、どれもこれも興味深いテーマでした。私も地区の子育て支援や介護予防リーダーをしている関係上、このお話に期待しておりましたが、時間が足りず残念でした。もう少し深くお話をお聞きしたいところでした。（東京都　女性）
韓国のことが多く、なじまなかった。（滋賀県　男性）
高齢者が元気といって、いつまでも就労することは、若い人たちの職場を失うこともあると考える。健康（心と体）老人となれるよう、輝く生きよう！「生き方は自立し・・・」自律することを守りたい。（神奈川県　女性）
やや期待に反した感じがある。対策についてもっと突っ込んだ話をしてほしかった。（東京都　男性）
先生だけが、元気いっぱいのようであった。講義以上に先生の笑顔を見て少し元気になった。（東京都　男性）
高齢者とは？若いとは？年齢ではないのではないでしょうか？現実に若くてして（90代）施設を利用されている人もおられます。現在私の勤務している施設では最高年齢104歳の方（女性）いらっしゃいます。息子のような（孫もおられます）職員と楽しく働ける場所が、あることに感謝しています。（兵庫県　女性）
現実的な知るテーマなので、実際に参加者のご意見を伺った方が学習できるような気が致しました。（愛知県　女性）
参考になりました。（東京都　女性）
老年学、現在の日本の高齢者問題背景など、丁寧にご説明いただきありがとうございました。総論としての内容学びました。朴先生のパワー感じました。次回は高齢者問題は私達も当事者なので、何か参加できるグループ・討議また発言できる機会もいただけたらと思います。（東京都　女性）
もう少し焦点を絞って話した方がよいと思いました。一般論に終始して少々退屈でした。（埼玉県　女性）
一般的な高齢者問題については、受講者は十分理解していると思います。いまさらという感じでした。それぞれの思いがあると思いますので、ぜひ形式の討論会のようなことをしたら、盛り上がったと思います。（長野県　男性）
高齢の自分たちにとって「老いるとは、生きるとは・・」重いけれども避けて通れないテーマの講義でしたが、何か表面サラーっとで深からず消化不良で残念でした。深刻なテーマを当事者たちを前に講義するには時間が足りなかったのでしょうね。できれば、少々きつくても、本音を出し合えるような学びあいを期待したのですが残念です。（秋田県　女性）
日本で高齢化社会を勉強していることに驚きを感じます。色んなことを知りたい熱意が感じられた。（兵庫県　男性）
講義が一般論すぎて、焦点が絞れませんでした。（福岡県　男性）
もっと岩手県の取組みの様子が聞ければと思います。一般的なお話しでした。（和歌山県　女性）

講義12、（橋本学）東北民族学の開拓者　佐々木喜善

喜善について具体的に知ることができました。（岩手県　男性）
喜善個人の姿が浮かび上がったような話内容で興味深し。（埼玉県　男性）
佐々木喜善さんを初めて知った！（長野県　男性）
一人の研究者の生涯を丁寧にお話ししていただき大変興味深かった。文字だけの画像（今までにはなかったと思います）にもかかわらず、逆に写真がある画像よりも頭に入ってきた。（兵庫県　男性）
全く遠野物語に触れたことのない私も、今度読んでみようという気にさせられました。（神奈川県　女性）
岩手の偉人と言えるくらいの民俗学研究者の佐々木喜善さんの存在を初めて知ることが出来ました。啄木さんや賢治さん達と並んで高く評価されてよい人物なんだなと思いました。改めてまた遠野物語を読んでみたい気がします。詳しい資料と丁寧な説明でよくわかりました。（鳥取県　女性）
柳田邦男、佐々木喜善を通しての本で「遠野物語」が大好きだったので、大変興味深かったです。風土記や民俗学を通じてその土地の人たちの暮らしぶりを知ることは楽しいです。この二人のみならず、多くの素晴らしい人たちとの交流があったことを教えて頂きました。（東京都　女性）
初めて佐々木喜善の生涯が分かった。（滋賀県　男性）
受講の事前学習不足だったと実感しました。（神奈川県　女性）
民俗学の知られざる人物について興味深く望かせて頂きました。どんな分野でも、それを支える多くの知られざる、優れた人々がいるであろうことは想像がつくが、他の色々な分野について洗い出すのも興味深いかも。（東京都　男性）
以前にシニアカレッジで喜善さんの墓をお参りしたが、喜善さん本人の講義を受け、少し理解できてよかった。（東京都　男性）
佐々木喜善、全く知らない名でした。音読してみます。（兵庫県　女性）
喜善氏の経歴より、どのように発願しそれを伝えていったのかを知りたかったです。研究の内容を詳しく知りたかった。（愛知県　女性）
勉強になりました。（東京都　女性）
何年か前に遠野を訪ねてのフィールドワークありました。佐々木喜善宅の跡地も尋ねました。橋本先生のご講義の内容で、又、学習が広がりました。私達も学習を吸収するキャパが狭くなり（シニア）クローズアップしての先生からのお話しを、次回は伺いたいです。とても興味深くお話を聞きました。（東京都　女性）
佐々木喜善さんの村長を失敗するくらいまでは知っていましたが、その後の人生や人間関係を知ることが出来て楽しい時間でした。（福岡県　男性）
恥ずかしながら、佐々木喜善さんという人物を知りませんでした。数多の協力者の力添え、協力があって、啄木も賢治も名を成したのだな・・・と思いました。（埼玉県　女性）
佐々木喜善についてもっと突っ込んだお話が聞きたかった。（和歌山県　女性）
佐々木喜善については、知らなかったので、面白かったと思います。（長野県　男性）
数年前、遠野を訪ねた際に、柳田国男のそれにはなくてはならない佐々木喜善という人の存在を知りました。今回、その佐々木喜善について詳しく教えていただき、大変うれしく思いました。遠野物語をまたじっくり味わってみることにいたします。（秋田県　女性）
丁寧に説明していただきましたが、もう少し約を絞っていただければ良かったと思います。（兵庫県　男性）

講義13（劉海宇）平泉文化と古代中国

平泉について新知識を知ることができました。（岩手県　男性）
資料は多いが、こんな講義内容がもっとほしい。（埼玉県　男性）
おもしろい話であった。平泉寺、法隆の郊外等々。（長野県　男性）
中国の先生ならではの平泉の解釈が面白かった。なぜ先生が中国からきて東北の歴史を研究しているのかも知りたかった。（兵庫県　男性）
知識の浅い私にとっては、焦点を絞りすぎている印象でした。（神奈川県　女性）
岩手の宝、世界遺産「平泉」と古代中国との関連について専門的な研究に触れることが出来て良かったと思います。改めて中国と日本の強いつながりを考えさせられました。中国は日本の先生だと歴史の上から、何千年のつながりを持っています。両国の関係の改善と交流が、ますます進んでいくよう願っています。（鳥取県　女性）
世界遺産になった、平泉中尊寺や毛越寺、日本独特のものではなく、広く中国から伝わってきたものであることを今更にして深く知り、現在の両国の関係に思いをはせました。流暢な日本語で分かり易くお話しくださり、興味深く聞き入りました。（東京都　女性）
日本の文化は、中国と深い関係と再認識。いつも感じます。（神奈川県　女性）
地名にしても、寺名にしても、昔の中国と歴史的由来を合わせ考えると興味深い。（東京都　男性）
平泉のことについて理解を深めることが出来たように思う。（東京都　男性）
知識不足、勉強不足で難しく、ついていけませんでした。（兵庫県　女性）
勉強家の先生の達かな日本語と古文の解釈さを読んで下さり、世界遺産としての平泉がよく分かりました。中国色の濃い講義でした。（愛知県　女性）
勉強になりました。（東京都　女性）
知識の豊富な授業に裏付けされていて、授業の進行に惹かれていきました。他国の文化や宗教の考え方の違いもよく分かりました。また、異なる内容で劉先生のお話を聞いてみたいです。（東京都　女性）
平泉の知識や古代中国の知識がないため理解力不足でした。（福岡県　男性）
分かり易い講義でした。（埼玉県　女性）
お話と見学が入っていたらいいですね。（和歌山県　女性）
少々疲労感が出てきたこともあり、せっかくの講義を十分に傾聴することが出来ませんでした。しかし、とても関心のあるテーマですので、資料や文献を読みながら、続けて学んでいくこととといたします。（秋田県　女性）
中国からの日本を生の声で聞けたのが良かったです。先生とは日中関係の歴史などの話をしてみたいと思います。（兵庫県　男性）

講義14、（喜多一美）岩手県における養鶏産業とニワトリ研究

専門的な内容でしたが、身近な表現で良かったです。（岩手県　男性）
専門的な話で理解しがたいが興味は大。資料も大きな文字で老人には親切。こんなレジメがスタンダードになればよいかも。（埼玉県　男性）
先生の話し方も良かったし、家畜の研究内容も興味深く、90分があっという間でした。今後もこの講義のように身近なテーマを専門的に話していただけると良いと思います。（兵庫県　男性）
余り興味のないテーマでしたが、岩手県とも関連付けながら、分かり易く説明してくださったので、楽しく聞きました。（神奈川県　女性）
大変興味のある研究とお話で面白かったです。血糖値の研究や糖尿病との関係のことは皆さん関心があったようです。成果をつい期待してしまいます。農家に育ちましたので畜産や作物の話は興味があります。これからもお願いします。ありがとうございました。（鳥取県　女性）
日常の食品として頂いている家畜のお話、大変参考になりました。カンピロバクターの恐ろしさは食品学、調理学として、調理、保存、器具の取り扱いにも注意を要すると思いました。いづれにしても、生き物を頂く私達に、命を奪う感謝が必要と思いました。（東京都　女性）
やっぱり、化学記号は難しい。（滋賀県　男性）
知っているようで、実は知らない家畜のお話し、楽しく受講できました。（神奈川県　女性）
後半は、小生には難しい内容でしたが、明快なしゃべりで面白く、興味深かった。（東京都　男性）
大変興味深く面白かったです。（東京都　男性）
鳥類の血糖値が高いというのを初めて知った。（鳥取県　女性）
身近なニワトリの血糖値が研究されていること、興味深く拝聴しました。（兵庫県　女性）
シニアにも分かり易く興味が持てるように努力してくださったので、ありがたいと思いました。（東京都　女性）
分かり易い講義でした。食生活と密着する課題だけに専門家のお話は興味深いところでした。（愛知県　女性）
大変参考になりました。ニワトリの研究から自分の栄養学などを見直す機会を得たような気がします。プロポリスが高価であることも参考になりました。楽しい授業でした。（東京都　女性）
研究に関する経過、分かり易く（クイズ形式）興味津々に聞くことが出来た。分かり易い資料、ありがとうございました。（東京都　女性）
難しいテーマを分かり易く教えて頂きました。岩手県の畜産の状況が理解できました。研究の成果を期待します。（福岡県　男性）
難しい研究を私達にも分かり易いように話してくださって、とても面白かったです。（和歌山県　女性）
面白かったです。（長野県　男性）
とても楽しい講義有難うございました。ぜひ、先生の研究が実を結ぶことが出来ますように願っております。ニワトリや牛、豚さんをいただく時、きっと今日のこの時間を思い出すでしょう。（秋田県　女性）
専門分野を分かり易く説明して頂き、楽しく聞けました。（兵庫県　男性）

その他、ご意見やご要望、感想など何でも構いませんので一言二言

●今回最終日を欠席し、一日早く帰京いたしました。勝手して申し訳ありません。修業証書はわざわざお送り下さらなくて結構です。●毎年講義内容を決めるのは大変だと思います。今年は宮沢賢治生誕120年ということで、まず旅行者には行けない所を案内して頂きました。ありがとうございます。●秋先生の「高齢者が元気……」は参加者の多くが少子化問題に関心があると思います。今回限りでなく次回も次々回も取り上げて頂ければと思います。いろいろ有難うございました。（東京都　女性）

●スタッフの方々大変ありがとうございました。（岩手県　男性）

●開催にあたりスタッフ各位大変労を費やしておられること、感謝しております。フレンドリーな雰囲気が気に入りリピーターとなっておりますが、今後ともよろしく…。ただし小生自身が生存しておればの話。●東北の歴史的な話には大きな興味あり。できるなら毎月数コマの講義を組み込んで下されば幸いです。●期間（開催）は、6泊7日で良いが、中間に1日、完全フリー（休日）を入れて下さると幸いです●フィールドワークは楽しく開催できれば幸いです。　"味噌造り"に再度参加してみたい。（埼玉県　男性）

●平均年齢にあった講義内容を望みます。●参加者（受講生）皆さんが発言を希望しているように受け止めました。ついては4～6名のグループに分けて、同じテーマにおいてフリートークをし、グループ代表が発表して、これをみんなで意見を述べる"こんなデスカッションの講座を1講義どうでしょうか？●大学スタッフの方、大変ご苦労様でした。皆さまのおかげで楽しい受講ができました。厚くお礼申し上げます。（長野県　男性）

●大学での座学の先生は、大学の教授や准教授以外に民間でも色々な研究や経験している人や、特別な才能を持っている人などを講師にしてはいかがでしょうか。●参加者が全員でかかわれる講義があってもいいのではないでしょうか。個人的な話をした人とは親しくなれるが、それ以外の人とは話をすることも、名前を覚えることもなく一週間が終わってしまう。参加者全員がもっと親しくなれる場があってもいいと思う。（兵庫県　男性）

●岩手大学のみならず、シニアカレッジには今まで全く参加したことがなかったので、どんなところなのか想像つかないまま参加しました。●大変綿密に準備されたこと、そしてホテルのことなど含め、細やかな心遣いなどを強く感じました。ありがとうございました。●若い先生方は、年長者に講義するということで緊張されていたのか、聴き手の反応までうまく取り込むことができなかったように思います。（神奈川県　女性）

●今年は国体があって特別なことがあったからでしょうが、もう少し早く開催日が知れたらよかったと思います。●何度も参加するたびにお友達と親しくなれて、リラックスして参加できました。●シニアカレッジが生きがいの一つになっています。ありがとうございました。（鳥取県　女性）

●中身の濃い講座で、満足満足の7日間でした。●また、頂いた資料も立派なもので、大切に保存させて頂き参考にします。●フィールドワークの1泊2日も個人ではなかなか行くことが難しい場所で、そのよ、講師の先生も素晴らしいお人柄でした。●何年も前から開催されていたとは、うかつ知らず残念でしたが、来年も健康に気をつけて是非参加したいと願っています。そして、同窓会組織も有り、益々楽しみが増え、人生が豊になります。感謝申します。●学長さん、講師の先生、そしてスタッフの皆様、色々お心づくしいただきましてありがとうございます。再会を楽しみにしております。（東京都　女性）

●現地で体験することは、いつまでも頭に残っています。今後もその方向で実施してほしいです。スタッフの方々には、事前準備等々大変と思いますが、ぜひお願いします。●第一回目はホテルルートインで大変良かったので、以後ホテルルートインに宿泊しましたが、今年は、国体の関係で予約を取ることができなく残念でした。今後はホテルの状況等、もっと早く知らせて欲しい。（滋賀県　男性）

●事務局の行き届いた対応に感心しております。今回の宮沢賢治さんの見ていに風景を追体験できたことは、新鮮な感動に包まれておりました。来てよかったと思えたことは、とても幸せなことだと思います。ありがとうございました。（神奈川県　男性）

●スタッフの方、講師の先生方お世話になりました。（愛知県　男性）

●実施されるか否かをもう少し早い時期に知りたい。（年間計画を立てるのに）開催される時期によって参加できるか否かが決定できない。●学校までの距離が遠く（自宅からの）往復に時間がかかるので、選択制の受講は困る。現在のように全教科、全日程を受講できるカリキュラムを希望します。●体験学習があるとよいなと思う（数年前の味噌造りのような）（鳥取県　女性）

●スタッフの皆さま、大変お世話になりました。温かい笑顔と細やかな心配りに気持ちよく過ごすことが出来ました。●資料の配布もタイミングよく（少々多すぎる感じ、要点書きで良いのでは？）大きな字で見やすくしていただきありがとうございました。●集まった生徒さん達がすでに高齢でらいの知識と経験がおありで、新入の者にとっては、少し気をくれしてしまいます。●しかし、この目で岩手大学と岩手県の内陸部の自然を見ることが出来、大変良い機会だったと喜んでいます。●今後の私の活動に活かせるようにしていきたいと思っております。●皆様のこれからのご活躍、ご発展をお祈りしています。ありがとうございました。（愛知県　女性）

その他、ご意見やご要望、感想など何でも構いませんので一言二言

●アンケートに協力しなければと思いますができれば無記名にして欲しい。 ●資料の拡大をありがとうございます。●リピーターとしては次は何を学んだらよいか意見が出てきません。 いつも講義の多種（身近なものから専門性の高い内容まで）な内容、流石東大です。東大のフィールドワーク（学内の散策コース、写真コンクール、撮影大会、クップ大会、運動する機会もあってよいのでは・・。●毎年大変お世話になります。スタッフの皆さんありがとうございます。●来年の催行も信じております。（東京都　女性）

●今回初めて参加させていただきましたが、大学関係者のご支援のおかげで楽しく一週間を過ごすことが出来ました。また、参加者の皆さんも和気あいあいで非常に良い雰囲気でした。●テーマも吉沢賢治さんが中心でしたので、九州出身で東北の知識がない私にも理解できる内容でした。フィールドワークも個人では行けない所を案内していただきありがとうございました。●機会があればまた参加させていただきたいと思っています。ありがとうございました。（福岡県　男性）

●事務局の皆さま、毎年ご苦労様です。里帰りをするような気持ちで、毎年一回楽しみに来ます。●地震も水害も今のところ無縁な大雪で、のんびり暮らしておりますが、来年も参加できれば、嬉しいと思います。●ポロシャツありがとうございました。（埼玉県　女性）

●今回初めて岩手大シニアカレッジに参加しましたが、皆がうまくとれず大変でした。他のイベントと重ならない日程を希望します。●次回の案内を送ってください。●後半は疲れが出てきました。真ん中に荷番を入れていただいたので、荷物はホテルに置いておけてよかったです。●座学、実習、見学をうまく取り入れていただければ嬉しいです。（和歌山県　女性）

●シニアカレッジを10回も継続しているのは、岩手大学だけだと思います。スタッフの努力は、大変なことだと思います。グリーンのポロシャツをありがとうございました。●討論形式の授業や学生との交流会なども、面白いと思います。（長野県　男性）

●「坂上田村麻呂が建立した○○神社です」という言葉が今回も多く聞かれました。シニアカレッジ参加者のほとんどの人たちは、関東、関西の方々であれば坂上田村麻呂が何のためにこの都から遠い蝦夏まで来て、何を成したのか、教科書で年号と名前を記するほどにしかわかっていないようです。蝦夷＝野蛮人＝攻め滅ぼされてもいい者、という大和朝廷から見た歴史に対し、共に日本列島に住み、暮らしを営み、独自の文化を築いてきた、大きな集団があったこと、それを一方的に攻められ領土、領国を奪われた民たちもまた歴史の担い手であったこと、攻め滅ぼした地の人々を改心させ、服従させるために、田村麻呂はとりわけ岩手の地にたくさんの神社を作り、民心の掌握を計ったのではなかろうか等々、五回目参加の今回は、白河以北二束三文といわれ、食の源や出稼ぎとして戦後日本の発展のために故郷から引き離された東北人達のことや、さらに大東亜の発展のために原発基地まで甘いアメとともに飲まされ、捨いならされてきたこと等々、知って欲しい、考えて欲しい、そんな思いを問われるままに心を開くことが出来た放課後の交流もできました。以上のことから「東北から見た日本の歴史」についての講義を希望します。きっと更なる皆大の魅力が増すものと思います。●いつも本当にありがとうございました。雪に負けぬ丈夫な体に感謝しながら動いて来年も参加したいと思ってます。（秋田県　女性）

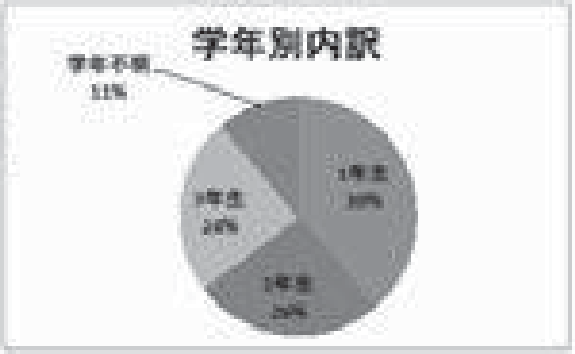
●開講10周年を迎え、今後は学校の年間行事の一環として、特別扱いではなく、普通に運営されることを希望します。●受講者の中に自立意識が欠落している人が増えたような気がします。職員の皆さんには過度な負担をかけているように見える。●シニアカレッジはツアーなどの学私事業ではなく、参加者が学生時代に戻って、知的好奇心を満たすための場であり、人に迷惑をかけないのが第一である。（兵庫県　男性）

資料２

平成28年度公開講座「第13回高校生のための政策の文学」アンケート集計

実施日：第1回目　平成28年7月2日（土）　13:00～15:10
実施日：第2回目　平成28年7月9日（土）　13:00～16:00
参加人数：総数54名（うちアンケート回答数34）

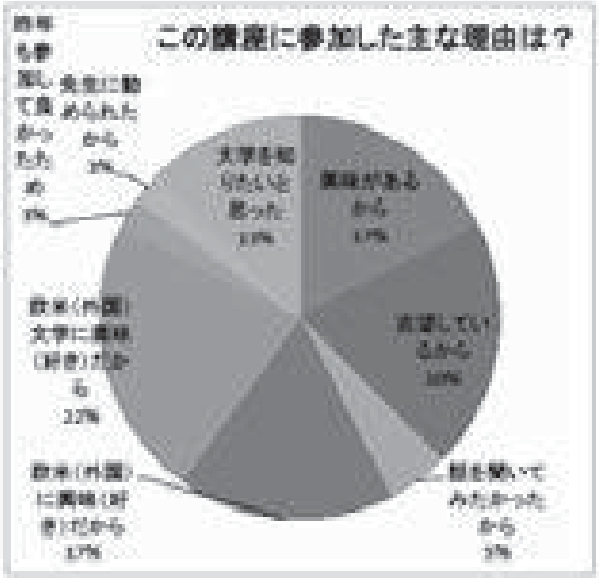
Q1. 何年生ですか？	
1年生	20
2年生	14
3年生	13
学年不明	6
※参加人数	54



Q学校別内訳	
一関第一高校	6
大船渡高校	4
気仙高校	5
盛岡白百合高校	2
不来方高校	3
住田高校	1
高文連参加高校	1
遠野高校	4
宮古西高校	1
花巻南高校	2
水沢第一高校	2
盛岡商業高校	3
盛岡第二高校	6
盛岡中央高校	3
盛岡農業高校	1
※参加高校数	54

Q2. この公開講座をどのようにして知りましたか？	
1. 関係書類を見た。	16
2. 先生から教えてもらった。	18
3. その他	0

◇Q3. この講座に参加したおもな理由を教えてください。	
興味があるから	7
志望しているから	8
話を聞いてみたかったから	2
欧米(外国)に興味(好き)だから	1
欧米(外国)文学に興味(好き)だから	9
昨年も参加して良かったため	1
先生に勧められたから	1
文学を知りたいと思った	5



◎お知らせの紙を見て興味をもったから。
◎フランス文学についてのお話しを聞きたかったから
◎私は現在、フランス語を勉強しており、以前、授業で「星の王子さま」をやりました。そのときに、「星の王子さま」についてもっと知りたいと思い、参加することを決めました。
◎もともと外国には関心をもっていて、欧米の文学は習う機会がないので参加してみたいと思ったから。
◎グリム童話がすごく好きで他の文学にも興味があったから。
◎学校では国際のクラスに所属しており、英語はもちろん外国語なども習っているので、外国の文学に興味があったから。
◎進学を考えていて、文学を学びたいと考えていたから。
◎開催要項を見て、興味を持ったから。
◎外国の文学に興味があるから。
◎人文社会科学部を志望していて、欧米文学に興味があったから。
◎海外の文学に興味があったから。
◎文学に興味があったからです。
◎欧米(文学)に興味があったから。
◎昨年も参加してとても面白かったので･･
◎先生に勧められたから。

◎大学の雰囲気を知ってみたかったから。
◎欧州が好きだから。
◎文系の大学に進学しようと考えているから。
◎心理学や、人文社会科に興味があったから。
◎岩大のイベントに参加したいと思ったから。
◎欧米の文学に触れるいい機会になると思ったからです。
◎講座の内容に興味を持ったから。
◎岩手の中でも、高いレベルの大学なのでどの様子でやっているかを把握するため。
◎進学を希望しており、文学に興味があるから。
◎文学作品に興味があったからと、岩大人社を希望しているから。
◎高校卒業後はこちらの大学に進学したいと考えているため
◎文学に興味があり、貴学で文学を学びたいと考えているからです。
◎人文社会科に興味があったから。外国についても興味があったから。
◎岩手大学に進学を希望しており、異文化に興味があったため。
◎欧米の文学や芸術が好きで、日常的に文学作品を読んでいるので、講座のテーマに興味を持ったから。大学の授業に興味があったから。
◎欧米の文学という言葉に惹かれたから。
◎文学に少し興味を持っていて、もっと知りたかったからです。
◎大学でどんなことを学ぶのか知りたかったから。
◎欧米文学に興味をもっていたから

◇Q4 開催時期や時間についてご意見はありますか？
◎一回目の講座が模試と同じ日で、途中からしか参加できなかったので、次回は、日付をずらして欲しいです。
◎いいと思います。
◎午前のほうがいいなあと思いました。
◎3年生にとっては適した時期だと感じました。
◎良かった。

◎午後でゆっくりお話が聞けたので良かったです。
◎特にありません。このままでいいと思います。
◎4つの講座を1日でやってほしい。
◎午前中にしてほしい。
◎このままでいいと思います。
◎ちょうどよいと思います。

◇Q5 受講前に事前資料は読みましたか？	
1. はい	28
2. いいえ	8
3. その他	

◇Q6 懇話会の感想や要望をお書きください。
◎とても自分のためになる良いお話を聞かせていただきました。海外の話（歴史）を更ぬみに読んでみたいです。
◎色々な話を聞けて良かったです。
◎質問が出来て嬉しかったです。
◎様々な人達の感想を聞いて確かにそうだなと思う所もありました。他の人との価値観の違い、受け取り方の違いを目の当たりにできたので良い経験となりました。
◎講話で聞けなかったことや、外国のことについて詳しく気軽に聞くことが出来たのでよかった。
◎聞きたかった質問が聞けたので良かったです。ありがとうございました。
◎欧米の文字について皆さま詳しく、自分も色々読んでいきたいと思いました。
◎気軽に先生方とお話ができて良かったです。
◎知らなかったことをたくさん聞くことができてよかったです。
◎様々な質問や、意見を聞いたり、交流ができて良かったです。

◇Q7　2018年度「高校生のための欧米の文学」は全体的にいかがでしたか。
（○で囲んでください）

1. 大変良かった	18
2. 良かった	18
3. 普通	0
4. あまりよくなかった	0
5. つまらなかった	0

◇Q8　Q7の質問回答にたいする理由をお書きください。

◎外国の文学について知れたから。
◎様々な国の文学を読んで一部分ではあったが、その国について知ることができ、自分の教養が広がり、講義に参加して良かったと思う。
◎今まで読んだことのある話の疑問に思っていたところの解説を聞くことができ、面白かったです。来年も、参加したいです。
◎個性のある先生方で、引きこまれるくらいおもしろく分かりやすい講義をしていただいたから。
◎とても分かり易かったのですが、すこし難しかった。
◎それぞれの文学で、とても深いところまで知れたし、紹介した本などに興味を持ったから。
◎一つの言葉でも色々な意味があるのが面白かった。
◎それぞれの小説に深い意味があったということを知れたし、時代背景もよく分かったから。
◎難しい部分もありましたが、歴史的背景に触れながら文学を考えることができたから。
◎普段あまり触れることがない様々な文学について、詳しい話を聞くことが出来てとても面白かった。
◎興味があったので、すごく聞いててよかったです。
◎簡単な話（童話）で面白く、お話が聞けたから。特に川村先生の話はすごく良かったです。
◎自分の知らなかった物語の側面を知ることが出来たから。
◎作者や作品の解説が分かり易かった。先生方それぞれの解釈や説明が楽しかった。
◎興味のある分野だったので、とても面白かった。ドイツ文学が特に面白かったです。

◎自分で本を読むだけではわからないことを知ることが出来たから。
◎楽しく授業ができたし、今まで自分が考えていたことが、そういう考え方もあるのかと客観的に考えられたから。
◎先生方がどの方もおもしろくて、一時間がとても早く感じたから。
◎普段あまり関わることがなかった海外の文学について、これから読んでみたいという気持ちになれました。
◎今まで、欧米の文学にふれることがなかったけれど、分かり易い講座で、楽しく話を聞くことが出来たから。
◎それぞれの文学において、色々と知ることが出来たから。
◎楽しくお話を聞くことができました。
◎私は今日の講座に出てきた2つの物語は読んだことがなかったのですが、2つの作品を新しい視点でみていて、面白いと思いました。この2つの作品はすぐにでも図書館で借りて読んでみます。
◎自分が気付かなかった解釈を知ることができて面白かったからです。文学だけでなく歴史や文化を学ぶこともできたからです。
◎4つの国の文学についてたくさん学べた。ドイツ文学にとても興味を持つことができたから。
◎普段外国の文学を学ぶ機会がなかったが、今回の講座で触れることができたのでとても良かった。
◎資料の内容と説明がわかりやすかったです。もっと資料がほしいので、自分で調べてみようと思います。
◎時間が足りなかった。
◎自分の知らない文学にも踏み込めたから。
◎文学作品を読み解くために作者の生い立ちや生きてきた時代などを分析して作者の考えを知ろうとするところが面白かった。
◎文学について、時代や背景について知ることが出来たこと、講師の先生方の解釈について聞くことができて良かったです。

◎Q9 この公開講座にたいする感想や今後の要望を自由にお書きください。
◎アメリカ文学、イギリス文学、フランス文学は特にわかりやすく、先生方の考えには自分が本を読むときに考えること以上のものがあり、話を聞けて良かった。
◎特に、ドイツ文学の先生の話が面白く、ドイツ文学に興味をもちました。他の話も、もっと聞いてみたいです。また、他の国の文学についても学んでみたいと思いました。
◎とても面白かったので、機会があれば次回も参加したいと思いました。2時間目はちゃんと時間通りに終わっていただけると助かります。
◎「これについてどう思いますか？」などの質問もしてほしかったです。他の人の意見も聞きたいなと思いました。
◎また次もあれば参加したい。
◎アメリカ、ドイツ、イギリス、フランスの様々な文学についてたくさんのことが知れてとても楽しかった。先生方もそれぞれユーモアがあって面白かった。また、機会があったら参加したいと思った。
◎欧米の文化についてふれることがあまりなかったので、今回参加してみて本当に良かった。興味を持ったので、様々な本を読んでみようと思った。
◎とてもためになるので良かったです。今後もやってほしいです。

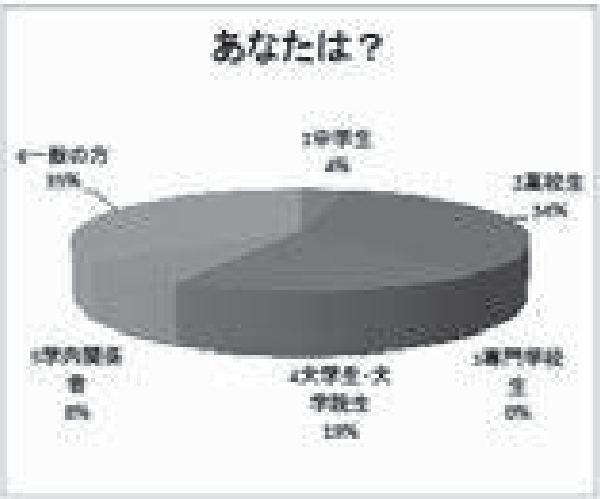
◎今後も参加させていただきたいと思います。本当に楽しかったです。有難うございました。
◎普段外国文学にはあまりふれないので、新鮮でした。大学の先生がどのような雰囲気なのかも知れて、良い機会になりました。様々な国の文学にふれてよかったです。
◎たくさん講座があり、色んなことを知れたし大学の雰囲気もつかめるので良かった。
◎来年もあるならぜひ参加したいです。とても早い一時間でした。
◎来年もこの講座を続けてほしい。
◎プロジェクターでの講座がわかりやすいし、面白かった。
◎ぜひ来年も参加したいと思うので、開いてもらいたいです。
◎文学において、時代の背景が反映されていたり、作者の心境が描かれていたりと、日本のものと同じように見えても、国が異なると描写の感じが少し違っていて大変興味深かったです。欧米以外の文学についても学んでみたいなと思いました。
◎1日目のみの受講でしたが、幸福な王子も、星の王子様も、元々好きな作品であったので、楽しくお話を聞くことが出来ました。
◎今回は、このような公開講座を開催していただき本当にありがとうございます。前日、電話での申し込みでしたが、参加できてよかったです。また、このような講座などがありましたら、前日ではなくもっと早くに申し込んで参加したいと思いました。
◎各国の文学作品をじっくり読む機会にもなって、本当に楽しかったです。
◎もともと外国に興味があったが、さらに興味を持てたし、文学についてもっと学びたいと思えました。どの本から手を付けたらよいかわからなかったので、とても参考になりました。
◎アメリカ、ドイツ、イギリス、フランスの異文化を学ぶことができた。日本の文学とはどれも異なり、その国ならではの独自の文学があることが分かった。逆に他国からは、日本の文学がどのように見えてるのかが気になった。今後世界の文学についてもっと調べてみたい。この2回の講座を通して貴重な体験をすることが出来た。
◎学校行事の関係で、2回目しか参加できなかったので、残念でした。作品を読むだけでなく、作者の生涯も知ることで、作品がもっと面白くなることを知りました。これからの読書に活かしていきたいです。好きなジャンルの講座で充実した時間を過ごせたと思います。ガーデンパーティー楽しかったです。今日は本当にありがとうございました。
◎欧米の文学をもっと知りたいと思いました。今よりも本をもっと読みたいと思いました。とても楽しかったです。

資料３

平成28年公開講座「親から子へ、動物にもある遺伝する病気」
開催日：平成28年6月18日（土曜日）
参加人数39名（内アンケート回答者24名）

Q1

あなたは？	
1中学生	1
2高校生	8
3専門学校生	0
4大学生・大学院生	3
5学内関係者	2
6一般の方	9

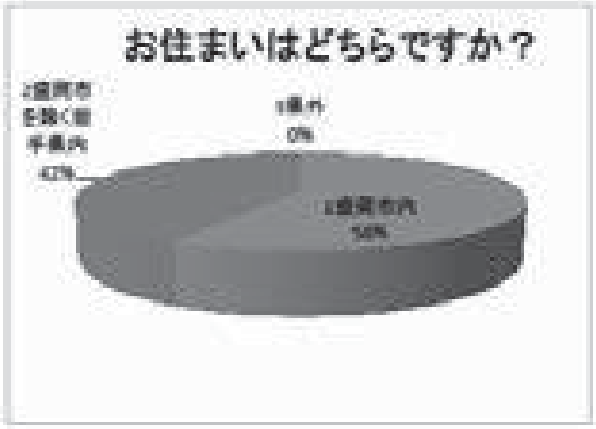


Q2

お住まいはどちらですか	
1盛岡市内	13
2盛岡市を除く県央部内	11
3県外	0

（その他内訳）

8奥州	1
滝沢市	3
一関市	1
盛岡市	4
無回答	3

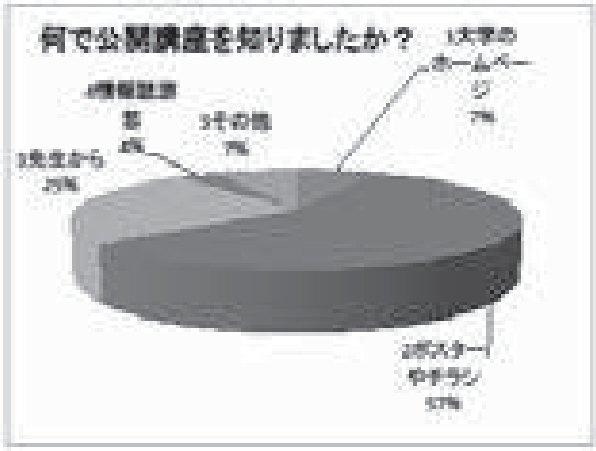


Q3

何で公開講座を知りましたか？	
1大学のホームページ	2
2ポスターやチラシ	16
3先生から	7
4情報誌記事	1
5その他	2

（その他内訳）

友人から	1
家族から	1



Q4

これまでに本学で開催した公開講座に参加したことがありますか？	
1はじめて	14
2前にも参加した。	11
3毎回参加している	3

Q5

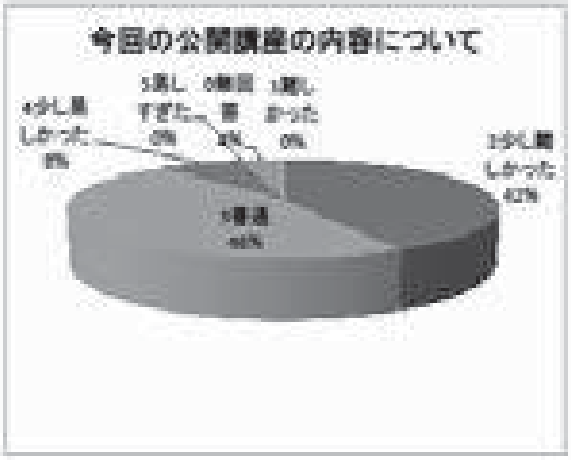
受講の動機をお聞かせください（複数回答可）	
1今回の講座の内容に興味があったから	18
2新しい知識を身につけたいと思ったから	16
3現在又は将来の仕事に役立つと思ったから	6
4本学に興味があったから	6
5受講料が無料であったから	6
6その他	2
0無回答	1

（その他の欄）

妹と一緒に参加しました。この講座に非常に興味をもっておりご一緒に聞いました。私にとっては、難しかったですが、分かりやすい説明をしていただき、聞きやすかったです。ありがとうございました。	1
子供が受験するので一緒に参加した	1
勉強がすきだから	1

Q6

今回の公開講座の内容について	
1難しかった	0
2少し難しかった	21
3普通	23
4少し易しかった	7
5易しすぎた	0
0無回答	1

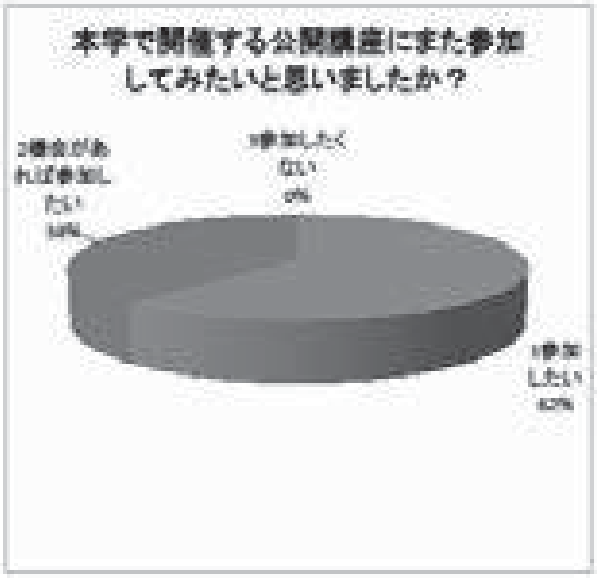


Q7

一つ一つの講義時間は？	
1長かった	1
2ちょうど良かった	22
3短かった	1

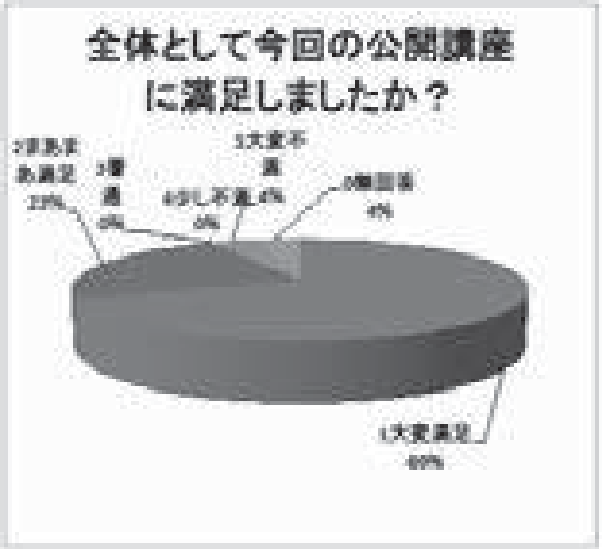
Q8

本学で開催する公開講座にまた参加してみたいと思いましたか？	
1参加したい	18
2機会があれば参加したい	2
3参加したくない	0



Q9

全体として今回の公開講座に満足しましたか？	
1大変満足	18
2まあまあ満足	5
3普通	0
4少し不満	0
5大変不満	1
6無回答	1



★感想

受講者が少ないのが非常に残念に思いました。多くの高校生、一般市民等に聞いてもらいたいです。受講させていただきありがとうございました。
大学選びの良い参考になった。また参加したいです。ありがとうございました。
病気が増えない方法は分かっているのに、ブリーダーさんの方の生活情況もあり、中々減らせない現状にあるのがなんとも歯がゆかった。病気関係の講座が講座がおもしろかったので、もっと聞いてみたい。
今習っている基礎的な事を復習することによって応用的な事も分かりやすくなり、頭に入りやすかった。遺伝病は身近にあること、まだ見つかっていない病気があることが分かった。場所が少し分かりにくかったので、分かりやすくしてほしいです。
数多くの考えられる可能性からふる口、完ぺきな原因を探すという獣医の役目に、改めて面白さを感じた。
単発的な内容ではなくて、半年とか、3か月間とか、系統立った内容で講座を聞いていただければとも考えた。オープンキャンパス的な内容だけでなく、生涯学習的なニュアンスもあればおもしろいのではないかと思う。
高校の授業で習っている遺伝子についてさらに専門的に学ぶことができました。遺伝子の病気は1つのタンパク質のずれから生じ、それから、たくさんの病気が生じる。たくさんの動物を助けるためにもたくさんの実験は必要であるが、できるだけ早期発見をすることが大事だと思った。
石井先生の説明があって、他の講座もわかりやすかった。
遺伝的な病気だけでなく、環境要因によるものもあることを初めて知った。自分も犬を飼っているので、周り、環境に気を付けなければいけないと感じた。またいろんな病気をしることができ、良かった。
最初に基本の説明があって、その後の講座をとてもわかりやすく受けることができて本当によかったと思っています。育種について講座を受けてみたいです。
メトヘモグロビンや、ラクトフェリンなど、今まで知らなかったことをたくさん知れてよかった。スライドがわかりやすかった。スライドづくりの参考にもなった。獣医にもいろいろな活躍の仕方があるんだなと改めて思った。野生動物、動物行動学について聞いてみたい。
大学での普段受けている講義内容が今日聞いた発展的な話につながって楽しかった。普段の勉強が生きて楽しかったと感じた。去年大学一年生で参加した時より、話が理解できるようになったと思ったが、まだ、疑問に思った点が多々あったので、のちのち解決できるよう勉強します。
動物の遺伝病について、最近授業で勉強するようになったのですが、実際に臨床現場でどのように治療しているのかを知ることで自分が普段勉強していることが役立つのだなと実感できたのでよかったです。今回は小動物についてだったので、大動物についての病気についてもきいてみたいと思いました。
犬が癌で死去したこと、友人の猫達の様子（病気）また、今飼っている愛犬の病気、以前飼育していたグッピーの病気など、色々関連させて考える機会になりました。楽しく学習させていただきました。有難うございます。（飼育されていない野生種についても関心がありました。かなり多くの子孫が生まれていますが生き残っているのは限られているものですから・・・・）
開催時期（お祭り、部活（高校、中学、中間テスト）の検討が難しいと思いました。公開講座のターゲット層をどこに設定するかという検討も事務方との打ち合わせがあるとよいと思います。講師の先生方、事務方の皆さま、どうもありがとうございました。勉強になりました。

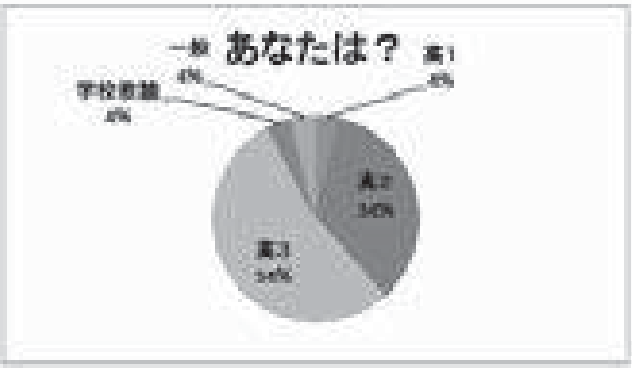
資料４

平成28年度公開講座「地域政策入門」－まちづくりを考える－

実施日　：平成28年7月30日（土曜日）13:00～16:00
参加人数：53名（アンケート回答者52名）

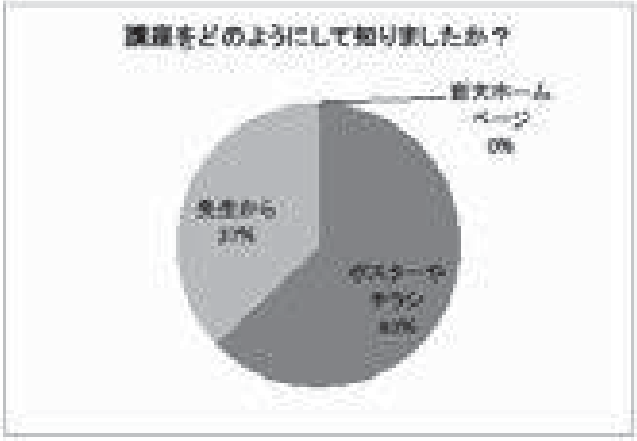
問1. あなたは？

高1	3
高2	18
高3	28
学校教諭	2
一般	2
その他	
	52



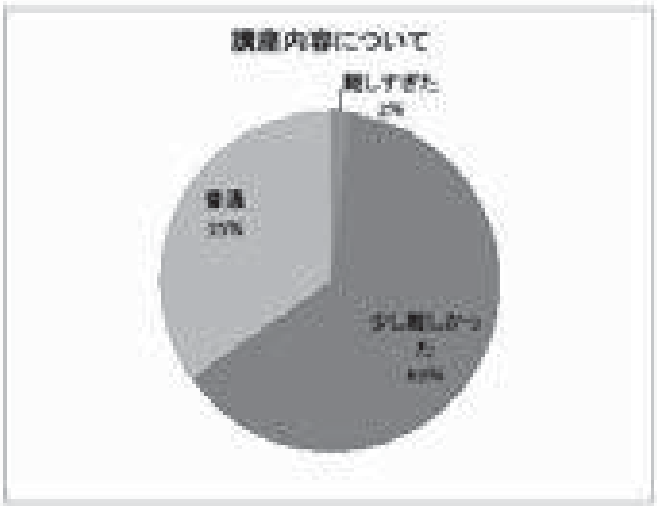
問2. この講座をどのようにして知りましたか？

県大ホームページ	0
ポスターやチラシ	34
先生から	20
友人・知人から	0
その他	0
無回答	0
	54



問3. 内容について

難しすぎた	1
少し難しかった	33
普通	18
少し易しかった	0
易しすぎた	0
回答なし	0
	52

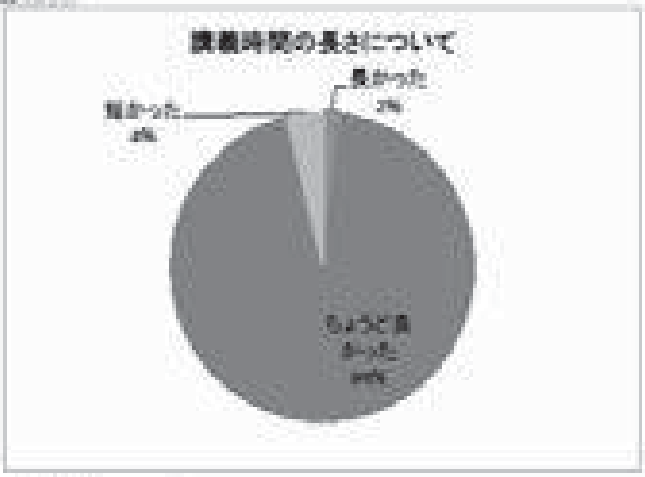


問4. ひとつひとつの講義時間の長さはどうでしたか？

長かった	1
ちょうど良かった	49
短かった	2
回答なし	
	52

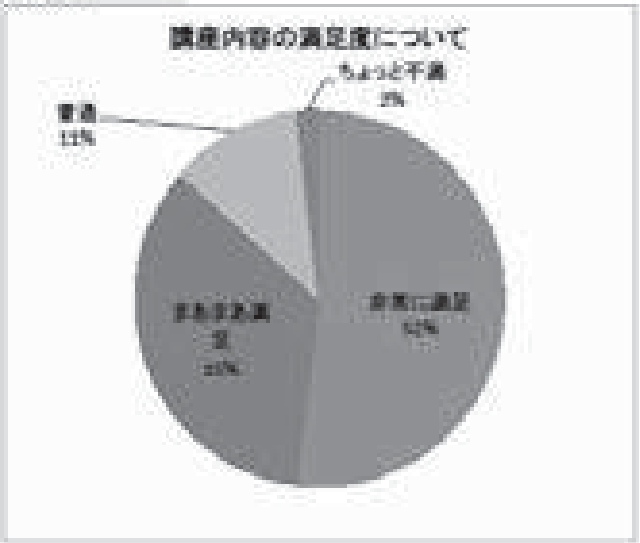
一方通行でむしかった。

間に休憩時間を挟んだ方がいいと思った。



問5. 全体的に見て今日の公開講座に満足できましたか？

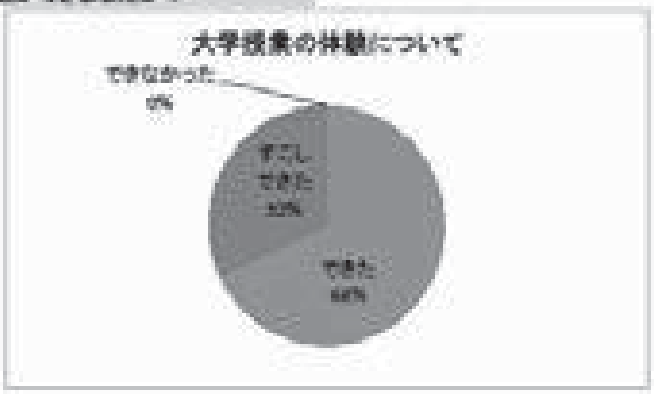
非常に満足	27
まあまあ満足	18
普通	6
ちょっと不満	1
非常に不満	
回答なし	
	52



【高校生対象の項目】

問6. 大学の授業（講義）の雰囲気を体験することができましたか？

できた	34
すこしできた	16
できなかった	0
その他	
無回答	
	50



【高校生対象の項目】

問9. 今回の公開講座は将来の進路を考えるにあたり役に立ちましたか？

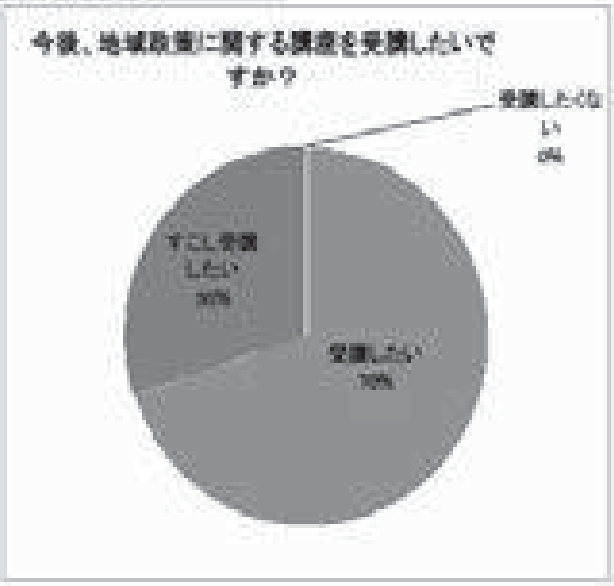
役に立った	34
すこし役に立った	15
役に立たなかった	1
その他	0
無回答	0
	50

視野を広げるという点において

【高校生対象の項目】

問11. 今後、地域政策に関する講座があれば受講したいですか？

受講したい	35
すこし受講したい	15
受講したくない	0
その他	0
無回答	0
	50



問8. 総合討論についての感想をお聞かせ下さい。（何でも自由にお書き下さい。）

◎岩手で行われているまちづくりやそのための考え方を知ることが出来ました。
◎副学長のまとめがとてもよかった。
◎自分が疑問に思ったことだけでなく、様々な方の質問、回答を聞くことが出来てよかった。
◎全てが分かった、ということはありえないので、これからも自分で調べたい
◎地域政策について色々な視点から課題を見つけ、解決策を、見出していくということが大切だということが分かりました。

◎一つ一つ言葉（単語）が難しくて理解しずらかったです。
◎討論というより質問コーナーという感じでした。

問5、総合討論についての感想をお聞かせ下さい。（何でも自由にお書き下さい。）

◎討論にはなっていなかった。
◎三陸のわかめを用いる水産加工企業について知れて良かったです。また、住民自治、地方自治の観点からのTPP、米軍基地問題への考えに触れ新鮮でした。
◎三人のお話しで分からなかったところを補うことが出来たのでよかった。講師陣のお話がたのしかった。
◎自分の知らなったことを多く知ることができたので良かった。
◎講座を聞いてよくわからなかったり、もう少し聞きたかったことがより深く分かりました。
◎質問に答えてくださったので、より理解を深めることができました。地域政策といっても、いろんな方向から、アプローチすることができることが分かりました。
◎自分が思いつかなかった疑問を総合討論で見つけることができ、さらに深めることができて、良かった。
◎講義を聞いて、疑問に思ったことについてその場ですぐに解決することができたので、より理解が深まった。
◎一つ一つの質問に丁寧に答えて下さり、他の人の質問を聞けて、そしてその答えを聞けて自分の知識をさらに深めることができてよかったです。
◎自分が疑問に思っていることが分かりました。
◎疑問の解決になった。
◎さらに詳しく講義内容を知れてよかったです。
◎質問に対して丁寧に答えて下さり、とてもよかった。もう少し総合討論の時間を長くしてほしい。
◎基本的な事から、様々な事例まで、教えていただけて勉強になりました。
◎資料やモニターを使うことで分かり易かった。
◎いくつかの質問に対し、詳しい説明を聞くことができた。
◎勘違いしていた部分があったことに気づき、その部分を改めて、しっかりと理解することができた。
◎意見、質問を集めて、答えてもらうというこのやり方はとてもいいと思います。見易いにできるからです。
◎話がちょっと難しく理解できない部分もあったけど、勉強になりました。
◎具体的な話を聞けてよかった。
◎細かい知識を得ることが出来た。
◎この講座の中で生まれた疑問を解決できて良かった。
◎講座の中では分からなかった部分も質疑応答などで分かりました。質問の数が多かったので時間がもう少しあればいいなと思いました。
◎具体的な解答が得られたので良かったです。
◎とても良かった。

問7、感想・意見・提案・今後取上げてほしいテーマ等（何でも自由にお書き下さい）

◎新しい街づくりの視点と実践例を学ぶことが出来、現在の動務地で住民とともに取り組みたいと考えることができました。
◎先生方と直接お話しする時間がほしい。

◎政策の定義から取り上げてくれたことで、理解しやすくて良かった。
◎ものづくりに関するテーマを聞いてみたいです。丸山先生の講座は聞きやすかったです。
◎講義中寝ている方がいたので、聞き手が参加できるような要素を取り入れた方がよいのでは、と思いました。

問7. 感想・意見・提案・今後取上げてほしいテーマ等（何でも自由にお書き下さい）

◎学習できてよかったが、話の間に3分でいいから休みがほしかった。あと部屋が寒い。最後の質問の選挙について話していたが地域政策と全く関係なかった。時間の無駄。
◎難しいワードも、具体例をあげ抽象的な説明で理解することができた。
◎学部についての情報を少しでも集めることが出来た。
◎プレゼンの配布資料まで準備いただき、たいへん良かったように思います。資料はもう少し簡略化したものでも良いように思いました。
◎先生方の言っていることがすべて資料に書いてあることと同じで、もらった資料だけで満足してしまった自分がいたので、もっとそこからこちらに考える仕組みが欲しい。
◎男女共同参画等
◎丸山先生の資料が特に分かり易かったです。
◎横山先生のお話しで地域住民の思いにあまり沿っていない進出企業に雇用の確保などのためにたよらなければいけないことにすごく嫌な感じがした。自分として世界遺産の話をしていただきたい（平泉）
◎自分の興味のある分野について深く考えることができたので良かった。
◎消滅するといわれるが、そんなに重たくとらえなくてもいいことを知りました。地域外から見た視点について知りたいと思いました。
◎高齢化対策に関心を持っています。
◎三人の先生の視点から「地域政策」について学べたので良いと思った。グループワークなどを通して周りにいる人々の意見も聞きたいなと思った。
◎丸山先生の授業が分かり易かったし、共感できた。
◎総合討論をすることで、その場で理解をすることができて良かった。大学の講義を体験することができて今後の参考になった。今後取り上げて欲しいテーマ：地方と政の関係について。
◎初めての講座という大学の授業のような体験ができて、そして地域政策についてのお話しを聞くことができて良かったです。
◎地域で行っている活動を詳しく聞けて良かったです。
◎見利制度のメリット、デメリット、この国に必要かについて。
◎ホームページやパンフレットを見ても、漠然としか学習の内容を理解できなかったのですが、この講座に来たことで、学習内容として見えてきて、とても良かったと思う。
◎三つの講義ののテーマはどれも普段考えることが少ないものだったので、参考になりました。
◎地域住民が積極的に政策に関わってもらうにはどうすればよいのか？ということを取り上げてほしいです。
◎丁寧に根本的なところから、説明していただけて嬉しかったです。ありがとうございました。
◎課題解決や政策の観点が分かって、将来に役立つと思いました。役所の活動だけでなく、NPO,NGOの活動も見てみたいです。
◎具体的な市町村の行っている政策を取り上げていて、イメージがわいた。
◎まちづくりの考え方や地域政策環境にふれたり学ぶことが多くあった。
◎被災地や復興に対する取り組み、それに関する岩手大学や若者の動きが知りたいです。
◎地域政策というものがどういうものなのか、知ることができ良かった。大学の授業の雰囲気を感じることができ、いい機会となった。
◎今はTPPに向けての対策や、岩手県の農業の6次産業化、またそれを支援するための銀行の役割などに関心を持っている。

資料５

平成28年度 岩手大学公開講座

第21回農学部5学科
『植物生命科学科』『応用生物化学科』
『森林科学科』『食料生産環境学科』『動物科学科』
の実験講座

結果の報告及びアンケート集計

●開催日　：平成28年7月2日(土)　13:00～17:00
●参加高校数　：13校
●参加人数　：53名

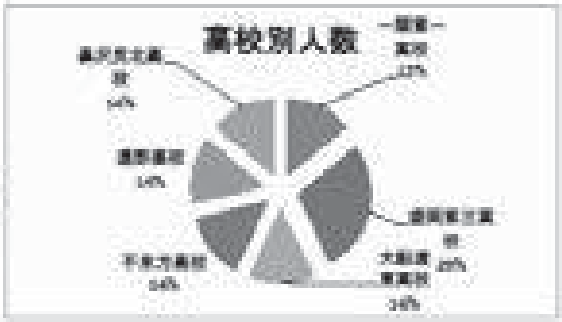
●学校別申込人数一覧

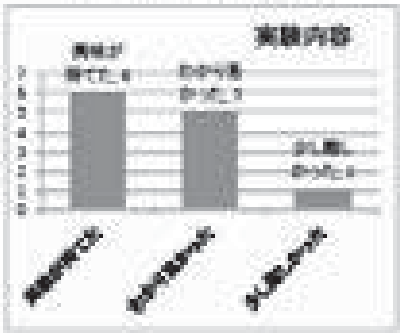
学校名	人数
[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]
一関第一	[illegible]
一関第二	[illegible]
[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]
盛岡第三	[illegible]
盛岡第四	[illegible]
盛岡第五	[illegible]
盛岡第六	[illegible]
盛岡第七	[illegible]
盛岡第八	[illegible]
盛岡第九	[illegible]
盛岡第十	[illegible]
盛岡第十一	[illegible]
盛岡第十二	[illegible]
盛岡第十三	[illegible]
盛岡第十四	[illegible]
盛岡第十五	[illegible]
盛岡第十六	[illegible]
盛岡第十七	[illegible]
盛岡第十八	[illegible]
盛岡第十九	[illegible]
盛岡第二十	[illegible]
盛岡第二十一	[illegible]
盛岡第二十二	[illegible]
盛岡第二十三	[illegible]
盛岡第二十四	[illegible]
盛岡第二十五	[illegible]
盛岡第二十六	[illegible]
盛岡第二十七	[illegible]
盛岡第二十八	[illegible]
盛岡第二十九	[illegible]
盛岡第三十	[illegible]
盛岡第三十一	[illegible]
盛岡第三十二	[illegible]
盛岡第三十三	[illegible]
盛岡第三十四	[illegible]
盛岡第三十五	[illegible]
盛岡第三十六	[illegible]
盛岡第三十七	[illegible]
盛岡第三十八	[illegible]
盛岡第三十九	[illegible]
盛岡第四十	[illegible]
盛岡第四十一	[illegible]
盛岡第四十二	[illegible]
盛岡第四十三	[illegible]
盛岡第四十四	[illegible]
盛岡第四十五	[illegible]
盛岡第四十六	[illegible]
盛岡第四十七	[illegible]
盛岡第四十八	[illegible]
盛岡第四十九	[illegible]
盛岡第五十	[illegible]
盛岡第五十一	[illegible]
盛岡第五十二	[illegible]
盛岡第五十三	[illegible]
盛岡第五十四	[illegible]
盛岡第五十五	[illegible]
盛岡第五十六	[illegible]
盛岡第五十七	[illegible]
盛岡第五十八	[illegible]
盛岡第五十九	[illegible]
盛岡第六十	[illegible]
盛岡第六十一	[illegible]
盛岡第六十二	[illegible]
盛岡第六十三	[illegible]
盛岡第六十四	[illegible]
盛岡第六十五	[illegible]
盛岡第六十六	[illegible]
盛岡第六十七	[illegible]
盛岡第六十八	[illegible]
盛岡第六十九	[illegible]
盛岡第七十	[illegible]
盛岡第七十一	[illegible]
盛岡第七十二	[illegible]
盛岡第七十三	[illegible]
盛岡第七十四	[illegible]
盛岡第七十五	[illegible]
盛岡第七十六	[illegible]
盛岡第七十七	[illegible]
盛岡第七十八	[illegible]
盛岡第七十九	[illegible]
盛岡第八十	[illegible]
盛岡第八十一	[illegible]
盛岡第八十二	[illegible]
盛岡第八十三	[illegible]
盛岡第八十四	[illegible]
盛岡第八十五	[illegible]
盛岡第八十六	[illegible]
盛岡第八十七	[illegible]
盛岡第八十八	[illegible]
盛岡第八十九	[illegible]
盛岡第九十	[illegible]
盛岡第九十一	[illegible]
盛岡第九十二	[illegible]
盛岡第九十三	[illegible]
盛岡第九十四	[illegible]
盛岡第九十五	[illegible]
盛岡第九十六	[illegible]
盛岡第九十七	[illegible]
盛岡第九十八	[illegible]
盛岡第九十九	[illegible]
盛岡第百	[illegible]
盛岡第百一	[illegible]
盛岡第百二	[illegible]
盛岡第百三	[illegible]
盛岡第百四	[illegible]
盛岡第百五	[illegible]
盛岡第百六	[illegible]
盛岡第百七	[illegible]
盛岡第百八	[illegible]
盛岡第百九	[illegible]
盛岡第百十	[illegible]
盛岡第百十一	[illegible]
盛岡第百十二	[illegible]
盛岡第百十三	[illegible]
盛岡第百十四	[illegible]
盛岡第百十五	[illegible]
盛岡第百十六	[illegible]
盛岡第百十七	[illegible]
盛岡第百十八	[illegible]
盛岡第百十九	[illegible]
盛岡第百二十	[illegible]
盛岡第百二十一	[illegible]
盛岡第百二十二	[illegible]
盛岡第百二十三	[illegible]
盛岡第百二十四	[illegible]
盛岡第百二十五	[illegible]
盛岡第百二十六	[illegible]
盛岡第百二十七	[illegible]
盛岡第百二十八	[illegible]
盛岡第百二十九	[illegible]
盛岡第百三十	[illegible]
盛岡第百三十一	[illegible]
盛岡第百三十二	[illegible]
盛岡第百三十三	[illegible]
盛岡第百三十四	[illegible]
盛岡第百三十五	[illegible]
盛岡第百三十六	[illegible]
盛岡第百三十七	[illegible]
盛岡第百三十八	[illegible]
盛岡第百三十九	[illegible]
盛岡第百四十	[illegible]
盛岡第百四十一	[illegible]
盛岡第百四十二	[illegible]
盛岡第百四十三	[illegible]
盛岡第百四十四	[illegible]
盛岡第百四十五	[illegible]
盛岡第百四十六	[illegible]
盛岡第百四十七	[illegible]
盛岡第百四十八	[illegible]
盛岡第百四十九	[illegible]
盛岡第百五十	[illegible]
盛岡第百五十一	[illegible]
盛岡第百五十二	[illegible]
盛岡第百五十三	[illegible]
盛岡第百五十四	[illegible]
盛岡第百五十五	[illegible]
盛岡第百五十六	[illegible]
盛岡第百五十七	[illegible]
盛岡第百五十八	[illegible]
盛岡第百五十九	[illegible]
盛岡第百六十	[illegible]
盛岡第百六十一	[illegible]
盛岡第百六十二	[illegible]
盛岡第百六十三	[illegible]
盛岡第百六十四	[illegible]
盛岡第百六十五	[illegible]
盛岡第百六十六	[illegible]
盛岡第百六十七	[illegible]
盛岡第百六十八	[illegible]
盛岡第百六十九	[illegible]
盛岡第百七十	[illegible]
盛岡第百七十一	[illegible]
盛岡第百七十二	[illegible]
盛岡第百七十三	[illegible]
盛岡第百七十四	[illegible]
盛岡第百七十五	[illegible]
盛岡第百七十六	[illegible]
盛岡第百七十七	[illegible]
盛岡第百七十八	[illegible]
盛岡第百七十九	[illegible]
盛岡第百八十	[illegible]
盛岡第百八十一	[illegible]
盛岡第百八十二	[illegible]
盛岡第百八十三	[illegible]
盛岡第百八十四	[illegible]
盛岡第百八十五	[illegible]
盛岡第百八十六	[illegible]
盛岡第百八十七	[illegible]
盛岡第百八十八	[illegible]
盛岡第百八十九	[illegible]
盛岡第百九十	[illegible]
盛岡第百九十一	[illegible]
盛岡第百九十二	[illegible]
盛岡第百九十三	[illegible]
盛岡第百九十四	[illegible]
盛岡第百九十五	[illegible]
盛岡第百九十六	[illegible]
盛岡第百九十七	[illegible]
盛岡第百九十八	[illegible]
盛岡第百九十九	[illegible]
盛岡第二百	[illegible]
盛岡第二百一	[illegible]
盛岡第二百二	[illegible]
盛岡第二百三	[illegible]
盛岡第二百四	[illegible]
盛岡第二百五	[illegible]
盛岡第二百六	[illegible]
盛岡第二百七	[illegible]
盛岡第二百八	[illegible]
盛岡第二百九	[illegible]
盛岡第二百十	[illegible]
盛岡第二百十一	[illegible]
盛岡第二百十二	[illegible]
盛岡第二百十三	[illegible]
盛岡第二百十四	[illegible]
盛岡第二百十五	[illegible]
盛岡第二百十六	[illegible]
盛岡第二百十七	[illegible]
盛岡第二百十八	[illegible]
盛岡第二百十九	[illegible]
盛岡第二百二十	[illegible]
盛岡第二百二十一	[illegible]
盛岡第二百二十二	[illegible]
盛岡第二百二十三	[illegible]
盛岡第二百二十四	[illegible]
盛岡第二百二十五	[illegible]
盛岡第二百二十六	[illegible]
盛岡第二百二十七	[illegible]
盛岡第二百二十八	[illegible]
盛岡第二百二十九	[illegible]
盛岡第二百三十	[illegible]
盛岡第二百三十一	[illegible]
盛岡第二百三十二	[illegible]
盛岡第二百三十三	[illegible]
盛岡第二百三十四	[illegible]
盛岡第二百三十五	[illegible]
盛岡第二百三十六	[illegible]
盛岡第二百三十七	[illegible]
盛岡第二百三十八	[illegible]
盛岡第二百三十九	[illegible]
盛岡第二百四十	[illegible]
盛岡第二百四十一	[illegible]
盛岡第二百四十二	[illegible]
盛岡第二百四十三	[illegible]
盛岡第二百四十四	[illegible]
盛岡第二百四十五	[illegible]
盛岡第二百四十六	[illegible]
盛岡第二百四十七	[illegible]
盛岡第二百四十八	[illegible]
盛岡第二百四十九	[illegible]
盛岡第三百	[illegible]
盛岡第三百一	[illegible]
盛岡第三百二	[illegible]
盛岡第三百三	[illegible]
盛岡第三百四	[illegible]
盛岡第三百五	[illegible]
盛岡第三百六	[illegible]
盛岡第三百七	[illegible]
盛岡第三百八	[illegible]
盛岡第三百九	[illegible]
盛岡第三百十	[illegible]
盛岡第三百十一	[illegible]
盛岡第三百十二	[illegible]
盛岡第三百十三	[illegible]
盛岡第三百十四	[illegible]
盛岡第三百十五	[illegible]
盛岡第三百十六	[illegible]
盛岡第三百十七	[illegible]
盛岡第三百十八	[illegible]
盛岡第三百十九	[illegible]
盛岡第四百	[illegible]
盛岡第四百一	[illegible]
盛岡第四百二	[illegible]
盛岡第四百三	[illegible]
盛岡第四百四	[illegible]
盛岡第四百五	[illegible]
盛岡第四百六	[illegible]
盛岡第四百七	[illegible]
盛岡第四百八	[illegible]
盛岡第四百九	[illegible]
盛岡第四百十	[illegible]
盛岡第四百十一	[illegible]
盛岡第四百十二	[illegible]
盛岡第四百十三	[illegible]
盛岡第四百十四	[illegible]
盛岡第四百十五	[illegible]
盛岡第四百十六	[illegible]
盛岡第四百十七	[illegible]
盛岡第四百十八	[illegible]
盛岡第四百十九	[illegible]
盛岡第五百	[illegible]
盛岡第五百一	[illegible]
盛岡第五百二	[illegible]
盛岡第五百三	[illegible]
盛岡第五百四	[illegible]
盛岡第五百五	[illegible]
盛岡第五百六	[illegible]
盛岡第五百七	[illegible]
盛岡第五百八	[illegible]
盛岡第五百九	[illegible]
盛岡第五百十	[illegible]
盛岡第五百十一	[illegible]
盛岡第五百十二	[illegible]
盛岡第五百十三	[illegible]
盛岡第五百十四	[illegible]
盛岡第五百十五	[illegible]
盛岡第五百十六	[illegible]
盛岡第五百十七	[illegible]
盛岡第五百十八	[illegible]
盛岡第五百十九	[illegible]
盛岡第六百	[illegible]
盛岡第六百一	[illegible]
盛岡第六百二	[illegible]
盛岡第六百三	[illegible]
盛岡第六百四	[illegible]
盛岡第六百五	[illegible]
盛岡第六百六	[illegible]
盛岡第六百七	[illegible]
盛岡第六百八	[illegible]
盛岡第六百九	[illegible]
盛岡第六百十	[illegible]
盛岡第六百十一	[illegible]
盛岡第六百十二	[illegible]
盛岡第六百十三	[illegible]
盛岡第六百十四	[illegible]
盛岡第六百十五	[illegible]
盛岡第六百十六	[illegible]
盛岡第六百十七	[illegible]
盛岡第六百十八	[illegible]
盛岡第六百十九	[illegible]
盛岡第七百	[illegible]
盛岡第七百一	[illegible]
盛岡第七百二	[illegible]
盛岡第七百三	[illegible]
盛岡第七百四	[illegible]
盛岡第七百五	[illegible]
盛岡第七百六	[illegible]
盛岡第七百七	[illegible]
盛岡第七百八	[illegible]
盛岡第七百九	[illegible]
盛岡第七百十	[illegible]
盛岡第七百十一	[illegible]
盛岡第七百十二	[illegible]
盛岡第七百十三	[illegible]
盛岡第七百十四	[illegible]
盛岡第七百十五	[illegible]
盛岡第七百十六	[illegible]
盛岡第七百十七	[illegible]
盛岡第七百十八	[illegible]
盛岡第七百十九	[illegible]
盛岡第八百	[illegible]
盛岡第八百一	[illegible]
盛岡第八百二	[illegible]
盛岡第八百三	[illegible]
盛岡第八百四	[illegible]
盛岡第八百五	[illegible]
盛岡第八百六	[illegible]
盛岡第八百七	[illegible]
盛岡第八百八	[illegible]
盛岡第八百九	[illegible]
盛岡第八百十	[illegible]
盛岡第八百十一	[illegible]
盛岡第八百十二	[illegible]
盛岡第八百十三	[illegible]
盛岡第八百十四	[illegible]
盛岡第八百十五	[illegible]
盛岡第八百十六	[illegible]
盛岡第八百十七	[illegible]
盛岡第八百十八	[illegible]
盛岡第八百十九	[illegible]
盛岡第九百	[illegible]
盛岡第九百一	[illegible]
盛岡第九百二	[illegible]
盛岡第九百三	[illegible]
盛岡第九百四	[illegible]
盛岡第九百五	[illegible]
盛岡第九百六	[illegible]
盛岡第九百七	[illegible]
盛岡第九百八	[illegible]
盛岡第九百九	[illegible]
盛岡第九百十	[illegible]
盛岡第九百十一	[illegible]
盛岡第九百十二	[illegible]
盛岡第九百十三	[illegible]
盛岡第九百十四	[illegible]
盛岡第九百十五	[illegible]
盛岡第九百十六	[illegible]
盛岡第九百十七	[illegible]
盛岡第九百十八	[illegible]
盛岡第九百十九	[illegible]
盛岡第十百	[illegible]
盛岡第十百一	[illegible]
盛岡第十百二	[illegible]
盛岡第十百三	[illegible]
盛岡第十百四	[illegible]
盛岡第十百五	[illegible]
盛岡第十百六	[illegible]
盛岡第十百七	[illegible]
盛岡第十百八	[illegible]
盛岡第十百九	[illegible]
盛岡第十百十	[illegible]
盛岡第十百十一	[illegible]
盛岡第十百十二	[illegible]
盛岡第十百十三	[illegible]
盛岡第十百十四	[illegible]
盛岡第十百十五	[illegible]
盛岡第十百十六	[illegible]
盛岡第十百十七	[illegible]
盛岡第十百十八	[illegible]
盛岡第十百十九	[illegible]
盛岡第十一百	[illegible]
盛岡第十一百一	[illegible]
盛岡第十一百二	[illegible]
盛岡第十一百三	[illegible]
盛岡第十一百四	[illegible]
盛岡第十一百五	[illegible]
盛岡第十一百六	[illegible]
盛岡第十一百七	[illegible]
盛岡第十一百八	[illegible]
盛岡第十一百九	[illegible]
盛岡第十一百十	[illegible]
盛岡第十一百十一	[illegible]
盛岡第十一百十二	[illegible]
盛岡第十一百十三	[illegible]
盛岡第十一百十四	[illegible]
盛岡第十一百十五	[illegible]
盛岡第十一百十六	[illegible]
盛岡第十一百十七	[illegible]
盛岡第十一百十八	[illegible]
盛岡第十一百十九	[illegible]
盛岡第十二百	[illegible]
盛岡第十二百一	[illegible]
盛岡第十二百二	[illegible]
盛岡第十二百三	[illegible]
盛岡第十二百四	[illegible]
盛岡第十二百五	[illegible]
盛岡第十二百六	[illegible]
盛岡第十二百七	[illegible]
盛岡第十二百八	[illegible]
盛岡第十二百九	[illegible]
盛岡第十二百十	[illegible]
盛岡第十二百十一	[illegible]
盛岡第十二百十二	[illegible]
盛岡第十二百十三	[illegible]
盛岡第十二百十四	[illegible]
盛岡第十二百十五	[illegible]
盛岡第十二百十六	[illegible]
盛岡第十二百十七	[illegible]
盛岡第十二百十八	[illegible]
盛岡第十二百十九	[illegible]
盛岡第十三百	[illegible]
盛岡第十三百一	[illegible]
盛岡第十三百二	[illegible]
盛岡第十三百三	[illegible]
盛岡第十三百四	[illegible]
盛岡第十三百五	[illegible]
盛岡第十三百六	[illegible]
盛岡第十三百七	[illegible]
盛岡第十三百八	[illegible]
盛岡第十三百九	[illegible]
盛岡第十三百十	[illegible]
盛岡第十三百十一	[illegible]
盛岡第十三百十二	[illegible]
盛岡第十三百十三	[illegible]
盛岡第十三百十四	[illegible]
盛岡第十三百十五	[illegible]
盛岡第十三百十六	[illegible]
盛岡第十三百十七	[illegible]
盛岡第十三百十八	[illegible]
盛岡第十三百十九	[illegible]
盛岡第十四百	[illegible]
盛岡第十四百一	[illegible]
盛岡第十四百二	[illegible]
盛岡第十四百三	[illegible]
盛岡第十四百四	[illegible]
盛岡第十四百五	[illegible]
盛岡第十四百六	[illegible]
盛岡第十四百七	[illegible]
盛岡第十四百八	[illegible]
盛岡第十四百九	[illegible]
盛岡第十四百十	[illegible]
盛岡第十四百十一	[illegible]
盛岡第十四百十二	[illegible]
盛岡第十四百十三	[illegible]
盛岡第十四百十四	[illegible]
盛岡第十四百十五	[illegible]
盛岡第十四百十六	[illegible]
盛岡第十四百十七	[illegible]
盛岡第十四百十八	[illegible]
盛岡第十四百十九	[illegible]
盛岡第十五百	[illegible]
盛岡第十五百一	[illegible]
盛岡第十五百二	[illegible]
盛岡第十五百三	[illegible]
盛岡第十五百四	[illegible]
盛岡第十五百五	[illegible]
盛岡第十五百六	[illegible]
盛岡第十五百七	[illegible]
盛岡第十五百八	[illegible]
盛岡第十五百九	[illegible]
盛岡第十五百十	[illegible]
盛岡第十五百十一	[illegible]
盛岡第十五百十二	[illegible]
盛岡第十五百十三	[illegible]
盛岡第十五百十四	[illegible]
盛岡第十五百十五	[illegible]
盛岡第十五百十六	[illegible]
盛岡第十五百十七	[illegible]
盛岡第十五百十八	[illegible]
盛岡第十五百十九	[illegible]
盛岡第十六百	[illegible]
盛岡第十六百一	[illegible]
盛岡第十六百二	[illegible]
盛岡第十六百三	[illegible]
盛岡第十六百四	[illegible]
盛岡第十六百五	[illegible]
盛岡第十六百六	[illegible]
盛岡第十六百七	[illegible]
盛岡第十六百八	[illegible]
盛岡第十六百九	[illegible]
盛岡第十六百十	[illegible]
盛岡第十六百十一	[illegible]
盛岡第十六百十二	[illegible]
盛岡第十六百十三	[illegible]
盛岡第十六百十四	[illegible]
盛岡第十六百十五	[illegible]
盛岡第十六百十六	[illegible]
盛岡第十六百十七	[illegible]
盛岡第十六百十八	[illegible]
盛岡第十六百十九	[illegible]
盛岡第十七百	[illegible]
盛岡第十七百一	[illegible]
盛岡第十七百二	[illegible]
盛岡第十七百三	[illegible]
盛岡第十七百四	[illegible]
盛岡第十七百五	[illegible]
盛岡第十七百六	[illegible]
盛岡第十七百七	[illegible]
盛岡第十七百八	[illegible]
盛岡第十七百九	[illegible]
盛岡第十七百十	[illegible]
盛岡第十七百十一	[illegible]
盛岡第十七百十二	[illegible]
盛岡第十七百十三	[illegible]
盛岡第十七百十四	[illegible]
盛岡第十七百十五	[illegible]
盛岡第十七百十六	[illegible]
盛岡第十七百十七	[illegible]
盛岡第十七百十八	[illegible]
盛岡第十七百十九	[illegible]
盛岡第十八百	[illegible]
盛岡第十八百一	[illegible]
盛岡第十八百二	[illegible]
盛岡第十八百三	[illegible]
盛岡第十八百四	[illegible]
盛岡第十八百五	[illegible]
盛岡第十八百六	[illegible]
盛岡第十八百七	[illegible]
盛岡第十八百八	[illegible]
盛岡第十八百九	[illegible]
盛岡第十八百十	[illegible]
盛岡第十八百十一	[illegible]
盛岡第十八百十二	[illegible]
盛岡第十八百十三	[illegible]
盛岡第十八百十四	[illegible]
盛岡第十八百十五	[illegible]
盛岡第十八百十六	[illegible]
盛岡第十八百十七	[illegible]
盛岡第十八百十八	[illegible]
盛岡第十八百十九	[illegible]
盛岡第十九百	[illegible]
盛岡第十九百一	[illegible]
盛岡第十九百二	[illegible]
盛岡第十九百三	[illegible]
盛岡第十九百四	[illegible]
盛岡第十九百五	[illegible]
盛岡第十九百六	[illegible]
盛岡第十九百七	[illegible]
盛岡第十九百八	[illegible]
盛岡第十九百九	[illegible]
盛岡第十九百十	[illegible]
盛岡第十九百十一	[illegible]
盛岡第十九百十二	[illegible]
盛岡第十九百十三	[illegible]
盛岡第十九百十四	[illegible]
盛岡第十九百十五	[illegible]
盛岡第十九百十六	[illegible]
盛岡第十九百十七	[illegible]
盛岡第十九百十八	[illegible]
盛岡第十九百十九	[illegible]
盛岡第二十百	[illegible]
盛岡第二十百一	[illegible]
盛岡第二十百二	[illegible]
盛岡第二十百三	[illegible]
盛岡第二十百四	[illegible]
盛岡第二十百五	[illegible]
盛岡第二十百六	[illegible]
盛岡第二十百七	[illegible]
盛岡第二十百八	[illegible]
盛岡第二十百九	[illegible]
盛岡第二十百十	[illegible]
盛岡第二十百十一	[illegible]
盛岡第二十百十二	[illegible]
盛岡第二十百十三	[illegible]
盛岡第二十百十四	[illegible]
盛岡第二十百十五	[illegible]
盛岡第二十百十六	[illegible]
盛岡第二十百十七	[illegible]
盛岡第二十百十八	[illegible]
盛岡第二十百十九	[illegible]
盛岡第二十一百	[illegible]
盛岡第二十一百一	[illegible]
盛岡第二十一百二	[illegible]
盛岡第二十一百三	[illegible]
盛岡第二十一百四	[illegible]
盛岡第二十一百五	[illegible]
盛岡第二十一百六	[illegible]
盛岡第二十一百七	[illegible]
盛岡第二十一百八	[illegible]
盛岡第二十一百九	[illegible]
盛岡第二十一百十	[illegible]
盛岡第二十一百十一	[illegible]
盛岡第二十一百十二	[illegible]
盛岡第二十一百十三	[illegible]
盛岡第二十一百十四	[illegible]
盛岡第二十一百十五	[illegible]
盛岡第二十一百十六	[illegible]
盛岡第二十一百十七	[illegible]
盛岡第二十一百十八	[illegible]
盛岡第二十一百十九	[illegible]
盛岡第二十二百	[illegible]
盛岡第二十二百一	[illegible]
盛岡第二十二百二	[illegible]
盛岡第二十二百三	[illegible]
盛岡第二十二百四	[illegible]
盛岡第二十二百五	[illegible]
盛岡第二十二百六	[illegible]
盛岡第二十二百七	[illegible]
盛岡第二十二百八	[illegible]
盛岡第二十二百九	[illegible]
盛岡第二十二百十	[illegible]
盛岡第二十二百十一	[illegible]
盛岡第二十二百十二	[illegible]
盛岡第二十二百十三	[illegible]
盛岡第二十二百十四	[illegible]
盛岡第二十二百十五	[illegible]
盛岡第二十二百十六	[illegible]
盛岡第二十二百十七	[illegible]
盛岡第二十二百十八	[illegible]
盛岡第二十二百十九	[illegible]
盛岡第二十三百	[illegible]
盛岡第二十三百一	[illegible]
盛岡第二十三百二	[illegible]
盛岡第二十三百三	[illegible]
盛岡第二十三百四	[illegible]
盛岡第二十三百五	[illegible]
盛岡第二十三百六	[illegible]
盛岡第二十三百七	[illegible]
盛岡第二十三百八	[illegible]
盛岡第二十三百九	[illegible]
盛岡第二十三百十	[illegible]
盛岡第二十三百十一	[illegible]
盛岡第二十三百十二	[illegible]
盛岡第二十三百十三	[illegible]
盛岡第二十三百十四	[illegible]
盛岡第二十三百十五	[illegible]
盛岡第二十三百十六	[illegible]
盛岡第二十三百十七	[illegible]
盛岡第二十三百十八	[illegible]
盛岡第二十三百十九	[illegible]
盛岡第二十四百	[illegible]
盛岡第二十四百一	[illegible]
盛岡第二十四百二	[illegible]
盛岡第二十四百三	[illegible]
盛岡第二十四百四	[illegible]
盛岡第二十四百五	[illegible]
盛岡第二十四百六	[illegible]
盛岡第二十四百七	[illegible]
盛岡第二十四百八	[illegible]
盛岡第二十四百九	[illegible]
盛岡第二十四百十	[illegible]
盛岡第二十四百十一	[illegible]
盛岡第二十四百十二	[illegible]
盛岡第二十四百十三	[illegible]
盛岡第二十四百十四	[illegible]
盛岡第二十四百十五	[illegible]
盛岡第二十四百十六	[illegible]
盛岡第二十四百十七	[illegible]
盛岡第二十四百十八	[illegible]
盛岡第二十四百十九	[illegible]
盛岡第二十五百	[illegible]
盛岡第二十五百一	[illegible]
盛岡第二十五百二	[illegible]
盛岡第二十五百三	[illegible]
盛岡第二十五百四	[illegible]
盛岡第二十五百五	[illegible]
盛岡第二十五百六	[illegible]
盛岡第二十五百七	[illegible]
盛岡第二十五百八	[illegible]
盛岡第二十五百九	[illegible]
盛岡第二十五百十	[illegible]
盛岡第二十五百十一	[illegible]
盛岡第二十五百十二	[illegible]
盛岡第二十五百十三	[illegible]
盛岡第二十五百十四	[illegible]
盛岡第二十五百十五	[illegible]
盛岡第二十五百十六	[illegible]
盛岡第二十五百十七	[illegible]
盛岡第二十五百十八	[illegible]
盛岡第二十五百十九	[illegible]
盛岡第二十六百	[illegible]
盛岡第二十六百一	[illegible]
盛岡第二十六百二	[illegible]
盛岡第二十六百三	[illegible]
盛岡第二十六百四	[illegible]
盛岡第二十六百五	[illegible]
盛岡第二十六百六	[illegible]
盛岡第二十六百七	[illegible]
盛岡第二十六百八	[illegible]
盛岡第二十六百九	[illegible]
盛岡第二十六百十	[illegible]
盛岡第二十六百十一	[illegible]
盛岡第二十六百十二	[illegible]
盛岡第二十六百十三	[illegible]
盛岡第二十六百十四	[illegible]
盛岡第二十六百十五	[illegible]
盛岡第二十六百十六	[illegible]
盛岡第二十六百十七	[illegible]
盛岡第二十六百十八	[illegible]
盛岡第二十六百十九	[illegible]
盛岡第二十七百	[illegible]
盛岡第二十七百一	[illegible]
盛岡第二十七百二	[illegible]
盛岡第二十七百三	[illegible]
盛岡第二十七百四	[illegible]
盛岡第二十七百五	[illegible]
盛岡第二十七百六	[illegible]
盛岡第二十七百七	[illegible]
盛岡第二十七百八	[illegible]
盛岡第二十七百九	[illegible]
盛岡第二十七百十	[illegible]
盛岡第二十七百十一	[illegible]
盛岡第二十七百十二	[illegible]
盛岡第二十七百十三	[illegible]
盛岡第二十七百十四	[illegible]
盛岡第二十七百十五	[illegible]
盛岡第二十七百十六	[illegible]
盛岡第二十七百十七	[illegible]
盛岡第二十七百十八	[illegible]
盛岡第二十七百十九	[illegible]
盛岡第二十八百	[illegible]
盛岡第二十八百一	[illegible]
盛岡第二十八百二	[illegible]
盛岡第二十八百三	[illegible]
盛岡第二十八百四	[illegible]
盛岡第二十八百五	[illegible]
盛岡第二十八百六	[illegible]
盛岡第二十八百七	[illegible]
盛岡第二十八百八	[illegible]
盛岡第二十八百九	[illegible]
盛岡第二十八百十	[illegible]
盛岡第二十八百十一	[illegible]
盛岡第二十八百十二	[illegible]
盛岡第二十八百十三	[illegible]
盛岡第二十八百十四	[illegible]
盛岡第二十八百十五	[illegible]
盛岡第二十八百十六	[illegible]
盛岡第二十八百十七	[illegible]
盛岡第二十八百十八	[illegible]
盛岡第二十八百十九	[illegible]
盛岡第二十九百	[illegible]
盛岡第二十九百一	[illegible]
盛岡第二十九百二	[illegible]
盛岡第二十九百三	[illegible]
盛岡第二十九百四	[illegible]
盛岡第二十九百五	[illegible]
盛岡第二十九百六	[illegible]
盛岡第二十九百七	[illegible]
盛岡第二十九百八	[illegible]
盛岡第二十九百九	[illegible]
盛岡第二十九百十	[illegible]
盛岡第二十九百十一	[illegible]
盛岡第二十九百十二	[illeg

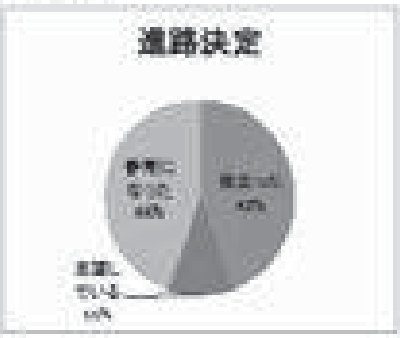
コース②「遺伝子ペプチドの生理活性を見よう」（安 曇）　　<複数生徒参加>

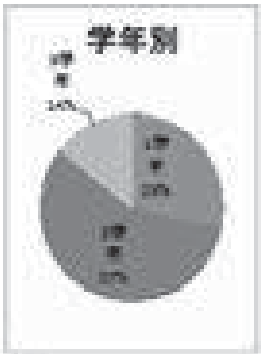
高校名	参加数	学年	参加数
一関第一高校	1	1学年	2
気仙沼向洋高校	1	1学年	5
大船渡東高校	1	2学年	1
千厩高校	1		
盛岡第一高校	1		
盛岡第三高校	1		
	7名		7名

実験内容	参加数	難しかった	参加数
興味が持てた	6	難しかった	4
わかり易かった	5	難しいと	3
少し難しかった	1	難しくない	4
実験回答	12名		12名









【質問3】 受講したコースは分かり易かったですか？実験の内容に興味がもてましたか？

1. 少し難しかったです。実験の内容はとても面白かったのですが、とても難しい実験だと思いました。生新菌をつくるのが難しかったです。
2. 分かりやすかったし、実験の内容も、今まで体験したことのなかったものばかりで、とても新鮮だったし、面白かったです。また私が今まで考えたことのない生命のしくみを体験でき興味が持てました。
3. とても分かりやすかったです。私があまり意味でなくてたくさんご感想をおかけしましたが、最後までで事に教えていただき嬉しい限りでした。生物に人間の手を加えて意義に生かすために多大な作業が行われていると感じました。
4. 遺伝ペプチドの生理活性では、専門用語が多く最初は理解できるだろうかとの心配になりましたが、大学院の学生の方々の分かり易い説明や先生の金言を交えたご指導のおかげで理解することができました。また、実際に生きている菌を使うことにより、良い実験感覚を味わうことができて良かったと思います。これからの高校生活でもバイオテクノロジーや実験をしっかりやっていけたらいいと思うことができました。ありがとうございました。
5. 実験に実際しやすい環境だったので分からない点がすぐに聞けたので分かり易かった。内容も個人的に好きな分野だったので、より興味を持てた。
6. とてもわかりやすく、質問をしてもすぐに返してくださったので、実験もとても興味を持ち、自分なりにスムーズに行うことができました。菌が可愛く見えました。
7. 遺伝ペプチドが何か分からなかったのですが、教えてもらえてよかったです。また、カイコに様々な遺伝子を入れることは、今まで一度もなかったので、貴重な体験ができました。

【質問4】 今回の公開講座は将来の進路決定に役に立ちましたか？

1. 大学進学で農学部を希望していので、どんな研究をしているのかを体験できてすごく良かったです。
2. 今まで遺伝に関しての分野を学んだことはなかったのですが、実際に実験を通して反応がでるものとでないものの違いを実感して、これからの進路の参考にしたいと思いました。
3. 貴重な体験をさせていただきました。遺伝工学に興味が出てきたのですが、今日でもっと興味がわいてきました。もっと学習して、文学で色々な発見をしてみたいと感じました。
4. まだ一年生ですが、岩手大学農学部で勉強を深くしてみたいと思えましたし、これからの勉強に対する姿勢を改めていこうという気持ちになることができました。生物基礎を勉強するまでまだ3年あるので、細胞をたくさんして、その原因について自ら探求していけるようにこれから更大切にしていきたいと思います。菌を利用して行った今日の実験は、進路の考え方にとても参考になりました。もう少し考えて進路を決めたいと思います。
5. この分野に進みのかは未定ですが、とても参考になる体験だったのでよかったです。役立てていこうと思います。

6. このようなとてもこまかい分野があるということがわかり、自分の好きなものをピンポイントでやれるということが分かりました。そしてやはり自分が虫が好きなんだということがわかりました。
7. ペプチドの配列をたったつ変えただけで、カイコの反応が大きく違いが出て、驚きました。このような実験が他にもあるのかなと思いました。

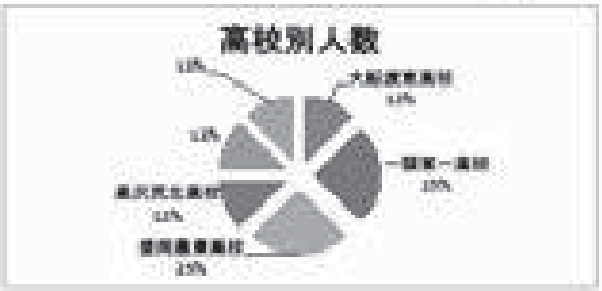
質問5. 今回の公開講座に参加した感想、テーマについてのご意見をお聞かせください。

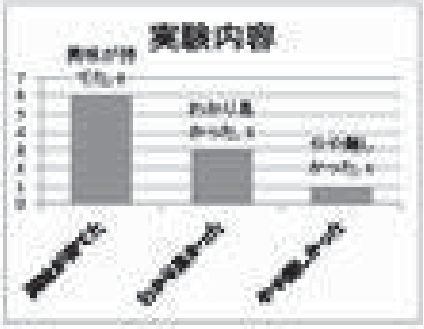
1. 大学生の先輩が細かく教えて下さって、とてもおもしろかったです。
2. あまり生命の分野に興味をもったことがなく、今回学ぶことのすべてが新鮮でした。特にアミノ酸の配列を少し変えただけでカイコの体が変態したりしなかったり変化が見られて面白かったです。また、さなぎの時にホルモン注射することで観察することで成虫になったり、私たちの生活に役立つことも多いことが分かりました。また生き物に対して注射したり、実験する貴重な機会を受けたことにとても感謝しています。楽しかったです。ありがとうございました。
3. 本当にありがとうございました。高校生でも知っている「ペプチド」に興味をもって参加して良かったです。もっと実験に慣れたり、思考を深めたりしたいと改めて思いました。
4. 生物を使用することによって緊張しながら実験することができたのでこれからも続けて頑張ったいと思います。特に今後夏休の実験で使用していた顕微鏡を取り除く作業は生徒個人でもしていきたいと思いました。なので時間がもう少し長めにして欲しいと思いました。今回の実験は時間との勝負でしたが、自分自身が持っている力を大切にするとともに、先生方に教えて頂いたことをその場で吸収するということを大切にしなくてはいけないと思うことができました。
5. 最初は難しくて失敗してしまいましたが、徐々にできるようになったので良かった。テーマとしても初心者が行いやすい実験テーマだったので、今後もこのようなテーマで開いてほしいです。
6. 今回の講座ではまったく知識になかった面のペプチド活性を見ることができ、とても楽しかったです。自分にはまだまだ知らないことがたくさんあるので今回のこともまた調べてみます。テーマのようなことが知ることができてとても良かったです。
7. 今回、ペプチドの効果が見られてとても貴重な体験ができました。また、理解できないことができない部分も多く教えてもらえて楽しかったです。

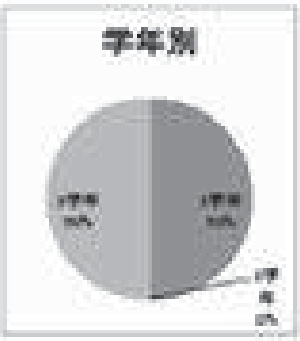
コース②「蛍光で植物細胞を観る」（河村　幸男　）　　<植物生命科学科>

高校名	回答数	学年	回答数
大阪淀川高校	1	1学年	4
一関第一高校	4	2学年	
宮城農業高校	3	3学年	4
横浜氷取高校	1		
	1		
	1		
合計			8名

実験内容	回答数	進路決定	回答数
興味がもてた	7	参考になった	6
わかりやすかった	2	参考にならない	2
やや難しかった	1	参考にならない	2
複数回答	10名		10名







【質問3】 受講したコースは分かり易かったですか？実験の内容に興味がもてましたか？

1．今回の実験では，薄へいと薄にくという言葉を覚えることができたし，顕微鏡やの顕微の動きを見ながら実験することができたので良かった。
2．初めて聞く言葉がおかったけど，分かり易く，実験楽しくできました。
3．葉緑や生物の細胞についての説明，レーザーの解説でとてもわかり学すかったです。細胞の中で様々な物質が動いているのをみて，とても興味深く感じました。
4．細胞膜の観察では，どこを観察したらいいかや，観察しているものが，何を表しているかはっきり分からず難しいところもあったけれど，大学で行われている実験について知れてよかった。
5．生物の教科書にのっているようなものが見れるのはとても興味がもてた。
6．資料集やでしか蛍光で染色された細胞を見たことがなかったのですが，今回初めて実際に目で見られて良かったです。それぞれの小器官のはたらきも分かりました。
7．分かり易かったです。でも，高校で習ってないところだったので，難しいところもありました。知れば知るほど，疑問に思うところが増え，もっと知りたくなりました。
8．私の生物に関する知識は中学校レベルだったのですが，顕微鏡のつくりを教えてくださったので，何とか理解できました。もともと植物に興味があったので楽しんでできました。

【質問4】 今回の②実験講座は将来の進路決定に役に立ちましたか？

1．将来は農業関係の職につきたいと考えているので，植物の事を詳しく知れたので良かった。
2．まだどの学部に行こうか考えていませんでしたが，農学部に行って勉強するのも良いと思いました。進路決定の参考になりました。
3．役に立ちました。

6. 今回の公開講座で、内容的には分からない所もまぐあったけれど、大学の設備がとても整っていることに驚いたし、大学の先生も話しやすかったりして、今後に役立つところがあった。
5. 普段の授業で今回のような実験を多くすると楽しと、入学したいという気持ちが大きくなった。
4. 今後の研究したい内容を決めるのにとてもよい資料となりました。植物の分野において、さらに興味をもって研究していきたいと思いました。
7. 将来は研究者になりたいと考えていたので、とても役に立ちました。
8. 枝大の様子や実験の流れなど、貴重な体験ができてよかったです。植物への関心が深まりました。

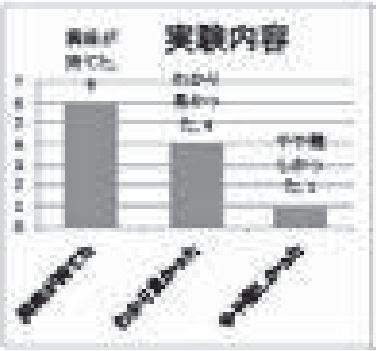
質問5　今回の公開講座に参加した感想、テーマについてのご意見をお聞かせください。

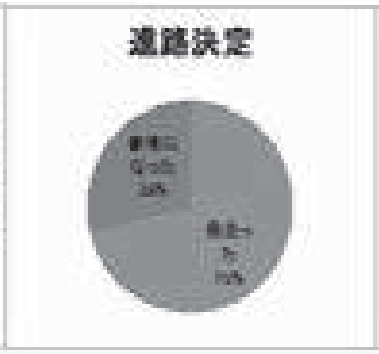
1. 今回の公開講座では、植物細胞を観るというテーマだったけど、顕微鏡の名前や機能について詳しく説明させてもらってすごい興味が湧いたかったです。また、科学の授業に活かしていけるように頑張りたいです。
2. 顕微鏡を使って実験したので、とても分かり易かったですが、疲くて目がかし疲れました。
3. 葉緑体やアクチンフィラメント、小胞体がそれぞれ意志をもつように動いているのを、共焦点の顕微鏡を使い実際にみることができてとても面白かったです。興味に興味を持ちました。
4. 顕微で植物細胞をみるのは、学校での実験の顕微とは違って、見たい部分を見ることができるのはすごいと思った。
5. 身近なもののくわしいテーマで、とても興味が持てた。植物の中も見れてよかった。
6. 先生方もとても親切でわかりやすかったです。内容も自分に合っていて、とても面白かったし、これからの進路決定に参考にしたいです。今回は本当にありがとうございました！！楽しかったです。
7. 立体的に見ることができる顕微鏡を初めてみたので驚きました。葉緑体の周りにアクチンフィラメントと小胞体が通っていることを知りました。
8. 公開講座に参加するのは初めてで、長いでもついていけるか不安でしたが、貴重楽しく実験できてよかったです。実験の大まかな流れも知ることができたので、今後生かしていけたらいいなあと思います。

コース名「ポリフェノールって何だろう－ポリフェノールの健康機能性－」（長澤 孝志 ）　　<応用生物化学科>

高校名	回答数	学年	回答数
[illegible]高校	1	1年生	[illegible]
[illegible]高校	1	1年生	[illegible]
[illegible]高校	2	2年生	[illegible]
[illegible]高校	1		
[illegible]高校	1		
[illegible]高校	1		
	7名		7名

実験内容	回答数	進路決定	回答数
興味がもてた	6名	[illegible]	[illegible]
わかり易かった	4名	[illegible]	[illegible]
やや難しかった	1		
回答総数	11名		7名





【質問3】 受講したコースは分かり易かったですか？興味の内容に興味がもてましたか？

1. 情報量は多かったけど、分かり易かったです。とても興味深い内容でした。
2. 私たちが普段飲んでいるお茶を使ったので、とても興味がもてた。これからのお茶選びに役立つと思った。またポリフェノールがどのように役立つかも分かった。
3. とても分かり易かった。ポリフェノールのことは最初知らなかったのですが、興味をし、多くのことを知ることができたと思います。
4. 分かり易かったです。手順を説明する毎に質問もあった。
5. とても、分かり易い説明でした。ポリフェノールの効果についても分かりました。
6. 勉強不足で分からなかったところが多かったけれど面白かったです。
7. ポリフェノールの定量はやはり濃いお茶が一番だということが分かったし、簡単実験ということに興味がわいた。

【質問4】 今回の公開講座は将来の進路決定に役に立ちましたか？

1. 健康と食品について学びたいと考えていたのでとても役立つ内容でした。
2. 研究の内容がとても興味深かったので、考えて みようと思った。
3. より、薬学部でどのようなことを研究したり、その方法などを知ることができ、より薬学部について知ることができたので良かったです。
4. 役に立った。どのような研究をするのかも知ることができて良かったです。
5. 私は、栄養の分野に進みたいと考えているので、ポリフェノールや健康のことも知ることができてよかったと思います。

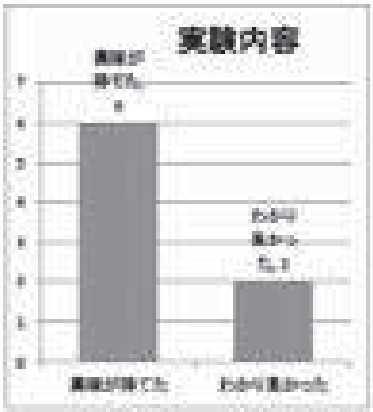
4. 役立ちました。
7. とても参考になった。

質問5. 今回の公開講座に参加した感想、テーマについてのご意見をお聞かせください。

1. ポリフェノールが健康に役立つことを実験や動画で少しだけでも理解することができてよかったです。今回のテーマは自分の進路に近い内容だったのでとても興味が持てました。
2. 私は、ポリフェノールという言葉を聞いたことはあったけれど、どういうものか知らなかったので、ポリフェノールについて知ることができてよかった。とても有意義な時間をすごせた。
3. 日常では、特に気にもしていなかったポリフェノールのことについて知り、面白かったです。大学での研究の方法や流れも知ることができ進路についても役に立つと思いました。また、ポリフェノールがどのように役立つかも分かった。
4. お茶の健康分解酵素の効果効果がすごいと思った。魚焼が面白かった。ポリフェノールについて、あまり知らなかったけれど、詳しい内容を聞くことができて良かった。
5. とても分かり易い講演、実験で今までやったことがない実験だったのでとても楽しかったです。ありがとうございました。
6. 科学への興味がまた増しました。身近なところで使われているポリフェノールが、どう体に作用するのかが分かり、とても楽しかったです。
7. ポリフェノールはザクっとしか、知らなかったけど、ポリフェノールの実験をしてとてもおもしろかった。

コース選「PCRでDNAをふやしてみよう」（西山 賢一 ）　　＜応用生物化学科＞

高校名	回答数	学年	回答数
一関第一高校	回答	1年生	3
盛岡第一高校	回答	2年生	
盛岡工業高校	回答	3年生	1
	8名		8名
	回答数	感想キーワード	回答数
実験が楽しかった		楽しかった	1
わかり易かった		興味深かった	1
実験内容	8名		8名



【質問3】 受講したコースはどうだったですか？実験の内容に興味がもてましたか？

1. 実際に実験器具を使って遺伝子実験の反応や結果を目にできて楽しかったです！！DNAについて専門的なことも解けて新しい知識を取り入れることができました。
2. 実験の内容にとても興味が持てました。難しい説明をスクリーンで図をうつしながらだったので分かり易かったです。
3. 少しならっていない単語があったが、それでもDNAの複雑についてわかったし、遠くない未来に、もしかしたら、人が臓や皮を失ったとき自分のDNAを保存しておけば、新しく作り出せるかもしれないと思った。
4. 私でもDNAのことについて多く理解することができました。もともと興味があったのですが、仕組みを聞いて、より強のめりになって実験に取り組めたと思います。
5. 授業で学んだPCRを実際に実験することができて良い経験でした。DNAについて理解が深まりました。
6. まだ一年生で高校の化学を勉強し始めたばかりだったので講座のすべてを理解することはできませんでしたが、図やイラストを用いて説明してくだきったので基本的な部分は理解することができました。今回だけでは理解できなかったところを理解できるようになりたいと思ったこともあり実験の内容に興味を持ちました。

【質問4】 今回の出張講座は将来の進路決定に役に立ちましたか？

1. 文科文系と理系で迷っている段階ですが、理系もとてもおもしろそうだと思いました。もし理系に入ったら人間の体とかDNAとかを専門に勉強したいです。
2. 化学の楽しさ、難しさが改めてわかったので、2年生の時の文系か理系かの選択を理系にする決意ができました。
3. はい、理系に進もうと思っているのですが、さらに理科もといも学に興味をもてた。
4. 理系に進もうと心に決めました。今回ふれられたのはごく一部なので、理系に進んでもっと考えのレパートリー増やしていろいろな事を知りたいです。
5. 役立てたいと思います。
6. 私は現段階ではまだ文系と理系のどちらに進むか迷っています。なので、今回理系科目の応用生物化学科の研究内容を知ることができて良かったです。今回の講座で聞いたこと、見たことを生かして進路決定に生かしたいです。

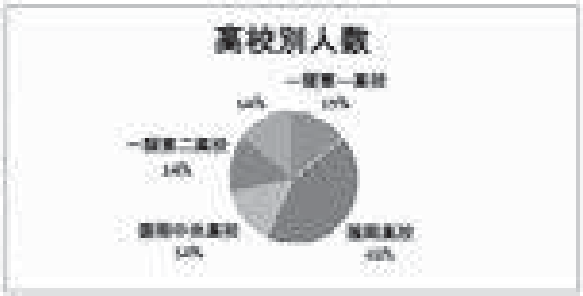
質問5 今回の公開講座に参加した感想、テーマについてのご意見をお聞かせください。

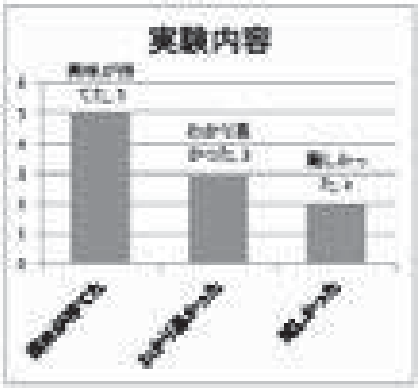
1. 実際に自分で実験しておもしろかったです！DNAに興味があったので来てよかったです。
2. 今回、DNAをるりぎ実験をして、結果は残念だったけど、高校では見れない器具やDNAの新しい説明を見たり聞いたりできて良かったです。
3. 今回の実験では、しっかりとDNAを増やすことができた。また、DNAは、人間のものを使ったときには、酢を加えたり下げたりしてDNAを増やすことができる。人のDNAを抽出できたら、すごいなと思いました。改めて、今日の講座は、とても楽しく学ぶことができました。ありがとうございました。
4. どれも興味わくテーマでひと目みて、絶対楽しいっと思ってきました。来てよかったです。ありがとうございました。
5. DNAについてより理解が深まる良い機会でした。同じような機会がまたあれば、ぜひ参加したいと考えています。学部の雰囲気も見ることができたので良かったです。今日は本当にありがとうございました。
6. 実際にDNAを増やすことができてよかったです。またこのような講座があればぜひ参加したいです。

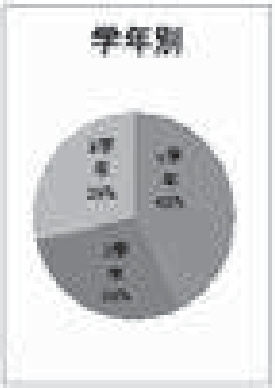
コース名「樹木の幹の成長特性を調べよう」　（講師　倉田　）　<森林科学科>

高校名	参加人数	学年	参加人数
一関第一高校	1	1学年	1
盛岡高校	1	2学年	1
盛岡中央高校	1	3学年	1
一関第一高校	1		
	1		
	1		
	5人		3人

	参加人数	進路決定	参加人数
興味が湧いた	3	決まった	1
わかり易かった	2	参考になった	1
楽しかった	1		
参加人数	5人		2人







【質問3】 実験したコースは分かり易かったですか？興味の内容に興味がもてましたか？

1.とても分かり易かったです。とても興味深かったです。
2.とても興味をもつことができました。樹木のことをもっと知りたいというように思いました。
3.外で作業するのとは違い、細かい作業でとても疲れ易いました。今日実習したような作業も基本となることだと思うので、これからも役に立っていくと思いました。
4.難しかったです。でも木の重量と実際の成長の違いはいろいろなことが影響しているということがとてもよく分かりました。樹木の成長については分かりましたが、実際のやることは簡単なのに作業が正確にできず意外に大変でした。興味の内容に興味はもてました。数学をもっと勉強して理解できるようになりたいです。
5.先生が分かり易く説明してくれたのでよかった。
6.分かり易かった。こんなところで徐々分が出てきて驚いた。
7.難しかった。地道な作業が大変だった。

【質問4】 今回の公開講座は将来の進路決定に役に立ちましたか？

1.役立ちました。
2.将来自分の進路に役立つことができました。
3.さらに森林の勉強を大学でしたいと思いました。
4.役に立ちました。
5.自分の家では林業を営んでいるのでまだ決めてはいないが森林科学も選択の一つに入れておきたい。
6.役に立った。

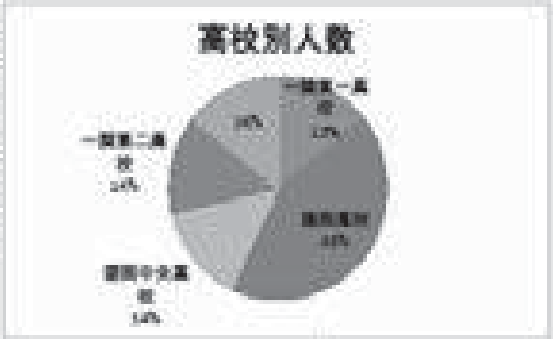
7. 生物に対する仕事もいいように思った。

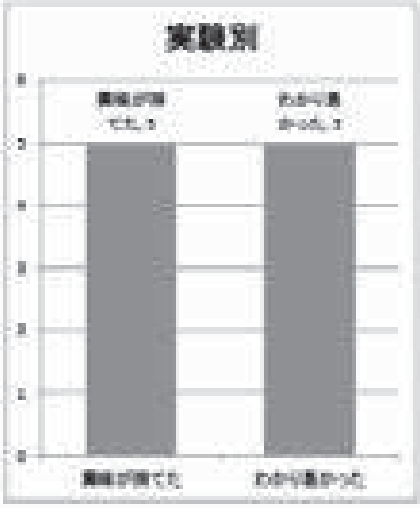
質問5. 今回の公開講演に参加した感想、テーマについてのご意見をお聞かせください。

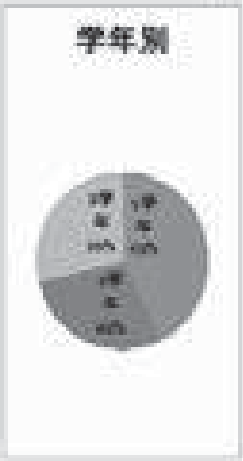
1. ずっと気になっていた学問でした。水について、色々詳しく聞くことができたので、とても有意義な時間となりました。初めての実習でしたが、思ったよりも時間がかかって大変でしたが、この骨骨の上で様々な研究が成り立っていると思うと、楽しかったです。とても嬉しかったです。
2. 魚水の富栄養化や温暖化等をですのが、すごい楽しかったし、先生の話でもっと魚水のことについて知りたいと思いました。
3. なれない作業ではありましたが、とても興味をもてました。
4. 数学と生物との関係性を学びました。生物に関することがもともと好きなので数学の勉強をもっとしないといけないと改めて思いました。
5. 一見簡単そうに見える作業も実際にやってみると中々大変で手間取ってしまった。けれど水の特性がわかってとても勉強になった。
6. ありがとうございました。
7. もっと面白そうな講演にも参加したい。

コース名「竹チップを混ぜた土の強さを測定してみよう～スコ社製～」（金山 泰平 ）　<生物生産環境学科>

高校名	回答数	学年	回答数
一関第一高校	1	1学年	3
盛岡第二高校	1	2学年	
盛岡第一高校	2	3学年	2
盛岡大附高校	1		
	5名		5名
	回答数	参加きっかけ	回答数
興味があったから	2	先生からの	3
わかりやすかったから	3	友達・先輩	2
		参考になった	2
運営日程	10名		5名







【質問3】 参加したコースは分かり易かったですか？実験の内容に興味がもてましたか？

1. 分かり易かったです。オープンキャンパスでは体験できない、実際に大学で研究しているようなことを実験を通して学ぶことができたので、深く知り、興味をもつことができました。
2. とても分かり易かったです。「いらないもの」の活用の仕方を学ぶことができて良かったし、今後の進路について考えを深めることができました。
3. 説明内容がとても分かり易かった。需要が少ない竹を土の新性強化という方法で資源化するというテーマの実験でとても興味深かった。
4. 資料があったので分かり易かったです。竹チップを土に混ぜることによって強度が上がることに興味を持ちました。
5. 説明が、とても分かり易く、スムーズに進めることができました。また実験の内容に興味をもつことができました。

【質問4】 今回の公開講座は将来の進路決定に役に立ちましたか？

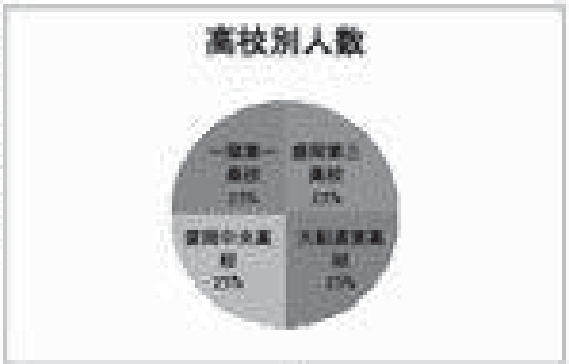
1. 進路を決めるうえで、良い経験ができたと思います。大学の先生方や、学生の方とじっくり話せる機会もあまりないので、研究の内容や様子を知ることができ、より明確な目標設定ができるようになると思います。
2. 役に立ちました。農村社会においての資源の活用について触れられて勉強になりました。
3. 自分の進路の視野を広げるうえで役に立ったと思う。
4. 農学部の行っている内容についてよくわかりました。将来の進路決定に役に立ちました。
5. まだ、進路があまり決まっていなかったのですが、公開講座を通して、色々な学科があることが分かりました。とても役立ちました。

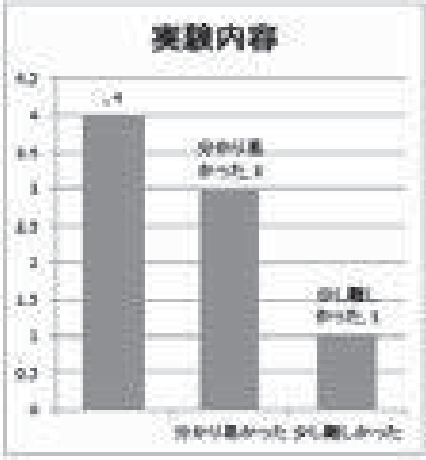
質問3　今回の公開講座に参加した感想、テーマについてのご意見をお聞かせください。

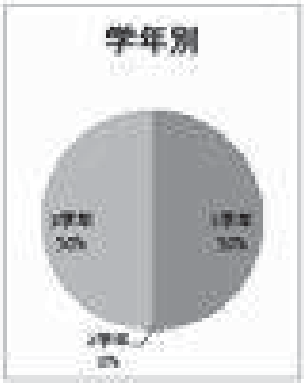
1. 実験を通して学ぶということが、とても良いと思いました。テーマが多くの種類があるので、自分にあったテーマを見つけやすく、興味が持てるので良いと思います。
2. 地域にある資源を使ったり、色々な作りの方法を用いたりして、有効的に資源を最期していけることを知れて本当に勉強になりました。貴重な機会をありがとうございました。
3. 土の新性質化などみを減らすというテーマ二番のテーマでとても良いと思った。
4. 資料の上を洗うのは少し大変でしたが、うまく出来ました。最初に立てた予想どおりの結果になったので、驚きました。いらないものがこんなに役に立つことにとても興味を持ちました。
5. 私は、まだ進路が決まっていないので、色々な学部を体験したいと思ったので、今回の公開講座に参加しました。また、3つのコースの中で一番興味深かったためでコース③にしました。

コース②「虫を使って葉緑素を探ろう―分光分析の基礎―」（松嶋 京共）　　＜食料生産環境学科＞

高校名	回答数	学年	回答数
盛岡第一高校	1	1学年	3
大船渡東高校	1	2学年	
宮古北高校	1	3学年	[illegible]
一関第一高校	1		
	4名		4名
	回答数	参加者数	回答数
	4	分かった	4
分かり易かった	3	参考になった	
少し難しかった	1		
	8名		4名







【質問3】 受講したコースは分かり易かったですか？実験の内容に興味がもてましたか？

1. 分かり易かったです。自分の目では分からない所を道具を使ってみるのはとても面白かったです。
2. カリフラワーの葉（葉緑素）を使った実験は面白かったですし、少し難しかったけれど、分かり易かった。
3. 言葉を例をあげたりして簡単に理解できるように説明してくれたので分かり易かった。学校で実験をする機会がほとんどないので色々な作業が難しかったけれど面白かった。
4. とても分かり易くおもしろかったです。

【質問4】 今回の公開講座は将来の進路決定に役に立ちましたか？

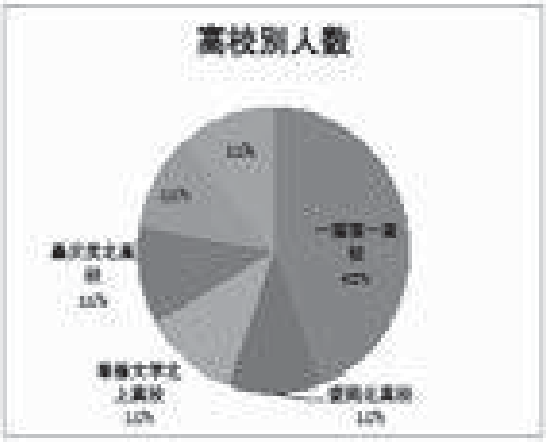
1. まだこの分野の学習にはいっていないので、興味を持ついい経験となりました。
2. 進路の方は色々と決まっていたのですが、他のところも気になってきたので、今回の講座は役に立ちました。
3. 具体的に何をしているかということが分かって、今まで一つ、二つの学科ばかり気にしていたけれど、他の学科にも興味がもてた。
4. 今回の講座で、進路についてまた考えようと思いました。（他の学部を希望していたので。）

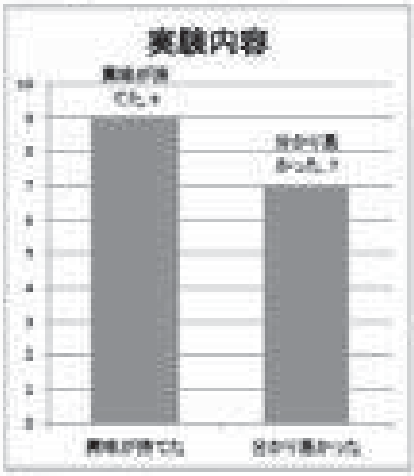
質問5. 今回の公開講座に参加した感想、テーマについてのご意見をお聞かせください。

1. 自分の知らない分野を学ぶ楽しみを知ることができました。
2. まだ高校では習ってない所をやったけど面白かったです。大学生の方々が分かり易く教えてくれたので講座が楽しかったです。
3. 説明がわかりやすく、一つひとつ丁寧に教えてもらいとても楽しく実験をすることができました。ありがとうございました。
4. とても楽しかったです。また機会があれば行きたいです。

コース名「生体のバリア機能って何？」（西尚 めぐみ）　　＜動物科学科＞

高校名	回答数	学年	回答数
一関第一高校	4	1学年	3
盛岡一高校	1	2学年	3
盛岡大学附属高校	1	3学年	4
桜丘北高校	1		
	1		
	1		
	1		
	1		
	10名		10名
実験内容	回答数	実験の感想	回答数
興味が持てた	9	分かりやすかった	1
分かり易かった	9	興味が持てた	1
		楽しかった	1
		楽しかった	1
複数回答	10名		10名





【質問3】受講したコースは分かり易かったですか？実験の内容に興味がもてましたか？

1．非常に分かり易かったです。時々難しい用語などが出てきたときでも自分自身生物を学んでいるので大部分を理解できました。実験も実際自分の手でやってみることができて良い経験になりました。
2．どうやって、私たちは体を守るのかのしくみを知ることができて良かった。
3．味覚や肌の角質や爪の実験がとても身近だったので、分かり易かったし、生活に生かしていきたいと思った。
4．一年生なのでわからない箇所もいくつかありましたが分かり易く実験をしていただきました。身の回りの現象や、自分が普段感じていること（味覚など）を科学的に考え、興味をもつことができました。
5．角質層の皮膚水分蒸散量を測ることを通して皮膚をかくことによって角質層が破壊されてしまいよくないということが分かり、興味を持ちました。
6．分かり易かった。自分たちの体のバリア機能というものに触れて楽しみながら学べた。
7．すごく分かり易かったし、身近なことに関する内容だったので、興味をもつことができました。
8．実験の内容、何のために実験するかが分かりました。味覚の実験はとても面白かったです。
9．分かり易かったです。興味を持てました。

【質問4】今回の公開講座は将来の進路決定に役に立ちましたか？

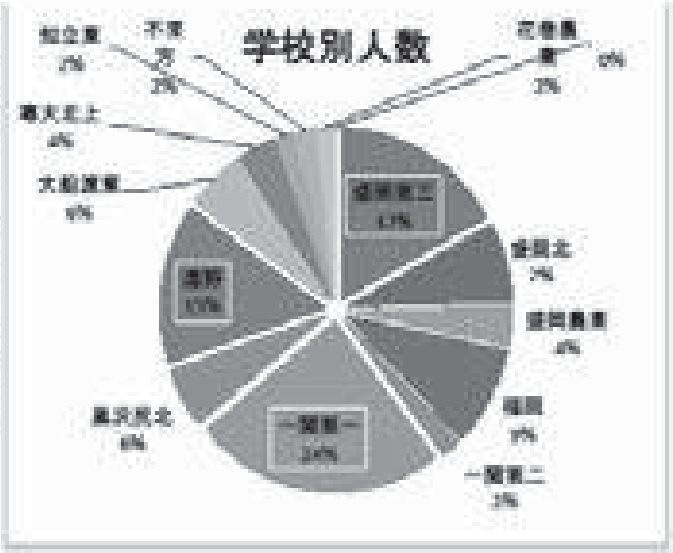
1．役に立ちました。自分は3年生で進路決定の時期ですが、岩手大学農学部への進学を決めているので、その施設の一端や実験に触れることができましたので、より将来を考える良い機会になりました。
2．皮膚の表面の角質がとれるということから、傷がついたあとが消えるしくみを調べて、ホクロはなぜ簡単にとれないかということを調べてみたいと思った。
3．大学でどのようなことを学んでいるのか少し知ることができたし、大学の施設を見ることが出来て役に立った。

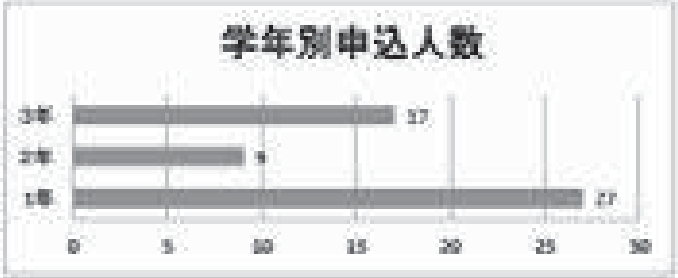
4. 大学選択の時期なので、環境の面白さに気づくことが出来て良かったです。岩手大学を一つの選択肢として自分の進路に加えたいと思います。
5. あまり役に立ちませんでした。
6. どのような実験を行っているか知れたし、役に立ったと思う。
7. どのようなことを学ぶのか、イメージすることができてとても役に立ちました。
8. 視野が広がりました。
9. 役立ちました。○○学と名前だけ聞いてもイメージがぼっとりとしかもてなかったので、とても役立ちました。

質問5. 今回の公開講座に参加した感想、テーマについてのご意見をお聞かせください。

1. 今回の公開講座では実験に携われるだけでなく、実際の岩手大学という場に入ることができたことはこの時期にとっては大きかったです。自分の興味のあるテーマを選んで楽しく行うことができました。皆大の農学部に入学したいとより思えたよい機会になりました。今回はありがとうございました。
2. 興味の幅から、興味からは取り入れられないものを取り入れるということを初めて知った。学校ではできないような今回の実験ができて良かった。
3. 前の角度がすぐにとれてしまうと分かったので、こぼったり、かいたりしないようにしていきたいです。実験も不安だったけど思ったよりすぐ分かったので、安心しました。大学生と話すことができて楽しかったし、良い経験になりました。ありがとうございました。
4. 優しく、楽しく教えていただき、大学での生活についても、参考になる話が聞けました。生体のバリア機能というテーマでしたが、想像していたものと違い、想像以上に面白かったです。本日は本当にありがとうございました。
5. 講座に参加し、生体バリアにはどのような種類のものなどがあるのかを学べて楽しかった。特にタイトジャンクションバリアはバリアするだけではなく、必要な物質を取り入れたりなどの役割があり面白いと感じた。
6. 大学で行っている研究の一端に触れて実際に体験することで勉強へのモチベーションにもつながるし、将来の進路選択にも役に立った。
7. 自分の生活などに関する知識を得ることができてすごく楽しかったです。
8. 実験は楽しかったし、色々なものの案内、説明をしてもらって分かり易かったです。
9. 普段の生活で行っていることが、本当は体に良くないことを知り、驚いた。

学校名	人数
[illegible]	[illegible]
[illegible]	4
[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]
[illegible]	7
[illegible]	13
[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]
合計	53

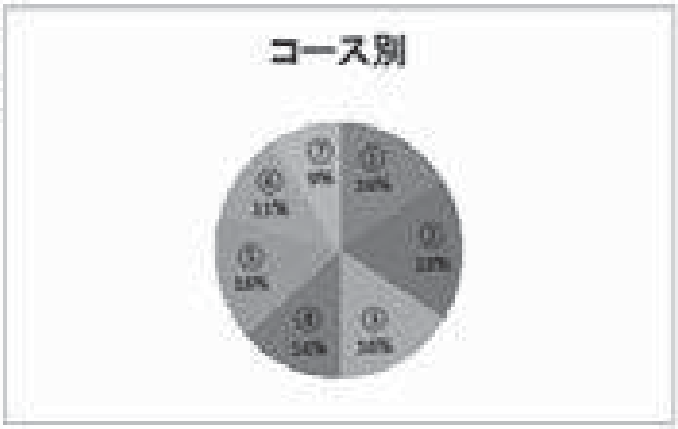




学年別	人数
3年	27
2年	9
1年	17
合計	53

男女別申込	人数
男	22
女	31
合計	53

コース別	人数
[illegible]	7
[illegible]	8
[illegible]	7
[illegible]	8
[illegible]	7
[illegible]	8
[illegible]	4
[illegible]	8
合計	53



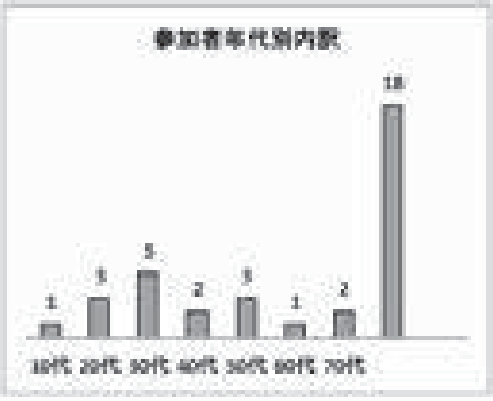
資料６

平成28年度公開講座「ガムラン体験講座」アンケート集計

実施日：平成28年6月5日（日）13:00～16:30
参加人数：総数20名（うち回答数18）

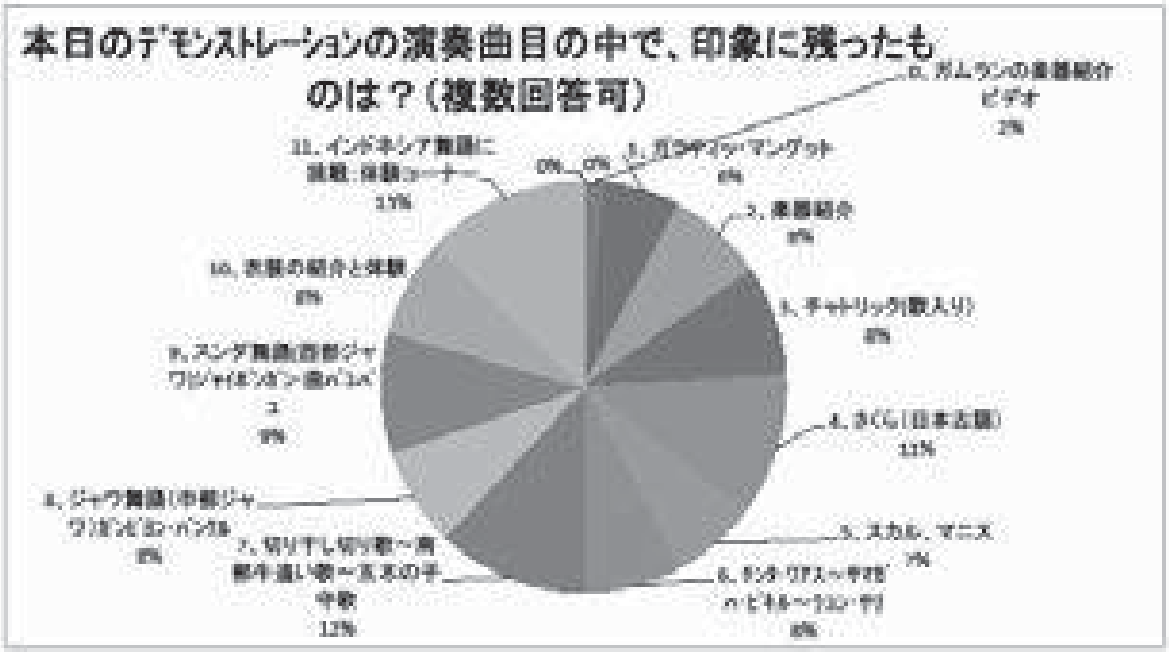
◇参加者年代別内訳

小学生	1
10代	1
20代	3
30代	5
40代	2
50代	3
60代	1
70代	2
	18



◇本日のデモンストレーションの演奏曲目の中で、印象に残ったものに印をつけて下さい。（複数可）

0. ガムランの楽器紹介ビデオ	2
1. カランギッス・マングット	7
2. 楽器紹介	8
3. チャトリック（歌入り）	12
4. さくら（日本古謡）	12
5. スカル、マニス	8
6. タンガ・ワイス～チャタン・ピトゥ～ケジン・ヤリ	8
7. 切りすし切り歌～角都牛追い歌～玉木の子守歌	14
8. ジャワ舞踊（中部ジャワ）ガンビョン・パンタン	8
9. スンダ舞踊（西部ジャワ）ジャイポンガン曲のコバユ	11
10. 衣服の紹介と体験	8
11. インドネシア舞踊に挑戦・体験コーナー	13



◇本日のガムラン＆アンクルンの体験について、感想をお書き下さい。
（新しい発見や興味深いなどご自由にどうぞ）

☆インドネシア語の歌（ノナ・マニス）

日本語と一緒に覚えたいと思いました。
たのしかった。
素敵な声に感動しました。
ステキな歌声でまず心（気持ち）を動かされこれから心の動時間を楽しみたいと思いました。
歌が素敵でした。
発音の仕方が少しわかった。

☆竹の楽器アンクルン

良い音ですね。
うれしかった。
やってみると楽しくなりました。
ハンドベルかハンブー様ですね。
一度体験したことはありましたが、手軽に楽しく演奏できるので、学校でも教材として使えたらと思いました。
なつかしく、癒される音でした。
簡単だけどとても良い音で楽しかった。

☆ガムラン・ドゥグンの打楽器（体験した楽器に○をつけて、一言感想をどうぞ）

（打楽器）

ゴング＆クンプル	4
ジョングロン	5
サロン	11
ボナン	4
クンダン（太鼓）	5
クチュレ	1
ガンバン（木琴）	4

単純なようで難しい楽器だと思いました。
ジョングロン、やれてよかったです。
サロン、楽しかったです。
ボナン、親子でできてよかったです。
他の楽器の音を感じて楽しめるようになると気持ち良いだろうなあ～！
おぼえるのが難しいと思ったが、いい音でした、癒されました。
とても難しかったですが、楽しかったです。
どれも面白くもっとゆっくり体験してみたいと思いました。
鳴らした音おさえて音を止めることが最初出来なかった。
一度やってみたいと思っていたのでとても楽しかった。
他の楽器の音を聴くのが難しい。
ゴング＆クンプル、この音が一番良い。
サロン、即興的にやってみたいです。

☆ガムラン・ドゥグンの竹笛スリン

技を使って吹くとまた楽しいんだろうなと思いました。
私にはスリンは難しかったピー。
すぐ音がだせて楽しく演奏できた。
自然な音色で聴いていて心地よかったです。
なつかしい音です。
吹くのは簡単だったが、楽器の扱いが難しい。
スリンは面白いです。

☆その他ご自由に

3ヶ所ともていねいな指導ありがとうございました。
今日は楽器に触れる事ができたし、音楽を楽しむ事ができました。参加できて良かったです。
竹笛の説明は分かりにくかったので、もう少していねいにしていただきたかった。私は笛を吹いたことがなかったので、
始めてたのしかった。おもしろかった。
夏にボランティアでインドネシアに行くつもりなので文化を知るいいきっかけになった。

☆インドネシアの言語

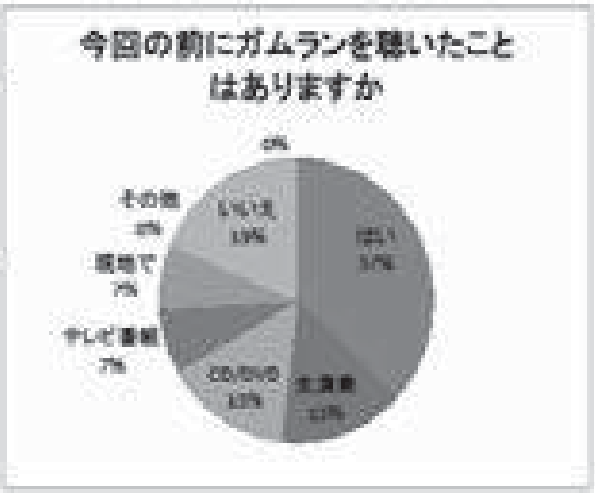
シャワ語とスンダ語の違いと音色がはっきりして、よかった。
歌詞の中の文法の説明を、音楽に合った歌詞に変えられたら、楽しくその雰囲気を味わえる。
楽しい。全く慣れてなかったけど楽しかった。アユさん、素敵な方ですね。

※感想＆解説で興味深かった点などを、ご感想をお書きください。

音楽（音）は深みがあり、心がおだやかになりますね。数を合わせると深みが増し、パワーを感じますね。
ガムランといってもいろいろ種類があると思いました。歴史の中でもいろいろ変化しているのでしょうか、今現在も変化続いてる文化なのだなと思いました。
3時間半、どの体験も感覚も勉強になりました。ありがとうございました。
全体の説明はとても分かり易かったです。
5で合わせるところが難しかったが少し分かった。
8/17～インドネシアに行く前に聴けて良かったです。縄文の音楽やっており参考になりました。
音楽関係の仕事をしてました。偶然知って参加しましたが内容が凄くラッキーでした。ありがとうございました。
インドネシア音楽の仕組みが西洋音楽とかなり異なっていたこと。

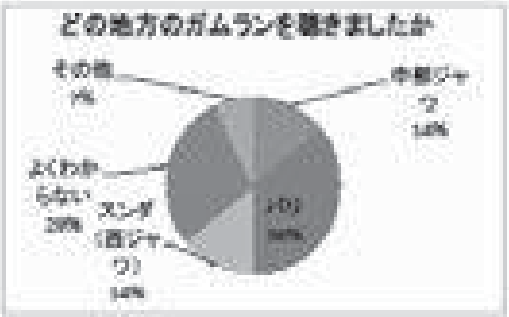
※今回の前にガムランを聴いたことはありましたか。

はい	10
生演奏	4
CD/DVD	4
テレビ番組	2
現地で	2
その他	0
いいえ	5



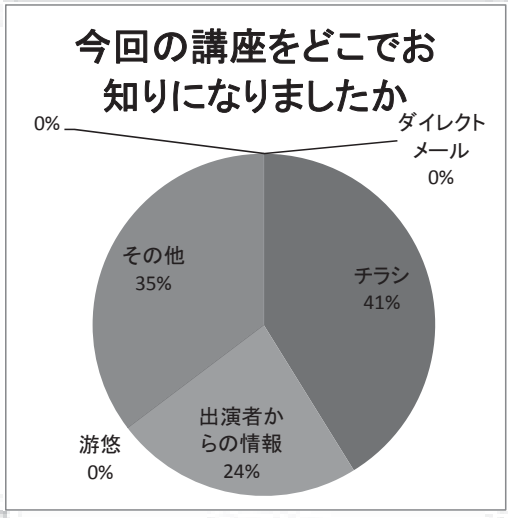
●上記の質問で「はい」と答えた方は、どの地方のガムランを聴きましたか。

中部ジャワ	2
バリ	8
スンダ（西ジャワ）	3
よくわからない	4
その他	1



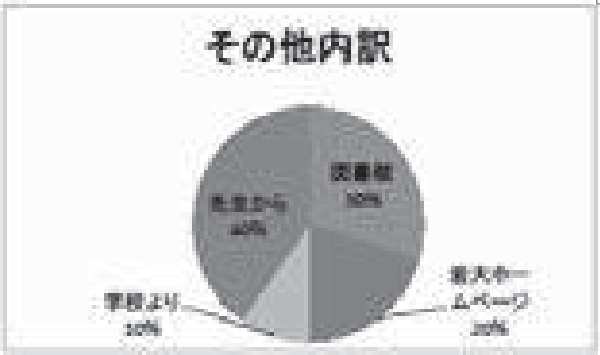
●今回の講座をどこでお知りになりましたか。

ダイレクトメール	0
チラシ	7
出演者からの情報	4
游悠	0
その他	6



チラシの入手先およびその他内訳

友人知人	3
音大ホームページ	2
学校より	1
先生から	4
中央公民館	1
関係者	1



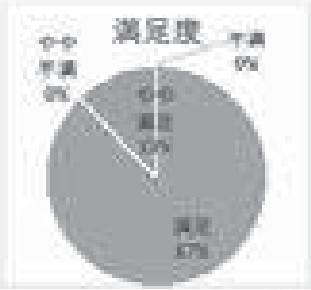
資料７

平成28年度岩手大学公開講座「自分の強みを生かす！」キャリアプランニングセミナー

1. 実施日　：平成29年1月27日（金）13:00～16:00
2. 実施対象：参加者8名　提出者8名　アンケート回収率100%
3. アンケート：質問しに記号で回答、一部記述
4. 集計結果

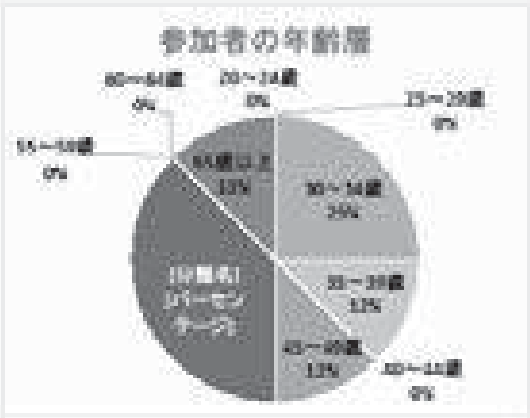
○問1　性別

男性	1
女性	7
	8



○問2　年齢

20～24歳	0
25～29歳	0
30～34歳	2
35～39歳	1
40～44歳	0
45～49歳	1
50～54歳	3
55～59歳	0
60～64歳	0
65歳以上	1
	8



○問3　職業

会社員	2
団体職員	3
フリーランス	0
事業主婦	1
公務員	0
その他	2
	8

○問4 このセミナーをどこで知ったか

チラシ	2
ホームページ	0
知人の紹介	1
施設等の掲示板	1
その他	4
	8

○問5　満足度

満足	7
やや満足	1
やや不満	0
不満	0
	8

○感想記述

- 講師の先生方は、とても親切でやさしくていねいでわかりやすく、分かりやすかった。
- それぞれのライフステージによって考えるのが楽しかったし、ヒントをもらえて参考になった。
- 自分のしたいことがわかっていたようで、実はそれとはかけ離れていたことに気がついたりした。
- キャリアアンカーが面白かった。
- 年の近い方に同行者（夫）が参加するのかと思ったら、そうではなかったので、ちょっと残念。
- 自分の強みを見つめなおすきっかけを与えてくれる講座だと思いました。とても楽しく参加できました。
- 自分の職場でも新入職員に自己紹介シートを実施したいと思う。
- 現代社会の雇用形態についての話が聞けたかった。
- 申し込みがおしくてよかった。みんなと話せて楽しかった。
- 今後も多くの方が参加するセミナーの開催を期待。

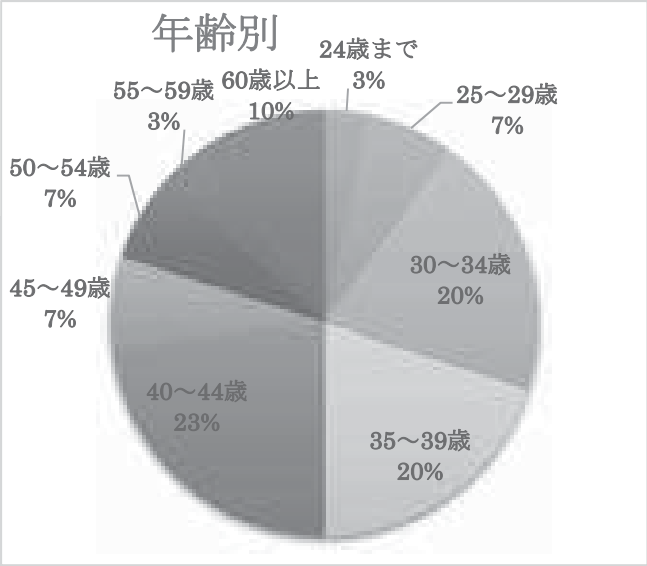
資料８

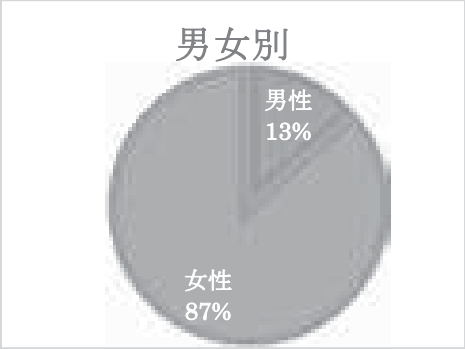
4-2 働く女性の学習ニーズ調査

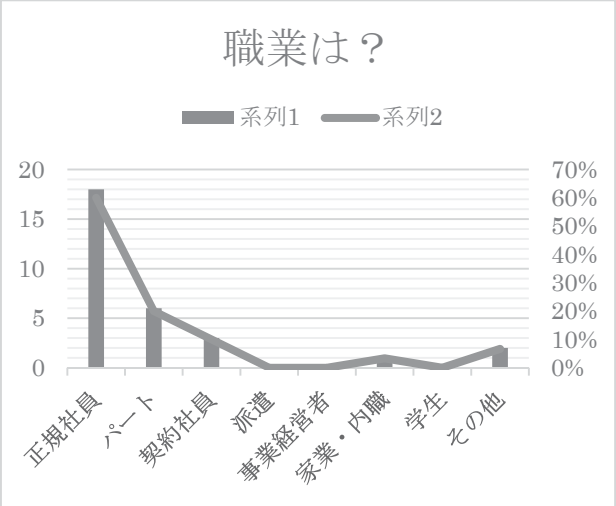
実施日：平成 29 年 2 月 13 日～17 日（金）

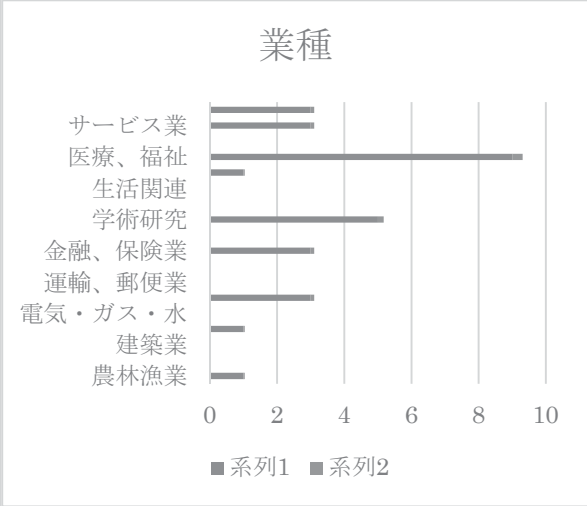
参加人数：30 名(集計率 100%)

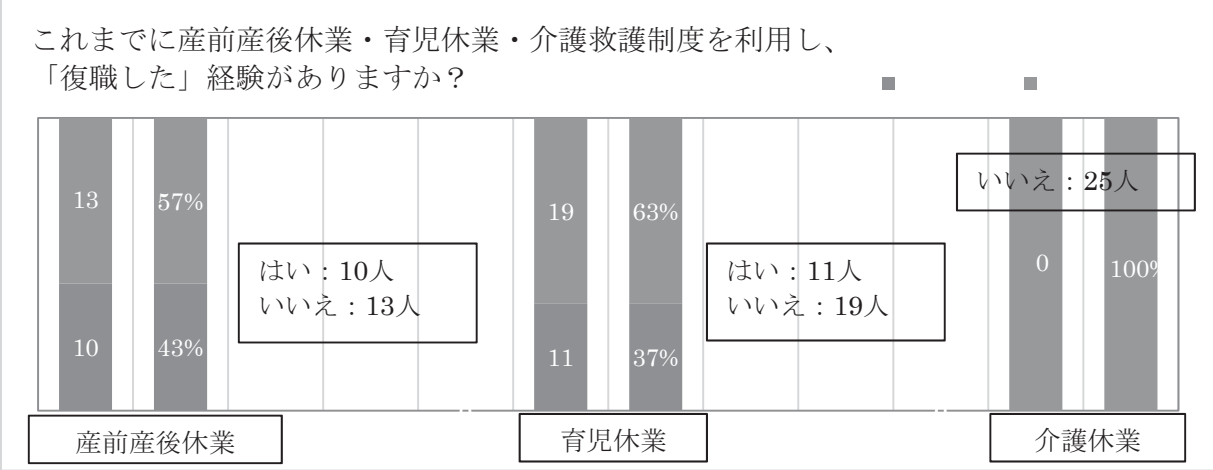
Ⅰ．基本属性

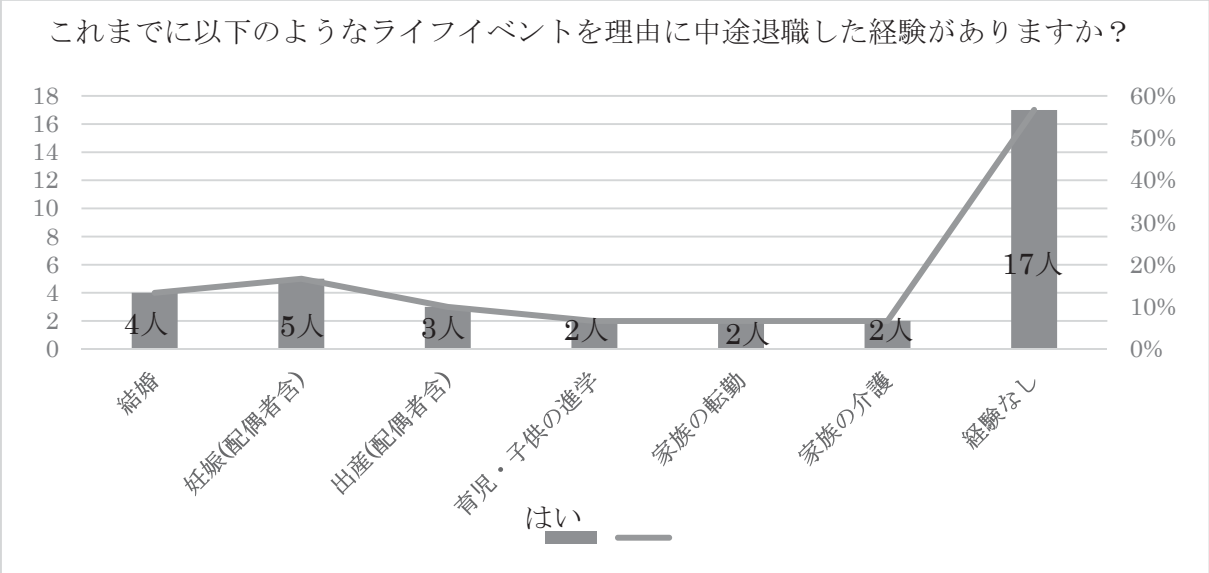


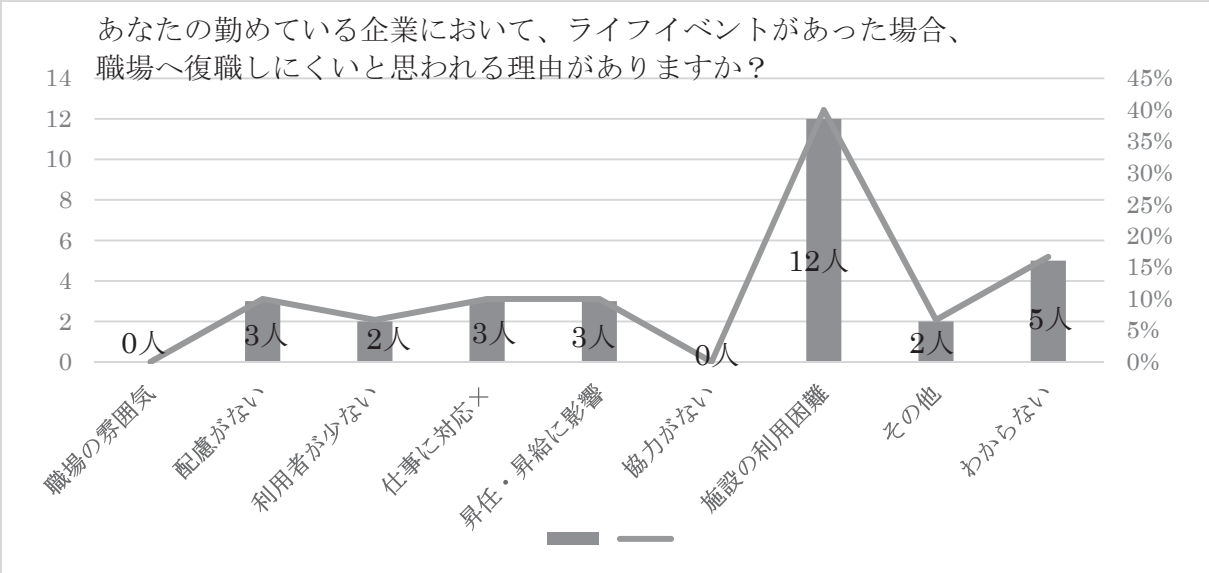




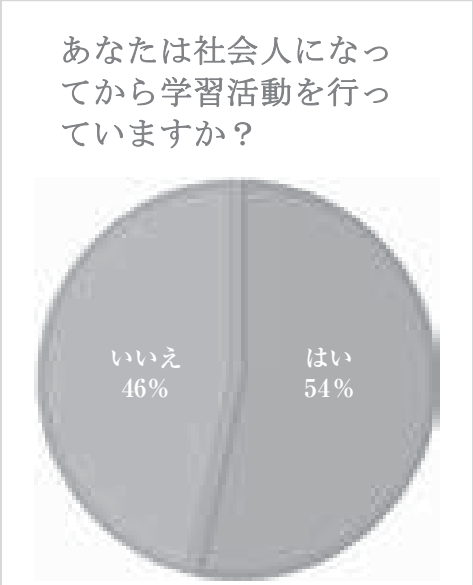


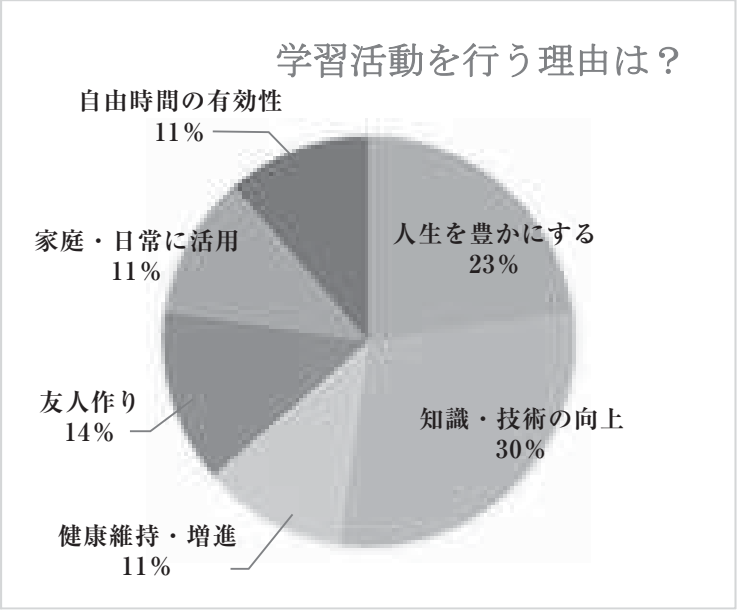


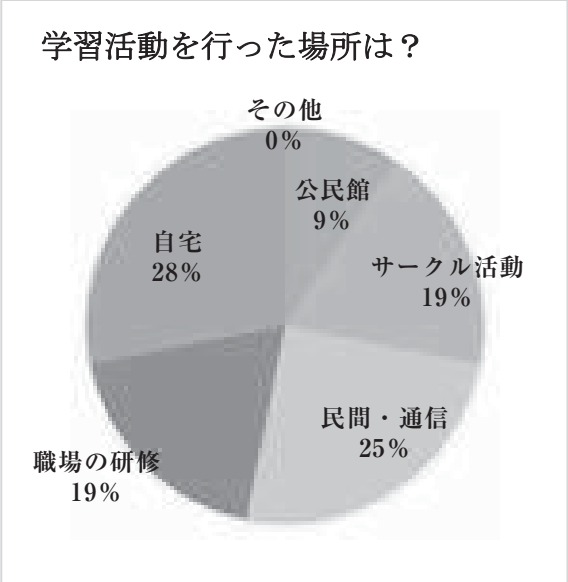


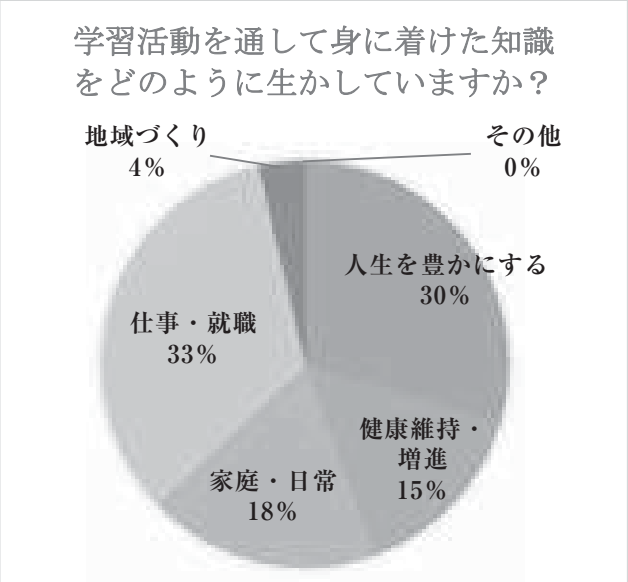


Ⅱ．学習参加状況について

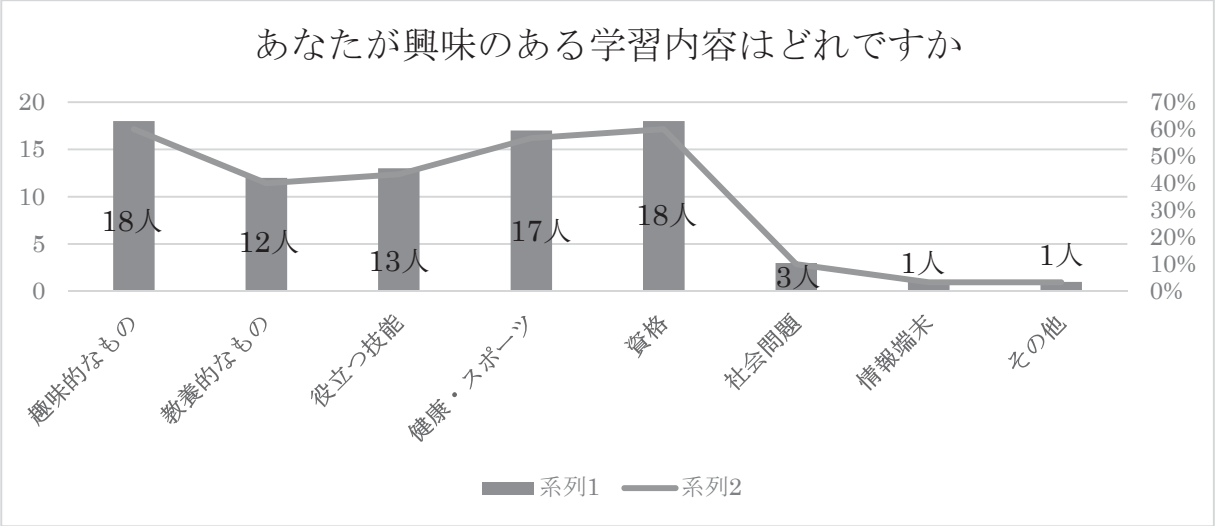


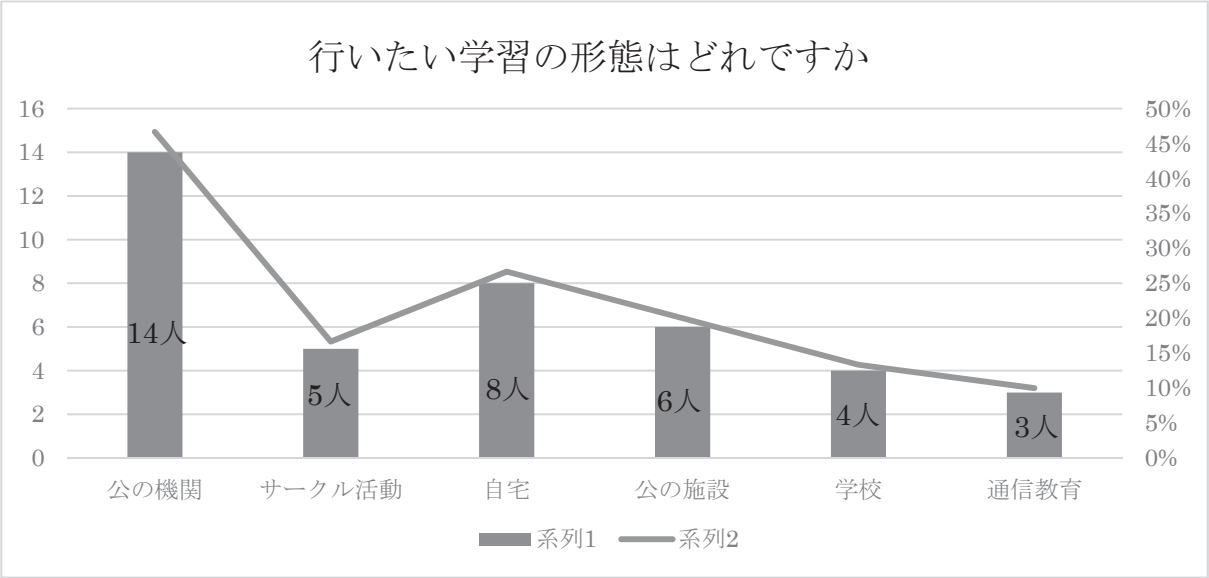


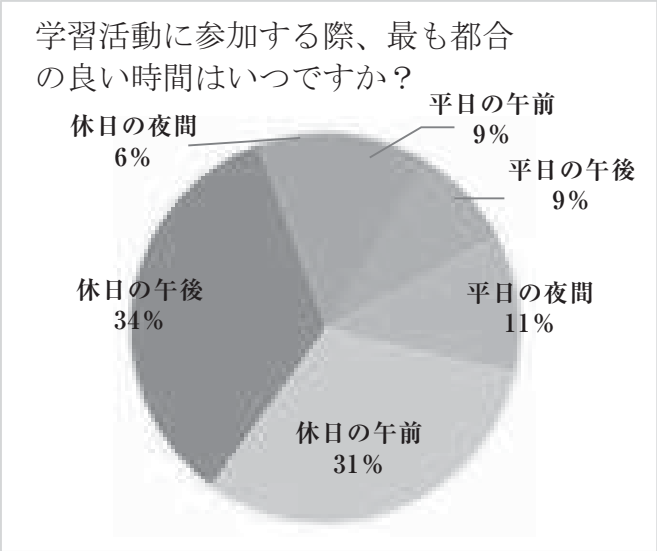


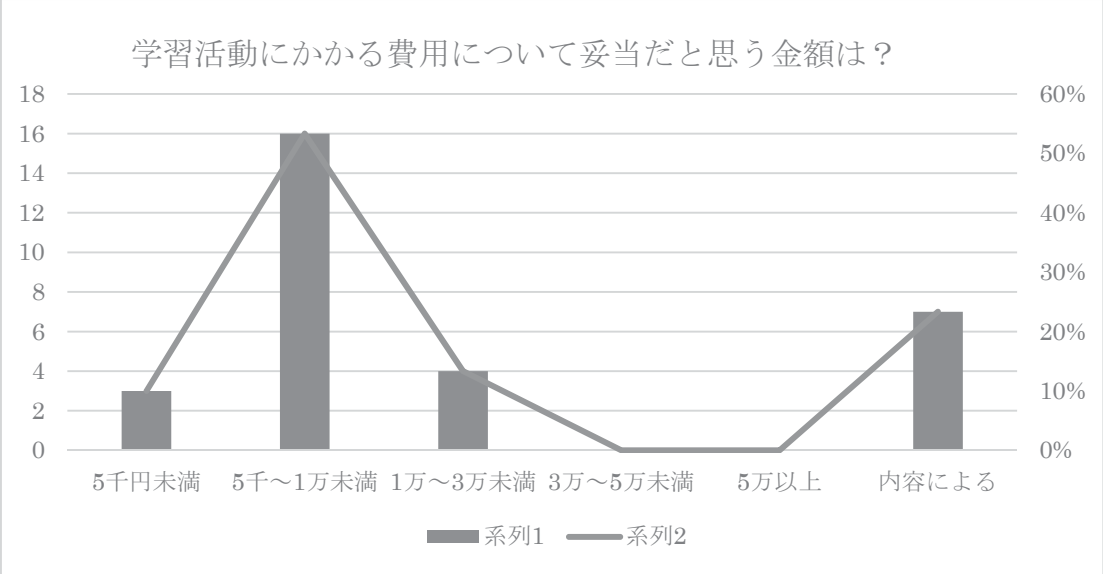


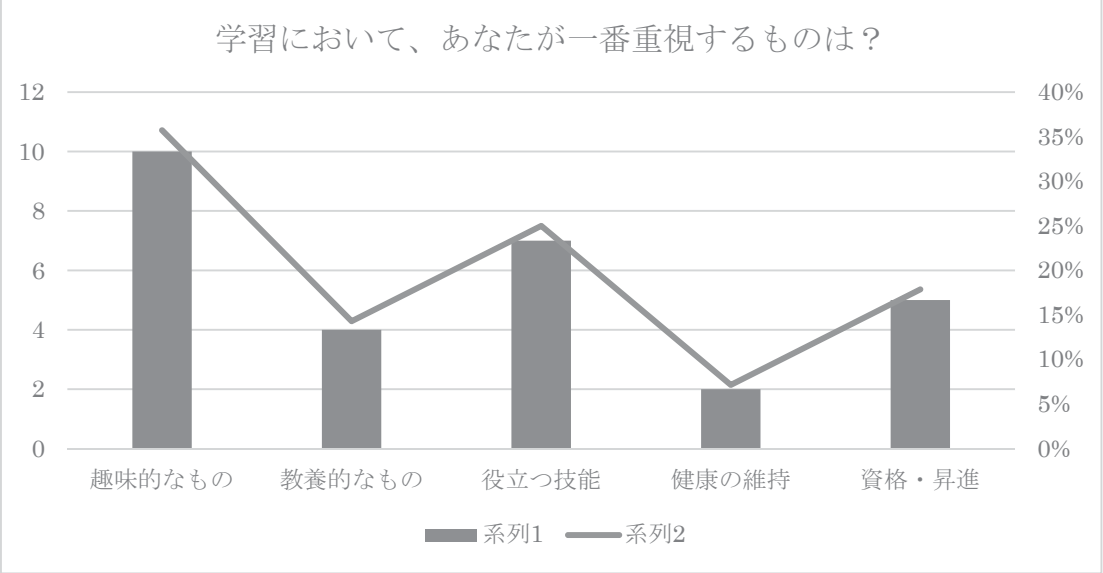
Ⅲ．今後の学習活動の要望






学習活動に参加する際、最も都合の良い時間はいつですか？
平日の午前 9%
平日の午後 9%
平日の夜間 11%
休日の午前 31%
休日の午後 34%
休日の夜間 6%


学習活動にかかる費用について妥当だと思う金額は？
18
16
14
12
10
8
6
4
2
0
60%
50%
40%
30%
20%
10%
0%
5千円未満
5千～1万未満
1万～3万未満
3万～5万未満
5万以上
内容による
系列1
系列2


学習において、あなたが一番重視するものは？
12
10
8
6
4
2
0
40%
35%
30%
25%
20%
15%
10%
5%
0%
趣味的なもの
教養的なもの
役立つ技能
健康の維持
資格・昇進
系列1
系列2

総　括

三陸復興地域創生推進機構　生涯学習部門　特任研究員
中島有里

平成 28 年度生涯学習部門の事業テーマとして、生涯学習基盤づくり、社会教育主事養成、社会人学び直しプログラムの開発、地域の生涯学習リーダー育成、地域住民の学習ニーズ調査、社会教育行政および地域の生涯学習関係者とのネットワークづくり、公開講座に参加した成人学習者を対象としたニーズ調査を行ってきた。

（１）生涯学習基盤づくり

本学の特色を生かした生涯学習・教育のモデルの構築を促進するために、まず、高等教育機関における生涯学習・生涯教育政策について情報収集および資料収集を中心に行った。

（２）社会教育主事養成

北東北(岩手県、秋田県、青森県)の社会教育主事養成の充実化を図るために、北東北の社会教育主事養成運営会に参加し、意見交換を行った。来年度は岩手大学が社会教育主事養成講習会(7～8 月)の主催校であることから、カリキュラムの準備および事務局を設置する必要がある。よって、岩手県立生涯学習推進センターの関係者と意見交換を行うなど、来年度の開催に向けての学内外における基盤づくりに取り組んだ。

（３）社会人学び直しプログラムの開発

岩手大学の特色を活かした社会人学び直しプログラムの開発に取り組むため、また、既存の社会人学び直しプログラムの充実化を図るために、「いわてアグリフロンティアスクール」の運営委員および評価委員としてプログラムに参加し、意見交換を行った。

既存の社会人学び直しプログラム実践している大学を訪問し、事業担当教員や部局長と意見交換を行うとともに、生涯学習部門における「社会人学び直しプログラム」の在り方を検討した。

（４）地域住民の学習ニーズ調査

生涯学習プログラムの充実化を図るために、公開講座に参加した受講生を対象に意見交換を実施した。受講者からは①地域で抱えている課題に取り組んだ講座 ②岩手大学の教員の専門研究領域に関する講座 ③子育てをテーマにした講座 ④高齢者に考慮した環境づくりなどに重点をおいたプログラムの提供が求められた。また、子育てを経験した女性を対象にアンケート調査を行い、アンケートの調査結果については報告書にまとめた。

（５）公開講座

岩手大学では地域に密着した社会活動を目指し、大学の研究成果を広く社会に還元するため、幅広い範囲の方々を対象とする公開講座を実施している。一般市民の方に生涯学び続けることのできる場づくりのため、「語学・文学」、「スポーツ」、「芸術」、「農学」、「工学」等幅広い分野の講座を提供してきた。更に、生涯学習事業の充実化を図るため、「アートフォーラム」、「宮澤賢治センター」といった学内組織や自治体等とも連携し、事業を展開している。

生涯学習部門では、多様な成人学習者の特徴を生かした生涯学習プログラムの充実化を目指しており、今後も成人学習者が「学びをほどき、編み直す力」「地域で生かす力」「学び続ける力」などを身に着け、地域活動や職業生活で役立てることによって地域の生涯学習の振興を目指していく。

編集者
朴　賢淑　　三陸復興・地域創生推進機構　生涯学習部門長・准教授
中島 有里　　三陸復興・地域創生推進機構　生涯学習部門　・特任研究員

早川 浩之　　地域連携推進部・地域連携 COC 推進課・課長
及川 幸史　　地域連携推進部・地域連携 COC 推進課・主査
佐々木 博希　地域連携推進部・地域連携 COC 推進課・主任

三陸復興・地域創生推機構　生涯学習部門
2016 年度　成果報告書

発 行 日　　2017 年 3 月 31 日
発 行 者　　岩手大学三陸復興・地域創生推進機構 生涯学習部門

代 表 者　　朴　賢淑
住　所　　岩手県盛岡市上田 4 丁目 3－5
TEL　　019-621-6492
FAX　　019-621-6493
E-mail　　renkei@iwate-u.ac.jp